



# 史料通覽

山槐記一

山槐記は、一に達幸記、或は貴嶺記と云ふ、藤原忠親の記なり。忠親家を中山と號し、官内大臣に躋る。唐に大臣を三槐に比す、故に家號の一字を配して山槐記と稱する也。達幸と云ふはタチカノ上下を取れる反名なり。貴嶺は中山の隱名なり。

此書記するところ、略ぼ近衛天皇の仁平元年に始まり、後鳥羽天皇の建久五年に至る。其間、缺脱少からざるは、他の記録の例の如しと雖、この一書存するを以て、源平の際の史實を審にし、平家物語等の紕謬を正すに足るもの頗る多し。星野博士嘗て歴史記録考に、其の二三例を擧げて、此書の極めて史事に裨益すること少からざるを稱せらる。かの平重盛の死を熊野に祈る平語の誤なる如き是なり。今本輯は、星野博士の當時見られたる

書よりも、更に幾多の逸篇を拾收したれば、善く讀む者は、此裏に更に幾多の史料を發見し得べき也。

本書纂輯の便宜上第三冊に妙槐記を附す。妙槐記は、忠親の兄花山院相國忠雅の玄孫妙光寺内大臣師繼の記にして、鎌倉時代の中世寛元文應の事を録し、別に正元文永の宣旨案を添ふ。この書、世に流布するところ、文應元年四月の一策のみ。今多く逸篇を補ふ。亦史家に益すること尠少ならざらんか。兩者の家系年譜に至りては、例によりて後に出す、就いて見るべし。

日本史籍保存會

MG  
k313.  
15

## 凡例

本輯山槐記據ルトコロノ底本ハ、祕閣所藏元溫故堂本ナル二十八冊本ナリ、然ルニ其書他記ヲ謬リテコレヲ收メ、或ハ如何ハシキ僞書モ入レアルヲ以テ、今コレヲ編纂スルニ當リ、或ハ削リ或ハ正シ、別ニ逸篇數十策ヲ補ヘリ。

コノ書ニ就キテハ、歴世記録考既ニ詳シク述ベラル、今其一部ヲ左ニ抄出ス。曰ク、

此書、名記目錄、日本書籍考、群書一覽并ニ著錄ス、然レドモ一覽二十卷トアレバ完本ニアラズ、又「源平合戦ノ頃ノ事ヲシルセリ」ト云フハ、語リテ詳ナラズ、史籍年表仁平二年、久壽元年、二年、保元元年、三年ヨリ仁安二年ニ至リ、嘉應元年、安元元年、治承元年ヨリ文治二年ニ至リ、建久元年、三年ノ下ニ本書ノ目ヲ掲グ、今據ル所ノ本ハ舊温故堂本ニシテ、祕閣ニ收儲シ、二十八冊アリ、史籍年表ニ比スレバ、仁平元年多クシテ、保元三年、仁安元年、嘉應二年、治承元年、養和元年、壽永元年、文治二年、建久元年、三年ノ九箇年少シ、祕閣ニ別ニ三本アリ、其一ハ二十一冊、温古堂本ニ比スレバ、仁平元年、二年等ノ十四箇年少クシテ、別ニ元日節會部類記一冊アリ、仁平二年、應保二年、長寛元年、二年、永萬元年、仁安三年、嘉應元年、二年、承安二年、治承元年ヨリ四年ニ至リ、養

凡例



和元年、壽永元年、文治元年、四年、建久五年ノ元日節會ノ條ヲ纂録ス、其一ハ十二冊、年紀前本ト互ニ出入アリ、別ニ長寛二年七月政始、元暦二年正月一日節會執筆圖等アリ、其一ハ十冊、慶長十九年徳川家康大阪陣中ニ在リテ廷臣及ビ五山僧徒ヲシテ寫サシムルモノニシテ、天永二年、永久元年、元永二年、治承三年、四年ノ五箇年アリ、サレ共天永永久元永ノ記ハ山槐記ニ非ズ、(中略)温故堂本治承三年、四年ハ弘文院本ヲ寫ス、故ニ鵜峯ノ跋ヲ載スト雖、然レドモ天永永久元永ノ記ハ之ヲ删除シ、更ニ諸家ノ本ヲ索メテ之ヲ補寫ス、故ニ第四冊保元四年正月ヨリ三月ニ至ルノ末ノ識語ニ、應永廿七年九月十六日書寫之畢、三月記、八日以後無之之本無、相尋所在之本遂可書寫了、藏人頭左中將ト、藏人頭左中將ハ中山定親ニシテ則忠親八世ノ孫ナリ、又云ク、「此一本舊不題山槐記、唯卷首書官銜、以公卿補任參考忠親歷任、則與此符合、因定爲山槐記、元錄元年戊辰十月日彰考館識」ト、乃チ水戸本ヲ寫スモノトス、第五冊永曆元年七月ヨリ十二月ニ至ルノ識語ニ、「應永廿五年八月廿九日前大外記入道常經筆也、俗名、隨號判」又云ク、「以賀州大守菅綱利家藏本謄寫之」ト、乃チ前田家ヲ寫スモノトス、第七冊應保元年十二月ヨリ永元元年六月ニ至ルノ識語ニ、「這山槐記一本自方長卿借受、令書寫畢、但裏書文古共ニ書寫也、裏之書達幸故實抄也、畢一校了、元祿十年丑十月廿日藤原篤」トアリ、篤ハ花押ノ誤寫ニテ、其人ヲ詳ニセズト雖、○今按權大納言藤原親歟方長卿ハ甘露寺權大納言ナリ、第廿四冊壽永二年二月ヨリ四月ニ至ルノ識語ニ、「這山槐記者借請菅中納言爲適卿、以自筆本令書寫者也、慶安二年十二月日藤原隆貞」トアリ、隆貞ハ油小路權大

納言ナリ、第廿七冊文治元年七月ヨリ九月ニ至ルノ識語ニ、「以花山院本、應永卅二年後六月十六日書終、諫議大夫羽

林藤原花押」トアリ、諫議大夫ハ參議ノ唐名、羽林ハ近衛中將ノ唐名、即中山定親ナリ、溫故堂本ノ諸家所藏本ヲ以テ補寫スルコトカクノ如シ、亦以テ其諸本ヨリ備ハレルヲ知ルベシ、タゞ文字譌脱多ク、意ヲ以テ推讀シテ始メテ能ク通ズルヲ得、コレ「ヲ」遺憾トス、下略

右溫故堂本第十冊ノ仁安二年閏七月七月八月ハ兵範記ナルヲ以テ之ヲ除ク、又第七冊ハ詳シク之ヲ檢スルニ、多ク達幸故實抄ノ彼處此處ヲ抄録補綴シテ文ヲ成セルモノニシテ、然カモ中ニハ殊更ニ年月日ヲ變更セルニ似タルモノ多シ、今一々其條下ニ註ヲ下シ之ヲ明カニス、文中晴曇ヲ記シ或ハ參院等ノ文字アルハ果シテ據處アルヤ或ハ僞作セルヤ覺束ナシト雖、姑ク元ノマ、之ヲ存ス、又永萬元年正月ハ相類似セルモノ二篇ヲ載ヒタルヲ、今其略ナルモノヲ削リテ詳ナルモノヲ探レリ、但シ是レ亦多ク達幸故實抄ノ抄録ナルニ似タリ。然レドモ此篇ニハ元ト少シハ種アリシモノ、如シ、猶ホ考究ヲ要ス。猶ホ同年六月ハ別ニ詳本ヲ得タルヲ以テ之ヲ削レリ、應保元年十二月モ亦詳本ヲ得テ之ヲ採收シタルバ、今其用ナキニ似タレドモ、往々缺字アルヲ以テ、或ハ相發スルノ益アラソトヲ考ヘ姑ク之ヲ存ス。猶此冊ノ内長寛二年六月廿九日ハ野宮本ヲ以テ校訂セリ。

凡例

一本輯ハ右溫故堂本ニ收ムルトコロノ外、柳原本、野宮本、大炊御門本、山田本、田中本、洞院家記、帝

凡例

國大學附屬圖書館本、進獻記錄抄纂等ニヨリテ左ノ年月ヲ補ヘリ、

久壽三年、四月

永曆元年六月、十月

保元三年秋

應保元年十一月

同 十二月

同 二年十月一日

長寛二年三月

永萬元年六月

同 二年七月、八月

嘉應二年二月

同 三年正月

承安元年七月、八月、十一月

同 二年正月

安元元年六月、十二月



同 二年九月

同 三年正月、五月、八月

治承二年正月、秋

養和二年正月、八月

壽永二年十一月

元暦元年十月

同 二年正月、二月

文治二年三月、七月

同 四年正月

同 六年正月

建久元年十二月

同 三年四月

同 五年正月

一校訂ニ用キタル略符號ハ左ノ如シ、

大炊御門本

オ

凡 例

久世本 ク

達幸故實抄 コ

元日節會次第 セ

洞院家記 ト

野宮本 ノ

花廻舎本 ハ

山田本 ヤ

其他類推ス可シ。

一 底本各條標出ノ傍書ハ、組版ノ都合上止ムヲ得ズ省略シタレドモ、本文蠹損等ノ場合ニハ參考ノ爲メ往々コレヲ存セリ。コノ事既刊ノ他記ニモ行ヘルコトナレドモ、偶々之ヲ辭ワルヲ忘レタルヲ以テ改メテ茲ニ述ブ。

一〔一〕ヲ以テ補ヘルハ、多ク野宮本、又ハ大炊御門本、或ハ公卿補任等ニ據レルモノナリ。

一 妙槐記ハ蜂須賀本等ヲ以テ補ヘルモノナリ、詳シクハ後ニ述ブルトコロアル可シ。

一 本書ヲ編纂校訂スルニ就キテ負フトコロ、既刊諸記ニ同ジ。又京都ノ高橋萬次郎氏ハ京都大學附屬圖書館所藏ノ滋野井本永萬元年六七月ノ條ヲ謄寫セシメ、京都府立圖書館本ヲ以テ校合セシメ

送ラレタリ。本輯探ルトコロノ山田本(六月)及底本(七月)ニ對校シ益ヲ得シコト少カラズ。ココ  
ニ諸氏ノ厚意ヲ鳴謝ス。

大正五年十一月

矢野太郎識

藤原忠親同師繼家系

法成寺攝政道長 宇治 攝政賴通 後京極 師實 攝政

在出院祖 左大臣正二位 忠宗 左大臣正二位 號花山院

家忠 號花山院 忠雅 左大臣從一位 兼雅 左大臣從一位 號花山院

忠雅 太政大臣從一位 兼雅 左大臣從一位 號花山院太政大臣

忠親 內大臣正二位 忠宗二男

忠經 右大臣正二位、帥繼 內大臣正二位 忠經四男

藤原忠親略年譜

保延六年 正月六日敍從五位下、  
久安六年 五月廿四日任藏人、  
仁平二年 九月九日正五位下、  
久壽三年 四月六日右少將、  
保元二年 正月廿四日尾張權介從四位下、

同 三年 五月廿一日左中將

同 四年 正月六日從四位上、

永曆元年 十月三日藏人頭、

應保二年 二月十九日中宮權亮、

同 三年 正月廿四日兼因幡權守

長寬二年 正月廿一日參議、左中將因幡權守如元、

仁安二年 正月廿八日從三位、同卅日備前權守、

二月十一日權中納言、

同 三年 三月十一日正三位、

安元二年 正月三日從二位、

治承元年 正月廿四日兼右衛門督使別當、

同 二年 七月廿六日兼中宮權大夫、

同 三年 正月十九日辭督及別當、十一月十七日兼

春宮大夫、止中宮權大夫、

同 四年 正月廿日正二位、二月廿一日止春宮大夫、

養和元年 十一月廿五日建禮門院別當、

壽永元年 十月三日中納言、

同 二年 正月廿二日權大納言、

文治五年 七月十日大納言、

建久二年 三月廿八日內大臣、

同 五年 七月廿六日辭官、十二月十五日出家、

同 六年 三月十二日薨、年六十五、號中山內大臣、

正三位、

建長二年 五月十七日權中納言、

同 三年 正月五日從二位、三月廿六日止大夫、

同 七年 六月二日權大納言、

同 八年 正月廿六日正二位、

文應二年 二月八日兼中宮大夫、十一月止大夫、

弘長二年 七月十六日兼皇后宮大夫、

文永四年 八月廿九日辭大夫、

同 五年 八月廿五日兼春宮大夫、

同 八年 三月廿七日內大臣、

同十二年 十二月八日辭官、

弘安四年 四月九日薨、年六十、

藤原師繼略年譜

安貞三年 正月五日從五位上、

寬喜三年 三月三日侍從、

貞永元年 十二月二日從四位下、

文曆二年 八月卅日右少將、

嘉禎三年 七月十三日右中將、

仁治三年 十二月廿五日藏人頭、

寬元三年 六月廿六日從三位、

寶治元年 十二月八日參議、右中將但馬權守如元、

同 二年 八月八日兼皇后宮權大夫、同廿五日

# 山槐記 一 目次

|             |    |
|-------------|----|
| 仁平元年十月      | 一頁 |
| 同 二年春、夏、秋、冬 | 二  |
| 仁平四年(久壽元)正月 | 三  |
| 久壽二年春、夏、秋、冬 | 三  |
| 久壽三年(保元元)春  | 四  |
| 同 四月        | 五  |
| 保元四年(平治元)正月 | 六  |
| 同 二、三月      | 七  |
| 永曆元年六月、秋    | 八  |
| 同 冬         | 九  |
| 同 二年(應保元)三月 | 一〇 |
| 同 四月        | 一一 |
| 同 秋         | 一二 |
| 目次          | 一三 |

目次

應保元年(永曆二十二月).....二〇九

同 十二月.....二二二

同 二年三、四、十月.....二五二

長寛元年春、十二月.....二五五

同 二年春、六、十二月.....二五七

同 三年(永萬元)春、六月(略本).....二六一

同 六月.....二六一

同 七月.....二六七

山槐記一 目次終

# 山槐記

仁平元年未辛

十月

十六日壬午陰方天晴時々雨降、於南六條殿有御賀樂所

始事、仍行事左宰將中將經宗以下舞人、左方左近少將家

明朝臣、四位少將實長朝臣、源少將定房朝臣、右兵衛

佐實定、左衛門佐忠口、右方四位藤少將公保朝臣、右

少將公光、樂人左馬頭隆季朝臣、源中將師朝臣、雖參不着座

上總介資實朝臣、頭中將伊實、不六位、右少將行通朝臣、階一座

中宮亮季兼朝臣、土左守季行朝臣、前少納言師國朝

臣、中務權大輔季家朝臣、攝津守重家朝臣、讚岐守成

親等參集、以殿上廊爲其所、行事藏人縫殿權助賴業豫

仰所司鋪設裝束、其儀、二行對座敷紫端帖、爲舞人樂人

座、南上對座敷之、宰相中將東方一、無絕席西都懸垂布、紺、西緣敷黃綠

山槐記 仁平元年十月

帖爲近方以下舞人樂人座、十餘人宰相中將先着座、次

殿上人之舞人樂人起中門廊、各向樂所、次第着座、時子

申刻、各着束帶、帶鈕持笏、樂兼居饌、內藏寮儲有一獻、無勸盃、時子

人不之分之、守次第着之、之禮重所雜色、持參盃獻宰相中將、次第傳盃、瓶子同雜色、

件所參連、次召近方以下舞人樂人着綠座、次衝重撤之、內

參獻、件所參連次上垂布、雜色行事宰相中將命也、藏人等上宰相中將以下次第

十〇以下缺文、按、諸本缺此條、但承安五年九月十三日讓書與是同文、蓋原本編者採錄之歟、



〔仁平二年〕

〔正月〕

○卷首脫紙、不知其幾葉、原本細白、山槐記仁平二年正月云々、  
缺、嘯、右新鳥蘇、晚頭除

朝臣、資信朝臣、雅

筆

十八日甲寅

天晴、今日同去夜、如常

十九日乙卯

天晴、晚頭參內、入眼延引了、今日於押

小路殿有尊勝陀羅尼供養云々、申刻皇后宮御所炎上、

大炊御門高倉

二十日丙辰

天晴、午刻參內、次向行所

廿一日丁巳

天晴、巳刻參內、俊經持參宸筆

申事口俊經口御

廿二日戊午

早朝口習舞一曲卯刻向行事

持參神寶、次第在別紙、申刻爲見物向二條朱雀、次參

花山院、次又參內、依御拜也、御馬御覽將公保、口御拜

御劔俊成雅、御裝束人

〔此間脫紙〕

雅、樂允豐原時就

元右近將監

陵助海延兼、民部允惟宗仲賢、刑部允吉範重、少錄中

原定兼、大膳亮藤憲定、木工允惟宗知弘、少工藤井

國廣、權少江同行重、大炊助藤兼康、主殿助藤伊賀、造

酒佑中原廣遠、彈正少弼源師廣、修理亮大中臣友

正、紀伊守藤賴憲、伊賀守源信明、三河權守高

階業行、相模守藤親弘、周防守源季範、備前守藤信經、阿波守藤成賴、肥前守大江佐

平、筑後守中原行親、奥介伴爲尙、奥豐前守橘清仲、

式部大隅守大江康貞、左近少將藤實定、藤重通、少尉平信兼、右衛門督藤公能、尉源義康、

左兵衛督藤忠雅、佐藤實國、右兵衛督源雅通、少

尉惟宗盛定、功中原知親、少志大江家光、左馬允藤盛

言、藤康遠、藤盛時

廿九日乙丑 天晴、巳刻除目畢、清書上督殿、宰相雅

通朝臣、

二月大癸

一日丙寅 天晴、

二日丁卯 天晴、

三日戊辰 雨降、晚頭天晴、姊小路猪猡有炎上、仍督

殿令渡給、

四日己巳 雨降、

五日庚午 雨降、申刻晴、於院白河、有舞御覽、祈年穀奉

幣、左女牛油小路有炎上、

六日辛未 小雨降、送摺袴於春日使右少將光忠朝臣

之許、未刻參花山院、

七日壬申 天晴、午刻參關白殿袖解由小路、依有大死穢即退

出了、次參內、次參督殿、

八日癸酉 天晴、

九日甲戌 天晴、夜陰雨降大風、右大臣亭燒亡、中今

夜有下名、上卿權中納言忠基、未刻依召參左府亭、土御門

仁王會季御讀經事也、

式部權少輔菅原公資

修理進藤盛高、左京

進三善賴重、兼彈正

大弼源師教、左兵衛尉藤兼賴、藏

右兵衛佐藤信賴、諸陵助藤泰信、主殿屬伴守正、伊勢

守大江泰基、部上野守藤信盛、隱岐守藤家輔、藏從四

位下藤隆長、

十日乙亥 天晴、已刻參 申仁王會上卿事、次

依可有舞御覽參內、舞人左家明、予、右俊通、公光參

入、事了有盤涉調樂等、次殿下合頭中將被仰云、成方

風俗可唱者、成方依召近候階隱間、殿上樂人并基賢時

秋同候此所、有種々事等如何、及深更依仰吹蘇合急、

至陣外吹之、尤有與、殿下又被仰万秋葉六帖可吹之

由、可仰基賢者、基賢不申左右、無音不吹之、若不覺悟

歟、將祕藏歟、此事起救定歟、何強可祕藏哉、

十一日丙子 天晴、

十二日丁丑 天晴、於內裏舞御覽延引、

十三日戊寅 天晴、依舞御覽已刻參內、今日御物忌

也、殿上人或參籠、或外宿、舞人實長、實定許參入、樂、人資賢、仲實、重家、季家、地下舞人樂人近方、忠時、好有、光秋參入、今日未刻大納言公教參陣、被定申御賀僧名、中宮大夫爲通書之、軒廊御卜給藏人泰經了、

十四日己卯 天晴、

十五日庚辰 雨降、

十六日辛巳 天陰、夜陰雨降、

十七日壬午 天陰、

十八日癸未 天陰雨降、

十九日甲申 雨降、

廿日乙酉 天晴、於法勝寺有千僧御續經、院女

### 三月

〔一日〕

○前月二十一日至此脫統、是三月朔日也、  
文缺、樂、次地久、此間各於庭中肩脫、而少將俊通脫半

臂、只欄許垂之、此與無雙、衆人斷腸、次春盤囀、次古鳥蘇、次青海波、次散手、次陵王、無納蘇利、依習胡飲酒歟、次新鳥蘇、次賀殿、次皇帝、次三臺、次林歌、未刻事始、及黄昏舞了、逐電退出了、抑舞以前爲令着陵王裝束、中御門中納言相具息童被向樂所、親昵人々同向、隆季、家明、季兼、公親、實家、成親、予等也、

二日丁酉 天晴、左府少將舞拍子合云々、於東三條有此事、光時、少將、則助、光近列方立庭中有舞云々、

昨日御燈爲御物忌、仍參籠、

三日戊戌 天晴、辰刻着束帶昇殿、御燈也、有御拜、陪膳備中守光隆朝臣、予役之、卜部獻大廡如常、宸儀御束帶、御諷之後撤御贖物、光隆獻御笏、職事可獻御拜了入御、次於渡殿邊、以清賴申民部卿被申淳和院庄事、次歸花山院、改裝束歸三條、爲邦綱奉行自殿下有召、即參、被仰云、家成卿教授、重通卿養子昇殿、并可宣下、被仰云、重通卿養子不知食名字、可尋彼卿者、仍獻消息、名字家通云々、下知出納爲弘了、今夜依上野

條事定、左衛門督被參內、便於殿上邊申敕授事、次諸  
御方可參仗座、次第被定申條事、民部卿、宗左衛門督重通、  
左兵衛督殿、左宰相中將經宗朝臣等也、事丁左金吾  
被退出、於床子座前邊召外記、被宣下敕授事、諸卿各  
歸了、

四日己亥 天晴、

五日庚子 未刻雨降、即晴了、  
按鳥羽院康和五年癸未御誕生、至仁平二年、實五十歲也、

六日辛丑 未刻雨降、即晴、明日可有法皇御賀事、仍今

夜行幸于城南、予不供奉、亥刻向中御門中納言宿所、

七日壬寅 天晴、天皇被奉賀法皇五十筭、次第可注別

紙、

八日癸卯 天晴、御賀之後宴也、次第可注別紙、今夜

浴力歸語、

九日甲辰 天陰、晴時々雨降、依召晚頭參鳥羽殿、御乘

船之間爲棹郎、依遲參空退出了、

十日乙巳 天晴、朝間雨降、未刻晴、於鳥羽殿有蹴鞠

興、殿上人着宿衣也、

今夜還御於猷乘律師僧房、改裝束供奉、

十一日丙午 雨降、今夜關白殿始令渡九條殿給、件儀

唐車、北政所同車、御出家之後、前驅殿上人衣冠、扈從中宮權

大史爲通朝臣、予、先晚頭參上彼殿、爲申吉書也、官政

左殿所招少辨資長申之、被牽黃牛、

十二日丁未 雨降、

十三日戊申 天晴、參鳥羽、申淳和院庄事、依季御讀

經事向大宮大納言亭、左府命也、

十四日己酉 天晴、一院令入熊野御精進屋給、故顯賴

卿宿所云々、

十五日庚戌 天晴、

十六日辛亥 天晴、依仁王會未刻參內、入夜事始、南

殿上卿左衛門督、宰相經宗卿、御殿上達部別當、新中

納言、新宰相中將、堂童子左方國雅、藏人賴業、右方長

雅、行事藏人泰經、不待夕座國雅退出了、不敵事也、依

上卿命予勤之、依無藏人也、雖有非藏人、非其役之例、

猶不當歟之由、上卿大理被示、仍勤之、但雖非職何不

勤如此俊乎、今日殿下少將殿敍三位、被申慶賀、予可  
扈從之由雖被仰、依仁王會奉行不可參之由有仰、申刻  
御參内、扈從殿上人左中將光忠朝臣、中務大輔季家朝  
臣、治部大輔雅賴、相模權守頼定、中御門大納言大夫  
光能、前驅清高、為業、安泰、清顯、高經、邦綱、信範、經光、於内光忠朝臣申次、被召  
御前給、次令參中宮御方給、申次亮季行朝臣、隨身賜  
腰差、次令參一院給、羽、自鳥丸殿令出立給也、

十七日壬子 天晴、

十八日癸丑 天晴、舞師樂人等賜祿、

十九日甲寅 天晴、

廿日乙卯 天晴、未刻着直衣參内、布衣、依舞御覽也、  
左右舞各四曲、

今夜督殿令移徒粟田口亭給、着束帶向彼亭、人々衣冠、  
廿一日丙辰 天晴、

行幸臨時祭調樂云々、

四 月 大乙

一日乙丑

十八日壬午 天晴、齋王御禊也、予前駐、

廿一日乙酉 天晴、祭 實、實、

五 月 小丙

二日丙申 雨降、午刻天晴、行幸賀茂社、予奉行之、舞  
人勤任人々皆獨殿下穢故也、

十七日辛亥 辰刻參内、行事藏人泰經奉仕御裝束如  
常、但御經篋机副行香机立之、是佳說也、然依爲里内  
裏近衛殿、無弘廂、簀子用弘廂、然間無道、仍立御帳東、是  
額間例此殿也、此說先々又多以存之、雖然不甘心、督  
殿被仰云、治曆内大臣被直之云々、而無便宜、如此事  
又可付當時儀歟、左府未刻令參給、於直廬先召予、參  
上、法眼賢覺賜申少僧都申文可申院之由被仰、次雜摩  
講師可爲光覺之由被奏聞、於鬼間邊奏之、仰聞食、次

向彼直廬申此由、先是可召儲外記之由被仰、召大外記師業、依所勞不參、六位外記俊兼所參入也、講師事被仰外記歟、次左府令候殿上給、召子、參上殿上上戶邊、頭中將候乎否之由被尋、仰申候之由、可召者仍此由、頭中將即參上、于時未一點、事具之由被奏、頭中將於朝餉奏之、次被仰發願之由、次左府被仰鐘、頭中將直被仰之、貫首猶以行事藏人可被仰歟、次出居着座、成、家明、實長、公侯、公光、歷長、寶定、頭中將雖被帶懸不着座、出居人數多間、經座、或經廻東弘廂之邊、或殿上人座、次公卿參上、左府、長、民部卿、宗、中御門中納言、成、督殿、新中納言、定、二位中將、兼、左宰相中將、經、新宰相中將、師、修理大夫忠能、次僧昇、法印辨覺、權大僧都尋範、已上證義宗、權少僧都有觀、俊口、法眼賢覺、權律師兼圓、明雲、已講俊宗、靜祐、明海、已上、濟懷、良顯、覺敏、覺般、覺長、立弘、相意、長顯、良明、始參、實慶、已上、次堂童子着座、就御所以右方爲左方、左方、顯、宗、俊光、右方、盛親、次頭中將、伊賀、仰御願趣、此間新大納言、公、左衛門督通參上被加座、次行香、

山槐記 仁平二年五月

左府民部卿新大納言、左衛門督、中御門中納言、督殿、新中納言、二位中將、行香以前修理大夫退出、依人數多被示退出之由、行香之時、左宰相中將新宰相中將退出、殿上方行事藏人取火馳、僧歟、講演了仰退下、公卿退了、設夕座同朝座、但無行香、此間內府實能被參、事了各退出了、別當事了後被參、不及着座、中宮御二間女房出彩袖、紅薄樣也、次公卿被着陣、有周防國條事定、了各退出了、今日尊勝寺灌頂定也、上卿民部卿、辨左少辨範家、定、仍天文博士廣賢爲勘日時參上、便招寄問僧事日次、申廿日宣之由、僧侶退出了之時、總在廳行俊申明日刻限、仰如法午刻、今度公卿出居等不似例年、人數殊多之由、人々所被示也、  
十八日壬子 天晴、午一點參內、未刻事具了、以出納申大宮大納言、自夜前被宿中宮御方也、頃之大納言被參候殿上、以予被申事由、奏聞、聞仰聞食之由、依辨不候、予可令打鐘之由、上卿被示、予下知了、次出居着座、次公卿參上、次僧侶參上、堂童子着座、朝座講師有

觀、問相意、自余如常、事了各退出、次夕座、令打鐘、但此間大宮、大納言被示予云、此御殿御裝束便宜違清涼殿儀、然者御所南面夜御殿在西、講師可着東高座云云、頗被示御裝束過意之由、將無其謂事歟、初日左府以下公卿十三人雖被參上、無其謗難、隨御所雖在西、於講師讀師座全不可相替、可依佛之左右事也、雖然上卿殊被答、相論無益、所存雖益御經可置替之由、下知總在廳了、仍置直之、夕座被始之時、辨覺法印申云、猶不可隨御所、講師座可在右方也、無其謂之由執之、仍上卿乍不甘心又如本直之、尤有其煩事歟、講師俊智、問良明、明日參上、公卿大宮大納言、二位中將、中宮權大夫、左執右大辨、出居光忠、隆長、相轉養於堂童子俊通、國雅、左方定隆、伊長、右方賴季遲參之間、雖申所勞之由、依平齋國雅參上、仍勤仕、定隆又臨期領狀、然間雅賴今日當番申所勞之由、仍過分間重不催之、今日堂童子領狀六人、先々六位勤仕常事也、不似例年之由、人人被示者也、事了各退出了、依僧事沙汰雖參左府、今

日精進無言云々、仍不能之申達歸了、于時戊刻、次參關白殿、法性寺、明旦可參之由被仰、仍不承御返事、及夜半空歸了、十九日癸丑、天陰、卯刻參法性寺、事之由達之間、依御發心地無御返事、又以歸了、午刻參內、未一點事始、次第如例、予申事之由、仰鐘、上達部左府、督殿、新中納言、新宰相中將、左大辨、出居成雅、行通、家明、實長、公保、堂童子左方信賴、清成、右方隆輔、長雅、講師賢覺、問名數朝座了退下如常、次夕座、予仰鐘、僧侶參上之間雨降、仍副殿上南砌、自上戶前階參上、講師兼圓、問實慶、夕座了各退下、次左府合着陣座給、召予被奏賑給定之由、予仰聞食之由了、宰相資信候座、此後督殿合着座給畢、以右中辨光賴奏聞返給、召外記俊乘給之、外記不致重取歟硯宮退出、頗失也、又歸參取之、事了各退出了、顯遠可參鳥羽、尤有其便、僧事申文可付之由申左府、可然之由被仰、付顯遠了、昨日申僧事上卿事於左府、被仰云、可爲權中納言、晚頭退出了、

廿日甲寅 天陰、雷公發聲大雨、午刻參內、未刻天晴、二點事始、予申事之由令打鐘、公卿左府、左衛門督、新納言、左宰相中將、出居行通、公光、堂童子左方信隆、右方家通、講師明雲、間玄弘、今日僧參上、道如昨日、夕座一同朝座、講師俊宗、問覺長、事了各退下如常、今日可有僧事、上卿新納言被留祇候、外記史可候之由仰舍了、晚頭退出了、但今夜無僧事云々、

阿闍梨解文五六通許被宣下許云々、

廿一日乙卯 天晴、今日取勝講結願也、巳刻參內、未一點事始、予申事由令打鐘、次第如常、公卿左府、民部卿、大宮大納言、新大納言、左衛門督、別當、督殿、左宰相中將、新宰相中將、出居成雅、伊實、頭光忠、家明、實長、公保、公光、童子左方、實實、右、信能、賦花宮之時、予經行香机北、是近代之例也、隨有便宜以簀子用弘廂之間、上達部座上無其所故也、此道力隨又既存常事也、講師明海、問覺長、朝座了各退下、予雖非道、經御前出殿上方、先雖左方、依御所便相違、以右方爲左方、就御所故

也、左府出殿上召予、參上、被仰鐘、仰之後、又如本奔殿渡上達部座、各參上、次第若方口座、予賦花宮、了出西門、經大路徘徊殿上邊、御殿東庭邊忍昇儲口辛櫃、是擬小被敷也、出納三人召儲之、布施儲弓揚殿、但布施先々不事終以前賜之、是恒例云々、仍先引之、綱所給從僧等、行事出納沙汰之、此間度者可被仰也、而頭中將伊實、被申襪所勞之由、乍參內被申此旨、太不穩便歟、仍此旨申左府、被仰云、出居上臈可仰也者、左中將成雅朝臣仰之、事了有行香、次左府、民部卿、大宮大納言、新大納言、左衛門督、別當、督殿、左宰相中將、先是新宰相中將被退下殿上邊、行事藏人取火蛇、今日不着青色、次僧侶賜祿、證義者二人白被物一重、左府令取給之時、予取傳也、次公卿藏人傳之、僧綱講師白大褂、凡僧講師紅染大褂、聽衆白衣、公卿至于僧綱講師下聽取之、仍新宰相中將不被取祿、大宮大納言行香之後被承初齋宮上卿、依神事又不被取祿、凡僧講師三人聽衆十人祿殿上人取之、成雅、清成、光忠、家明、季行、親隆、



實長、公保、公光、顯遠、實經、出納傳之、事了各退下、公卿左府以下皆悉被着陣、但新宰相中將不被着、有條事定、

伊勢豐前國等也、及黄昏各退出了、

今夜自左府御許、寂勝講之間、云人數云刻限尤神妙、返々感思食之由、以皇后宮少進敦任書狀被仰也、

### 六月大訂

十四日丁丑 雨降雷電云々、騎馬長已刻參內、權大納

言參陣、被奏伊勢遷宮行事所始日時、并御幌樂調改日

時、予奏之、午刻宇治僧都御持僧之後始被參、殿少將

殿申次之、被參二間、法服白袈裟、及夜花藏院法印又

始被參、予申次之、裝束同之、

金泥法華經陣始、奉爲先考也、

卅日癸巳 天晴、晦祓如常、每月祓又同之、

### 七月小

一日甲午 天晴、晚頭雨降、

四日丁酉 天晴、

五日戊戌 天晴、依內御風氣、北政所御參內、

六日己亥 天晴、依御風氣、晚頭參內、

七日庚子 天晴、未刻參內、依御不例事、公卿上人多

以被參、被始御佛  日有擬階奏、上卿別當、宰相

新宰相中將、

八日辛丑 天晴、未刻參內、左府申刻令參給直廬、令

候殿上給、即御退出了、

九日壬寅 天晴、今夜美福門院御參內、

十日癸卯 天晴、申刻參內、御風氣御減氣云々、

十一日甲辰 天晴、

十九日壬子 天晴、自關白殿給豐後守宗廣解書、可奏

聞云々、  
廿日癸丑 天晴、宗廣解書奏達、先向九條改裝束參鳥

羽、以顯遠申之、依御物忌不進文、次參力關白殿九條又爲

御使參鳥羽、源義基丹波領事以範兼申之、次又參九條

殿申御返事、今夜宿九條、

廿一日甲寅 今朝自九條歸了、參東三條、左府、令入

〔八月〕

○自七月廿二日至此脫紙、是八月也、不知其日、

文缺、宰相漸宰相中將師長、辨權右少辨光房、四位少納

言成隆着座、近衛、隆長、公光、右衛門、左右兵衛闕如、馬助盛

業、外記師尙、史、未刻上路、洪水殊甚、亥刻歸三條、

十六日戊寅 天陰大風、法勝寺御賀云々、有御幸云々、

廿一日癸未 天晴、午刻參內、春季御讀經始也、仍行

事藏人奉仕御裝束、而今日伊勢齋內親王行啓定云々、

大宮大納言、伊、宰相中宮權大夫、爲、辨左少辨資、依爲

神事暫撤御裝束、了定、及秉燭事了、奉仕御殿御裝束、

候御殿之間、上卿以辨識、被奏御前僧、入宮返給之、左

府、左衛門督、上卿、中宮權大夫、右兵衛督通、被參、辨仰鐘、

上卿右兵衛督被候南殿、左府、宰相中將、中宮權大夫

被候御殿、先是左府出被奏云、吉博奏今年未候、何比

可候哉之由、被奏聞、御寢云々、出居着座、公卿參上、

僧昇、堂童子着座、左方俊通、定隆、右方俊光、伊長、朝

座了有行香、依人數不足、召加南殿上卿宰相出居等、

行事藏人大膳亮憲定取火舍、行香左府、左衛門督、中

宮權大夫、右兵衛督、光忠朝臣、實長、俊通、下官等列

之、事畢繙素退出、令打夕座鐘、其後予退出畢、

廿二日甲申 天晴、時夕雨降、參內、引茶役四位顯成

朝臣、五位伊長、藏人憲定、非藏人家輔持土器土瓶等、

臨刻限、茶不候之由、行事小舍人爲恐申上之、不足言、

參內之後責出引茶了、不可說事也、如然事非大事、行

事藏人、出納、及小舍人可存事歟、南殿引茶雜色源盛

頼云々、晚頭退出了、

廿三日乙酉 天晴、晚頭參內、御論義番權僧正隆覺以

手輿被參門邊云々、是先日被申請左府者也、刻限頭辨

被參、依爲里亭、弓場殿無便宜、先々上卿以小板敷前被用弓場殿、仍今案以件板敷間用弓場殿座、小板敷一巡也、向殿上、但無便、頭辨被示云、令申殿下之處、此定云々、不申此由、叶御意、尤神妙之由被感者也、但中間可着物云々、又雖不然何事有乎之由、頭辨被示下官、頭座南面、番座西面、威儀師座北面、總在臨、行俊也、行俊書論匠交名可通奏聞、頭辨入可尋召、下給可通奉番僧正、論匠座圓座二枚敷額間、行事藏人忘却、仍下官示泰源家輔令敷之、南殿論匠座又方大以同前、召掃部寮又令敷云々、

論匠一番覺安、濟愴、二番寂愴、經有、

三番珍豪、章緣、四番覺詮、仁基、

五番覺高、口海、

事了退出了、

廿四日丙戌 天晴、未刻參內、御讀經結願也、乘燭上卿參上、宰相左宰相中將、經、新宰相中將、師、右兵衛督、雅、今日上卿只一人也、上卿以外記被申殿下、御殿無上

卿、經宗卿師長卿令候御殿、左衛門督右兵衛督令候南殿者、此定被行了、但上卿可候御殿歟、公卿不參之時、遣殿上人於南殿事、有以往之例歟、今日被仰度者次第如初日、出居南殿公親、御殿家明、堂童子、左方口通、藏人靈額、右方國雅、藏行香南殿上卿以下參上、左衛門督、左宰相中將、新宰相中將、右兵衛督、頭辨、美濃少將、權辨、藏人次口、事了縹素退下、

有陣申文、大辨頭辨、候氣色、鞠盃權辨、

廿五日丁亥 天晴、自殿下被仰云、石見遷任之切、公家御祈愛染王百體、可造奉之由、可仰下者、其中十體者、來廿八日於御前可被造始、其間事可奉行云々、

廿六日戊子 天陰、寅刻有炎上、近衛高倉新宰相中將

師、長宅、依爲花山院對馳向、且爲障口、仍着直衣、上野宮三乃少將被參花山院、放火云々、宰相被渡惟方姊小路宅云々、

次改東帶參殿下、御佛事等事於二間北方廊可被始云云、御衣木加持僧華藏院法印可召之由被仰下、即退出、

廿八日庚寅 天陰、於高倉院御堂、入道大相國被奉賀  
仙院五十寶筭、有御幸、導師天台座主行玄、有舞、殿上  
人<sup>□</sup>之舞間雨降、仍所殘舞明日可舞之由被仰下、  
甚難堪歎、

廿九日辛卯 天陰、昨日所殘舞今日舞之、

### 九月大庚

一日壬辰 天晴、依遠忌向觀音寺、今年始修小佛事、  
導師和泉阿闍梨兼助、

四日乙未 天陰、時々雨降、參花山院、

五日丙申 天晴、

六日丁酉 天晴、申刻着束帶參關白殿、申實長朝臣灸  
治暇事、次參內、左府被聞食了之由仰、左府被仰云、列  
幣以後仁王會季御讀經可被行、宜奉行上卿右府內府  
可觸申云々、次參督殿、次向上總守許、爲談和琴事也、  
被向仁和寺云々、仍空歸了、

八日己亥 天晴、依故相公遠忌、尙書被修佛事、三尺  
阿彌陀、逆、五部大乘經、導師律師禪智、請僧六口、當  
三七日懺法結願云々、願文予清書之、光忠朝臣、有光  
朝臣、季兼朝臣、重綱、爲業、賴方、清季、經光、高信朝  
臣等訪來、入夜僕歸三條了、今日伊勢遷宮奉幣被發遣  
云々、辨依救便參內云々、史知盛下向、

九日庚子 天晴、有除目、上卿大宮大納言、右少史中

原家賢、西市祐、殿所司、兵部錄經有敎、<sup>紀賦</sup>縫殿權助橘義憲、明法

博士中原業倫、兼、左近權中將藤基實、同隆長、左衛門

尉藤賴業、藏人、左馬允平景季、美福門院、未給、備後守藤家明、兼、

美濃守家政、正位下々官、使宣旨賴業、

十日辛丑 天晴、加級事爲畏申參關白殿、宗長申之、

返々神妙之由有御返事、次參督殿、入夜歸了、

十二日癸卯 天晴、參花山院、亥刻令參春日給、於木

津舟不參之間天曙了、予相共所參詣也、

十三日甲辰 天晴、辰刻乘船、戌刻付木津、自木津騎

馬向覺善得業房、次子刻許參社頭、督殿令供養金泥法

華經給、導師玄緣已講、奉幣之後有此事、次參若宮、次歸畢宿覺善房、

十四日乙巳 天晴、巳刻許督殿令向權別當覺口許給、

至于未刻言談、申刻於木津乘船、宿石坂之邊、有和歌連歌等、題云云水上云云瓶云云月、旅戀、

十五日丙午 天晴、辰刻出石坂、未刻付於切付島、各下船眺望、戌刻付草津、及夜半歸三條亭畢、

十六日丁未 天陰、申慶賀內、殿、中宮、新院、皇嘉門院、

十七日戊申 天晴、

十八日己酉 天晴、申刻向觀音寺、有六觀音供養、及深更歸畢、

十九日庚戌 天晴、申刻參方右府御許、四條西洞院、申可被奉行季御讀經之由、次向內府亭、申仁王會可被奉行之由、各被承畢、

廿日辛亥 天晴、申刻參花山院、及晚頭歸畢、

廿二日癸丑 爲申慶參鳥羽、自天王寺未還御之間奉

待、亥刻許以式部大夫重成申入歸洛、御所田中殿新御所也、

廿四日乙卯 天晴、申刻參內、申御佛供養御導師事於罰方殿下、次參左府、申仁王會季御經等事、入夜歸畢、

廿七日戊午 天陰、朝間雨降、午刻天晴、有鳥羽被南寺籠馬云々、申刻參內、於二間被供養愛染王升體、導師華藏院法印寬曉、晚頭發願、被物少將俊通取之、事畢參花山院、頃之歸了、

廿八日己未 天晴、

卅日辛酉 天晴、未刻參花山院、督殿初齋宮御禊前駈令勤給、東乘燭之後令參給、隨身等長轡繪

十月 小辛 亥辛

一日壬戌 天晴、小舍人爲近持來月奏、加判返給了、爲御方違行幸于白河泉殿、乘燭參內、公卿左府、右府、內府別當、二位中將、左宰相中將、中宮權大夫、右兵衛督

別當、二位中將、左宰相中將、中宮權大夫、右兵衛督

參上、先被行平座、於陣座有此事、被用宜陽殿歟、然平座可被仰之由、左府召予被仰、予申云、朝隆朝臣參陣定申其由歟、又先々六位仰之、朝隆朝臣無申其由歟、陳申左府、被仰云、朝隆空以退出了、不可說也者、仍予直仰之、公卿各起陣被參殿上、其間陣居襲、次各着陣、初獻勸盃少辨範家、進盃於左府、次右府、次內府、次中宮權大夫、是內府與別當次第傳之、依父子禮歟、次二獻、勸盃少納言成隆朝臣、自左府內府、次右府、次別當、先度依無便宜歟、三獻右中辨光賴朝臣、勸力盃、次第如二獻、光賴朝臣事畢被奏見參、藏人辨範家奏之、付御所被奏、次於陣召光賴朝臣賜見參事了亥刻行幸泉殿、有女院御幸、御褙主上自令取之給、左府令候御前給之故歟、希代珍事也、少納言依所勞不參、右少將行通奏鈴、左府仰之、今日關白殿不令參給、及深更歸蓬屋畢、河白二日癸亥、天晴、未刻參泉殿、去夕爲御方違行幸、明日可還御也、

三日甲子 天晴、戌刻許參內、遲參遇大炊御門京極、

山槐記 仁平二年十月

鈴奏右少將定房、關白殿有御供奉、今夜公卿如先、但內府不被參、

八日己巳 天晴、

十一日壬申 天陰、於院有舞御覽事、着襲裝束舞之、於中門廊後裝束、舞次第、左方萬歲樂、右地久、左太平樂、右古鳥蘇、冠老懸插菊花、左青海波、無道右散手、左胡飲酒、次陵王、右皇仁、左賀殿、右納蘇利、參仕公卿大相國、左府、右府、內府、民部卿、大宮大納言、中御門中納言、別當等也、

十六日丁丑 天晴、御方違行幸延引、泉殿有御堂、仍宇佐使進發以後有憚、有除目召仰事、頭辨仰之、左府令候殿上給、

十七日戊寅 天晴、有除目、執筆右府、參仕公卿內府、左衛門督、左宰相中將、新宰相中將、右兵衛督等也、

十九日庚辰 天晴、權僧正行慶爲三井寺長吏之後、始爲拜堂被入寺、僧綱已講葦扈從、於粟田口見物、畢申刻許參左府、依召也、次參內、於二間有御供奉、愛染王

廿體、導師、花藏院法印、予取被物、入眼又延引畢、犬死穢出來、朝餉壺云々、事體依可被仰御下、

廿日辛巳 天晴、被行入眼、右府申所勞、不令參執筆給云々、仍大宮大納言通伊勤仕之、

廿一日壬午 天晴、依犬死穢字佐使延引畢、

廿三日甲申 天晴、

廿四日乙酉 天晴、法勝寺大乘會始、無御幸、

廿五日丙戌 天晴、

廿六日丁亥 天晴、

廿七日戊子 天晴、大乘會五卷日也、相具袈裟未刻參

法勝寺、上達部新大納言、左衛門督、口位中殿少將、左宰相

中將參上、殿上八十餘人參上、朝夕兩座畢行道、持袈

裟隨之、無御幸、有下名云々、

廿八日己丑 天晴、大乘會結願、

廿九日庚寅 天晴、被始行仁王會、午刻參內、檢校上

卿別當、御殿左衛門督、左宰相中將、新宰相中將、右兵

衛督被參、出居右中將光忠朝臣、堂童子俊光、長雅、賴

定、光能、次第如常、行事辨左少辨範家參大極殿不歸參之間、頭右大辨仰鐘、行香之時召加頭辨、修理權大夫、右中將、前少納言、南殿上新中納言、宰相左大辨、

十一月大壬子

一日辛卯 雨降、前齋院令參詣日吉給云々、

二日壬辰 天陰、前齋院自日吉還御云々、

三日癸巳 天陰、宇佐使筑前守清成引馬、鹿毛、槽毛、使馬允

宗友、

四日甲午 雨降、巳刻參內、宇佐使進發也、事了夜陰

參花山院、

午刻有神寶御覽、御殿南面二第一二間敷掃部寮筵東西

行、以西爲上、南北二行敷之、法體并大多羅志姬神寶

置輿筵、北先西御劔、次御鏡、御弓箭等、次御裝束、其

上置錦蓋、有御幣宮、次大多羅志姬御裝束、一蓋

入加御鏡宮并御幣宮、南筵俗體裝束、姬宮御裝束等、

次第南御劔、次鉞、弓箭、次御裝束、其上置銀蓋、入加御鏡幣篋、次姬宮御裝束御鏡幣等篋在之、五位殿上人役之、御座、四口第三間頗進東當筵之中央之程敷之、神寶置畢、次出御、御直衣、關白殿御束帶、不敷殿下御座、是失歟、頭辨頭依仰開御鏡篋、天覽畢、次撤神寶御劔鉞等、南北行置之、妻自筵餘之、關白殿不可然之由被仰、是清涼殿東面儀也、頭辨思渡之由、被示予者也、次下御簾、藏人下之、有御馬御覽、毛右中將光忠候寶子、三匝廻之後退出、次入御、改御裝束、御拜座第二間敷之、南北妻敷筵、額間中央立二脚口上北口御鏡篋、其南其上敷帖、額西又方御劔入蓋也、防額西又方向坤ニチカヘテ置之、次御幣篋三合次第置之、案一敷筵、此案或立一脚云々、可依案大小歟、一臘判官置之、行事藏人役之、然依所勞不參、依雨儀宮主使座敷階隱間、宸儀御束帶出御、殿下令候簾中給、頭辨獻御笏、殿下御贖物之後可獻之由被仰、頭辨先獻御笏之由、多見舊記之由示予、次供御贖物、予役之、宮主獻大麻、返給着座、差笠、使同差

笏差笠參上、同着之、御禊畢御拜、次入御、又改御裝束、供畫御座、次上卿左衛門督被奏宣命草、就御所被奏之、予奏之、官符一臘判官賴家奏之、返之給、出御畫御座、御束帶、殿下令候額間御帳西邊給、召使、頭辨召之、使參御前、承教語退出之時、予取藤出自鬼間、於一間邊賜之、御世〇單歟、下殿、妻御袴、使差笏給之、出長橋邊拔出東對御殿上、舞踏、此間入御、次上卿召使於殿上、於小板敷賜宣命、次使退出畢、宰相中宮權大夫、爲通、少納言教宗、參上之使右兵衛佐兼筑前守清成、神祇官人兼遠、小舍人、友弘、末守、神寶行事頭辨、藏人左兵衛尉藤憲賴、出納中原爲弘、小舍人則弘、行事所一本御書所云々、五日乙未 天晴、春日祭使之許送摺袴、右少將實長也、大字燒亡、二條、堀河、

六日丙申 天晴、未刻參院、押小、伊賀國司申雜事奏付式部少輔範兼、次參內、同事申關白殿、依御所中間不申達、今日平野祭也、使相模權守賴定、上卿新中納言、掌力經御禊之儀如常、依入夜常燈御座西面左右供之、御禊



陪膳備中守光隆、殿下御簾中、予依奏宣命草、依爲御物忌、於陣上卿被奏之、同於陣賜宣命於使、

七日丁酉 雨降、

八日戊戌 天陰雨降、

九日己亥 天晴、

十日庚子 天晴、午刻參一院、押小路殿、次藏人右衛門權佐

顯遠申伊賀國事、次參左府申同事、次參內、參殿下御

直廬申同事、次花山院、奉力入夜歸退、

十一日辛丑 天晴、五節童女扇一雙送左大辨之許、戊

刻着直衣參內五節、中宮權大夫、爲通朝臣、左大辨宰相、信

尾張守親隆朝臣、攝津守重家朝臣獻舞姬皆以參入、姬

君已下如常、張臺有御出、御直衣、關白殿、能內府、實大

宮大納言、伊通、公新大納言、公效、別當、着直衣候御後、

十二日壬寅 天陰、申刻參花山院、次參內、殿上淵醉

如常、掌燈以後事畢、次各參押小路殿、大宮大納言、新大納言、中御門中納言、別當、姬宮淵醉也、次

第如常、公卿、昏殿、新中納言、左宰相中將、右兵衛督、事畢

歸房、着束帶、行前試、

十三日癸卯 天陰、申刻參內、殿上淵醉如常、事畢中宮淵醉、上達部大宮大納言、新中納言、權大夫參上、次

第如常、勘盃初獻予、二獻亮光房朝臣、三獻權大夫、事

畢人々被參前齋院、余不參之間次第不記、

十四日甲辰 天陰、節會如常、雅內辨右府、定事畢於中

宮御方事起叙情、各召楡、進覽之、各退出、

十五日乙巳 天晴、三品羽林御慶賀申也、爲扈從參鳥

九殿、前駟、清高、爲業、信範、資泰、扈從右中將、經光、口清、高範、那綱、中務大

輔、季治部大輔、雅顯、參子、相模守、額先御參內、予申

次之、拜之後被召御前、又拜舞、參內之後、次中宮御

方、申次亮光房朝臣、拜之後令參御前給、次一院、申次

備中守光隆朝臣、次美福門院御方、申次土佐守季行朝

臣、拜之後令參御前給、次新院、申次前勘解由次官賢

長朝臣、拜之後儀令參御前給、次皇嘉門院、北政所、申

次其以季家朝臣、即令留九條殿了、及深更歸畢、

十六日丙午 雨降、

十七日丁未 天晴、

十八日戊申 天晴、

十九日己酉 天晴、賀茂臨時祭也、雖有舞人之儀、申

所勞不參之間、次第不分明、使右少將行通朝臣、舞人、

教長、教宗、成親、光家、隆輔、信隆、  
口口、口口、親美、靈顯行事

廿三日癸丑 天晴、晚頭參內、申灌頂上卿以下事、曉

更歸畢、

廿四日甲寅 天晴、美福門院并北政所御懺法結願、被

行觀音灌頂、阿闍梨、長千、上卿督殿、宰相中將、中宮權大夫、

辨力并權右少辨、晚頭參內、僧名日時定有今夕、

廿五日乙卯 天晴、

廿六日丙辰 天晴、

廿七日丁巳 天晴、

廿八日戊午 天晴、於院押小路殿、有舞御覽、新院有御幸、

入道殿令候籬中給、牛破、兼賜襲裝束着之里亭參入、左

府、內府、民部卿、大宮大納言、侍從大納言、新大納言、

中御門中納言、別當、二位中將、新宰相中將被參、新中

將隆長舞散手、

廿九日己未 天晴、舞裝束送院廳、今夜美福門院御入

內云々、

卅日庚申 天晴、依內侍所御神樂御沙汰殿下、以下  
缺文歟、

十二月 大 癸 丑

一日辛酉 天陰、以式部大夫重成、自院有被仰事、自

殿下有召、仍馳參、次依今朝仰參院、歡喜、晚頭歸參殿

下、殿下令參內給、參御共、今夜美福門院還御、

三日癸亥 天陰、晚頭雨降、午刻參內、次參院、申御神

樂召人等事、

四日甲子 天晴、有內侍所御神樂事、已刻參院、申召

人散狀、次參內、殿下申同事、行事藏人憲定仰諸司、令

渡長橋、敷筵道等如常、行事出納爲弘、小舍人則弘、戊

刻宸儀出御、御束帶、予於額間獻御草鞋、關白殿令取

番給、左近少將公保候御劔、殿上人等候脂燭、先入御

御拜座、予獻御笏、關白殿被仰云、有聊憚事、仍不參御

前事終之程於直廡方可告事奏、次御拜畢、返給御笏、召人、殿上人等着座、殿上召人資蔭、季行、實長、陪從、範基、俊

信綱、清近、助則、光兵衛召人、元秋、重光、助稱、正光、重方、種方、人長奏兼額、兼文、依申、馬

初獻勸盃、成雅朝臣、雅國朝臣、二獻、俊長朝臣、三獻、實經、御神樂次

第如常、庭火笛清助、筆築則光、和琴予、歌、未季行、拍子、資蔭、和琴庭火、歌畢予讓座於範基、韓神勸盃、實經、國雅、朝倉之時予立座、參殿御直廡、申事之由、祿事等行事

藏人如先例可奉行由下知之、殿下令參給之後、還御如

先、予獻御草鞋、先是仰瀧口不可入雜人之由下知之、

依殿仰、召檢非違使義康、令候御所北邊、

五日乙丑 天陰、有一院御佛名云々、依窮屈不參、

六日丙寅 天晴、參歡喜光院、以範兼奏北政所當年未

給御申文、次參左府、申同事并季御讀經等事、次參內、

及曉更歸畢、

七日丁卯 天晴、

八日戊辰 天晴、

十日庚午 天陰、皇嘉門院御佛名、公卿右衛門督、中

宮權大夫、左大辨奉行、院司別當季家朝臣、判官代政

業、藏人資蔭、事畢予參內、深更退出、

十三日癸酉 天晴、依荷前定、晚頭參內、辨不參、仍延

引、上卿內府不被參陣、宰相爲通朝臣被參上、無辨例

多之、爲方人延引之條有煩、美福門院御佛名云々、

十四日甲戌 天晴、午刻參院、高松申荷前使、并詣生社

解狀付俊憲、

十五日乙亥 天晴、

十六日丙子 天晴、今夜月蝕、子刻雨降、請三口禪侶

令讀誦藥師經、

十七日丁丑 天陰、有荷前定、內府被參陣、事畢、宰相

爲通朝臣、辨光顯朝臣、日時定文以辨內覽奏聞、當日

定也、使等內々以院仰催之、申刻使等參集、公卿使左

兵衛督殿、權中納言、左宰相中將、中宮權大夫着使座、依

督殿召藏人定、被奏事由、藏人歸出、仰無御出之由、公

卿各立座、經床子座着座、兼居衝重、北上南下、外記覽

使差文、卽立座、使至幣物所昇幣物、先是公卿帶劔之

人中門解劍懸尻、口昇幣歎、次官昇之入床子座上戶、昇立中門內、山階使督殿、次官宗賢、後田邑權中納言、次官成業、柏原深草左宰相中將、次官範實、宇治三所中宮權大夫、次官高範、田原師國朝臣、八島顯成朝臣、行事外記俊兼、史師兼、

十八日戊寅 天晴、午刻向粟田口、被供養山頂普賢、導師良明、今日於蓮華藏院被供養百體阿彌陀佛、有御幸云々、

十九日己卯 天陰、被始行御佛名、先是於陣有近江條事定、公卿左府、大宮大納言、權大納言、新大納言、左衛門督、督殿、左宰相中將、中宮權大夫、右衛門督等被定申之、新中納言、二位中將被候殿上、定畢被始佛名、次第如常、行事右衛門權佐顯遠、藏人左衛門尉憲賴、堂童子信賴、隆輔、

廿一日庚辰 天陰、御佛名如昨日、公卿左衛門督、督殿、權中納言、左宰相中將、右兵衛督、堂童子俊光、國雅、事了被始行中宮御佛名、御屏風宮御方云々、

廿一日辛巳 天陰、御佛名結願也、入夜雨降、六條大宮邊有炎上、今夜參內公卿左府、民部卿、左衛門督、督殿、權中納言、左宰相中將、新宰相中將、右兵衛督、堂童子賴定、賴定被綿<sup>勳</sup>之、祿顯遠役之事了公卿着座、居簪預羹、無勸盃、各退出了、

廿二日壬午 天晴、申刻於二間有愛染王供養、有御出、殿下令候給、導師法印寬曉、今日於中宮御方、自院御佛七體被始之、并被始五壇御修法、今夜中宮令出土佐守季行朝臣勘解由小路富小路家給、御座所也先是關白殿令向彼亭給、

廿五日乙酉 天陰雪降、  
廿九日己丑 今夜於應司町、陣出納左衛門志清原能景成別功、予申此由於殿下、次申院、

卅日庚寅 天晴、依能景別功事、兩三度參院殿下、別功賞使宣旨被仰下、是本自父季兼檢非違使可讓歎之由所申也、仍無闕父讓之、追繼上卿新中納言、宰相右兵衛督、左京權大夫藤顯廣、民部少輔藤貞憲、加賀守

山槐記 仁平二年十二月 仁平四年正月

藤定澄、但馬守藤長成、駿河守藤忠弘、忠弘重任云々、云々

野宮本與書

右仁平二年及久壽三年春文治元年秋三卷、西山前中納言  
(源光國、常州水戸城主)所與之、尤可謂芳志者也。  
元祿十年十月十八日一覽之次註子細矣、

左中將藤定基

仁平四年

甲戌 (十月廿八日改仁平四年爲久壽元年)

三二

正月 大丙寅

一日甲寅 雨降、無拜禮、節會無御出云々、

二日乙卯 雨降、未刻天晴、有所々拜禮、有殿上淵醉  
云々、今日御堂一族巡方螺鈿劍、

三日丙辰 天陰時々雨降、夜陰樋口油小路有炎上、

四日丁巳 天晴、尙書被渡、夜陰土御門大宮炎上、

五日戊午 天晴、午刻向七條、依召車奉殿下、若公被  
迎新口自七條歸了、其時雨降、敍位被行、執筆左

府、

六日己未 天晴、美福門院御入内、

七日庚申 天晴、節會如例、内辨左府、外辨民部卿、節  
會以後還御、人々着闕服供奉云々、

八日辛酉 雨降、參修正、先延勝寺、次敬勝寺、次尊勝  
寺、新院御幸殿法勝寺云々、

九日壬亥 天陰、

十日癸戌 天晴、參修正、先延勝寺、次法勝寺、次取勝

寺、次尊勝寺、又參延勝寺、呪師兩二手之後退出了、

十一日甲子 天晴、未刻爲方違向小野、於山科雨降雷

發聲、

十二日乙丑 天晴、歸洛依路次(參)觀音寺、

十三日丙寅 一院御幸鳥羽云々、

十四日丁卯 天晴、夜陰參祇園、始金剛童子供、於春

日社令轉讀金剛般若唯識論、於南圓堂令轉讀不空羅

索也、以晴辨令參詣、自今七ケ日奉幣、

十五日戊辰 天晴、

十六日己巳 雨降、於春日御社令轉讀金剛般若、自今

日七ケ日、每日十卷、奉幣七ケ日、以寺僧奉之、於白

南圓堂、堂令轉讀不空羅索經、每日三卷七ケ日也、令參詣賀茂

社、依方豆州始百ケ日祓、陰陽師盛能、

十七日庚午 雨降、夜陰休參賀茂社、相具豆州、於右

京亮宗依方行泰山府君祭、于時天晴、感應之至也、

十八日辛未 天晴、被行射禮云々、入晚參賀茂、相具

豆州、

十九日甲戌 天晴獻除書被始行、執筆左府廳、依目所勞

未刻

廿二日乙亥 天晴、除書午刻被始云々、有受領文云々、

廿三日丙子 天晴、

此後不註記、

二月 大卯

一日甲申

三月 小辰

一日甲寅

四月 大巳

一日癸未

五月 大午

一日癸丑

六月 小未

久壽二年 戊申

一日癸未

七月大壬申

一日壬子

八月小酉癸酉

一日壬午

九月小戌甲戌

一日辛亥

十月大亥乙亥

一日庚辰

十一月小子丙子

一日庚戌

十二月大丑丁丑

一日己卯

正月小 寅 戌

一日己酉 未剋以後時々雨降、院女院拜禮、次新院拜禮、節會如常、雨儀、內辨左府、三位中將夜院令參給、無小朝拜、

二日庚戌 天晴、左府被行臨時客、

三日辛亥 天晴、未剋參院、皇嘉門院、殿下拜禮、今朝

勸解

四日壬子 天晴、

五日癸丑 天晴、延勝寺今林庄解自院下給、範乘奉

行、殿下令申了、

六日甲寅 天晴、未剋參院、今林庄解并內記局榮爵

事、次參內、於晝御座撰彼位申文、藏人左少辨顯遠奉

行、藏(人大膳敷)亮參經取目錄、

七日乙卯 天晴、未剋參內、節會如常、內辨左府、無御

出、宣命(使右大力)將兼長卿、

八日丙辰 雨降、

九日戊巳 天晴、晚陰參白川殿、依修正御幸法勝寺、

十日戊午 天晴、行始仁王經、七夕日、以圓慶野伏行

之、

十一日己未 雨降、午後天晴、

十四日壬戌 雨降雷發音、參論義、

十五日癸亥 雨降、

十八日丙寅 天晴、夜陰依吉方參清水寺一院尊勝陀

羅尼供養、予進百反、復五卷也、卷別廿反、

十九日丁卯 雨降、

廿一日己巳 左大臣大饗、

以陰陽師二人行百度祓、依目病也、

廿二日庚午 以內供行始北斗供、以宗親令行泰山府

君祭、

廿四日壬申 天晴、

廿五日癸酉 雨降、

廿六日甲戌

行執 府

山槐記 久壽二年正月二月

一二月大卯

一日戊寅 被行千僧御讀經、左大臣與右衛門尉信兼  
乘過之間、下部等被致害及傷云々、

三日庚辰 入道左中辨師能逝去云々、

五日壬午 被發遣祈年穀奉幣、院御幸鳥羽、

六日癸未 爲春日祭上卿中納言中將師長、被參向、前駈

五十餘後頭辨、光、伊豫守成章供奉、近衛使俊通、

九日丙戌 下名、無加任、夜半六角富小路炎上云々、

十日丁亥 被行三省政云々、向七條亭、

十三日庚寅 辰時地震、夜半四條朱雀邊炎上、于時地

震、今日雨 空也上人墓掘出砂金云々、是

聖代

十六日癸巳 取勝金剛院修二月、予參上、先是參觀音

寺殿、

廿日丁酉 殿下口於法性寺有心經會尊勝多羅尼供養事、



導師歟

道覺僧都、予心經百卷、尊勝陀羅尼七十反、

廿五日壬寅 有直物、督殿令補檢非違使別當給、

廿九日丙午 被定臨時祭使以下、

三 月 小 庚 辰

四日辛亥 參院、羽、申御鷹飼事、付刑部大輔俊憲、武成口野御鷹飼了、

八日乙卯 天晴、大理今日廳始并出仕始也、午刻檢非

違使、尉助經、志兼成、義仲、府生國忠、資良徘徊、

院東、先是大理於出居着直衣冠、令出居給

日時勘文衣冠、次大理合着廳座給、季時參

仰云、廷尉等引率

於、令目給、口等參入廳座、作法等依

仍不能記、逐可尋注、廳座并隔等

廊四間用之、字、北一間爲別當座、件一間

東、口子有敷筵、其上敷綠端半帖、其前置

紙裏、大理座與檢非違使座高下二長押許、御座

不敷帖、有敷筵、其次間二間敷綠端帖南北行、

府、東西行橫敷之、如陣宰相座、以西爲與、皆彼後

其、子帖去障子二尺許、廷尉座皆綠端緣二三寸口

緣上打木菱釘、皆有敷筵、南東有小庭立廻、

無亂文、事了大理入御、次看督長二人、

副御座次間西障子置之、廷尉傳之歟、其間

也、廷尉座與押張文分配記也、

次出行儀、束帶着劍、沃懸地平緒紺地、毛車、

次看督長、次火丁、次檢非違使助經、負狩胡錄口脛巾、

次雜色、先令參院給、次新院、內云々、

四 月 大 辛 巳

八日甲申、祭使俊通、有御禊御拜、無灌佛、一院

許

被供養楊柳觀音、予五十體、心經五卷、心經方陀羅尼五十反調進之、

十二日戊子 祭除日、

十四日庚寅 有小除日、

十八日甲午 御禊前駐左衛門代佐渡守爲清、右衛門

權佐惟兵衛佐通家、右定隆、行事辨雅致

十九日乙未 北政所於法性寺被供養一卷經、女房調

獻、予入道書之、捧物銀葉玉、

廿日丙申 左大臣賀茂詣、

廿一日丁酉 近衛使實國、皇右宮使憲親、中宮權大進

爲業、垣下事云々、車後右近少將公保朝臣云

云、渡云々、希代事歟、是上卿右大將兼召

諸使、代人無此事云々、左府教訓云々、

月左殿府上表大臣內覽隨身也、無敕答被返給、

五月大壬午

一日丁未 天晴、日蝕、於御殿有仁王經御讀經、於二

間有仁王口口卿左衛門督、出居右中將光忠運參、堂重

子俊通、口光、

三日己酉 女院入幡御幸、調樂、

左府上表、兵使、使左近中將隆長朝臣、酉

弓揚脱劍、昇小板敷、置表筥於中大盤上方、

次頭辨入上戸着輿座、取表筥參鬼間、就內儀侍歟將被奏

云々、于時使退出、表天覽了返給頭辨、歸參下

上卿、有敕答、兵仗依請、左大臣不許、敕答資長草

之、大內記依熊野詣也、小內記孝佐清書、上卿民部使左中將

成雅朝臣參上立中門、日向守有成朝參之由、左

府下向中門令取敕答給云々、歸入給著座之

由、以有成朝臣被仰下敕使訖、倚子二間

敷差筵、東間敷口立倚子口後左而有

燈、左府見敕答、下庭中舞踏、不待拜敕使

退下、次改座、撤倚子差筵、一帖、高、其

上敷茵、敕使又着座、有成朝臣

〔楫也、次敕使

賜祿、下中門二拜退出、次有成

〔隨身、云々候

本陣、次侍所司皇后宮大夫屬

〔腰差六丈、賜各退

出、次吉書、先官方伊豫國

〔辨資長申之、次藏人方

內藏寮請奏予申之、次政所解文

〔有成朝臣、次左府御參

書、次令着陣座給、予奉下被請

〔上卿召右少辨被

下之、

表筥裏樣、

以檀紙四枚裹之、頗引遠押合之、所下者當右方、口

上者當中央也、疊同檀紙結中、師鑿四重頭裏樣自上下

押合、似麥布施、

大略此定歟



〔被方答裏樣、今夕依參八幡口樂所不

一日辛亥 被聽美福門院昇殿、小舍人爲近告來、賜六

丈絹 〔後長賜之、使人白布二段、不裏中惟盛

賜 〔手代祿先々雖不聞及、依爲事始賜太布一段

了、〔令始轉讀大般若、

七日癸丑 左京大夫顯輔卿逝去、昨日出家云々、

秉燭參白川殿、申美福門院昇殿慶申次藏人源

御方同申之、舞踏之後昇殿、藏人喚主殿司、二付

簡之後、又如元直燈、令居湯濱二坏、端一盃 〔着端、

次退出了、

十日丙辰 左府上表、無敕答云々、許否不分明、追可

有敕答歟、

十一日丁巳 申剋參內、秉燭退出了、

十三日己未 六條南大宮東故中宮權大夫爲通朝臣後

家炎上、

〔十四日庚申 大夫事口申歟重家朝臣

十五日辛酉 夜陰參內、子剋被始行月蝕御祈、御殿仁

王經、僧十五口、二間仁王講、僧三口、下御簾、上卿大  
理、口少將公光、堂童子俊通、藏人家輔、依定座  
迴參也、

十六日壬戌 天陰時々雨降、寅剋結願、于時上御簾、  
月蝕十五口二分、虧初寅二剋十二分、加時寅三剋十分、復末四  
剋十分、

十七日癸亥 依召參關白殿、九條被仰尊勝法事、

廿日丙寅 被始行取勝講、顯遠奉行、六位一臈參經、  
出納人守時勤堂重子、午時雨降、頭辨仰御願

趣、經行香机南、公卿民部卿、宗侍從大納言、成新大納  
言、公、左衛門督、實、大理、忠、右新宰相中將、經、左大辨、

實、右大辨、朝出居口通朝臣、實長朝臣、實定朝臣、實國  
朝臣、堂童子口國、予、定隆、師光、實國雖可勤左方、大  
納言爲檢校口右方、是又出居座依爲便宜歟、

廿一日丁卯 辨依相語、今日參內、予依遲參以

盛 被申事由、

廿四日庚午 大般若結願了、有小僧事、

廿五日辛未 參觀音寺、逆修當五七日也、

卅日丙子 佛師法橋圓春成雅朝臣兄弟去春依致害長圓○  
本文數、舍  
弟阿闍梨口犯、配流常陸國、追使左衛門大志兼成、於  
三條川原見方口物之、今朝九條殿

六月 小未

一日丁丑 今晚左府北方大臣被薨云々、日來被渡居

一條富小路亭、左少將公  
親宅也、

四日庚辰 參內、馬長令騎進櫛裝束、萩藍摺帷、依御

進院、大炊御  
門殿、

六日壬午 獻捧物於觀音寺、今夜以還覺被行季正

七日癸未 參內、頗御不豫事御云々、

八日甲申 左府北方葬菩提樹院云々、

九日乙酉 向觀音寺、逆修終也、

十一日丙戌 參內俊經參上、尊星王并熾魔天供祭文  
仰草 之由、件趣殿下召後經於御前令仰給、

十二日戊子 參內、今曉行泰山府君御祭、陰陽師憲榮也、

十三日己丑 參內、

十四日庚寅 參內、被始行尊星王法、阿闍梨法印覺

忠、於本壇口被修之、壇具伯耆國成功內加檢察送遣了、

御（殿敷）御帳也、御本尊新被圖繪、召付藏人所佛師、願

□國令請取料物御衣絹等、軸表紙納殿不

□御諱殿下令書給、依御物忌殿下御大盤所、

書之給、今夜自九條殿御參內也、殿下被仰云、如封可造

□敷加封、以非藏人盛積遺壇所了、依殿下。

密々清書之、以俊經御諱書之、十壇也、遷覺、猷

乘、顯尋、公舜、延猷、明玄、心雅、源、實嚴、

十六日壬辰 依召夜陰參內、

十七日癸巳 參內、依御使參院、

十八日甲午 參內、被始行五壇御修法、有御口供養

等、委細在裏口、佛力

裏書云、

於御殿御被供養尊星王身等、廿五體、下母屋御簾、於二

間供供養五大尊、厨、六觀音、厨、金輪佛口尊勝八字文

殊口厨、已上十六體也、先御厨子御佛供養、導師法印覺

忠、左少將定房取祿之、此御佛去年上内裏雷落懸木、

以件木被造立白檀厨、師法限院朝、次尊星王供養、導

師同前、事了被口護加持、今夜被始行五壇御修法、阿

闍梨、權律、運覺少僧部猷乘、有親、觀心權律師覺讀、壇所、經親後家、有親、觀心經、靈寶僧正本壇所也、馬、遠、觀心

口行藥師法、予奉行、今夜自美福門院

十九日乙未 參內、美福門院御入内、予供奉、時々雨降、

廿日丙申 參內、女院還御、

廿一日丁酉 參內、

廿二日戊戌 參內、自女院内御祈被始尊勝元六字咒兩法、

廿三日己亥 參內、

廿四日庚子 參內、

廿六日壬寅 參內、院御道修結願、公卿衣冠、殿上人

束帶、

廿七日癸卯 參内、

廿八日甲辰 參内、

廿九日乙巳 參内、御驗者俊圓大僧都參宿中宮侍、

七月大甲

御不孫御祈等事、  
二日丁未 參内、聖觀音供五壇地天供等被始行、頭辨

奉行力  
爲 奉始御佛三體尊勝十一面炎魔天各等身

御不孫御祈事、  
三日戊申 參内、北斗供被始行九壇、

五日庚戌 參内、

六日辛亥 播磨介入道入滅、依服假籠居、

廿三日戊辰 天皇於近衛殿崩御、

廿四日己巳 有讓位事、新帝御所高松殿、

廿七日壬申 於近衛殿被定大行帝御德事、今夜御入

棺近衛口云々、

廿八日癸酉 遺愛不盡、今夜參近衛殿詣女房、渡

〔夜半退出口、

八月小西

一日丙子 近衛院御葬船岡、申着御服參上、其時賜素

服、〔始每日御佛供養、導師有觀、御葬了御骨被

奉渡口足院、長輔奉懸之、每事如夢、

二日丁丑 導師猷乘、

三日戊寅 參近衛殿、導師仲胤、有御經供養、導師仲

胤、改震口鋤道場、悲哀之至、離休之歟、

四日己卯 參近衛院、導師禪智、

五日庚辰 參近衛院、導師兼圓、

六日辛巳 參近衛院、導師明雲、

七日壬午 參近衛院、導師猷乘、二七

八日癸未 參近衛院、御導師覺長、

九日甲申 參近衛院、御導師俊宗、被定御佛事雜事、

有七ヶ寺御誦經、

十日丙戌 參近衛院、導師行衆、

十二日丁亥 參近衛院、導師瑞兼、說法甚神妙、

十三日戊子 參近衛院、御導師仲胤、

十四日己丑 參近衛院、

十五日庚寅 參知足院、次參近衛院、

十六日辛卯 參近、

十七日壬辰 參近、

十八日癸巳 參近、

十九日甲子 參近、

廿日乙未 參近、

廿一日丙申 參近、

廿二日丁酉 參近衛院、

廿三日戊戌 參近衛院、

更補新帝職事、今夜被補藏人等、五位右少辨資長、治部大輔雅賴、予、六位藤原爲宗、美福門院藏人一騰、高階俊關白家、

當、元主高陽院列官代也、陸位雖爲上藤、付本所次第被云、○立歎、書勢、下藤云々、

去朔日、以謂先帝之職事賜素服了、口七々中更補新方、

職事之條、其例稀也、殿下殊恩也、天皇崩御方、

日、直不被渡之、五位藏人七々中更補新帝職事方、

天皇康保四年五月廿五日晏駕、于時左少將爲光、右元イ、

辨齊光爲五位藏人、然同年六月十日補新帝職事、此外不見歟、

先帝所乘三人一券中原家廣、二券藤原惟盛、三券藤原佐光、所被渡、雖方、

廿四日己亥 侍中事爲畏申、晚頭以參殿下、雖方、

參未方、被下除服宜旨、着吉服事雖有先例、

隨又綾羅之條同前、口白已袍者補職事、雖方、

又有雖方、

爲內々事、有何事哉者、着衣冠參口以邦綱申入、退出了、

今日小舍人友弘衣冠、告來、散位賴方衣冠、申次、六尺補、

賴方給之、仕人一人、手作布冠、惟盛衣冠、賜之、於中門之東庭

給之、或賜盃酌之由見舊記、然而六位之外無方、

由、左大丞被注遣之、是依彼例也、予先度令補口大理  
賜盃酌、然而大丞之命之上、先度例不吉、儀所  
爲善之由、大理所令示給也、

廿七日壬寅 始藥師法、佐阿闍梨相珍、山

廿八日癸卯 被定立太子事云々、

今日瀧口所衆下臈被寄云々、

所衆

藤康盛、當今宮御時侍、先內舍人、卜部仲遠、同、源爲政、衆イ同、

紀重遠、瀧口、中原仲遠、同、平信

藤兼房、同、基歟名歟、藤宗弘、同、中原

口政、同、藤賴經、關白殿令申、寄託先帝所、大

藤兼成、同、內舍人、中原章成、同、藤

瀧口

惟宗信綱、一踪御給內舍人、先帝瀧口也、藤原清貞、新院、源俊重、

上臈三人御讓位日被渡寄了、八月朔日始申文籍了、其後口侍

所之御給、去五日爲敕定被寄二人、平信成、金、藤師光、同

山槐記 久壽二年八月九月

件二人今夜被下七八臈云々、抑上臈三人藤康

隆、平成永、藤信遠可渡也、而カ然者成永重服、信遠

向越後國、仍四臈中原久遠、五臈大江遠成所渡

也カ、運與不運玄隔事歟、

九月 大丙 戌

一日乙巳 依遠忌參觀音寺、導師尊觀、奉受無量義經カ

於佐阿闍梨相珍、

三日丁未 奉受普賢經、

五日己酉 於知足院被供養結緣經云々、

八日壬子 院御法事、延勝寺、

十一日乙卯 例幣如恒、上卿內府、使祭主卿、有御拜

云々、

十二日丙辰 於仗座被行小除目、上卿內府、宰相朝隆

朝臣、

丹波守藤長方、去比成兼遊去、仍所被補也、



右衛門志橋末文、奏、

大嘗會國郡卜定、

今日先帝崩御之後七々也、

十三日丁巳 參花山院、

十四日戊午 藏人弘政催維摩會矣、領狀了、未就簡以

前 其理不可然、催有限之上、爲來月事、今明可初

參 進請文了、

馳參法性寺、於九條川原奉逢殿下々車、即參御口渡御

九條之故光房朝臣宿所、次參法性寺殿、今日 許

嘉給了云々、此數月所令煩給也、御歲六十一、

下不令籠給、御間服之後令駕御車給、於門外

事等云々、左衛門督 被籠候了、女院

下、晚陰口渡勘解由小路殿了、及

十六日庚申 除先帝素服了、宣下之由、藏人酉剋着吉服、大輔送也、

相具服裝束、入平裏、副目錄、加冠沓等、向亥方解除、

師右京亮宗親、次第如常、贖物役隼人正

清定、 祓了歸華、抑素服近代不知行方之由、

權尙書口家朝カ臣注送、仍不沙汰解除、先日件素服人々

皆返 所了、今日依彼尙書之命不請取之者也、

十七日辛酉 立坊御帳御膳具等事可奉行之由、依殿

下仰、頭辨示送、日來奉行之人未定之由、内々頭辨被致其沙汰云云、行事藏人一臈判官泰經、行事 所桂カ

坊申承之 禁色事宣下了之由、貫首尙書同被示送、

先日 彼人之故也、補職事々、被宣下也、

十八日壬戌 六角油小路炎上、

十九日癸亥 外記使部持來除服宣旨、加一見返給了、

宣旨書樣

左衛門佐藤原朝臣忠親、

正二位行權大納言兼侍從藤原朝臣成通宣、奉

敕、件人宜除 近衛院服從事、

久壽二年九月八日 少外記中原祐安奉

廿日甲子 天晴、晚陰爲吉書内覽參殿下、勘解由、小路殿、

吉書々樣

美濃國司解申進上 廣絹事、

合伍疋、

右當年御服料內、且進上如件、  
以解、

久壽二年九月廿日

從五位上行守藤原朝臣家致

內藏寮

請

米伍斛、

右臨時公用料、以諸國所進年料內、依例所請如件、

久壽二年九月廿日

正六位上行少屬紀朝臣職兼

正六位上行少九藤原朝臣光盛

已上二通以懸紙一枚卷籠之、先例先藏人方、次、  
度奏歎、然而近、

〔申慶、安藝權守高範相逢、中門歸入申、次方〕

仰聞食之由、仍一揖二拜、次昇中門廊口、

吉書、次返給、次參內、立殿上口、藏人為宗相逢、

〔後歸出、仰聞食之由、一揖舞踏、次撤劔笏、端〕

座、昇橫敷間、着藏人為宗、喚主殿司、二音、直燭了、又

山槐記 久壽二年九月

喚主殿司、二音、令直燭、次居湯漢、三杯、與座口、〇二歎、  
為宗付與座末、次主殿司撤云々、次以藏人內、〇一杯歎、

出御歎、將於大盤所勞可奏歎之由、伺天氣之處、藏人

歸來云、自鬼間可進者、仍於鬼間付女房奏達之、即返

給之次返出殿上、座、端廣絹解文書端中、書、可引裏紙懸紙、召出納於小庭賜之、藏、可上返抄、加到

返給了、以紙屋紙書之、二爾、押合テ入御進之、

書樣

藏人所

檢納

廣絹五疋事、

右當年御服料內、美濃國所進、且檢納如件、

久壽二年九月廿日 出納中原在

藏人左衛門佐藤原朝臣

次於陣宣下內藏寮請奏、引裏紙、有懸紙、大理殿令、令氣歎、尋膝

突之有無於官人、申候之由、仍、着膝突、奉

下請奏、上卿結之令、申上卿唯、次退出、

次昇殿供御膳陪膳右中將光忠

人爲宗昇一御大盤、警蹕如常、次二御大盤、次口成昇之、次一膳判官泰

經取四種盤、次予

第供了、光忠朝臣退着圓座、藏人奏御膳、女房開口出扇以光忠朝臣、次罷之由、

次第如常撤了、不知口膳退出了、

今夜有大嘗會御禊裝束司除目云々、上卿內府

大丞、衣

殿下於近衛川原、令除近衛院御服給云々、御直衣

車、御贖物陪膳信時朝臣、陰陽師憲榮、日來御

平裏令具給云々、無前驅云々、

廿一日乙丑 未剗着束帶參內、晚陰退出了、藏人辨資

長執申出納事、一人殿下令奏申給、中原惟弘、出御鬼間

〓

廿二日丙寅 雨降、午剗參花山、次參殿下、次參內、明

日節

且今夕奉仕、南殿御裝束事本是爲御殿

束等、御遊具進大盤所、其儀如何、依重物歟

廿三日丁卯 有立太子事、今曉自行事所令奉

了、鳥羽、南殿

御帳一基、高七尺、弘九尺、金銅金物、無懸蓋、

帷八帖、五幅四帖、四幅四帖、白生口、〇絹、赤紐領額、以

御座三帖、二文、〇枚力、土鋪、一枚鋪、〇鋪上版字歟、大文高懸、裏絹、

御鏡二面、在紐二筋、入枕二枚、類

懸角二筋、在銅糸金袋、緒二筋付給、

御几張手四本、四尺三本、三尺、五幅三帖、四幅一帖、〇一本九、

已上出納則弘、小舍人

衣冠、相具參上、衛士持之、小金

奉行之者、然而予可相具行事小舍人、依路邊經參故、所奉副未小舍人也、御帳構臺

帷等入槽、在臺、被立御帳、剗限辰時云々、相具

御膳、口時可奉渡歟、然而依被擇吉時、早且兼以渡之、

例也、辰剗參內、自行事所持參御膳具予加檢察、

御飯碗一口、徑七寸五分、高二寸四分、六十兩、加蓋定、

在蓋、徑七寸六分、高五分、

馬頭盤一枚、徑、高、廿兩、

御湯器一口、徑六寸八分、高二寸〇寸九分、三分五十兩

御汁物器二口、徑四寸五分、高一寸五分、各五十兩

御酒盞一具、徑四寸四分、高一寸、在警尻案等

四種器四口、徑三寸五分、高一寸二分、各十兩

窪器二口、徑三寸五分、高三寸、徑九寸三分、高五〇三〇分

盤六枚、徑九寸三分、高五〇三〇分、各十兩

箸二雙、長八寸、各三兩

匕二枚、長七寸一分、弘二寸八分、各六兩、但有大小分別一枚圓、一枚細長也

每御器以紙裹之、

朱漆御盤三枚、大二、小一、中篋御盤也

已上納朱漆辛櫃一合、在金物篋等、蘇芳打交鼻

御盤二脚、加蓋、在兩面覆

口構臺案之、如盤立二脚於一篋、取白布為腹懸

次頭辨申事之由、仰云、早可持參青宮者、仍已廻次御力

物等參鳥羽、先前掃二人着退紅、不次御力前行、辛橫、衛士

持、次御大盤、衛士二人已上立車前、小舍人次御力在車後、

隨身二人、衛士帶劍持笏、依為遠路、歸於城口宮先尋親

山、枕記 久壽二年九月

隆朝臣、頭辨可尋件朝臣之由、為改裝束退出口云々、仍以小舍人則弘示遣御膳具持參之由、只今可被答其間

徘徊中門邊、良久親隆朝臣參上、先啓事朝臣取力中門邊

申之、出殿上可申歟、然而依後朝臣命、又殿上處為室內、是依便其歟、次親隆朝臣取力務召

子、々參進着殿上端座、不拜、其和顯國再拜云々、次親隆朝臣取力祿賜

子、白褂、次起座退出、不拜、其和顯國再拜云々、密儀云々、

公卿修理大夫忠能卿許被供奉云々、抑御膳令小

舍人相具付進物所了、

節會事未始行以前、參鳥羽之間、不能注付、次內辨力如

例、內辨兀子西第二間東柱西北方立之、高松殿內

大臣、宣命使大理殿云々、節會以前被下親王宣旨、

出御、事了改御裝束、奉仕除目裝束、御殿南殿、依兼行也

有出御云々、殿下令候給、執筆內大臣、

傳內大臣、能、實

學士、不補、延喜延、文例云々

大夫宗能卿、正權大、納言

權大夫經宗卿、正參議、右近衛中將、

亮親隆朝臣、正尾、

權亮定房朝臣、正左○右、近衛少將、

大進惟方、正右衛門、權亮、兼遠江守、

權大進定隆、正左兵衛佐、兼加賀守、

少進長重、

權少進重賴、

大屬賴盛、兵部大夫、

少屬佐伯久定、正主、稅允、

權少屬大江盛良、正刑部、

主膳監正源成綱、

主殿署首藤原信近、

主馬署道右衛門尉平親宗、

殿上人、

正四位下行右近衛中將源朝臣師仲、

正四位下行右近衛中將藤原朝臣光忠、

正四位下行右近衛中將藤原朝臣家明、

正四位下行左中辨藤原朝臣光賴、

正四位下行右近衛少將藤原朝臣公親、

正四位下行讚岐守藤原朝臣季行、

正四位下行左近衛中將藤原朝臣實長、

正四位下行右近衛中將藤原朝臣俊通、

正四位下行右中辨藤原朝臣雅致、

正四位下行右近衛——公保、

從四位上——公光、

從四位上——實定、

正五位下左近權少將藤原朝臣實國、

正六位下行侍從藤原朝臣成親、

信能、

已上十五人云々、

藏人、

高階經章、清章朝臣子、

藤原基房、顯季子、

非藏人、

源光盛、光保朝臣子、

源仲綱、賴正子、

藤原資康、國護法

源時盛、季時

隆張

子

節會除目了、殿下晚頭皆悉引率令參

使右中將光忠朝臣於中門邊啓事之由、權亮

々々候殿下南透廊、權亮取御劔獻、女房

賜敕使、敕使下階前、跪、再拜退出云々、

小舍人、

宗時、自内

則時、則弘

主殿司、

鶴孫、自内被渡也、

小主殿女、

念若孫、

啓陣、

左近、權少將

左兵衛、佐通

已上如誓固、自余將如只之時、

敕

使

祿

宗時

守光、未守

念若姓、

千鳥太女、

千守乙女、

右近、權少將家

右兵衛、佐定陸、當

被仰下不分明、可相尋、後日尋取之誓之以續

所衆、

紀清重、紀重賴、三善兼定、宗兼時、

大江頼重、中原政成、藤原頼弘、

橘盛口、藤原定直、中原安口、

清原良口、大中原知政、中原光口、

源長俊、橘定重、藤原行倫、

藤原親頼、

出納、

惟宗則良、長、清原季光、中原清兼、

帶刀、

長源光綱、光成入

源季盛、季實、源季國、敬季、藤盛國、故盛

源季通、季實、紀久良、權守久、源師清、故

中原親成、遠江權守、橘公清、馬允公、惟宗信成、信

藤原重則、則基子、平成俊、左密門尉、源久經、右衛

源康經、左衛門尉、藤朝通、馬允親、通子、

廿四日戊辰 雨下、夜陰參内、

禮服御覽等、天晴、未剋參内、高松殿、以暨殿、右中辨雅

教朝臣、左少辨、參内、雨辨向内藏寮取出御禮服、

申剋相具之、篋一合、角朱漆、辛積二合、有封、一合於寮辨開封云々、未知其由緒、於御前職事可開之歟、

申居殿上小庭、先是殿下御直、合候畫御座、

持來、先御冠篋、四季御座、屏風前

座、柱下御

於鬼間付女房奏聞之、即出御、御直次篋蓋入冕冠雅

御前、次予開御辛積、取蓋置御前、次取篋等、次

前開覽之、此間内府實帶、被參上、予申事之由、

可被參之由被仰、依召内府參上、被候第二間、漸

間藏人供掌燈、御座左右、南北供之、燈臺打敷如常、凡帝禮服有三差、

帝方男口、女帝、幼主人也、然延久以後皆小幼主、仍伴御禮

服被口納積一合歟、今一合辛積男女兩帝御服被入加

歟、入目六口、殿下仰予讀申、何男何女頗以不分明、是奉

行之、可存知事也、殿下召藏人、被尋仰左辨頭

遠之、乏間事爲房知御前儀、仍不相具日記候者、

次如、納之、次入御、次内府起座、自大盤所方被參

朝餉、令退出給、次幼主禮服御辛積雅賴加封、紙、

返遣内寮、辨如本相副返納之、御冠篋一合、御辛積一

合、男、御禮服納口夜依不分、張御脇足一脚、元被朝重帝

明不被返納也、是於殿下仰也、御辛積

仰取出之不返納、通用歟、不返納件御物等、今夜猶置畫御座、各雅

賴加封、了退出、

今夜内侍除目云々、上御右衛門實公能、宰相不參、仍右中辨雅教朝臣執筆、女房付簡、

於藏人所令書云々、

十 月 大 亥

一日乙亥 雨降、着白襲參内、藏人辨奏瀧口名簿、十二通、

各別有京、卷第十二通、以紙繪結之、兼奏聞了、引裏紙下

給所辨次名等進御前云々、於朝餉奏之云々、出納、爲弘、於中門廊下之、於殿上可下之歟、但依便宜歟、相副給所注文

給、書各交名押北陣云々、

平宗行外記大夫、高陽院、

中原景遠左衛門大夫、皇嘉門院、

紀信綱檢非違使宣口男、先帝瀧口

皇后宮、

平盛家右京進大夫、清宗男

中宮、

藤兼光

批把殿前齋院、

平扶之故馬允扶重、○量之男、先帝瀧口

白川前齋院、

藤義行左衛門尉、行里男

姬宮、

惟宗重國修理進、仲國男

清和院前齋院、

平成宗右衛門尉、宗房男

前齋宮、

藤季弘大炊允、盛弘男

姬宮、

橘賴行左衛門大夫、賴重男

關白殿、

平康忠前帝瀧口、豐前權守、景忠男

內大臣、

□院新院去八月廿八日被寄太相國不給

督公能、宰相左大辨、隆、朝

位、仰無御出之由云々、

廿日甲午 今夜行幸一本御書所云々、自去一日沉重

病不能

右衛門督公能、女子參内云々、皇后宮、御姊也、依先日之命送女房

〔被、

廿三日丁酉 被行御即位位云々、

正四位下藤公光、交中納言、行幸賞

從四位上藤顯廣、女院、王子御給

從五位下重能、寛平、御後

源經時、民部

大江以隆、外記

源種明、皇后宮

源光俊、口俊、子

佐伯行視、兵部

廿七日辛丑 有御即位事、依所勞不參、

卅日甲辰 大嘗會御視也、殿下駕御軍令候御後給、

參、

源光保、陸、御給力

藤泰經、

藤賴清、兵部

伴廣重、中

賴重、繼殿助

高階業綱、元式部、口子

和氣相重、兵部

十一月 小戌

十日甲寅 故員外右中丞周忌法事也、仍相扶躡屈密

密 七條亭之次堂大略半作供養、此堂平生之時



所被 [ ] 豆州相續造營八尺阿彌陀如來一體、後壁奉  
圖 [ ] 三尊、持國天、十羅漢等像、法華經十二部、金  
泥同 [ ] 部也、願文有光朝臣草之、導師權少僧都猷  
乘、讀衆十人、導師三日相具、例時僧七日、有筵道、無事了布施

導師、

被物十重、絹裏三、紙裏五、此事不可然歟、法服一具、鈍 [ ]

[ ] 束一具、色々布五十段、色草一積、紙一積、番

讀衆各、

被物一重、紙裏一、色々布五段、草皮子一合、米

引了、次女房加布施、導師被物一重、絹裏一、讀衆紙裏

各一、次女房佛供養、奉造立乘雲三尺阿彌陀如來一

體、野本此間有三缺字、法華經一部、以先考手書體紙奉書寫者也、素紙同經六部、

導 [ ] 乘式部已講、題名僧七口、例時僧也、

布施、

[ ] 裏二、色 [ ] 廿 [ ]  
[ ] 纏頭紅梅衣、裏、  
[ ] 光朝臣取之、依無可然之人也、

題名僧、  
紙裏一、色々布五段、僧前衾、

次藏人大夫光長、佛供養、等身地藏廿一體、法華經 [ ]

導師少納言已講云々、

布施、

導師、

被物二重、紙裏一、鈍色裝束一具、色々布五段、

[ ] 二卷、

題名僧各、

紙裏一、色々布三段、

次後家佛供養、母堂去比逝去、仍自他所被口、導師仁榮得業、例時僧內、

布施、

導師、 被物一重、紙裏一、

題名僧 紙裏各一、

〔野本〕被行國司除目云々、

無缺、權少外記清原頼安、元圖、

口部丞藤原爲宗、藏人、

近江權守

權介源

小掾紀師親、中務丞、

藤經盛、同、

平國清、同、

清原辰忠、同、

丹波大掾丹波知康、兼、小掾藤範實、

賀茂邦平、同、

丹波憲國、同、

紀久光、同、

平親通、同、

中原貞兼、同、

廿一日乙丑 五節舞姬參入、

被獻人々、

右少史中原

左衛門尉平

丹波基

中原

紀久貞、同、

民部卿、宗、權大納言、宗、藤中納言、季、

播磨守顯親朝臣、安

廿二日丙寅 大嘗會鉞位云々、國司等

正四位下藤原實定、東宮御、

下丹波口康、

賀茂在憲、

丹波知康、丹波介〇掾也、

從五位下行資王、寬平御後、

橘以政、藏人、

藤義憲

中原宗量、禰子二合爵、

藤家信

紀師親、近江掾、中務錄、

藤經盛、同、

中原親盛、同、

紀行俊、同、

清原辰忠、同、

源國長

藤資兼、民部、

中原祐安

源盛頼、皇后宮、

藤長重、兵庫、

中原資能、同、

中原清國

中原盛成

紀久貞

藤範實、

賀茂邦平 安倍親長、同、

丹波基明、同、 賀茂憲國、同、

紀久光、同、 源兼俊

平親通、同、 平盛遠

中原貞兼、

久壽二年十一月廿二日

廿三日丁卯

國標近江丹波國司

悠紀辨(頭左)中辨光賴朝臣

守長方、主基辨右中辨雅教、悠紀方山頗 朱雀

門前當車顛倒云々、

廿五日己巳 今夜風雨殊甚、被行清暑堂御神樂、拍子、

內大臣、實、右衛門、新大納言、實、若公能、筆築、讀破守、琵琶、中納言、琴、上總介、

付歌、右少將實定朝臣、次御遊云々、

大皆會了還御高松殿事、

廿六日庚午 還御高松殿、

十二月小己 丑

一日甲戌 東宮御入內、學士俊憲始侍御讀云々、  
二日乙亥 被行內侍所御神樂、高松殿云々、

召人、

殿上、實賢朝臣(未拍子)、師仲朝臣(和琴、但鹿火許云々)、  
季行朝臣(未拍子)、公光朝臣、實定朝臣(實國(舊)、

地下、範基、後成、惟方、成綱、信綱、惟盛、

近衛、元秋、成方、好方、助定(○種)、正光、遠安、

(八長、秦兼文、

以上 以遠安之說記之

十日癸未 東宮御元服、加冠內大臣、實、理髮大理殿云々、

十六日己丑 向大理殿粟田口山庄、明日可有堂供養也、

今夜高陽院崩御云々、

十七日庚寅 雪降、高陽院御事不令聞及之間、堂供養

事經營、然辰刻去夜一定之由風聞、仍延引了、今朝內

府 供養之訪被奉馬毛、一疋、以消息送獻之、仍舍

於大理殿、

人所成布五段賜之、

豆州皇嘉門院昇殿、今夜申慶賀、自予蓬屋〔新院

御一所、仍申慶舞踏云々、女院御方二拜、依御重服云々、但

尋此說、今上御宇不可爲母儀、何又可無舞踏哉、

十八日辛卯

賀茂臨時祭使右兵衛督、雅、通、

舞人 四位四人、五位四人、六位二人、

陪從 四位四人、五位〇缺文

廿四日丁酉

使右 資良

被始行除目、

廿五日戊戌 除目入眼、

中宮大進藤邦綱、元少進、

圖書允清原信盛、明經得業生、

式部丞藤範業、藏人、

大學助源光盛、

諸陵允三善康佐、第、

治部丞中原重遠、皇嘉門院侍

少進源季 進方

修理少 大清真貞

同敦親、

民部少輔藤基成、

主計頭賀茂憲榮、

大藏丞源行兼、新院所兼、

宮内少丞紀遠能、禰子、

主殿允藤安忠、前從一位、

彈正忠源清安、

少進源經兼、

出羽介中原知章、

太宰小貳藤賴季、

右兵衛尉紀久成、

口衛門尉平基 藏人、

從五位下藤範貞、藏人、

廿七日庚子 未剋參關白殿、烏丸丸、付高範申吉書、所勞之仕、仍所申也、即口給被仰云、近日無人出仕、尤神妙也、次參

皇嘉門院、參新院御方、依堅固御物忌、不昇北

面退出、次參 大盤所方、付女房奏覽吉書、次返

給、於陣宣下左衛門督了、是爲定申東寺灌頂僧名被參

少丞宮道 藏人、

兵部少錄中原親 藏人、

惟宗兼廣 藏人、

木工允中原親資、白川口〇前九齋院

內膳典膳中原信兼、藏人、

右京權亮和氣盛安、藏人、

伊勢權守橋則盛、藏人、

備後掾中原清成、藏人、

左近將監藤 藏人、

陣、便立力所宣下也、左衛門督付僧名於藏人右少辨資長奏聞、次返給之後即被下彼辨畢、

廿九日壬寅 追讎、次有除目下名云々、上卿大理殿、

宰相右方左大辨朝隆朝臣、辨右少辨資長云々

參川守藤隆能云々、任人等可尋記、

(與 卷)

參議左近中將藤(花押)

久壽三年丙子(保元元)

正 月 大寅庚

一日癸卯 天晴、午口四方拜、藏人式部丞藤原

範業奉仕御裝束、於南庭尅限出御、予供御草鞋、出御、

右少將實定候御劔、次予獻御笏、御拜之間事有被尋仰

事、粗執奏之、入御之後遂電退出了、未刻着關腋爲扈

從參大理亭、花山院申尅參新院、無拜禮、皇嘉門院御方同

之、次參東宮、予雖非殿上人、依扈從所參上也、暫間徘徊

徊口參內、有小朝拜、先藏人右少辨資

御、額間、資長於次資長告出御之由、進庭中拜舞、

公卿一列、內府(資能)、春宮(大夫)宗能(新大納言)公致、右衛門督

衛督雅通朝臣、右五位一列、資長、予、四位六位不立、大辨朝隆朝臣、右不立之如何、

知歎、尤爲奇々、次入御、次奉仕節會御裝束、依爲異亭、

兼、次資長仰內辨、依內府退出、仰新大納言、次第如常、

但無音樂、內辨作法於此內裏左右相替、是軒廊依在西

也、予奉行腋御膳、事了退出了、今日所々拜禮皆以停

止、依去年事歟、向生氣方有齒固事、來八日爲正月節、仍用去年方、出行之間豆州來云々、

二日甲辰 天陰、未尅着束帶帶、參殿下、勸解由小路殿、次參新院并嘉皇門院、次參內、次歸亭、

今夜藏人所出納列參各獻二字、一騰中原知榮、二藤、同惟朝、三藤、同藤榮、俊長朝臣相對取名簿進覽、次歸出、仰進覽了之由、

三日乙巳 今年元三無殿上淵辭、仙院閉城南北門人跡不通云々、是依去年事歟、

豆州、侍中、五品等光臨、  
四日丙午 終日雨降、午尅着束帶參殿下、今日始有御

參內、被奉相具若公二人、一人二重織物萌黃袖三紅單衣、殿下御直衣、若公御同車、庇、前駝衣冠、隨身、上臈布衣冠、

次三品羽林殿直衣、網物紫袴、前駝衣冠、次右中將光忠朝臣子等候御共、於西洞院面北門駐御車、兩若公前駝

各奉抱之、自鬼御前給、羽林殿令留籬給、次依召羽林殿頃之召予於朝餉方、

仍參上、殿下被仰云、彼位明日々次不宜、明後日可被

行也、此旨可遣仰光賴朝臣頭辨、之許者、奉仰退出殿上、遣消息於頭辨許、申尅殿下御退出、於勸解由小路殿申光賴朝臣之御返事、去年歌樂未得尋常、其旨隨資長了云々、依申所勞遣仰資長辨入了、殿下又被仰云、來七日可有御方進行幸、早可致其沙汰者、奉仰及黃昏退出、始沐浴、

五日丁未 天晴、未刻爲申御方進行幸事、參殿下、今年可被造土御門殿、然自高松殿當時、當金神方、北、西爲

大將軍方、東爲生相并金神御遊年等方、自可然御所皆當禁忌方、仍召陰陽頭憲榮於勸解由小路殿、被尋仰子

細、及昏黑、依殿下仰相具憲榮參鳥羽、依御寢不申奉、空以退出、

今日彼位依日次不宜不被行、  
批把殿前齋院今曉薨御云々、

六日戊申 天晴、辰尅參鳥羽、付刑部大輔俊憲申御方違所事、猶雖人家相計可被尋出之由有御返事、承仰即歸參殿下、申御返事旨、殿仰云、猶召憲榮委可等計者、

仍遣憲榮之處、參鳥羽了云々、即又遣召鳥羽、遼遠之

間、及夜陰猶不參之間、藏人辨敘位目六爲奏覽、被參鳥羽之間、憲榮參上之次委被尋仰也、爲院仰、法住寺入道中納言東堂御祈願寺也、有御方違行幸彼堂廊何事有哉、但入道家可有憚者、經宗卿傳領[ ]此旨可申殿下云々、戊刻藏人辨參殿申此之由、今夜又不參鳥羽、年首一之慶也、亥刻依敘位殿下有御參內、御裝束衣冠、御車網代、前駟衣冠、予候御共、頃之被始行敘位、殿下令候籬中給、春宮大夫、宗右衛門督、公大理殿取宮文、左衛門督重、追被參上、次執筆夫、着座、次居火櫃衝重等、今夜五位殿上人參、六位藏人後成一人居之、入內一加階勘文入筥、藏人辨獻執筆、頗以不審、不入筥只可持參歟、院宮御申文春宮權大夫被持參之、清書上卿左衛門督、宰相春宮權大夫、先是清書上卿以藏人辨被申請內覽、不可內覽之由殿下有御返事、不終事殿下御退出、予參御共、令駕御車之時、可留之由有其仰、仍逐電退出了、今夜被仰下侍中二人、一人春宮非藏

俊光、一人新院藏人文  
幸得業生藤原盛業、

正四位下源光保、別功、

從四位上藤公重、新院大督曾能按依申可勤奉幣使之由、叙位未給

從四位下藤能定、叙位未給

申可勤在奉幣使之由云々、

藤遠明策

藤敦任、同、

正五位下藤賴輔、新院當丹波重長、侍醫勞、年未給

三善行康、士勞、

從五位上藤信忠、階一加

藤公長、簡

藤信保、兵部輔勞、

藤通成、美福門院御給、

從五位下藤爲宗、藏人、

同範業、策勞、

藤定清、司、

藤成定、前從一位御給、

藤久通、外、

安倍廣賢、

菅原公賢、同、

藤清輔、罷受領功叙云々、

安倍盛良、同、

源成光、策勞、

菅真衡、策勞、

源通能、少朝言勞、

大江通嗣、內藏助勞、

中原宣定、醫師勞、

紀遠宣、使、

源爲貞、外、

源爲貞、外、

久壽三年正月六日

七日己酉 天晴、未刻着關服參內、諸卿參會、內府、右衛門、藤中

納言、大進殿、雖可被始行節會、今朝藏人辨參院了、羽、加

敏有無未定之間、被相待彼尙書歸參、申尅、無加敏、節

會早可被始行之由、自路上被馳送書札於藏人辨許、仍

仰內辨於內府、非一上之時必仰之於與陸可仰事也、然不敏

外任奏、入諸司奏、可付內侍所之由被奏、於鬼間邊付

內侍奏覽之、即返給、返出陣返給、奏仰詞如常、次內辨

被着宜陽殿九子、以殿上廊階下次內侍取下名進東階、予

是取下令授內侍、內辨進取之、次內侍歸入、次第如常、御

出之時予獻御靴、不獻御被奏宣命之後入御、仍無腋御

膳、次白馬奏、次坊家奏、右少將公親取之付予被奏、皆

留御所、見參目六又付予被奏、即返給、馬頭代左少將

實定朝臣、右少將實國、事了諸卿被退出了、次有御方

違行幸、參內裏許右金吾春宮權大夫被歸參、於陣

有召仰事、藏人辨留守藤中納言、左中辨雅致朝臣、召仰

之時藏人辨不仰上卿云々、爲奇々々、次公卿列、將渡、

內侍二人取壘劔立御帳左右、翼西、次出御、予獻御草鞋、  
有反問事、少納言通能候奏、次寄御與於南階、御出右  
衛門陣路、西洞院南行、三條東行、東洞院南行、八條西  
行河原へ、河原ヲ斜折北向良、八條坊門末堂西門へ入  
御、路事先度儀、三條才京極へ、京極末才出河原、可入御八條坊門末  
也、然批把殿前齋院於七條末御堂賜給、行幸路在彼所除、其間有  
小屋少々、全不可有其懼事歟、然而彼御堂地形頗高、自路御所門被見  
渡、仍猶有御息、昨(○)惟(イ)之、余中殿下、殿下今中院給、依彼御被用此  
路、但此禁忌沙汰此午刻許出來、鳥羽御上事連引之間及夜陰了、河原  
橋院仰後被渡者、事定可及理意之故、予遂申內府之儀、院仰以前內府  
被( )之間、與仰同之、申於門外有立樂、無大殿祭行幸堂  
舍之時多無此事之由、師經宿禰申之旨、右少史爲弘示  
予、答云、可依恒例者、自門至于御所其間爲池、仍被構  
浮橋於池上、十餘爲御輿路、次寄御與於堂東廊、三間廊、  
御裝束儀、一夜御宿之時裝束司南弘庇有堂燈、東西各南三  
間懸御簾、中間供經綯帖二枚、其上敷龍鬚、其上供御  
茜北面、爲夜御所、先行幸、內侍二人參上候、入御之時  
各取劔進入了、曉更還御、公卿右金吾許供奉、抑藏人  
皆以被符、俊成許祇候、爲留守、爲供奉、兩人尤可候、  
然間俊光盛業同時初參雖隨事留守候、此事藏人辨爲

山 棟 記 久壽三年正月



六位侍中之時、未隨事勤仕留守之由、所被示也、

今夜藏人辨於御方違所、仰太元法阿闍梨於右金吾、宣書

宣書被送彼  
卿休所

書樣、

久壽三年正月七日 宣旨、

令法眼和尚位賢覺勤修太元法、

藏人右少辨藤原資長奉、

右金吾即被返下、以謂殺示云、依旅所紙、筆不候、早可被宣下者、

九日辛亥 頭辨北方依產逝去云々、春宮亮親隆朝臣

嫡女也、年卅三、

十一日癸丑 以法印權大僧都寬遍東寺一長者、被殺法務云

云、

十三日乙卯 向觀音寺、次參殿下、法性寺、

十四日丙辰 天陰時々雨降、今朝藏人辨奉行云、內論

義事可令奉行者、仍秉燭參內、藏人盛業奉仕御裝束、

公卿侍從大納言、左衛門督、春宮權大夫、着右近陣、次第如例、藏人盛業着

右近陣膝突、予次出居著座、次公卿參上、右衛門督被

參加、主殿官人炬火、次僧昇、加持香水法務寬遍、前紙廿八人、

論義了、公卿取祿藏人、賜僧綱、次凡僧祿侍臣取之、事

了僧退、次公卿退下、出居退出、次着殿上大盤、盃酌三

獻、六位中頗有入醉郷力、押方、昨夜番僧綱專曉僧都

也、然依老耄陣中步行不輒之間、付行事辨雅教朝臣、

奏可被聽與之由云々、院仰云、是內々事也、不能宣下、

有何事哉云々、其由彼辨自八省、以便者所被示送也、

仍內々付女房奏聞了、爲用意祿、兼以行事藏人尋取之、

總在廳行俊所注進也、

來十四日參內僧名、

法印權大僧都寬遍、加持香水、

權律師行政、

講師 一人、

久壽三年正月十二日 行後注獻之、

公顯大法師問、

一番、講師 覺敏大法師答、

增喜大法師問、

權少僧都惠曉、

威從各二人、

論匠 六人、

淨忠大法師答、  
二番、  
桓政大法師問、

義朗大法師答、  
三番、  
源實大法師問、

久壽三年正月十三日

今日從三位行右京大夫長輔薨了、昨日出家云々、  
十五日丁巳 依被向七條堂修正、獻車於觀音寺、

十六日戊午 天晴、秉燭着關服參節會、公卿多以故障、春宮大夫并權大夫許被參云々、外辨上卿關如、仍爲敕定藏人辨以外記奉左衛門督之許、依別仰亥刻參內、已上公卿三人也、內辨大夫被着堂上元子之時、着次大盤南、召女官令立燈臺於一、二大盤之間、被見笏紙、今夜近衛左將不參、仍着胡床之後、予於南殿、仰右將一人可闕渡左之由、右少將公光經胡床與南殿之間渡左、次內辨着几子、內侍候西楹、無出御、出自御、御攝後藤中、予扶持之、次第如恒、坊家奏右少將公光取之、內辨就弓場殿付予被奏之、留御所、次宣命付予又被奏、返給之、宣命使權

大夫、事了夜半各退出、今夜不被奏見參、爲奇々、  
十七日己未 犬死穢出來、

廿一日癸亥 依被始行除目撰申文了云々、然宰相不參、政始延引、仍又除目臨刻限延引云々、

今日不參內、依犬死穢也、申文目六藏人文章得業生盛業取之云々、

廿四日丙寅 天陰時々雨降、依催進尊勝陀羅尼於兩院一院、美、復五頃、各百遍、卷數、午刻着束帶參鳥羽、北、公卿直衣、新大納言、修理大夫、自餘人々可參除目之由、被

仰下云々、殿上人廿餘人衣冠、諸司官人傳經於殿上人、今夜依爲除目、一兩度往反之後遂電退出、次參內、於

南庭瀧口等有射弓事、立東竹頭、本、立、於中門南邊、以藍爲的、下膳五六人取箭、南面廂御簾皆垂之、宸儀御二間、

馬允信忠、女御殿、侍云々、候瀧口座上頭、藏人俊成候簀子、奉仰

下知之、頃之退出、次秉燭又參內除目、御裝束如常、公卿大宮大納言、伊通、着吉服被勅執筆、可除先帝素服、侍從大納

言、成、左衛門督、重、大理殿、春宮權大夫、宗、等被參候陣

座、次藏人治部大輔雅賴仰款公卿除目事於大宮大納言、詞其

云、可有除目、次大納言着端座、召官人令敷膝突、次召外

記、大外記師業參上、被仰召仰事、稱唯退出、藏人盛業

於膝突召之、次六位外記取管文、南小庭聲折立、但此中

日欽位、次大納言以下列立南屏外、南次大納言進西面

立、外記持參管文跪、目上次大納言指笏取管文、外記

退出、次大納言一揖參上御前、諸卿答揖、次侍從大納

言、次第如先、次左金吾、次大理殿、次參進儀、大納言

入自東面妻戶、於第二間聲被落笏、不取經籬下、

座西頭膝行、置彼圓座前、了頗逆行、左廻出本戶、經南

簀子被着第二間、此間敷兩面端站、尤為奇、兩面端者為大臣座可

先例之由雖示、人々第三間空不敷站之由被答、予又依不為奉行、強不

執之、大納言聲已被着彼二間了、以之可推察之、何是非可尋先達、

次侍從大納言同又被進參、膝行置管、逆行頗向良、御殿

之故、把笏左廻、又着座、次左金吾又如先、次大理殿、於二

大納言令落笏、頗顯取之、陰袖中令進之、大納言着不知落、退出

之時被取之、大理殿者又如此、是雖不可為作法、以何說可為是哉、又

如先、次第着座了、權大夫着座、次召執筆、注上令引、大

由有天氣、次大納言指笏、頗押遣管文等於西方、取大

間、入膝行進被奏聞之、以左手微々持上、御座、令進入管、逆行端笏候、次叙

覽之後返給、如指笏置左方、賜之復本座、如本置管文

等於圓座前、次候大間、先取禮紙、卷之入管、次二枚許

披之、大略如發遣紙、於此間召男共、藏人盛業參

上、右方終座長角、令寄燈心、盛業退出、取燈心參上、未曾有事也、召

燈心指油之時、皆入油於土器炬火持參、然燈心一兩筋

奉參上尤別樣、予於南庭砌下密々窺執筆作法之間、不

能教訓、次居火櫃衝重、此間候殿上之間、執筆作法不

能伺見、次權大夫被持參院宮御申文、藏人未練、奉行

之人不教訓之間、不書置目六、相公被仰天、乍不審、以

封之名字推量持參也、未到、被進執筆、明日早旦可企物

詣、依及曉更不待事了退出、

廿五日丁卯 依國忌除書今日不被行、撤御裝束云々、

午刻參詣賀茂社、

廿六日戊辰 秉燭參內、大宮大納言、藤中納言、大理

殿、春宮權大夫參着仗座、藏人修理亮俊光召之、與座、管

文如恒、此後左衛門督被參上、退被參御前座、依執筆之命藏人辨持參重任宿官兼國等勘文、一度持參三通、無禮紙不入管、以手奉、鷄鳴事了空退出、大理殿令付府生申文給、府就女房奏聞、返給奉下大理殿了、藤中納言大理殿退出之間、顯官舉延引、於殿上有連句會、

廿七日己巳 午刻殿下九條依大理殿令申給、進覽藤原

廣遠申諸國權守申文、造住吉社功、付高範申之、早可奏云々、

然間便資長參上、依爲奉行付彼人々、未刻令渡法性寺給、爲合遇例時給云々、予參御共、不待還御退出、

及深更參內、今夜入眼也、然公卿大宮大納言大理殿之外不被參、被相待人々間空天階了、然而猶以去夜儀白

中被始行云々、所勞更發、仍不待被始行退出了、藤三位中將基任中納言左衛門督臣○給也

權中納言藤基實、參議藤伊實、

少外記中原信盛、權少外記大江以孝、

右少史中原俊兼、侍從藤實房、

內舍人藤重康、同重親、源清親、

式部丞藤俊光、同資能、

民部丞藤盛光、四獄祐高重口、

大藏丞藤孝重、典藥允惟宗成俊、

內膳典膳藤久口、左京大夫藤教長、

右京進中原家廣、左近中將藤行通、

少將藤信能、左近將曹下野就忠、

左衛門督藤基實、左兵衛佐藤家通、尉行員、

右兵衛佐藤賴定、左馬允藤康高、瀧口源經重、

河內守高階泰經、藏人、尾張守高階盛章、

美作守藤家長、伯耆守高階仲綱、

介中原師元、能登守藤基家、

權守源延俊、縫殿助藤盛清、陪從、

遠江權守藤爲宗、備前權守伊實、

豐前守源長定、先帝藏人、薩摩守三善行仲、史、

典藥助藤能廣、聞書甚狼藉、可書直、

廿八日庚午 未刻依左金吾御慶賀事、宇治殿御勸解由、參殿下、

小路殿、申刻殿下令參近衛院給、予候御共、黄昏退出了、

廿九日辛未 今曉堀川中納言經薨了云々、

卅日壬申 土左守隆季朝臣室家逝去云々、故忠隆卿二女

二月小

一日 天陰時々雨降、秉燭參敬勝金剛院修二月、公卿

按察、重藤中納言、成、季左大辨、資殿上人十許人、大導

師布施信時朝臣、雅顯取之、當座四位五位上藤也、經公卿座前置禮

盤左邊、禮盤事了取布施退出、今夜殿下不御、安藝權

守高範行事、職事

二日 被行下名云々、加任、

右少史成兼、內舍人源實景、圖書允三善爲言、

內藏允藤成親、式部丞藤親經、刑部丞藤光盛、

右京大夫藤信輔、少進大江宗元、

勘解由次官藤盛頼、主典中原成直、

左衛門尉藤範季、高階俊成藏、志清原能景、

右衛門尉源光長、源季貞、右馬頭藤信隆、

阿波守藤光方、使宣藤範季、高階俊成、

清原能景、從三位藤朝隆、藏人頭源師仲、

藏人右少辨資長、左大臣如元之由、於膝突仰上卿藤中

納言成、季云々、頗有謗難之輩、本是左相府辭表被獻先

帝了、伴表不被宣下、又不返給之間昇霞、然者彼表在

日記御厨子、爲被取伴表可被返相府歟、將又職事向彼

亭直可仰其由歟、辭表依不被宣下外記不知子細事歟、

尤爲奇々々、且可訪先達事也、上卿被仰外記云々、近

代公事多以如此云々、或人斷腸云々、

四日 祈年穀奉幣可奉行之由藏人示送、藏人辨依輕服日數之內也

五日 天晴、今日中納言兼左衛門督御拜賀也、酉刻令

出給、螺鈿銀紫練平緒於中門廊軍寄妻戶着履、令進立中門給、

藏人右少辨資長參自中門外相對、次昇中門廊、申拜賀

之由於殿下、即還出、奉仰聞食之由、次有二拜、次令出

鳥丸面門給、兼立御車於門外先一員尉藤行貞、志大原長正、府

生紀忠行、番長三宅成言、次前驅廿一人、先例云々四位四

人、爲基、實重、有光、長光五位十三人、政業、信經、清高、光盛、盛業、爲業、實

六位四人、平長重、源親行、(已上雜色)、藤次御車後府隨身四人、長方同長清、(已上殿下勾當)、次御車後府隨身四人、狩胡蝶、次雜色等、此中羽林之時隨身四人、各次履從殿上人、靈屋中、着布衣、色思々、私裝束也、人二人、藏人治部次、輔雅賴手、先令參一院給、北殿、鳥羽、路次、次第鳥丸南行、大炊御門東行、東洞院南行、七條懸警御牛、西行、朱雀南行、入北門、令參上自勝光明院西門給、令進立釣殿北土間、申次上總介資賢朝臣奉相逢還入、頃之還出、仰聞食了之由、次舞蹈如恒、次美福門御方同申次讚岐守季行朝臣、又舞蹈、次姬宮御方同申次同前、二拜了、次令參東宮給、南殿、進立中門給、申次大進惟方、參御門大夫奉相逢、被申雜事直衣也、還出、仰聞食了之由、次二拜了、御退出、路次策、於七條大宮懸替、大宮北行、六條南小路東行、大宮東小路北行、五條更西行、大宮是依被避放左京大夫家六條大宮一周忌之間也、北行、三條於辻雅領車爲荒牛、破損、仍與余同車、東行、西洞院西小路北行、於三條北小路障口下車、令入自左衛門陣給、經床子座并陣座等前、令進立中門擬号、給、次右近少將公光朝臣劍帶、還出、仰聞食了之由、次舞蹈、次被仰昇殿、昇殿、又舞蹈、令參殿上給、榻座二大、盤程着座、次經下戶、自鬼間令參朝餉給、頃之

山槐記 久壽三年二月

御退出、自左衛門陣北行於三條坊門西洞院令駕車給、西洞院北行、二條東行、東洞院北行中御門、令參新院給、入洞院面門、令進立中門、申次右馬權頭實清朝臣、還出仰聞食了之由、次舞蹈、次被仰昇殿、又舞蹈、令參御前給、中門巡之、寢殿南面城、西妻戶下御簾爲御所、簾外敷圓座一枚、其東供掌燈、御對面之後、令參皇嘉門院御方給、申次爲基朝臣、無拜、依御重、次令參御前給、次自中御門面門御退出了、次於鳥丸殿、給力、腰指於一員、尉六丈志一疋、府生一疋、府隨身四人各手作布一段、絹布等不製、以番長手作布一段、紙上下持之、已上下家司國宗給之云々、所司着衣冠可給歟、依候隨(○過)云々、今朝自兵部省持參移文、移文各賜腰差、省掌三人各六丈絹一疋、下部二人各手作布一段、又召使十人參上、外記書、同賜腰差各六丈絹一疋也、於中門邊下家司國宗給之云々、所司可給歟、釋奠被止宴座云々、依近衛院御事也、

六日 今日雨降、中納言殿着直衣可令參內給云々、然雨脚澆沓、仍延引了、來十日前年穀奉幣事期日近々、

不可默止、仍陵甚雨參城南、及黃昏奏達條々、承仰遂  
 電參內、依奉幣定也、亥刻內府被參候仗座、今夜宰相  
 不參、仍以行事辨雅致朝臣、令書定文、次以予被奏日時  
 十日十六日再定文、發入二通、不被結仰詞、依定申行、十  
 兩日勤之、於一箇、返給、不被結仰詞、日之由仰之、依  
 勤申兩次宣下神祇官并內藏寮請奏等、於宮上押折禮紙、  
 於宮上上卿被結之、二通各依請、次召行事辨被下請奏、  
 辨着膝突結申之、次被下定文日時勘文等、辨取之入加  
 請奏於宮退出、事了上卿以下退出、

八日 今日天晴、中納言殿午刻令參內給、御直衣、龜甲  
 物差、帶劔、野劔、御子持、給、前駟六人、信籠、高籠、清季、高佐、  
 實、帶劔、子持給、令持、勿給、前駟六人、長言、今一人形網俄故  
 障、仍加召盛業、着布衣、候藏人、隨身四人、布衣、色思、今一人形網俄故  
 所改裝束之間、還御之時參會、中將之時御隨身、扈從  
 殿上人二人、余、雅賴、令參御前給、御對面之後御退出了、  
 次內府爲令奏被辭申奉幣上卿事、犬死、候、以外參鳥羽、仰  
 云、可催民部卿者、及晚陰歸畢、今日被定八幡行幸事、  
 上卿民部卿、宗、宰相左大辨資信卿、辨石中辨雅致也、  
 九日 乘燭參殿下、申奉幣使不足之由、仰云、早奏聞、  
 隨敕定可責催者、逐電參內、奏聞子綱、對捍之輩之許

遣外記使部并馬部等、及半漏催備使退出了、使事外記  
 沙汰也、然而近代皆悉所々免、叶外記催諸大夫不過兩  
 三輩之故也、太無術々々、

十日 天陰時々雨降、今日祈年親奉幣也、早旦參內、  
 行事藏人式部丞俊光奉仕御裝束、二間、東弘臨、其儀異間  
 供御座、御牛站一枚、其、立廻太宋御屏風、撰、角、午刻民部卿  
 宗、被參候仗座、余仰宣命趣、一、去年大嘗會之由可被告申三社  
 輔、候安等也、三合事、寬仁例也、至于被副進三社奉幣之條、無其例、仍  
 被問公卿、太政大臣、實、大宮大納言、伊、春宮大夫、（念）、侍從大納言  
 （念）、新大納言（念）等卿也、各被副有何事哉之由被計申也、于今還引不  
 穩便事也、件幣日來、次內記持奏宣命草、入宮、當大內記事也、然  
 未任者、儒者辨可草也、而右少辨資長有、遠明、劍、四品之後、其替  
 輕服日數之故、成藥少內記、孝佐所草也、上卿就弓場、令持宣命、奏之  
 也、今日無內記、依御服、余奏之、於鬼間付內侍、即返給仰清  
 書、次上卿被奏使王御馬申之由、余於鬼間付內侍奏之、  
 仰聞食、次上卿還着仗座、令清書、數通之間、內記清書連引、  
 書、又召外記被仰可賜御馬於使王之由、良久又就弓場  
 上卿被奏清書、並置之、伊勢宣命上方、廿二社宣命、盛營一合、次第  
 書、余奏之、即返給、  
 次晴時被向八省、使伊勢行清王、石清水願定朝臣、賀

茂左大辨、實信高佐、松尾右大辨、朝隆朝臣、範基、平野新宰

相中將、伊實朝臣、高範、稻荷能定朝臣、春日爲經、大原野經

國、大神長親、石上正遠、大和遠宣、申忌日之由、然而使不足、依先例所被立也、

前者狹守經(○隆敷)、朝例也、外記注進之、

久安四年三月十九日祈年穀奉幣、春日使前若狹守藤

原隆賴申政(○故九)基隆卿忌日、勤了、廣瀨重綱、龍田公長、

住吉宗賢、日吉範實、梅宮宗輔、吉田爲範、廣田憲親、

祇園清定、北野定宗、丹生神祇官、貴布禰同兼、早日送內

侍於八省、出車、行事藏人各、上卿被向八省之時、付遣小舍

人、秉燭以後歸參、申伊勢幣發向之由、余即申事之由、

仍御裝束、右少將公光、奉仕御裝束、御束帶、黃櫨、御笏御草鞋兼置御膳

依爲同殿雖供御座於弘庇不候御事、只一人既候、一膳廷尉之後未申畏、刻限良久出御、今夜

棚、臨御出之期、於額間邊伺御出、餘獻御草鞋、依爲御殿、

氣開御屏風、賜御笏賜藏人、次取御草鞋供之、次自本

路入御、事了退出、今朝有御浴、御代始使無懸手、謂一使兼

二社、外記申此旨、今日陪膳四位新少將實定也、依廢務

無警蹕、宣命草尋取內記續之、

祈年穀、有辭別、去年大嘗會由、伊勢石、清水賀茂、去年三合由廿二社、

天皇我詔旨と、掛長岐某大神乃廣前爾、恐美恐美申給波久

申、食者民乃天農者國乃本奈、因茲王者之政、先以祈穀禱

專仰冥德氏宜致豐年奈利所思行奈利故是以吉日良辰乎

擇定天、官位姓名乎差使氏、禮代乃大幣乎令捧持氏奉出

給布、大神此狀乎、平久安久聞食氏、春耕夏耘之勤、風雨

順節比、再就大八靈之貢、水旱無侵天久天皇朝廷乎實位

無動久、常馨爾、夜守日守爾、護幸倍奉給天比國家豐饒仁、

上下和睦爾、護恤賜倍恐恐申給はく申、

去年大嘗會由三社辭別、

辭別天申給波去年十一月爾大嘗會乃由乎、先例仁任氏、

幣帛を欲奉遣之處仁、自然仁相障氏、彼期仁推意世欲

襟乃畏懼寤寐爾無聊之、縱依其事天各祟可有毛、解謝乃

諸波神乃所有奈利、此由乎平久安久聞食氏、無爲無事仁護恤

給波事波、皇大神乃御助爾可有奈利又三合厄之云々、



去年三合由諸社辭別、社、廿一

三合之厄去年仁相當天、變異屢示之、吉凶相交、禮專過  
年景毛、盡慎思食、左良、何況曆數之所推、閏餘在次年刑、  
注載竹帛天、非怖畏須、加之就日之明難施之、氏瘴煙之患  
間聞由、妖祥乎萬里乃外甯接除氏、寶祚乎百年乃餘仁令保  
之給波、掛畏鼓大神乃厚御惠分、廣御助爾依天、玉體安穩  
仁、華夷泰平仁、護幸倍奉給、倍恐か恐美申給波、申、

久壽三年二月十日

作者少內記藤孝佐、

上卿民部卿、

十一日 午刻爲申昨日上卿使等散狀參鳥羽、昨日依  
御拜不能參上之故也、

十二日 今日春日祭也、使頭中將師仲朝臣也、然貫首  
之後未申慶并吉書、昨日依慶務、仍付藏人大輔雅賴申請  
代官、云、敬許之後使相語會參入云、  
云、積務等猶使沙汰也、

以泰親令行泰山府君祭、依有所思向靈所之祭庭、及深  
更歸華、

十三日 爲連句右藤少將公、被招引、仍參內、依無牛

借請李部之牛、歸路以羽林之牛、與彼人同車退出了、

十四日 今夜羽林被返送車、

十六日 戌刻有炎上、火起四路南小路堀川、至五條坊

門之三方燒失者、失火云々、

十七日 雨降、進心經百卷、卷二卷、各尊勝陀羅尼百遍

真五卷、卷別二十遍、於殿下了、爲每年事、家司職事殿上人等、隨催

所調獻也、殿上人卷數各任意也、供養明日他、然而依

可爲早旦、今日可獻之由、高佐所示也、

十八日 午刻殿下有尊勝陀羅尼供養、僧五口、導師侍

從已講、禪喜然等預法師運之、仕丁着退紅、各入長櫃

取出之、自今日三箇日供養云々、無御布施、仍退出、次

參向大理御許、花山、令向粟田給了云々、仍即歸茅屋了、

廿日 午刻參殿下、尊勝陀羅尼結願也、布施可然人不

參、甚以狼藉、仍不取布施退出、次參大理之御許、及晡

時歸畢、

廿一日 天陰、朝間雨降、及晚天晴、今夜可有御方違

舍<sup>禮</sup>行幸、仍參內、徹御殿御裝束、奉仕南殿御裝束、依殿

也、公卿或所勞、或參鳥羽修二月、然間右武衛許被參

此之由、依公卿爲敕定、藏人右少辨資長令申殿下給、即

歸參申御返事、今夜不參改延引、明夜輒難參上、然者

明日被申院可宜歎云々、仍及半漏行幸延引、明日可滿四十五日也

廿二日 有御方違行幸、公卿猶以不被參、右武衛、雅通、參議、

新宰相中將伊、許參上云々、公卿事按察中納言參仗座、

參改被宣下之由、後日所傳聞也、

廿三日 天陰、午刻參殿下、依穢不昇堂上、次參近衛

院、又依穢不昇殿、於北面壺謁光隆朝臣、頃之殿下令

參給、於御下車所見參、于時藏人大輔雅朝以長定申齋

宮卜定事、於殿下御返事者、爲穢中有其憚、仍不被仰

左右者、自昨日五體不具穢在近衛院云々、申刻退出、

今夜八幡行幸調樂始被行也、仍爲窺次第參內、於左衛

門陣屋有此事、里亭儀近代用陣屋也、櫛經、

間、盃酌以後參內、仍次第不分明、舞人皆不參、一臘判

官俊成許行事、西座、陪從、東座、賴方、子、信綱、範光、上三人、

近衛召人助種、正光、遠安、無實已事丁各退出、

廿四日 雨降、午後霽、未刻向粟田口、今夜宿、依明日

堂供養事也、亥刻又小雨、即晴了、今日堂莊嚴了、

廿五日 天陰或晴、今日大理殿被供養粟田口堂、四面、

孫庇安置、其儀、佛前居佛供八坏、佛前花机二坏、白飯也、不似普

爲端盛木花足、白飯作蓮形盛之、并香花等、立蓮花於花瓶許、佛器

机前左方寄立名香、以唐黃蕭羅結之、持鳥口羅羅平文也、金

泥法華經一部、素紙十二部、隨彼員數也、各被分居經机、

導師座高麗端帖一枚、其上敷唐錦茵、願文草文章博士長光

居脇机、諷誦文草濟書、居取末僧經机上、取立紙、磬臺

立第八僧前、是立取末僧前也、然而座道曲折之間、導師不合眼、

可立歎、將不佛前孫庇立散花机一脚、有覆、顯文紗、地鋪、甲

錦、赤地佛後砌構假栴懸鐘、女房聽聞所出朽葉織物几帳帷、

公卿座東孫庇敷高麗帖二枚、南北座末折西東西行敷紫

帖一枚、爲堂童子座、其西敷高麗端帖四枚、爲殿上人

座、後戶方又敷之、後戶孫庇敷紫端帖、爲諸大夫等座、

正面之外皆引巨幔、堂北方正面也、立誦經幄、居麻布二百

段於案二脚、有敷筵、下家司等着衣冠候燼邊、自正面間至于懺法堂階間敷筵道、下家司令敷之、池面鴛鴦、嶺頭麋鹿、各隨其所被造立之地勢之富風流、不可得稱、已刻布施取人々少々被光臨、先是明立阿闍梨讚衆、相具壇具參上、以承仕令立之、在蓋五色幡等、天台有之、東寺人所不相具也、午刻事具了者、内々可告申導師之由、大理殿令示明立給、是奉使者無便、導師爲改裝束被渡宗房入道家、依近隣也、即被渡入自東唐門、雖可被入自大門、先被着懺法堂之内座、通東御座敷高麗帖、證衆兼所着侍廊、高麗帖二行敷之、一枚、其上供束京茵、四尺屏風立隔此、也、次讚衆從僧等侍香爐筥、出懺法堂北嚮門、自筵道各進座前置之、予於懺法堂弘庇邊催之、次讚衆引列、道如從僧、但權少僧部快修、誦讚之間、導師取雲法印敬堀川院階間下立、此外無僧綱讚衆、御子也、被進立階間緣、是讚之間可被立也、然而布施取人々若座被下立被申尊、被下立之間、大理殿令降立砌下、被着沓、前雜色袴、師也、殿上人等立隱後戶邊、次堂上行道之間、人々着座、于時右兵衛督雅通卿參議、被來、今日願主右武衛之外、他人雖力、人改被請、或所勞或故障之間不被光臨、殿上人能登守

家長朝臣以下十餘輩衣冠、但備後少將家、法用之後、堂童子藏人、大夫宗實、賦花筥、又撒儀如恒、次讚諷誦文之時突鐘三度、予下知之、供養法之間、以予召檢非違使兼成、元、布衣於後戶以人傳召之、即參正面方、大理書立輕犯之者等於折紙、賜兼成被免之、次供養了令預撒經机、從僧撒香爐筥、次置布施、其路經北孫庇、殿上人座前并東孫庇公卿座前置之、公卿被取之時、六位傳之、殿上人諸司官人等着衣冠傳之、次第置了從僧撤之、導師并讚衆布施各書目六、入長櫃被送之、布施色目、

導師、

被物廿五重、二重織物一重、綾、絹裹四裹、法服一具、鈍色裝束一具、直垂一領、童裝束四具、蒔繪野劔一腰、入錦、唐絹裹物十八裹、以色々被染裹之、長絹十疋一裹、圓袋、唐絹裹物十八裹、以色々被染裹之、絹十疋一裹、糸百兩一裹、四丈白布廿段二裹、同絹布廿段二裹、絹二百兩四裹、同淺黃布十段一裹、同藍摺布廿段二裹、同辨丁布十段一裹、同末濃布十段一裹、同貨布十段一裹、不被厭磨牙、頗依可等閑也、

讚衆十二人之内、

僧綱一人被物三重、綾絹裹一、差下、染唐絹裹物二裹、色

布十段、染能米十石、凡僧十一口各被物二重、絹紙褌一、布八卷、差下、染唐絹褌二褌、色々布十段、乃米五石、十弟子布施四

褌、各二緇素事了退出之後、被送細馬二疋於導師之許、直於堂前可被引也、然近衛院御間息之間、馬物具殊盡美麗、赤地引馬之條猶頗有懼之由、人々諷諷云々、

錦鼻皮以金網付、手網等、葦津緒差繩、唐綾絹也、一疋

葦毛、內府先日、所被引也、一疋鹿毛、舍人四人引之、引二疋、二人裝束不同、各又予相具令參向宗房法師家、先留馬於門外、於

中門廊以人申入、即可來此方之由被示、仍著座、申被

進馬之由、可引出之由被仰、或僧即引出之、舍人引之、一覽

之後、以彼房舍人被請取之、數刻言談、及晡時還向粟

田口、申子細、今日掃除行事檢非違使國忠、業倫、已上志、

施行能景、志、資能、府、凡廷尉等大略參上、次及晚陰、改

裝束歸齋屋、然今日當太伯方、於河原思出之間不能歸

向、仍爲方違向勘解由小路、曉更歸畢、

廿六日 天晴、今日新大納言公、被承大將兼宣旨、晚陰

參內、頭中將曉更宣下云々、內府實、辭退之替云々、

廿七日 今夜於五條京極、宮法印取、騎過之間事出來

云々、有放箭之輩、不知其人云々、

廿八日 頭中將被定臨時祭使以下云々、

今夜右衛門佐光宗娶權右中辨範家朝臣女云々、於四

條東洞院範家、有此事云々、

廿九日 未刻參殿下、御近衛院云々、依着布衣不能參

上、次向大理御許、今朝被向粟田口堂云々、甚以水驛、

次參新院拜女院、入曉歸畢、

按此時東宮也、隆院也、昨贈太政大臣藤原經宗女、贈皇太后慈子也、今夜被行八幡行幸調樂、無神樂、來月五行幸延引云、以康治二年六月十七日生二條院、同廿四日慈子薨、至此十四年也、云、神寶依不出來也、東宮妣御念可被調獻之由、大理

殿令承引云々、

### 三、月大

一日 新大納言以瀧口遠成被示云、可能成大將、來四

日大將饗事之間、人々多令入立寄哉云々、雖有所勞、

相快可向之由、答了、然者大臣大經不論親疎行向事也、

至于大將饗者強不然事歟、

二日 天晴、大理殿二男祇王、為弟子始被渡宮法印取、七

條河原房、若公裝束二重織物櫻狩衣、二重織物紫差貫、

各○文○、崩黃勾三紅打同單衣、以紅薄樣為基、貼紙薄樣

織物、大理著烏帽直衣、共官人著烏帽、大理著布衣、無相具官人事、子細以

扇、拾扇、左京大夫教長卿、備後少將家明朝臣、越後侍

御自筆被書、從成親、予等為扈從、午刻參花山院、大理烏帽子直衣、

於門外被駕車、是教長卿被坐之故也、其檢非違使能景

志、負胡篋、立烏帽子、毛沓、故免令持、左衛門尉滿清、右兵

衛尉盛範、羽林以下布衣各扈從、左京大夫冠直衣、自

關道被參會彼房、於中門廊北屋談話數刻之後、被勸盃

酌、次居菓物、一獻之後相具若公被歸畢、羽林拾遺自

歸路分散、予猶相從參花山院、及黃昏歸里亭、抑若公

有引出物、得站、以紙裏之、

今夕大理殿來五日春宮妣衾獲可被進之由被仰下、明隆

行云、裏書云、大臣駁、御自筆、

文治二年八月廿日、花山院申承雜事之次、被仰曰、故

忠雲法印為故宮座主弟子之日、我着烏帽直衣、共官人

著烏帽者、彼日御裝束不注愚曆、仍冷書裏、此事申出

之起者、別當通、先日被示送曰、烏羽御念佛中間劍着布

衣、仍又官人可着烏帽之由存知如何、先人重通、大理之

時官人烏帽在其云々、是古老家人之說也、我不覺悟、

又不被記置、依不審所尋申也者、予答曰、忽不覺悟、大

理着布衣、相具官人事不担任歟者、後聞、大理猶着直

衣、志甚景着冠在其云々、禪門又被仰云、大理着布衣、

相具官人事不見不知、至于烏帽子直衣日者可然歟、仍

我有此事、是私出行儀也、抑三條內大臣公教、為大理之

時、被參法勝寺孟蘭盆、大理裝束直衣也、而其官人着

烏帽、非普通之儀事歟者、

文治二年八月廿六日、召此本令書御、尤可喜悅也、

可謂自筆之御記、所々又一兩字令書入御事多之、抑

御裝束事不注愚曆、令書納如何、此事不被書正本、

可告少將也、忠親第四子也、○右以下及傍野不無之、

三日 御燈如例云々、陪膳頭中將、仲、藏人辨長、云々、

今日女房之先妣遠忌也、仍供養佛經、導師得業榮覺、

請僧五口、佛釋迦三尊、圖經法華、

四日 天晴、午刻向花山院、檢非違使實俊、爲信、能景等、於門前有召問犯人等事、大理令着廳座給、烏帽子立、直衣、

今日有除目、左大將藤公教、權大納言第五、將曹清原助種、上卿內府、宰相春宮權大夫云々、

入道前紀伊守季範死去云々

五日 天陰、今夜姬宮入太子宮、一院帶口宮口子、先是依御調度行事、大理殿申刻令參青宮給、直衣、戌刻令歸花山院給、又爲今夜御衾覆、相具北方三箇日可令祇候給、

仍北方衣三色十二紅單衣、櫻上衣、生袴云々、被參青宮、網代車、車後女房一人、共人四人、武部大夫頼方、雅樂助盛光、左出車

三兩、美福門院藏人家季、春宮非、女房十二人駕之、衣各思々、着

次子與五品同車、相具中也、抑五品今朝被鶴卷昇殿、爲傳取御香云々、是又先例也、依奉爾、次半物、二人、表款冬田、五青、車

神祇少、次雜仕、二人、和色之、四紅單衣、赤、車、前縫殿、神祇友、色帷、白裳、紅浦擬懸帶、赤、允宗長、次下自青宮高倉面南門、被坐中門南廊、以隨身所爲侍、以綾小路而小

山槐記 久壽三年三月

云云、此間小雨、自門至于南廊北面妻戶敷筵道、并左右

立々蒔、家明朝臣成親等引道之、次女房車、一又於門

下各下車、經筵道向南廊、下車對、二三車女房不下、被返

了、次半物雜仕等於四條高倉辻下車參上、抑先是被獻

御衾、其儀、御衾紅打長九尺、弘九幅也、面小袋後裏平箱、

御衾、依奉服用之歟、件衾二重々、各押折二幅、四折八、今一幅所殘半

分折之、九幅之、長三折之、入打平裏居衣宮、以銀時松鶴襪、

立、入蒔繪辛櫃、覆普通二重織物、鼻終發緒、等蒔糸、藤繪油漬千鳥等也、仕丁二人若退、紅

持之、此後爲前駟欲參白河之間、已行啓、仍於青宮舉

松明前行、前駟殿上人濟々焉、唐御車、御車副冠、入於

中門外放半、黑御牛也、押於諸大夫十人若束帶指笏引御

車、頗雖雨降不差笠、依小、寢殿西廊寄御車、弘庇左右

供掌燈、抑自高倉面門入御也、里小路面、出車、檜六兩、

女房十二、童女車同、一兩、二人、半物車一兩、右少將實、

公卿三人、按察、通、右衛門督、公、大理殿等也、入御之

後、公卿座有盃酌、初獻勸盃右中辨雅教朝臣、御乳、母夫、

子諸大夫、二獻右兵衛督、通、瓶子殿上人、三獻右衛門

督、公、龍、瓶子同前、次東宮御方女房參姬宮御方、申可令昇御之由、有祿云々、女房裝束一具、渡御之後、東宮着御香入御夜御殿御帳、大理殿入自寢殿西面妻戶、取御香退出、被授五品、五品取之向宿所置之、于時甚雨如注、次良久又大理殿入同妻戶、女房令皆申熟、被奉覆御衾、件御衾可證、然大理殿令調進給御衾被用之云々、此御衾者可被證、宮御方御衾也、今庚事凡總右大辨朝臣御沙汰也、仍御殿燈檮火、令退出給、二箇短之、先是京屋居大士器於折敷、其取之、奉大取也、經中門并同廊中令向宿所給、件火三箇日之間不滅、火桶生炭云々、又燈油、油瓶不滅之云々、三箇日後被送進物所云々、抑五品先是申慶賀、被付簡者也、今夕行啓以前、四位少將實長自青宮持參御書、今庚始也、先々多二度云々、無御返事、同日可被獻、於姬宮、右中辨雅教朝臣申次之、次羽林參籬下、獻御書於女房、右中門廊敷座、強一站、其上敷東京貢、居響、机二前、羽林着之、有盃爵、初獻勸盃讚鼓守季行朝臣、瓶子諸大夫、二獻右大辨、朝、瓶子殿上人、三獻按察、通、瓶子同前、勸盃公卿前居机響一前云々、次御使賜女房裝束一具、跣踐下立庭中二拜云々、先是今日有御着裝事云々、前齋院被奉結御腰、

此間事被御沙汰也、此次第於青宮左權佐憲方所示也、今夜事大都右大辨宰相奉行也、御車裝束三箇日不可解、又庭塵門不可掃、以人可令取之由被下知景兼、抑宮扈從并其外公卿被參白川人々、內府實、春宮大夫宗、按察中納言、重、右衛門督、公、大理殿、春宮權大夫、經、右兵衛督、通、右大辨、朝、新宰相中將伊實等也云々、六日 今夜被行小除目、參議藤忠能同光、朝、伊豫守同親隆、今朝大理殿着直衣被獻御香於女房、爲還御物也、夕又給之、三箇日如此云々、七日 八幡行幸舞人可勤仕之由有其催、仍領狀了、俄闕如云々、左大將被申慶賀云々、已刻女房參詣賀茂吉田祇園等、其人後長朝臣盛榮、惟盛佐元、致弘、引替二頭、夜陰予參賀茂、步、于時天顏快晴、歸路小雨、半更歸了、骨髓如摧、八日 大理殿被獻御香於姬宮御方、女房取之入御幸櫃云々、今曉上被退出了、向花山院、深更參賀茂宿上

社、鷄鳴又奉幣、次下社、次川合等、

九日 時々雨降、以使請明日行幸舞人裝束、自官行事

所今日所進內裏也、須參內、然而近代必不然、

十日 天晴、今日行幸石清水、本定去五日也、然而延引、被仰下來十五日之由、然而又被總

之、仍着舞人裝束已刻參內、沐浴廢除、先是於里亭、辰刻神寶御覽云

云、其儀行事官掌等入西中門、昇立案於透渡殿、擬弓場殿、故也

藏人治部大輔雅賴催行之、晝御座西以殿殿爲御、二箇間敷

筵、二行對座、東、居三所御裝束、自餘物、御直衣云々、依高陽院御

服日敷也、五位信能、予、通能、重、前行、宸儀出御、黃櫨、無鈴奏、依神社

陰陽頭憲榮奉仕反問、供奉公卿左大將、公、右衛

門督、公、大理殿、春宮權大夫、宗、新宰相中將、伊、上卿

宰相以車密々今朝落行云々、陪從人長御殿、四位二人、清

階從清頭、爲宗、所作階從範基、頌方、盛、盛幸、加

經時、信綱、盛清、範光、賴成、博奏、御輿、花、、出御左衛門陣南

行、三條東行也、六條大宮顯輔編纂一周忌之內、東洞院南行、七

條西行、朱雀、駐馬相待大、、南行入鳥羽北門、出同南門、於

桂川西野邊暫休御輿、爲駄餉所在切立、供奉公卿近衛

司下馬、大理令看督長掃雜人給、駕輿丁相代昇立御輿、

巨浮橋於桂河、檢非違使資能、志令渡云々、淀浮橋行事檢非違使資經、

行幸之時、又橋南美豆設駄餉所、大將大理抑馬、然而不

休御輿、發葉此所、仍前行、申刺着御宿院、頓宮部屋如

例、以巽角廻廊爲公卿座、西廊坤角爲舞人座、此座、不着

御湯、其北爲殿上人座、御所北幢爲內膳司所、乘輿到着

頓宮鳥居、神祇官供御麻如例、此間公卿列立、春宮大夫

事、左大將、公教、右衛門督、公德、大理殿、左大辨、發信、行事、右

兵衛督、雅通、運參、仍被參社題、新宰相中將伊實、相副御輿、春宮

權大夫於鳥羽被留了、御輿入御轡門下御、次主水司供御手水、次行

事、上卿春宮大夫被奏宣命、於陽門下被奏也、雅賴奏之、仰

聞食之由、此間內藏寮黑漆案三脚昇立前庭、在下敷薦、東西行

神祇官置幣、次件案南去二三許尺敷薦、東西、其上平文

机四脚、其上置御裝束四具、以西爲上、三具在錦蓋并御鏡、自餘

次又件机南敷薦、其上置御鉞劍弓箭等、掃部寮敷膝突

二枚、爲宮主并敕使座、宮主座幣前敕使座具、內藏寮供御贖

物、陪膳左中將成雅、兩貫首不候之故也、頃、藏人辨資長俊

供、供薦中宮主奉仕御禊、敕使春宮大夫相續着座、近來行



奉仕敎使、舞人曳立御馬於前庭、願定朝臣請引之、行事不備恒例也、之不可說四五人可引之歟御  
 讓了宮主起座、次曳出御馬、次敎使着案、下取幣立、御  
 拜了如本置之、歸着本座、次給使揮頭花、藤花、行事等相舞  
 人并殿上人雖可賦之、史取之、敎使率舞人參向社頭、  
 廊座舞座讀宣命儀等如例云々、予有勞事不參社頭、恐  
 怖有餘、仍子細不分明、東遊御神樂之間及深更云々、  
 次有舞曲云々、左萬義樂、賀殿、陵王、右延喜樂、地久、納蘇利、事了雅賴於社頭勸  
 賞、法眼玄清、權別法橋慶清、〇別當俗官六人各賜  
 一階、但此之中一人追可申請云々、

上卿歸參、於帳外被奏御願平安遂了之由云々、  
 今夜奉相具大理、宿故濟清辰、別當法印勝清所相設也、  
 今日留守右大辨、朝隆、參權右中辨範家朝臣、藏人盛業  
 等也、抑上卿先度儀戶部也、然而依服假被辭申之、故  
 春宮大夫被奉行也、  
 十一日 自去夜半許雨降、未刻參宿院頓宮、有片舞求  
 事、依雨儀、於中門西廊第二間有此事、左大將、公右衛  
 門督、公大理殿、右兵衛督、雅舞人信隆信能立之、抑大

將被申云、於此宮先々大納言立片舞例不候、於春日社  
 者有其例、何様可候哉云々、雅賴自取笠進御所南面砌  
 下申此由、敎答云、雖無其例、人數不候、准春日社例列  
 立何事有之哉者、仍被加立了、公卿各被着半臂、大將  
 不被着之、依不被存可立之由云々、胡籥如恒、置弓、拍  
 子春宮大夫、笛新宰相中將雖有其催、構所勞不參、仍  
 陪從遠博吹之、和琴所衆二人持之、難也可持之、然抑拍子而他行云々、  
 取并陪從等立第四間者也、事了舞人給祿、依相具大理  
 不給祿退出、今度供奉之體、取諸身可謂其奇怪、次還  
 御次第、退下宿所之間不分明、先仍還御之時有警蹕、  
 可尋記、

抑今日歸忌也、仍行幸大炊御門殿、院御明曉可有還御  
 高松殿云々、行幸之後與大理殿同車歸洛、宿監物能盛  
 家、六條堀川、懸替四所、渡古河島羽依歸忌也、北門等也、  
 今朝大理殿被引馬毛於勝清、依設宿所也、  
 十二日 今曉歸御高松殿、有鈴奏、少納言成隆朝臣云  
 云、昨日依歸忌不歸蓬屋、今日與大理殿同車、依爲巡

路歸三條亭了、

十三日 向故堀川納言之法事所、束帶、人衣冠、武衛頻被招、

仍所行向也、且爲親昵之故也、於觀音寺堂有此事、佛

半丈六、阿彌陀如來、等身不動、經金泥法華經一部、素

紙十二部、大集經卅卷、納言自筆云々、導師權少僧都

猷乘、讀衆十二人、敷筵道、無蓋、予依爲職事不取布施、

春宮權大夫、直衣、右中將同之、事了參殿下、法性寺殿、及黃昏

歸畢、

十四日 今夜晝御座御劔失了云々、是在藩之時御護

劔也、御即位之後、晝御座御劔于今不被調、仍被置彼

御劔者也、

十五日 雨下、今曉大理殿相具北方令參青宮給云々、

今日露顯也、北方裝束同五日、半物裝束薄萌黃五紅打、

同單衣張袴、雜仕裝束欸冬匂四青單衣、赤色帷、紅、

於宮、伴御書紫御書云々、

宮御方女房參持參大理上御許、北方令女房取之、被書

進御返歌云々、

十六日 天晴、今曉偉鑿門燒失云々、上官等參結政之

次、相尋火起於彼邊人之處、不知其子細之由答云々、

仍上官等記天火云々、或說病人失火云々、不分明、

十七日 天晴、依隨身武成訴參大理御許、次參殿下、

法性寺、次參觀音寺、及昏黑參內、今日被仰下頭辨藏人等、

藏人頭右中辨雅致、藏人平範保、一院、高階重章、美福門院藏人

文章、藏人大輔雅賴宣下云々、稻荷御與迎也、以所衆瀧

口御殿內外上下等被求御劔、遂以不出來、

廿三日 天晴、參新院并皇嘉門院、次參大理御許、於

門下檢非違使資樞○信、兼等有對問事、次參近衛院、

依御月忌也、殿下令參給、御座、公卿大宮大納言、伊春宮

權大夫、經、右兵衛督、雅、殿上人五六輩參候、御佛供養

了有布施、次例時、予不取布施、次參內、頃之退出、

廿四日 今夜被行臨時祭調樂云々、予雖有其催、依所

勞不參內、

廿六日 天晴、未刻參內、次下、衛、

廿七日 雨降、申刻雨

威儀師嚴慶、

庭座始之云々、使

能卿

三人、藏人判官俊成、左近將監家輔(近衛院藏人)、右兵衛尉義宗、依五位不足加召三人、陪從四位四人、五位三人、六位

予依申障被免舞人丁、仍今日不參内、

册日 今日被行祭除目并僧事、

内藏助藤季時、右京進 山城介三善廣行、史、

大僧正行慶、僧正寬曉、權僧正寂雲、

權少僧都禪智、一會權律師明海、二會隆勝、東寺灌頂 公澄、天台灌頂 法眼寬宗、法橋忠祐、

賴尋、法務行受、天台座主寂雲、

阿闍梨、

聖助、五官解文 尊實、同、圓連、同、

濟範、權僧正 長喜、法甲相命 信賢、法橋寬運、

祐海、僧正敬德 永祐、同、實眼、同、

覺遠、僧部元海 俊幸、法橋公輝 敬宴、法甲相實、

東寺定額僧、

信賢、行連、寬敏、賢覺、勝寬、

寬敏、賢覺、勝寬、

保元元年（久壽三年改元）

四月

十九日 雨降、

今夜頭中將公親朝臣申慶賀并吉書、入殿上々戶、呈亭通

先着與座、二大盃之間、藏人平範保付箇如例、藏人頭字許歟、

次居湯漬、與座一杯、頭着、端二杯一杯一臍後成、一杯也、頭

藏人二人着之、次撤之、次被喚範保令參進座、未被示

吉書可進之由、範保起座、經橫敷後、召出納、仰云、可

成進吉書者、即內藏寮請奏美濃國廣絹解文等入柳敷

持參、頭中將取之、卷籠二通於禮紙一枚、至于御倚子

前、突膝取文、插之出上戶、被參朝餉、隨便歟、先取御氣色

人差脂、先御所東第三間跪候、隨天氣微音稱唯、進罷下、

膝行差入文插烏口於簾中、主上令取文給、公親朝臣逆

行持候文插、主力上結之返給文、公親朝臣置文差於右方、

膝行參上簾下取文、又逆行結申之、先度廣敷絹解文也、每

度稱唯、次取加文於書杖文左、杖右、歸出殿上、如初對着與

座、依貫首之命、藏人持參硯、中將解文被書端書、引禮

紙不引進紙、進紙可引之歟、可尋之、

書樣、

可成返抄、

藏人頭右近中將藤原朝臣公親、

今案私注久壽三四六補藏人頭保元九十三補參議、中將如元、  
（正四下）德大寺左府實能公二男、母宗忠公女、

美濃國司解 申進上廣絹事、

合拾疋、

右當年御服內且進上如件、以解、

久壽三年四月十九日

從五位上行守藤原朝臣家教

又召藏人被下之、藏人傳給出納令成上返抄、入柳篋書紙  
三押折之、

書樣、

檢納

廣絹事、

合拾疋、

右當年御服內美濃國所進檢納如件、

久壽、、、、、出納中原、在判

藏人頭右近衛中將藤原朝臣

藏人持參之、頭加判返給了、次被下申請奏於內府也、殿考

令致結之仰詞、申乃末々、上卿稱唯、頭中將退出、次上

卿被下吉書於右少辨資長、令結之次第如恒、

# 保元三年

七月大

一日戊午 天陰、

三日庚申 今夜行幸于一本御書所云々、是明日依神

事也、近日於內裏御修法勤修、仍有行幸、

四日辛酉 今日主上御霍亂云々、

左大將被變相撲等云々、傳聞、寢殿南廂四箇間下母屋

簾、副立屏風、上庇御簾、二行對座敷帖、主人、烏帽子民

部卿、同、權中納言、公通、源宰相師仲卿、衣、宰相中將實

長卿、布衣立、烏帽子、新宰相公光朝臣、直衣、殿上人或直衣、或束

帶、或布衣、在公卿座末、相撲立前庭、於壘東上北面一

行 大盤二脚 取手座總席、大居饌、有三獻、初

二獻 府生奏兼文、布衣烏帽子、三獻

府生下毛野敦正、瓶子府者云々、次賜瓜各一籠、不食

云々、次賜祿、取手箱一疋、布三段、次相撲等退出、寂手留

座撤饗、次召寂手、進南階西間方、單重一重扇、裏白、給

之退出、又被仰可歸參之由、仍又參上、虎皮符、一枚

弓胡籙給之、次服正家單、一扇切付弓胡籙、次末永單一

扇同、永貞同、但永貞置胡籙、直張弓持加胡籙退出、自

餘單一云々、但末者下臈共於相撲給祿一

拜云々、然不知子細、或不拜、或三拜云々、次公卿侍臣

居分與端座有飲食事云々、次雖可有布曳等事、主上御

霍亂之間止之云々、仍人々分散、于旅所

可爲警固歟、仍頼定懸纓云々、然自餘不然云々、

可尋、大略傳聞如此、定僻事多歟、依爲珍事不堪其興、

悉以記之、

五日壬戌 今曉還幸力自一本御書所云々、內藏頭家明朝臣

示云、今度駕御鳳輦云々、或人云、依昨日御霍亂腰輿

危思食之故云々、

六日癸亥 雷雨甚口聲、

七日甲子 天陰、依月忌向觀音寺、水殊深車

有恐、仍渡清水長橋、歸洛之時水減、仍渡河、

十日丁卯 依御慎有赦云々、

十六日癸酉 時々雷雨鳴、雅樂頭範基來談曰、去夕左

大將被絕入云々、仍相尋右中將實國朝臣之處、其後全

無別事云々、以前又無所惱云々、

十九日丙子 天晴、今曉御修法等結願云々、

今朝北野所司稱被差定會頭文

書様、

北野宮寺、

差定、

右近中將家、

右來八月五日御會頭、依例所差定如件、

保元三年七月三日

小寺主法師隆嚴

都雅那法師永勝

寺主 法師仁昌

上座大法師勝慶

權別當阿闍梨大法師寬賢

別當法眼和尚位顯尋

書右又有上下臈不能勤仕之由示了、口石卅許下給事

云々、於重服者不憚之由所司所示也、

廿日丁丑 未刻參内、日者依御修法久不參之故也、次

參向花山院、及晚歸宅、今夜皇后宮爲御方違渡御七條

朱雀右京大夫信輔朝臣堂云々、依法金剛院修理歟、

廿一日戊寅 今曉東洞院東六角北燒亡、故右衛門大

夫光忠後家云々、

今夜參詣廣隆寺、三箇日可參籠也、依宿願也、同自今

夜以六口寺僧、分時令轉讀不斷藥師經、

廿二日己卯 依御方違行幸于上姬宮御所、明曉可有

還御高松殿云々、自相撲節御大内也、

廿四日辛巳 今曉自廣隆寺還向、讀經同結願、布施白

越篋各一段、冊各子違件四分之一也、佛供又日別

破石於十燈、二燈師大德白蕉十段、事已省略、頗以有

耻、然而貧如燈歟、依有所思枉所參籠也、

廿五日壬午 近日有天真愁、仍差遣藏人光經於神泉

苑、令祈雨、

廿八日乙酉 小雨、即晴了、但畿内頗有濕力濕氣云々、今

日猶藏人光經向神泉苑、

廿九日丙戌 今日又小雨、即晴了、

卅日丁亥 今日藏人左近將監親行向神泉苑祈雨云々、

日來光經雖行向無其驗、仍改定云々、

八月小

一日戊子 天晴、今夜小除目云々、

大舍人頭丹波經康、家行出家行出

皇后宮大夫藤實定、元權元權、

權亮藤實守、兼兼、

大膳大夫藤齊憲、師仲師仲、

攝津守藤貞憲、兼兼、

陸奥守源國雅、元屈元屈、

從五位下藤光範、藏人藏人、

權大進藤成賴、元權亮元權亮、

權大進藤成賴、元勘解元勘解、

勘解由次官藤充方、元阿元阿、

阿波守藤惟雅、元元、

肥後守清原光俊、權權、

藏人藤成賴、

二日己丑 天晴、近曾左少將賴定行爲取判持來相撲

免田牒云々、仍尋取續之、予未着陣、仍不持來歟、

左近衛府藤 美作國、衛、

應被早任先例宛給相撲近衛海利守免田貳拾町浪人貳拾人狀、牒、伴利守、依供節之勤、免田浪人可被宛給之狀牒送如件、縱雖非方國勤王之吏、不可分公務、先例服恤々九部兼則等所被宛給也、自餘之例不違毛舉、者件田浪可被給之狀、牒送如件、以牒、

保元三年七月 日正六位上行府生大石宿禰

內大臣正二位兼大將藤原 從五位下行將監貳宿禰

正三位行權中納言藤原朝臣 正六位上行將監源朝臣

權中將 源朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

參議正四位下權中將 藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

正四位下行權中將 藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

從四位下行權中將藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

正五位下行權中將藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

從四位上行權少將藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

越後守 藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

從四位下行權少將藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

遠江守 藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

正五位下行權少將藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

正五位下權少將藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

正五位下權少將藤原朝臣 正六位上行將監 藤原朝臣

山槐記 保元三年八月

從五位上守權少將藤原朝臣 正六位上行將監 下毛野公  
中宮權亮叢岐權介 藤原朝臣 正六位上行將監 清原直人  
從五位下權少將藤原朝臣 正六位上行將監 清原直人  
判所甚以狼藉歟、

國宛所行相替云々、但又數取手八十町、腋四十町云云、又賴定談曰、重房去比來乞指貫、仍給之、件奴袴乞請者着之、稱五位流例云々、

五日壬辰 天陰、臨晚時々雨、夜陰參內、依當番也、

此畫許

盡云々、上卿別當雅、被參陣、宰相不參、仍左少辨親範書之云々、

少監物藤重盛、 圖書允清原行景、

皇后宮權大屬安倍資成、出修理進中原時成、

大和守平基盛、元本右衛門尉安倍資良、元志出納、依三

左兵衛尉藤爲保、元瀧口、分進出納、經府

八月五日 同信隆、當察修

正四位下藤長成、時

正五位上平親範、時、 從五位下源通親、



今夜有内文云々、上卿權中納言、通、公

藏人光經被下秀才宣旨、元給料也、以中宮亮顯長朝臣

宣下、權中納言退出、仍以消息被獻中納言、所口定

六日癸巳 巳刻參内、頃之退出、御讓位事一定云々、

七日甲午 天晴、依月忌向觀音寺、

八日乙未 今日小除目云々、上別當、通、雅

左衛門志中原章盛、右衛門府生清原季光、東宮出

已蒙使宣旨云々、

去夜美福門院御所八條坊門、進物所人寢死、仍御幸

于他所云々、

九日丙申 陰晴不定、或人來談曰、去月十日三井寺大

僧正辭申法務、申請阿闍梨五口云々、伴辭狀前料登宣

草之云々、

十日丁酉 今夜被行除書、

權中納言藤雅教、元左大辨第四宰相、超源宰相師仲、宰相中將公親、實長卿等

同信賴、元第五宰相、左兵衛督如元

參議同顯長、元藏、人頭

同惟方、同、

侍從同公光、宰相也

左大辨同顯時、元

左中辨源雅賴、元右中

權右中辨親範、元左少

右少辨同真憲、兼、

内膳典同基光、

安藝守同隆行、秀行朝臣辭太宰大貳申任之

遠江守平重盛、

大貳同清盛、元攝磨守

左少將藤實宗、公通卿辭中納言申任之

左衛門尉卜部仲達、元兵衛尉

左兵衛尉大江家仲、

保元三年八月十日

正三位藤雅教、

從四位上同俊憲、

藏人頭顯時、

同公房、實長卿息、實雅教卿子

右大辨同資長、元左中

右中辨藤俊憲、元權

左少辨藤朝方、元右少

木工頭同資忠、實信卿辭中納言申任之

播磨守同成範、元遠江守

近江守同朝雅、

常陸守同賴盛、

日向守行國、有元朝臣讓

左中將同成憲、元少將第二、超成親朝臣

右衛門尉平信成、元左、然信成之父云々、子顯同爲大藏卿

右馬允平成俊、夫尉二無便宜之故云々、幼帶月云々

同信賴、

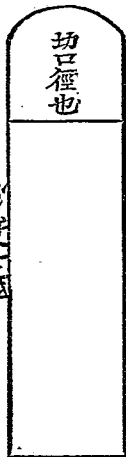
從五位下信成、

俊憲、

明日依可有御讓位、除書之後行幸于大内、東宮同行啓云々、

十一日戊戌 天晴、今日有御讓位事、依障不出仕、本議來十七日云々、然件日支干當花山遜位、仍被縮今日云々、入晚先被發遣固關使、各次諸大夫一人、内舍人一人、左右近衛各一人云々、但五位并内舍人賜寮御馬、召御牧云々、或記、馬至于近衛給、之由注之、今度不然云々、可尋、敕符并木契、内大臣於仗座召五位使於膝突賜之云々、總固三關近江會坂、伊勢餘處三乃不破、也、件會坂使隼人正清定者余家人也、仍密々稱明日可下向相具木契等來予亭、爲後代記留之、雖似不穩便、偏爲奉公也、

木契、以楮新作之、被自牛馬使、片破者、開時件使可持向也、寸法如此、



寸法無相違所移也、○今改縮爲二分、

自文字牛班也、書賜近江國也、

山槐記 保元三年八月

書様、

敕符

從五位下守近江守藤原朝臣朝雅、從五位上行權介源朝臣忠佐、

可警備事

使從五位下行隼人正橋朝臣清定

内舍人正六位上藤原朝臣則行

右今日避位傳皇太子、當此際會、

疑物聽、仍爲警固彼國、差件

人等、資力、盡木契發遣、國宜承知

依例施行、

保元三年八月十一日 酉一點

已上如此有請印、其所註之續黃紙二枚書之、續目在年月、無懸紙、篋内無數紙、數力、内舍人賜鈴云々、

有警固召仰事、六府左近少將家通、右近中將俊通朝臣、依位家治列左上左衛門尉(○脫名)、右衛門佐光宗、左兵衛佐實

清右基宗、入日華門、列軒廊南砌、然將佐皆帶弓箭參上、

仍上卿撤弓箭可參之由被下知云々、將佐作法甚奇恠

事也、次亥刻有御讓位事、南殿東第四間已西懸御簾下之云々、主上御南殿、近仗立陣、繼殿、內辨內大臣、左大將、宣命使權中納言實定卿、太子令參上給、其御座在母、內辨在庇云々、少納言重雅召人、外辨按察以下參列、宮司并兩三品不列之、事了今上下自南階有御拜、內侍取劔墮下自東、今上還御之時經軒廊及宣仁堂左化儀、右中將實國朝臣少將通家等扶持之、委細追可尋注、凡今日參上公卿內大臣、公、春宮大夫、宗、按察、重、新大納言、經極大、別當、通、皇太后宮權大夫、實、伊、右衛門督、額、皇后宮大夫、實、兩新納言、雅教、源宰相、仲、兩三品、純家、藤宰相、光、源宰相中將、定、侍從宰相、光、兩新相公、顯長、云々傳如此、舊主御弘徽殿云々、今夜又齋宮出野宮令渡季行朝臣宅勸解由小路北、給云々、御車寄鳥居內、前太相國檳榔云々、出御之門舍屋破取、甚狼藉云々、檢非違使平信兼警衛云々、

今日關白殿令辭關白兵仗藤氏長者等給云々、右大臣實、蒙關白宣旨給、兵仗傳長者云々、

今日於觀音寺、納言殿令修先妣周忌法事給、予已刻參向、然今日天下有吉事、雖山家非無其憚、仍晚陰已被修云々、布施取不及外人、所々不曳帳、并不立誦經、只立案於庭、予申刻許參御骨御堂、聊修諷誦、五段、布施越布三段也、經願卿記云、參臺所不對正面云々、仍候傍方、今日始所參上也、日來連々故障、于夕今力、遲引、不慮事也、即歸華、入晚納言殿令渡給、秉燭以後導師被來、前少僧都道覺也、相具讚衆四口、本籠僧六口、黑、袈裟、佛大日也、此佛建立堂於高野山可奉安置之、其內可奉安御骨云々、經金一部此經先妣平生之時書內題、不令終其功給、仍納言殿、內供、予各分卷書寫之、素紙十部、又內供以反古色紙書一部供養之、供養了被物許引之、此外布施各入長檣被進之、今日被略方、認之故也、

布施、

導師、

被物五重絹褰二、鈍色裝束一具、被具生單衣、此事如何、  
上品絹三疋、綿三十兩、染布廿卷、二、

摩牙石石、

讚衆、

各一重裹也、摩牙半石、或僧來談曰、如此事不滅石云々、

內供有如布施、導師二重絹裹一、讚衆中絹一疋、誦經卅段、予又加布施導師二重裹一、紙裹條所失也、

讚衆紙裹一百、越布五段也、誦經卅段在敷筵等也、及深更歸宅、

十三日庚子 今朝右大將<sup>能</sup>公、母堂被逝去云々、故左大臣周忌中也、將軍重服相重、悲而有餘事歎、

十四日辛丑 天陰、今曉爲放生會上卿可下向之由、被仰新大納言<sup>經</sup>云々、本右衛門督<sup>光</sup>可被下向、然右大將母堂者故顯隆卿娘也、依服假俄改定云々、

十五日壬寅 去夜大雨朝晴、放生會上卿新大納言、<sup>經</sup>宰相、<sup>光忠</sup>辨權右親範、少納言<sup>一員</sup>、左近少將

成親朝臣、右近少將兼雅、左衛門尉勤代、右衛門佐光宗、左兵衛佐脩憲、右兵衛佐基家、及半漏事云々、

今夜戌時出二條河原除服、右京亮宗親奉仕祓、先今日

獻勘文、刻限于着鈍色狩衣奴袴等、依心裏也、今來、出河原、兩月々如此也、下車、敷車疊坐之、日來裝束、束帶、布衣、及冠帶等、入長檣兼遣之、八足二臺、一者祓料、一者爲置裝束、新造遣之、于時先懸素服於肩、不帶、即取之給陰陽師、是隨陰陽之命也、次祓如恒、畢歸幕、自今日晝黑如恒、

十七日甲辰 天晴、上皇遜位之後今夜始出禁裏、御幸于高松殿、予密々於二條堀川見物、藏人以上殿上人四十餘人着束帶前行、次公卿<sup>但公卿後殿上人多供奉、</sup>按察大納言、<sup>重、具馬副、</sup>新大納言、<sup>經、別當、</sup>源宰相、<sup>通、</sup>藤宰相光忠、侍

從宰相、<sup>光、</sup>右兵衛督惟方等也、次御厩舍人六人、居間六人、二行前行、引移馬二疋、次召次數十人舉松明左右列其中、左右近府生二人、兼領、令及補府生、番長二人、

左寮兼任、右寮公員、共元近衛也、駕移馬、莫脛巾、負狩胡籙前行、次御車、唐、御車副十人、帶、應官、備賜冠、次新中納言信賴卿候

後騎、次大夫尉信忠布袴負狩胡籙、檢非違使平康俊布衣<sup>白</sup>、冠同候、事了予依宿願參行願寺、即歸亭、後日傳

聞、出御自禁裏次第、登車於登華殿北面、遜位之後、御弘徽殿、出於

玄陣朔平兩門、令駕遷御車給、寄御車於輦車傍方云云、自件所御隨身追前、出御自上東門云々、今日開關云々、上卿按察大納言、重、內舍人賜鈴木契等、然清定後日語曰、十九日下向云々、合木契、仍固關使十九日歸京、日來宿關近邊小屋云々、敕符付在廳進請文、三關使同時可進云々、日來近江國全不供給云々、

廿日丁未 天陰、今夜新帝渡御于清涼殿云々、傳聞、

其儀、自昭陽舍西面小門、至于綾繪殿北遣戶、并自件

殿額間至于紫宸殿長角片橋構長橋爲御路、殿上人候

脂燭、右中將俊通朝臣、實國朝臣付內侍、博陸被取御

裾、太相國以下候御後、宜陽殿儀及攤一同遷宮云々、

廿一日戊申 今日又瀧口大寄云々、上臈二人自先帝

被渡也、今曉奉渡先妣御骨於高野、是爲納言御沙汰建

立一間四面堂於彼山、正日供養大日如來安方案置之、其中

被奉籠彼御骨也、抑御骨者、御葬禮之時左兵衛尉橋政

清依爲緣人奉懸之、仍今度同之懸、然公事指合難下

向、令行眞供奉々懸也、行眞又爲女房子之故也、是大

北政所御骨大宮亮師國朝臣奉懸之、其後又奉渡他所之時、彼朝臣補家司了、依憚以近親僧奉渡云々、且尋彼例納言殿令計沙汰給也、來廿三日可奉置云々、

廿三日庚戌 天晴、今日坊官除日被行之了、

大舍人助藤重頼、坊權、

尾張守同爲頼、

左近將監藤有經、藏、

左衛門尉源光綱、帶刀長、馬助光成子、右衛門尉

同季盛、

右衛門尉源國長、

同季國、

左兵衛尉藤盛國、

紀久良、

右兵衛尉源季遠、

同清忠、

左馬允藤爲重、

右馬允 公清、

保元三年八月廿三日

從五位下源仲綱、藏人三

藏人藤敦綱、

辭退、

尾張守藤雅綱、坊大

院敕旨四千町官符今日被請印云々、

廿五日壬子 天晴、院號後今日始有晝御幸、午終刻先

御幸于皇后宮御所、三條鳥丸出御自高松殿西門、至于三條

入御自宮西門、西町未刻出御自鳥丸面、更三條西行、是

宮於御棧敷爲御見物、令于於三條油小路見物、聊構棧

敷、納言殿令渡給、有御幸于城南也、暫可御云々、先藏

人一人、判官代三人、次殿上人卅許人、已上衣冠、多着

隨身布衣帶劔、但左衛門權佐賴憲令負狩胡籙於隨身、

右權左貞憲不然、納言殿羽林令着張單於隨身脫下之、

自餘不然、次公卿各直衣、左大將、公、淺、沓、官人秦番長中

近武、布衣冠、按察大納言、重、淺、新大納言、經、中納言中將、

基房、隨身四人着袴、別賞、雅通、不破具隨身、皇太后宮權大夫、

伊、宰相中將定房朝臣、祿、令持野劔於雜色、侍從宰相公光朝臣、若、淺、實、

尤可着、右兵衛督惟方朝臣、隨身、若、淺、實、

既舍人四人、着、柳、龜、次御隨身六人騎馬前行、

左近將監秦兼私着黑襪上下、兼弘天下一物也、仍御難將監樓下將曹被

右殿子三人、或官人、或物節、或大將官人、人謂傍若無人歟、右近將曹

中臣重近着襪上下、左近府生下毛野忠利着二藍上下、右近府生秦兼領

着襪上下、左近番長秦兼任着出襪上下、右近番長下野致賴着襪上下、

致賴非本自被召之御隨身、秦、皆布衣冠也、負狩胡籙、括壹廳

巾、右近在左、左近在右、此事可尋、次御車、廂、御車副

八人着白張、御裝束御冠直也、召次數十人、次新中納

言信賴卿候後騎、次下臚隨身等布衣色、鳥、帶、劔、許、也、騎馬、

次北面輩、先檢非遣使六人、大夫尉三人、信忠、挾、深、沓、

責任、卷、信、成、淺、沓、六位三人源季實、平信兼、惟宗信

澄、已上布衣冠也、凡廷尉等負狩胡籙、信忠子二人、左

衛門尉信遠、信元、在廷尉等中、次左衛門大夫實俊着

黑、襪、淺、黃、奴、袴、負、胡、籙、供、奉、次衛府卅餘人、次關白令扈

從給、先居伺四人前行、次前驅十二人、四、九、二、八、五、位、一、人、衣

冠、次御隨身四人、官、人、下、毛、野、武、成、同、師、武、番、長、秦、安、行、下、毛、野

册、黃、也、左、近、右、武、安、皆、同、也、但、官、人、白、袴、番、長、左、二、藍、右

相、異、院、御、隨、身、次御車、檣、御、車、副、六、人、着、白、張、關、白、令、着

直衣給、下臚隨身等不騎馬、次雜色等、

於鳥羽殿、自今日人々着布衣祇候云々、

### 九月大

一日丁巳 雨降、依先考遠忌、午刻向觀音寺、予修小佛事、佛者三界總領大聖明王、經者三カ部妙典華嚴六帙也、追年可書終五部大乘經者也、仍今年當此帙也、導師淨忠得業也、申刻歸洛之間、御幸自城南、仍便向油小路三條棧敷、兼所掃遠忌日雖非穩便、密々事不及沙汰哉、內供相共被渡者也、于時甚雨如注、供奉上下祇鼻、今日關白、大將、按察、中納言中將等不被供奉、人

人皆布衣也、隨身裝束等不改、御隨身裝束或改之或不然、土左守隆季朝臣候後騎、五日辛酉 今夜八條坊門町火事、朝隆卿母堂故讀肢宣旨家云々、

六日壬戌 申刻、爲遇念佛、始參向觀音寺、即宿、七日癸亥 天陰、今日先妣周忌御正日也、仍納言殿被修佛事、奉圖繪寶樓閣曼陀羅一鋪、同經上中法華經六部也、誦經廿段、予十段、內供同、又被修誦經、導師權

律師宗範、東寺、宿變束也、請僧本自籠聖人等六人、各着黑染、事畢布施引之、布施取不及囑請、講演中間清水坂非人來

乞施米、兼遣之由令仰、仍返了、違遣歎、甚奇怪事也、次阿彌陀經、先是導師退出、次納言殿內供被歸了、予遇念佛結願退出、

今夜御方違、行幸在五辻云々、依朱雀院造隨宮歎、八日甲子 晚頭參詣廣隆寺、

十一日丁卯 雨降、御幸于鳥羽云々、皇后宮同行啓、

滅日有憚、至于御幸者非初度、行啓者立后以後令入城南給事初度也、可有憚之由云々、然而猶以行啓云々、十五日辛未 今夜中宮行啓于鳥羽、

十六日壬申 天晴、月蝕、

今日阿波前司賴佐來談曰、右大將母堂逝去々月十三日也、仍不被脫故、左府服之以前也、仍不改重服、此事希有事歎、公親卿同云々、是異母也、然依養育如實母歎、至于公保卿者不然、件卿除服之後、着白狩衣淺黃奴袴云々、

十七日癸酉 天晴、今日行幸于建禮門云々、被發遣伊勢幣、是被告申御即位之由也、以或人說傳聞、刻限出

御南殿、右中將實國朝臣付殿內侍、頭右中辨俊憲付殿內侍、匡房朝臣延久四年御即位記云、予藏人兵衛佐公實扶持之、秦憲朝後

日語曰、付內侍是近衛次將兼藏時例歟、隆隆朝答曰、近代例皆如此者、然者次將職事共以流例歟、右將渡、近衛引

陣、公卿左府(伊)、按察大納言(重通)、新大納言(益壽)、別當(雅通)、

從宰相(光朝臣、右衛門督(光顯)、新中納言(雅敏)、侍

吳衛督惟方朝臣、)列立、于時俄雨、仍左府以下逐電退立

宜陽壇上、即休、又列、夜中之間下、又退、即休止、又列

立云々、次腰輿寄南階、右中將俊通朝臣昇南階、取御劔

置輿、案柄於左云々、甚有若亡、乘輿之後又置直、次主上乘

輿、無警、次置輿、次出承明門、幸于建禮門、關白下西階、

令候御後給云々、委次第以傳聞難記盡、事了還御之

時、左大將、內大中納言中將基、被參會、還御之時又無

警蹕云々、今度劔內侍左少將成親朝臣扶持之、璽內侍

頭右大辨顯時扶之云々、近將右中將俊通朝臣、實國朝

臣、左少將成親朝臣、賴定、家通、右少將通家、兼雅云

云、抑中將成憲參會還御云々、今日公卿蒞繪劔淺履、

帶衛府之人帶弓箭笠也、但別當雅通卿帶平胡篔、近將

又縫腋盡云々、予今夜於門外除服、房去比死去云々、納言

殿去月廿四日令除重服給、仍彼忠房死去件日以前也、

然者不令除服給云々、

十九日乙亥 今日城南寺競馬云々、公卿直衣、殿上人

衣冠、鼓修理大夫資質朝臣、鉦能登守基家、乘尻染分

云々、

一カ 一番、左敦方、勝、二番、左兼成、勝、三番、左師武、勝、關白右府生、

右兼成、勝、左大將官人、五番、左季重、勝、左敦佐、勝、

四番、右重文、右兼種、六番、左敦佐、勝、

右重、左武安、勝、關白右府長、

口、七番、右近武、左大將官長、

廿三日己卯 今夜依御方違、行幸于大膳職云々、御腰

輿、諸司步行、

下人示云、人魏自東南方來、落西隣云々、依不知所出、

召陰陽令奉仕招魂祭、或者示云、出自三條油小路邊云

云、然而爲用心猶以令行、

廿四日庚辰 天晴、今夜院自城南還御于高松殿、日來

城南御遊連夜云々、可然之人々獻盃飯、或時公卿殿上

人水干裝束云々、

廿五日辛巳 自今日始高野精進、明後日可進發也、

廿六日壬午 天晴、今夜宿宗保朝臣宅、五條坊成、(○城丸)納言



同令渡給、是明日可參詣高野出門也、來月二日歸忌、仍三日可歸給、然明日出門者可當七日、仍今夜所出門也、

廿七日癸未、曉天月、向草津乘船、越後守成親朝臣進之、破損甚危、天曙出

船、於大竹程日出、申終刻着窪津、納言殿令駕輿給、予騎馬、未刻者知天王寺西門、先令尋宿所給之處、無其設、是別當僧正行慶可被設也、然沙汰云々、事不能左右、仰

天之處、予宿所相設故後資入道塔廊之由、使者來申、此事不思寄、兼不致下知、委相尋之處、故顯能後家尼口觸設之、無二之志也、仍納言殿相共令宿此處給、和

泉國司夫傳馬等送之、納言殿於金堂行誦經給、奉出舍利下三、無相違令出給、感淚難禁者歟、

廿八日甲申 自去夜半許雨降、今日可着政所也、件路頗遼遠、仍殊夜深令立天王寺給、然間甚雨如注、晴天

迷路、共人或來、或不來、夜中過三許里、猶夜不曙、仍於大野々口邊暫待天曙過野、已刻於長野或田屋勸饌、

即出件、申刻着政所、今日予駕輿、依雨構油單屋形、納

言殿同之、自晝饌所至于政所頗險路也、有紀伊御坂山嵩峯入雲、龍蹄失蹄者也、政所前有河、號紀御河、于時一步渡也、然內供被進船、小船二艘組之、其上敷板、中綱二人着之、今夜宿政所、

廿九日乙酉 未明出政所宿、登御山、於坂四十餘町天明、於鎮守明神鳥居二基、前下輿、其後間有難路、凡小

高無坂、是在大師記文云々、已刻至中院、坂百八十町也、於人宿鳥居下輿云々、然而強不然、初度津々良折邊ヨリ可下馬之由、內供被示、不知其子細、至于大門

有額、寺、金剛峯寺、下輿、頗為恐、自大門着無裏、至遍昭院、今度納言殿令造立給堂名也、○內脫之供被付之、路頗溫、尤可致平足駄用意、雖鄙事為

後難棄記之、即時僧集會、導師御山執行闍梨也、着法服、讚衆六人宿裝束黑染狩袴也、曼荼羅供也、事了引布施、

導、師款三重吳錦、越布之類少々、讚衆一重一裘、白布等等也、內供并予修諷誦一裘也、納言殿內供予坐東緣、不取布

施、抑堂鉢一間四面材木、甚神也妙也、更無一附枝、彼御山偏為檜杣也、本尊大日也、去月十一日法事供養佛

也、法身奉納先妣遺骨者也、件以法橋康朝造立甚疎荒、納言殿不叶意趣之由被仰、然而日次有限奉渡了、長途之間彌以散々云々、仍遣薄、更令押給、開眼之、仍雖古佛供養、次先開眼歟、未刻供養了、後令參中院給先御影堂之執行閣梨修諷誦、納言殿予紙、十卷、御燈油入加掌燈、布施納言殿被物一重、予綿十兩、參上居孫庇、餘人不昇庇者也、中妻戶內御影者所御坐也、悲感難禁者也、戶內暗不分明、然暮日光耀得拜見、感應之至也、次執行閣梨取出御杖、御糸鞋、御打輪、御脇足、御木履、御器全四入子等也、各爲結緣觸手、御疊御筵不取出、爲護人々少分切取、仍自然破増、仍故御室殊令加制止給、妻戶之外、不力可出之由被仰云々、仍如然破安々頼不放手、然而執行密々筵薦切進納言殿、一々拜見了、次令參金堂給、諷誦燈油如先、但納言殿御布施白布、御影堂者殊云々、予不知案内、皆平等、然而納言參給、至于予在御供、何事之有哉、且申合內供了、次大塔柱四十八本、柱四十八本、同前、次歸遍昭院、抑御影堂前有四五尺許松樹、

山槐記 保元三年九月

相尋由緒之處、昔大師御入唐之時、向本朝方令拋獨給、獨給入雲來懸此樹、仍令占此地給之由、內供所被示也、本此樹大樹也、然頃年枯失了、其後近年自舊根又生長云々、次申刻改裝束、着淨衣藁香貫、參奧院、自中院廿餘町也、自大門者卅六町云々、其路無坂、平地也、甚幽玄靈隔也、未刻到殿一許町有橋、有關其內者殊持戒精進、不高聲多言、不大小便、津和幾波加須、秉燭以前至于奧院、先禮御入定堂、其前有五間四面堂、中心安舍利、件兩堂中有大妨、次納言殿自筆理趣經他書法花經等令供養給、其次諷誦、燈油如中院令行理趣三昧給也、講演了戌終歸宿、遍昭院內供伎蘭湯、楡大彫船、卒爾被構作、凡當于楡木之地也、寒氣殊甚、雖夏此御山不放衣云々、

卅日丙戌 天晴、未明出中院、已刻着政所、路次人夫逼來、仍予獻力者於納言御方、予騎馬、于時雨降、酉刻着長野、甚雨如注、今夜宿此所也、源義範故爲、獻兵仕者也、於旅秋暮、悲哀之切、無物取喻、輕服裝束賜侍了、

山禮記 保元三年九月 保元四年正月

八四

忌月許著薄鈍色也、或人獻魚肉、本議儀カ於江口可獻魚肉也、然不期如此、怒有許容歎如何、爲齋日旁不甘心事

歎、

右一册依

兩主之恩、以官本非寫校合了、

寬延二年十月廿二日

樞大納言

右忠親公保元三年秋記一册、當家所藏閱之間、借讀於黃門忠賴卿書寫之、雖可耻拙筆、爲補漏脫所寫留也、件原本故前大納言榮親卿自筆也、即加一校了、尤可禁他見、勞々莫出意外、

文化四年孟冬中旬

右近衛權少將藤定節

### 保元四年（平治元）

正月

一日丙辰 天陰、自夜雨降、卯剋頭左中辨俊憲送書狀云、四方拜御、近衛司不候可參者、付使送牛童、被命云、雖無便使イ必候會事難有之故也者、予即着束帶送電參內、即出御、御束自大床子間供御座於弓場殿、依雨不供東庭也、兼供筵道、予取畫御座御劔、未置莊御座、安大前床子御厨子上行候御屏風外、頭左中辨俊憲朝臣取御襦直入御屏風內、藏人傳進御笏於頭辨、藏人隆成引合御屏風戶、頭辨候御屏風內、申御拜次第、候內之條如何、先賢皆候外、入內未見及、但可訪先達、御拜了頭辨賜御笏於藏人、次獻御草鞋、還御、予又前行、如本置御劔、主上自御帳北入御、頭辨可退出之由被命、然而稱迎牛持來不出、仍頭辨被退出、然間不能退出之間、讚岐守俊盛朝臣爲後取參上、與牛於予、乍悅駕彼牛退出、于時日出之程也、着關腋付風向納言御許、在山隨身着紅梅袴、納

言殿隨院拜禮有無可出仕之由被仰、被勸一獻菓物等於予、未時雨脚休止、拜禮一定云々、仍納言殿令參院高松給、予并少將兼雅雅尾從、高松殿西中門外博陸以下東上北面列立、納言殿不令加列給、甍佇立門邊、于時別當信賴卿又參上、經公卿列前進立關白前揖、參御前申事之由、歸立復命後加列、次關白被練出庭中、公卿位次第一列、次四位五位一列、依所狹五位少々不列之、次舞蹈、此間霰降、拜了殿上人自下退出、次博陸經公卿列前退出、親隆卿蹲居、次第退出、此間右兵衛督公保卿參上、被進中門邊、次頭權左中辨俊憲朝臣奉院宣、於中門外跪博陸前云、美福門院拜禮令參給者、事の有能候歟者、博陸揖被退出、關白以下皆被參彼院路押小申次前中納言朝隆卿云々、納言殿去年令奉初齋宮上卿、今日旬日旬日者二日、十日也、爲御出家所有憚、不令參給、明日可參之由被仰、予又四品後未還昇、仍猶奉相伴、此間猶寢被候院、納言參皇后宮御方給、仰寢殿中三間東西有打出、西中宮紅梅匂、東女御櫻、東渡殿皇

山 槐 記 保元四年正月

后宮也、次申修冠奉相共納言殿參大殿、高倉殿、公卿座被大殿公卿座敷唐皮茵座事敷唐皮茵圓座爲殿等御座、大納言座二枚豹皮半帖、入中納言座一枚圓座豹、宰相座三枚圓座虎、已以錦草爲緣、入夜博陸自美福門院令歸給、於門外下車、經寢殿南面令參大殿御方給、公卿中納言中將、納言殿權中納言藤宰相、光新宰相顯長朝臣等也、內殿上人皆悉被催進、公卿又自院被催進云々、先主人以下被着西對座、次人人起座、中納言中將以下被下立中門外、東上博陸自對東階被降寢殿南階前、予獻齊、隨身等副階下舉松明、東西相從、次右大辨資長朝臣進出中門、相對中納言中將、次入中門、經庭中、進關白前、歸出復命之後、公卿列立、次殿上四位五位列于後、次上官等又列其後、二拜、主人答拜、々了歸昇、公卿退出、大殿御寢殿廳中、次博陸令參內給、公卿又各被參內、公卿被着殿上、有小朝拜、次節會欲被始行之間、下方有炎上、依蓬屋不審恐退出、仍不見節會間事、但可有出御也、炎上四條大宮信濃前司顯方宅也、今朝院御藥、新大納言、經宗、皇

后宮大夫、實、別當、信、右兵衛督、公、侍從宰相公光朝臣

等着直衣參候云々、役殿上人布衣云々、

二日丁巳 晴陰不定、未冠着束帶、時給銀、御堂御流者三少

參議之間不可察之由、故祖父、日之聞學、御銀也、然而非

相府殿令致訓先人給云々、參院、次參大殿、次參關白御方、

次參內、入晚歸私、

三日戊午 天晴、今日朝覲行幸也、

五日庚申 今日彼位延引、依御衰日也、節分以前猶依

用舊年也、

六日辛酉 敝位云々、

七日壬戌 天晴、加階事重付少納言入道申院、雖途別

左中辨雅賴朝臣去夜敝從上云々、仍立種々理奏達、午

越許有敝許之由、有入道返事、面目甚者也、即着缺腋付

袋、螺、參內、相具号平胡蝶、老、魚

螺、參內、懸螺、御野銀等、路上頭權左中辨俊憲朝臣送

書札云、可加敝之由只今被仰下者、殊被怨告送之條爲

悅不少、頭權辨官下加敝事於按察大納言、重此間太政

大臣以下起仗座被徘徊便所、上卿被申下位記筥、藏人

尹賴出宣仁門、置上卿前、令左兵衛督惟方卿書加下名

歟、加敝從四位上予、故祖父在相府殿令勤去永久五年石

位下高階重章、院判官代也、清水賀茂院兩社行奉土卿給之賞也

獻白紙位記、內覽歟、不見及、可尋、入位記當付職事、次太政大臣以

下被着仗座、天皇御南殿、左將等於仁壽殿東庭邊着

靴、出敷政門、不渡階、經南、藤相公光忠訓於陣後示云、隨身可相

者、然問隨身等皆出化、具也、權少將願定答曰、新大納言不可然之由被申也

德門廻來了、可尋、向日華門下尻進寄梓下、陣官取梓各

授之、中將察比禮、將等取之、柄爲<sup>續</sup>經次將與將監等胡床中、

自我座下進出前方立、左中將成靈朝臣、予、少將願定、家道已

入尻轡、不付魚袋、若胡床、故殿令敝四品給之時、雖令帶野銀給、不被

宗許也、中將實國、成親等朝臣、少將道退着胡床、以陣官先令立梓、次

然實國朝臣直自聽進進答、不敵事、失念歟、先是出御、無人于聲

蹕歟如何、若內辨下給下名於二省之後、近衛將陣階

下、天皇可出御南殿歟、早以出御如何、職事不申行歟、

若又不知此說歟、可尋事也、以內侍持下名出居東階、

藏人左少辨朝方扶持之、內辨良久不被見、仍頭權辨進

出東廂邊、召陣官、令告申內辨、內辨建立立立陽殿壇上之

內辨、太政大臣宗也、左大臣自去年院御氣色不快龍唐、右大臣爲關

後、內侍可出歟、如何、

白、內大臣申障不被參、仍太相關動仕之一上者不仰內辨、至于

太政大臣如  
何可等語。到東階給下名、着宜陽殿兀子召內暨、二省、此間外辦公

(○上) 願猶發坐障座、若被親見內辨作法之料歟、凡者先是各可被着外辨歟、內暨稱唯、出日花門參上、立宜陽殿西頭、北、內辨宣召、式乃省七兵乃省七召也、

內暨稱唯退出、次二省丞參上北面立、先召式省給下名、次兵省如先、兩省丞跪給之、兩省退出、次內辨退入、此間可出御歟、今日不下、給下名以前出御如何、次內侍如先出居東階簀子、內辨兀子之後、良久內辨歸着兀子之後、起座歷宜陽殿壇上、

侍可出歟、出酒瓶子○與之柱西、此事可奪、一位大臣、用此路未聞、南斜行、當左將胡床南頗乾面一揖二拜、其既、可奪事也、

北行出自軒廊西一間、人用西二間、二位人用東二間、若至太政大臣、用此路未聞、南斜行、當左將胡床南頗乾面一揖二拜、又一揖、右廻昇東階、入自母屋東第一間着座、次上官着階下座、階東簀子下也、次內辨被仰可開門之由、大外記師業

仰傳之、左右近衛各兩三出來開承明門、年三間、次圍司着草墊、次內辨下殿、取宣命昇階、被奏開、此間予起座、

經將監胡床上并櫻樹北、副砌出日花門外、頼定家通相從出、是依可立彼列也、於儀所邊予卷纓、懸老懸、撤魚

袋、帶野劔、負平胡錄取弓、兩少將又懸綾帶弓箭、相具出延政門、至于鳥曹子邊、此間內事依不見及不能勞

記、于時外辨公卿(按案)重、新大納言、中納言、中將、左衛門、源、宰相中將(實長、藤原相(光忠、鷹行、北上西面、列立承

明門外、少納言召人列立南庭、此門予進至承明門外、外辨依列庭中、近將起、公卿再拜、了昇殿、次式兵兩省

輔引敝人入承明門、式入東間、左中辨雅賴朝臣、外記師茂、兵衛尉、兩省輔各立案南頭、敝人各本位標下、次內辨以下

列立庭中、此間依爲額定新大納言通子、家、北上西面、左將後一位、三位一列、四位一列、宣命使皇后宮大夫實定卿、言爲宣命使、

降殿、出軒廊東二間南行、當日花門北扉揖、經公卿列末、揖後因折就版云々、然而依公卿列長、猶以南未行、經言殿就仰云、雖列長揖後即可向坤也考、就版、程願練步、

逆行揖指笏、右手持宣命、右腋開之押台、更當前開、當冠額程差上、更引垂當面程、(○數才樣云々、) 押合右願、

群臣再拜、此間作、次又宣命使如初右願、群臣又再拜、願各(省)略之體也、不被跪地、太相國如法被拜、宣命使卷宣命、拔笏揖左廻、此間立

花門北扉揖、昇殿着座、次內辨以下右廻昇殿、次二省輔召敝人、願(願)氣色若聲、式兵敝人各一人參進、予先

進式方雜類、跪輔西方、輔陪取位記授予、々置弓、取位

記、更取副弓乍居一拜、右廻立新敍標、次賴定家通又

如此、今度檢立本位標前、拜時、立上可拜歟、願失口情歟、外記史等給位記之時、置六

位笏於案下、取位記許退歸省掌後進寄、取之、已上式兵

敍人立定後、懷中位記、舞踏退出、次撤弓箭綫等、垂纒

淺履參妃御方、飛香、依無人招出侍、申入大盤所了、次參

關白御直廬、寫羅、無人、節會依未畢不令下給、仍向日花

門方、信國來向、申慶之由可申之人示付了、乍御直廬

猶歟、雖二拜可參他所、仍密々所相語也、次參大殿、高倉殿、無職

事、付侍申女房了、於中門二拜、次參皇嘉門院御方、於

殿上口招出藏人申之、二拜退出、次向納言御許、花山院、自

去四日卅日穢出來、仍乍着香懸尻於緣謁申、次參高松

殿、先依巡路申皇后宮御方、無宮司、付侍申入大盤所、

二拜退出、次參院御方、於殿上口付藏人重房申入復命

之後舞踏歸私、節會敍人拜之後參、所々不見後事、但右

馬頭不參、仍左少將家通朝臣勸也、於藏人町着四位

袍、垂纒取袴云々、今日皇后宮自高松殿行啓于三條殿

云々、未別許院御幸美福門院、是明日可有修正御幸、

日次不宜之故歟、公卿別當、鶴源宰相、侍從宰相、公

新宰相顯長、右兵衛督公保等卿着直衣供奉、殿上人布

衣云々、北面衛府等皆參上云々、或衛府來曰、被仰合

別當云、今日爲節會、衛府等內北面者外可參內歟、大

理爲晴御幸無人見苦歟之由被計申、仍皆悉供奉御幸

云々、日欲沒之間還御云々、

八日己亥 天晴、今夜修正可有御幸云々、仍着衣冠參

院、月卿雲容濟々焉、然臨期令留給了、各參寺々了、予

先參法勝寺、次寂勝、尊勝、已上書名籍於折紙退出、花

藏院僧正龜驥、瀬川院僧正入滅云々、依此事無御幸歟、院御叔

父也、

九日甲子 天晴、左近府生大石光堅爲大將使來云、來

十一二日爲府賭弓、將等各有障云々、一日可着者、十

二日眞手番可着之由申返事畢、今夜可有御方遠行幸、仍

夜陰參內、亥終冠出御南殿、近衛引陣、右將、中將實國朝臣、少將

渡左將、中將成盛出敷政門向日花門、持立御輿於

日花門階上、實國朝臣成憲朝臣見御座、次公卿左衛門督相中將公親實長、左房、左兵衛督惟方、到庭中、次少納言信範依修正御幸爲院宣此人被委了云々奏鈴、敕答之後稱唯、不召鈴名失也、寄御輿於南階、此間未開承明建禮等門、左衛門督被尋之處、近衛不承其旨、仍無益云々、忽遣取之間、良久主上御佇立御帳前、不敵事也、御出門、職事仰上卿、上卿仰外記、外記仰近衛、仍兼開門舍人令誠候事也、然外記申下知之由、近衛未蒙其宣之由申、可謂言語道斷、左兵衛督惟方卿召陰陽寮在憲、尋出御自日花門之如何之由、在憲申有方角憚之由、仍猶又重遣召益、良久持參、開之、卽御乘輿、先是主殿官人取御座覆、次右宰相中將公親卿開輦戶、御劍置御輿、次主上御乘輿、關白取御裾給、御座定間、宰相中將定房卿稱警蹕、次將隨之、次公親卿取璽筥置御劍北、納言殿可置箱次鑲蓋戶、次出御承明、建禮、於此門宰相中將公親仰御綱待賢門、東行、東洞院南行、郁芳門大路東行、入御自押小路殿河原渡、東門、寄御輿於寢殿南階辨、御輿公親卿開輦戶取御劍傳內侍、次下御、令立定南面

山槐記 保元四年正月

御之程、定房卿稱警蹕、次將應之、次公親卿取璽傳西方內侍、次鑲蓋戶、次主殿官人覆御座覆、次昇出御輿、左中將成憲朝臣留南階東脇、次少納言鈴奏、次成憲朝臣問公卿、次第名謁畢被候殿上、美福門院御也、然而非如在之儀歟、院司不申次、不及勸賞、鷄鳴還御、十日爲歸忌日、仍行幸于一品御書所、有鈴奏、依天明無名謁、逐電歸私、

今夜修正御幸云々、鷄鳴還御、依歸忌日不還御高松殿、御幸于三條皇后宮御所云々、

十日乙丑 雨降、今夜御幸于法勝寺、近衛將等不候還御退出、是明曉自一本御書所可有還御大內之故也、

十一日丙寅 雨降、鷄鳴着縫腋老懸蜜淺腹、時給劍、參內、一本御書所、昨曉自押小路殿還御、依歸忌日御此所也、仍今曉可有行幸大內也、公卿左衛門督賴、宰相中將、定房、近將左成憲朝臣、予、右成親朝臣、通家、卯

剋出御、取物內豎立前庭如例、左將渡、上卿列庭中、于時雨脚休止、成親成憲見御座覆、兼腰輿在於昇立西

門、先是風聲候此門、依用意云々、依雨止昇入風聲於東廂土間、寄輿輿、次少納言重雅候鈴奏、



次寄御輿於南階、兼權御宰相中將公親卿取御劔入御輿

前方、外次主上乘御、御束帶也、次公親卿取璽置御劔

末方、納言殿差越御劔可置次出御西門、入御建春宣陽日華

等門、近衛兵衛許供奉、左右衛門不候例也、御輿寄南

階、內侍兼候御帳左右、劔璽公親卿取之、主上下御、立

定御帳前御之時、定房卿稱警蹕、此事可尋、盛考右府入道大

將公致欲離御、座御之間被稱次將出御輿於右近陣方、宰相副向右近陣

方、成憲朝臣出本陣方了、少納言重雅出承明門、上鈴

奏、為雨儀、于時雨不降歎、但左衛門督被立宜陽殿壇

上也、予次廻御後、于時有遠御、御劔內侍前行、右中將

成親朝臣付之、頭右大辨顯時朝臣取御裾、次璽內侍、

予付之、元兼自西北之北面戶至于御殿額間供筵道、入御

之後逐電歸私、夜陰參院、御幸于圓勝寺、于時猶雨、此

御寺一夜修正也、及曉天還御、

十二日丁卯 天晴、未剋着束帶帶劔、隨身垂袴、着左近衛府、於

上東門下車、入府北門并內西面門、着弓場屋、昇東杏

脫着座、光堅云、年預中將也、成憲依妓女御覽祇候內云々、

仍予參內、於清涼殿東庭有妓女御覽、其儀下庇御籬、

御座大床昆明池障子押荒海障子下二間、出御几帳、新大

納言、結直左兵衛督、帷方頭權左中辨俊憲朝臣束帶求副三

間御籬東面被候、殿上人候長橋、女樂人琵琶一人、箏二人、候

二間前簀子、着裳唐衣等、前庭歌舞臺代褥、自石階至于東

用赤須繩自御殿良角至于仁壽殿砌引所司、為樂人

候所、自件所至于舞臺代敷筵道、余參上之後舞甘州五

聖樂、其體如天女、感淚難禁者也、事了向府、成憲朝臣

改直衣可着之由示、仍手結兼可出設之由觸了、府座引

柱內尺餘敷高麗二帖南北行也、南帖後寄竝敷今一帖

東、南帖上敷同座二枚、北圍座予着之、東面也、上臈着南

也、件北圍座前例文等、後一條院以後手結文也、荒手結文參

卷、入革宮同置前、硯置折敷頗凡歟、予二枚續檀紙三

卷、二卷可入、為用意今卷、一卷相具也、加禮紙、能筆墨等相具着座、予書手結寫荒

手結也、更無相違、荒與真字許相替書了、不書將判所

相待成憲朝臣、荒手結文予懷中、是故實也、于時乘燭、

於燭下馳惡筆、惡筆後以狼藉、已遣後代耻歟、良久成憲朝

臣着之、予書判所手結上、後參下卷重、以禮紙一枚卷  
 籠、傳成憲朝臣、々々令光堅取寄硯、書名字、予又書名  
 字賜光堅、々々下給請印手結文二通返上、成憲朝臣披  
 見加禮紙封之<sup>細切禮紙端一許寸差入、更廻卷右</sup>、入覽管、次射  
 手一人<sup>忠康、○廣、○廣、○廣、○廣</sup>、進立射之、雖不中の有的申鎮歎、此  
 間後方居膳<sup>朱、○廣</sup>、一獻勸盃將曹清原助種、次居汁立箸、  
 次大將家司勸盃、次有片舞、<sup>求子四人、西上列立、</sup>次大將家司取祿  
 授將、次退出、暨休息參院、有御幸于法勝寺、太政大  
 臣、關白、及大中納言、參議、非參議濟々焉、堂前座頗  
 無所、頗以被重着、此事令申納言殿之處、人多之時着  
 戶際座恒事也、強被着障子下之條甚不得心事也云々、  
 法勝寺事了御幸于延勝寺、事了曉天還御、抑今夜女御  
 殿同有行啓、御別車也、被分進殿上人、  
 十三日戊辰 今夜御幸法勝寺、次又御幸成勝寺、中宮  
 有行啓、御別車也、被分進殿上人、曉天還御、  
 十四日己巳 天晴、乘獨着束帶參內、<sup>帶劍、具靴、依御物忌、</sup>  
 御齋會內論議於南殿所被行也、公卿、<sup>按察(重)、宰相(中將)</sup>  
 (公親、宗房、藤室相)

(忠忠、新幸) 着右近陣座、一獻勸盃中將成親朝臣、<sup>未着陣、然</sup>  
 相(顯長) 勤二獻左中將成憲朝臣、右將運參、仍成親朝臣、相語云  
 云、次上卿召外記、被仰可入僧之由歟、次少將實宗勸  
 盃、不取續杓退歸、五位者至于<sup>中歇、</sup>沙納言取之、四位者取  
 大臣續杓事也、但連座取之、着奧者不取之云々、予於  
 弓場殿邊遙窺見之、不能具注、少將實宗許着座云々、  
 年預俊通朝臣不參、不敵事歟、次上卿以下起座着南殿  
 座、依爲南殿無召直被昇也、予此間候殿上邊、仍不知、  
 其間不着出居、不敵事也、右少將實宗許着之被事始了、  
 事不可闕、仍爲供奉御幸、<sup>○恐有、脫文、</sup>次龍典、次毗沙門、次  
 鬼、抑猿樂、每夜、初一度下薦猿樂、自第二度侍猿樂也、  
 事了鷄鳴還御、  
 今夜奉幣大原野、依吉方也、下庭取幣拜之、解除如恒、  
 先是沐浴、

十五日庚午 天晴、今夜女敝位云々、執筆按察大納言、  
 通、院宮御申文、依無近衛司、職事傳進執筆云々、右少  
 將通家兼以參上、與藏人尹賴鬪亂、兩人共放本鳥、尹

賴本結抽、忽現童子形、言語道斷、未曾聞事歟、於鬼間  
有此事云々、御所近々、不能左右歟、莫言々々、依此事  
近將俄闕如云々、

十六日辛未 天晴、午剋着衣冠參院、有尊勝多羅尼供  
養也、昨日予進廊、度(〇)五百及歟、復五卷、公卿直衣、申剋退出、可參節會  
之故也、乘燭着關腋參內節會、無出御、懸御簾於御帳  
間東柱及庇、先々懸母屋、今度懸庇如何可尋、若失歟、  
內辨新大納言、藏人左少辨朝方出陣仰之、次將左予、  
右中將俊通、實國、成親等朝臣引陣、坊家奏之時內辨  
被尋實國朝臣、朝臣退出、件人坊家別當也、不願件事  
退出、不敵事也、仍上卿招藏人左少辨朝方、出宣仁門、  
來軒廊、上彌兼、立新藤、奏事之由、俊通予當時候、何人可取哉之  
由被奏、俊通可取之由有敕答、仍俊通取之、凡者右將  
沙汰歟、但坊家別當未補之間者被付陣云々、此間頗勞  
事出來、仍余退出、不見及後事、依去夜鬪諍、右少將通  
家停任藏人、尹賴除籍賜左馬寮云々、頭左大辨賴時朝  
臣奉行、

十七日壬申 射禮云々、

十八日癸酉 天晴、今日賭弓也、御襄、午剋着束帶、帶經、  
垂袴、先參博陸御許、高者、可扈從之由依被仰也、大殿以  
邦綱朝臣、無人之間神妙之由被悅仰、博陸內々令遣見  
賭弓具否之由、然間已及晚頭、博陸、中納言中將、同舍  
弟中將兼、着束帶、令參大殿御方、便自土御門面令出  
給、中將被扈從、皇嘉門院判官行賴着、束帶騎馬在中將車後、次予、左中辨雅賴朝  
臣等同以扈從、中納言中將追可被參內云々、幼少之  
人若上臈不參者、作法有煩之故歟、博陸於陽明門下車、  
令參左衛門陣屏程之間、藏人皇后宮大進成賴爲御使  
參向、躡居博陸前云、左大將河大臣申故障不參、是爲故  
實、仍重遣召之處、依實故障猶不參、雖有大將不參之  
例、代始如何、可令計申給者、右大將着爲重服也、重服大將參、  
次、博陸猶被尋先例、可依例之由被仰成賴、成賴奉仰同  
馳參大殿、然間良久更漏欲闌、及深更猶可被行之由事  
切了、亥始剋出御晝御座、青色御袍、御束帶也、御良巽角供掌燈、供  
下、關白令坐椅子西邊給、于時藏人右衛門權佐真憲告

出御之由、仍予於殿上口掃矢於腰、取矢奏、唐晉人持杖也、文上爲左、須須予加入神仙門、跪時簡傍程、時簡者、依數侍

陪仁在掃押、如恒奏書、戶前、可居時簡傍之由、注關白目給、予起進小板敷下、脫沓

懸膝於板敷、膝行寄長押下、中間、頗如居定、也、唐差沓杖

獻關白、其程遠者可懸膝於長押云々、關白取文置給、予頗逆

退猶持杖候小板敷、關白披見文差置給、予置杖於右方、

後案、猶副長押可置也、於弱簡、膝行昇長押取文、逆行取杖、杖

奏文之時、副長押置之可准也、膝行昇長押取文、逆行取杖、杖

在上、文退下、退下、着沓、直欲着者自有煩之事、先下予○于諸本無

還出神仙門外、更稱文於杖又還入、至于小板敷下、先

脫沓、懸膝於小板敷、昇立入中間、雖關白令坐、居上戶前、

年中行事障子北妻室也、障障子依數筵道押壁下、主上可目御次、

相許本所居也、有障子者可居北也、往居已上用西、主上可目御次、

暫雖相待無其氣色、依暗歟、然而微音稱唯進參、三板、跪

御座南間、膝行懸膝於長押、又膝行向御座至于杖及程頗

如居定、也、唐差寄文杖奏覽、主上拔取御文置御、予逆行

居長押下、持之天覽了置御々前、予置杖於右方、其音、膝

行取文、又逆行取書杖、杖在上、左廻經本路、突膝於小板

敷退下、向北着沓事如初、次出神仙門、於殿上口返給

官人、或賜行奉藏人云、次右近中將實國朝臣奏之、不掃矢、

又下給文之時、持杖參進、又入御座間云々、三事大失

禮也、次左兵衛佐脩憲奏之、掃矢不帶劔、外衛之例也、

奏聞儀如恒、但揚文右掃矢歟、失、右兵衛佐基家奏聞如恒、

次予向幕中、下、用閑道也、見射手座之處、已善處、誰將引哉之田相尋

曹藤澤吉富引射手云、之處、光堅申云、將監引之者、康平四年三月十四日將

仍藏人辨真憲進出無名門、召將一人、右中將成親朝臣

出幔門、自無名門參進、今日將路凡不用無名門也、然、持御劔

內侍前行、關白取御襪、持璽內侍在御後、以權左中辨

俊憲朝臣付之、此間左中將成憲朝臣、帶劔、持出幔門、着

出居座、自陸後、次內侍置御劔於南机、又南、次主上出御

自籠中、着御々倚子、自南方着御、關白、次置璽筥於御劔同

机、願方、欲御座定成憲朝臣稱警蹕、退右足、次成憲朝臣起座、

同天、出幔門、經階下、出入南階、副入軒廊東二間、右中御門

氣歟、出幔門、經階下、間定道也、就膝突、不脫沓、凡當在膝突之間可入歟、

云、就膝突、然者、一位人着四間、仍又用軒廊

爲上階、仍當東二間也、自上一々見下、更見上、向新大納言

召、予依暗於南殿、聖邊何見之不聞其音、嗣云、召召瓜云左廻經本路、

留立南殿階西頭、當昇柱程北面立、唐案北山抄留立階西頭上、  
間、是疑上疏參云々、然者左大臣不兼大將者必可立階西頭、次上者依此  
上疏之參、取奏之次開歎、召將式(○或ノ)不立階西頭本座云々、依如  
此儀歎、守、成憲朝臣起座之後、左中將兼實朝臣替若出  
階定露歎、

居座、予依可動の付不着出居座云々、召後諸卿(新大納言(延、源中納言  
中將(公親、實長、定房、藤原相(光忠、顯長、起持)弓矢、歷宜陽殿壇上軒廊階下等  
或不被揖、如何、着座、向座揖、居定後、與成憲朝臣相揖、揖、西上南面、成憲朝臣復本座、北上西  
面、次新大納言起座出幔外、立檣樹良方、當南殿西、

向立、給弓、於召使、捧矢被目予、予立檣樹罷退、去上卿前二許  
見北山抄、或記又南階西列立北上西面、不以先例云々、仍難指南、進寄  
余將佐等徘徊南階前邊、雖何所可列立歎、西上北面可立云々、  
於一許丈突膝、置弓取奏杖、將監持之相從文檣捧之、進寄差

寄文杖、上卿披之、予持空杖、退在弓之所、(夾歎)紙持指  
披見、如元卷之、又被目予、又進差寄文杖、上卿差入文  
中於文杖片杖縱捧之、予又退立、次左兵衛佐實清取副  
文於弓進寄、於上卿前一丈餘置弓、起弓進上卿前、此

事如何、上卿取文披見、(兵衛者相加、引懸紙懷中、以一懸  
紙卷籠二通、實清退歸、上卿被目、予進寄差寄杖、上卿  
如先縱懸捧今片杖、予又退立、次右近中將實國朝臣、

右兵衛佐基家取奏如先、但右奏便先披取之、此次被問  
的付名、實國朝臣申云、實宗、次上卿又被目予、進寄取  
直杖、奉杖上方於上卿左方、此次被問的付名、申予名  
了退歸、突膝取弓退歸、次上卿出幔門、經射場東北廊  
行逢間、斜南折先屈行、西折屈行、不及欄下五許尺、膝  
行差奉杖、主上披取文御置南机、上卿進立、左廻出  
自本路、於幔門外拋杖、(或賜官、取弓乍捧矢復座、拔矢置  
前、主上天覽訖目御、上卿大納言取弓、不着着、進而置弓、  
膝行給文、左廻復座、矢取奏禮、紙不下給、左近左兵衛奏加、左近文中  
衛、右如此置座前、次上卿召予名、五位者召名許也、稱唯  
出幔門、經出居座前并行逢間、跪上卿前、乾、上卿右將  
可連參之由被下知、上卿不召右將名、仍不參歎、若上  
卿被失歎如何、右少將實宗同參上居余東、上卿取右近  
右兵衛奏賜予、々置弓於右、給文左廻、經本路出幔外、  
官人持來硯、(予參上之時、相尋令戒候、居柳篋、予加置文於硯、置弓於  
柳篋上、取加出幔門、進的付座、西面、左數、北面、右數南、脫着着座、置  
硯弓等於座前、參寄下嬰尻候、右實宗又如此連參也、

右兵衛佐基家取奏如先、但右奏便先披取之、此次被問  
的付名、實國朝臣申云、實宗、次上卿又被目予、進寄取  
直杖、奉杖上方於上卿左方、此次被問的付名、申予名  
了退歸、突膝取弓退歸、次上卿出幔門、經射場東北廊  
行逢間、斜南折先屈行、西折屈行、不及欄下五許尺、膝  
行差奉杖、主上披取文御置南机、上卿進立、左廻出  
自本路、於幔門外拋杖、(或賜官、取弓乍捧矢復座、拔矢置  
前、主上天覽訖目御、上卿大納言取弓、不着着、進而置弓、  
膝行給文、左廻復座、矢取奏禮、紙不下給、左近左兵衛奏加、左近文中  
衛、右如此置座前、次上卿召予名、五位者召名許也、稱唯  
出幔門、經出居座前并行逢間、跪上卿前、乾、上卿右將  
可連參之由被下知、上卿不召右將名、仍不參歎、若上  
卿被失歎如何、右少將實宗同參上居余東、上卿取右近  
右兵衛奏賜予、々置弓於右、給文左廻、經本路出幔外、  
官人持來硯、(予參上之時、相尋令戒候、居柳篋、予加置文於硯、置弓於  
柳篋上、取加出幔門、進的付座、西面、左數、北面、右數南、脫着着座、置  
硯弓等於座前、參寄下嬰尻候、右實宗又如此連參也、

次上卿被示可懸之由、於出居座左中將成憲朝臣仰之、其詞云、前如介、于時右中將實國成親等朝臣在座上、木工寮懸之、次省掌員刺等著

座、次近衛矢取十人自期前渡西、次左中將成憲朝臣起座出幔外、歸入跪上卿前、申射手障、其詞云、將監、藤原季遠、扇爾勞事候、儲以番長、秦兼在

令奉仕、上卿取弓被目在無名門內之職事、頭左大辨顯時朝臣、隨踐不取矢、頭權左中辨又同、非近衛將職事不可取之由、日取之、經信卿被稻云々、然通後、匡房、季仲、宗忠、重實等爲頭之云々、進出跪上卿座上、西、上卿更被問申障之者儲名、將

申名、上卿被傳申頭辨、頭辨退歸無名門、自御後奏聞、歸出仰救答、四食、上卿被目、將成憲退歸、直着出居座、

若出幔門仰救計、次右中將成親朝臣又申射手障、其儀同左、今度傳奏頭權左中辨俊憲朝臣也、次射手進出、將監依

申障、儲者其替參上射之、此間予取近衛射手文、無禮紙、有誤紙、

卷返隨射註的皮、

假令書樣、

一度、少員、二度、勝、少員、

三度、少員、一文端書之、員勝者書毋字、無員者只書少員、貞度、只又書員許也、今度字三度貞、然而勝字、注假令也、少員、每度注也、書樣相覽書一、二、三度、又引雜書云々、

山枕記 保元四年正月

將監、

府生、、皮皮的

、

、

番長、

、

近衛、

、

、

、

保元四年、

儲二人

番長、、皮皮的

、

左右近各十人射畢、一度間居衝重、無岐、每前也、○一本無也字、內膳大膳居之云云、公卿立弓於後、出居、兵衛員刺矢取相替着、次左佐實清申

的皮字將隨見在注付之也、始矢注端、乙矢注與、已上三度也、

射手障、諸子申代止、是大納、言宗能解教訓云々、敕許之後返出幔門外、右佐基

家又申之、予取右兵衛射手文卷返、此書無統如、何左兵衛之、次兵衛

射手進射之、頗斷腸、左右十人射了、頗不足、重參之間頗遠、右兵衛一書少員知近衛、

二射手進之間供御膳、一度之間居公卿、衝重之後可供幾、頭左大辨顯時朝臣

持一御臺出無名門、稱警蹕、押射堂北御屏風東妻於頗

西、懸片尻、居御臺於北机上寄西方、次藏人右少辨貞憲

取二御臺盤進、不稱警蹕、自宇津保津保柱丸、東傳頭、頭辨取之、並居一御臺東、

次內藏頭家明朝臣持一御盤傳頭辨、自宇津保柱西傳之、頭辨一々

傳取之、御菓子四種等居東御臺、引題次、次右馬頭信隆朝

臣取二御盤傳頭辨、其路同家明朝臣、兩人稱警蹕、頭

辨次第傳取之、干物四種居西御臺供了、頭辨如元引合

御屏風退歸、頭辨持御臺進間、射手等跪歛袖居地、供

了上卿被命可射之由於射手、射手次第射之、此度末上

卿目頭辨、頭辨來被奏可停兵衛射手二三度之由、是恒

例也、敕許之後、上卿仰成憲朝臣云、三度爲限、可召左

兵佐者、成憲朝臣起出居座召佐、實清參進候上卿前、

被仰二三度可停之由、奉仰實清退出、近衛二度射了、又

三度射手進射之、此間主上入御、射手等跪居、公卿取

弓平伏、出居成憲朝臣取弓稱警蹕、宰相中將等在座、此事如何猶可尋、予又

實宗取弓、別當兩藤宰相等先是退、經公卿座前出無名

門、中納言中將又追被參上、出無名門着座、凡遲參人、

中間退出人、皆用無名門、三度間頭左大辨進出、仰射

遣宰相於上卿、上卿仰宰相中將定房卿、定房卿經出居

座前、向射遺所、射遣宰相或經仰歎、其時射遣事了參上宰相經公卿着座後、猶經出居座前參上云々、次三

度了籠後塞乙矢亂聲、後王亂聲、依左勝也、後塞射了、予如元卷文

取副弓、乍居着沓、進上卿前置弓奉上卿、上卿頗小員

程許披見被目、仍予左廻至予的付座、取硯退出幔門、

給官人了、右如此、次上幔門南方幔、次龍王出舞亂序、

此間予依可供御膳、自御後密々廻渡殿方供御膳如恒、

此間龍王了、右奏納蘇利亂聲、上卿仰被停之、次公卿

出居退出、取衝重之雜人音頗喧嘩、予供御膳逐電、于

時丑剋也、廿一日丙子 天晴、今日內宴也、予依可候出居、午剋

着束帶青色闊版、纓細紅、魚、參內、御裝束等如式、未刻自御殿、于仁壽殿西面西兩戶、出、先是女藏人十人着紫宸殿北廂座、御自同南座東向殿中、

次采女二人進撤御臺盤覆、右中將俊通朝臣取御劔前行、出御座西間簀子、入東間、置御劔於置物机、次主上赤白、御劔着御々椅子、關白取御駕關白、

神璽於西置物机、去年信賴卿爲頭中將置此机、次陪膳典侍此俊、紅打威冬表者、云々、猶同御劔可置東机、、出自廂西簾中、下

御座西間簀子、更昇御座間長押、着御座之巽角圓座、不居草墊、頭備左中辨後、

經公卿座與出居座中央、候石灰壇間伺天氣、歸出本路、經左青環門宣仁門并幕外、着膝突召公卿、不持笏、此人

公卿、內大臣、左大將公也、安察、前兩納言、公通、朝臣、左衛門督、光親、權中納言、雅教、侍從宰相、公光、藤宰相、頭長、皆、

敷政門外着靴、正笏出暢、出西頭發列、去年式、○或、、

敷政門外着靴、正笏出暢、出西頭發列、去年式、○或、、

敷政門外着靴、正笏出暢、出西頭發列、去年式、○或、、

敷政門外着靴、正笏出暢、出西頭發列、去年式、○或、、

山槐記 保元四年正月

退立舞臺長角邊謝酒、謂又二、畢實宗來返盞、還出本路、造酒正廳候、上膳經、

着座、內大臣、前中納言、左衛門督、權中納言、藤宰相、若南座、被察、、

膳傳取居御臺盤、索餅御飯供之、居板之時、

殿上人着靴益送、下管事、并未座宰相居了、、

朝臣行酒、進內大臣座上、先受酒跪飲、、

給酒盞、次第勸南座人、次進上勸北座人、公卿座者始自內、

公卿拔箸下草墊、跪指笏給之、居大盃、拔笏着座立箸、

次供二獻、賜力、

成憲朝臣下南殿長片階、於敷政門邊召之、此間內教坊

九七



別當按察大納言起座下殿、於左青璣門東指券、取舞妓

奏右中將實國朝臣傳之、件、參上、經公卿座末并西、至于仁壽

殿南簀子、漸屈行入東第一間、右足當置物机程、乍北

面跪膝行、向西奏之、主上取奏置御西机、按察持空杖

左廻下殿、於本所返杖、此間樂人作音樂、式云、便立綾綺殿西朝上、目

樂人以扇、按察於階邊取盃、被勸內府、按察、唱平次第如先、

殿上五位取酌、至三獻猶殿上人可動也、然依及晚、可被停獻致之

後又可被勸之由、內府次舞妓樂人出自綾綺殿殿障南頭、殿

內三匝着草蓆、此間奏、式部大輔承範(依序者昨日被聽

但可獻題之故、大泉頭範兼朝臣、文章博士長光朝臣、大內記信重、

守光、皆青着座、西上北面、右大辨食長朝臣、頭權左中辨俊憲朝臣、大

色閑殿袍、宮極亮實經朝臣不着座、文章博士俊經出參、依所勞

不待退出云々、御賓長朝臣青色并下殿等尻長、俊經朝、次殿上人等

給紙筆於公卿文人、王卿并置御筥、雖不獻詩之人前置之、置大盤

內障、出納等次內大臣拔箸取笏起座、向御所方齧折、式云

稱唯來立內大臣後、仰云、題進禮、永範朝臣稱唯跪居、

內大臣取座前視給之、自座下、永範朝臣書題、在下、催歌、撤

柳宮雜具、入題柳宮授大臣、題書方、件書題紙屋紙、內府差笏取之

入東一間、始右當置物机程向西跪、築置、視也、膝行奏之、主上

取御文、內府持柳宮候、次御覽了返給題、內府左廻還

着本座、返給永範、清書御題奏覽如初、主上取御令置

西机給、次四獻、中納言中將行酒、五獻前中納言、朝、六

獻前中納言、公、七獻權中納言、左衛門督起、四獻以後用土

器、按察之外不被唱平、公通卿行酒次第、先文人、次出

居、自餘先出居、次文人也、四獻之間奏舞、妓女裝束總五

張、此間入御々後籠中、人々見舞之間不知入御、而後內

府以下有被召之氣色、頭權辨於階邊示出居云、劍璽可

置籠中者、成憲朝臣予進取之、置籠副御疊上、舞先春

鷲囀、次喜春樂、次三臺、舞曲之間、頭權左中辨俊憲朝

臣進內府座後、宣下女鉞位紀伊三位、事、內府起座被向

陣座、頃之被還昇、頭權辨令右中將實國朝臣別當、申按

察別當、云、舞雖可有六曲、已及黃昏了、四曲有例、三者

不分明、何樣可候哉者、入御了付職事可奏聞之由、內

府相共被答、仍令藏人奏之、遂三曲也、三臺急之間供

掌燈、御座左右當机、公卿蓋盤上下、件下、先依及晚、成憲朝

臣起座出敷政門外、卷經懸綉帶平胡籙、御座不收、歸參、次

子相替又帶弓箭參上、次舞了文人自下庸獻詩、不着座

權邊見座次參(○第)上置之、頭、權邊雖位階下、右大辨之後獻之、取副詩於笏、跪文臺南北面、

懷中笏、本儀者、頗開文臺宮蓋入也、以文下為御所方云々、或

不敬、公卿中納言中、又同前、已上文入稱名之由、備自東方置之、又置宮後、

着御倚子給、成憲朝臣予進簾下取劔置置之、內侍傳之、

次內侍被仰可取文臺之由於成憲朝臣、起座經公卿座

末跪內府後、更又奉命直可進文臺下、跪置弓北面、取

之由了、然重何可奉命哉、次進文臺南、跪置弓北面、取

文臺上筥、經臺盤、東昇御座間、置御前、猶經柱東可置御前、

內府可置筥之由被示、仍置東南、康保御訊、東南邊例之由見、

御前、置東南者御蓋盤東五尺許云々、但可置、去年式、年々例或東南或御

御前、當時大臣取之可置東南歟、可置、次陪膳退入、次內大

臣起座候東第一間長押上、西、中納言中將以下候御前

并東一間簀子、北面、按察大納言下、次文人依召候公卿後、次

於南殿長片階邊、成憲朝臣取指燭、經公卿與出居座中

央、入東面間、候簾中、予又取指燭、經公卿座末、入御

座、候御臺盤盤角邊、弓猶持之、若可入一間歟、然公卿等居文

了、去年又如此云、內大臣召成光、成光入東面候內府北邊、

云、蓋配不見及、次內府先取筥蓋置成光前、取序朝臣也、序者承疏

次內府先取筥蓋置成光前、取序朝臣也、序者承疏、披展置蓋上、以

下為西向、成光為講師也、次取宮身授前中納言朝隆卿、令

撰其次第、披展以而為下、入、講師許也、無祿、去年又如、講師

講時頌者讀師勤之、然而內府不堪其事、願被命公卿座、

朝隆卿召頭權左中辨俊憲朝臣、俊憲進長押下頌之退

歸、已上十九首講了、講師退下、內府乍重卷詩覆文臺

筥蓋退下、次指燭退、抑讀詩二三枚之間、少將實宗唱

祿、見參云々、或(○式歟)云、少將唱名自下召之、隨召稱唯、下殿

祿、見參云々、給談云々、其音不聞、只進立祿邊者、先是內殿察積舞

置、置、掃部察、公卿以下事了下殿、階上邊、次藏人數圓座於

御座間、簀子東行敷之、座南邊斜行置之云々、次內大臣、

拍、按察、筥、新三位、季行、被着圓座、北面、次右中將俊通朝

臣、筥、實國、筥、予、和琴、御聖合度始委御、內侍所御

後、次侍臣取琵琶、於南殿北廂中戶授內大臣、內大臣

取之入御座西向、被置御前机、此机去年不設、立歟、依時候歟、次侍臣又置

御笛筥於內府前、內府取拍子次第取下、按察取筥被授

實國朝臣、次侍臣置筭於俊通朝臣前、置和琴於子前、御遊次第、先呂阿名尊、鳥破、美作、賀殿破急、次律伊勢海、萬歲、更衣、三臺急、御琵琶可謂神妙、內大臣不堪與、願仰實國朝臣令仕五常樂急、次侍臣取祿、出南殿中戶給之有差、改御遊座、猶不脫靴、次宸儀還御、右中將俊通朝臣取御劍前行、頭權辨取御袴、博陸不着座令退出給之故也、於西籠中脫御靴、令着御草鞋御、予取璽、置弓於机下、脫靴於籠邊、於額間障子戶傳劍璽於內侍、出夜御殿可取歎如何、入御後予逐電退出、

廿二日丁丑 天晴、今日關白被行大饗、東三條午剋着東帶結參東三條、予可勤掌客便也、凡人自院從遣之未剋公卿七八輩被參候辨少納言座、南上東面主人被着親王座上頭、東蘇甘栗使藏人資康背色紅櫛下來立西中門、式部大輔永範朝臣進謁之、歸申主人、居南主人仰可敷座歎由、藏人五位三人各取高麗帖一枚、茵一枚、圓座一枚、出祿所、籠中敷之、圓座敷西孫庇南第一間、密西面疊敷同第三間、北扉東其上加東京錦茵、主人經簀子着圓座給、北、此間公卿

被隱便所、次藏人五位二人取蘇甘栗、經上官座南簀子、置敷使座前、顏寄西、蘇東甘栗西次永範朝臣奉仰召敷使、敷使經上官座南簀子參進、先南面候孫庇西簀子、依主人御目怒着座、不居茵、着結西端次藤宰相光忠卿取祿、祖出祿所籠中直給敷使、置左敷使取祿降自寢殿西面階、出砌外再拜、跪出西中門、敷使降間主人起圓座、復親王座、次諸卿又着辨少納言座、敷使拜了藏人五位撤蘇甘栗并主人

敷使等座、次予出祿所籠中、參候南簀子、候西二間中央也、東柱下歎、北面候也、御蘇甘栗使參上以前、依奉行人、可候三間若二間、命進參大殿自籠中被仰云、敷使後可參云々、如何、主人有被仰之詞、見次第、其詞不聞、予微音稱唯經上官座南簀子、向內大臣家、可騎馬也、伴移馬本家相設、相尋奉行人之處、有無不分明、予乘車用閑道、予乘所案、雖有馬乘車、可相具馬之由、存知旨也、是治曆三年內大臣大納言宗能離乘車、猶隨身乘其馬云々、近代用路儀歎、此事相尋大納言宗能離之處、彼人此役一兩勤仕駕馬之由、被示、令申合納言殿之處、只乘車可用閑道、之由被仰、且依後仰也、立中門、權中將實國朝臣、降會歸入申、內府即歸出稱云、只今、予逐電自閑路馳歸、寬立東三條北小門邊、騎馬可前行、於東三條見尊者來、於一許町余進本路、候簀子、申尊者來之由、諸卿以下列立西中門外神殿軒廊南砌外、下自西中門南車寄、公卿一列、辨少納言一列、五位辨列少納言下、外記更

一列、五位六位外記主人令降立南階前方東給、散位信、尊者車大夫史等東上南也。

向門立、宰相中將公親、實長卿、侍從宰相公光卿、尊者

屬從也、尊者來入之前加列、前驅立榻、權中將實國朝

臣取沓置榻、前驅開檣榔戶、頃之實國朝臣裝車罷、內

府着火色、入門、當按察揖入中門、內府之隨身尊者以下列

庭中、餘者內大臣也、大納言二人(重通、經宗、中納言三人(基房、伊賀、雅致)參議六人(師仲、公親、實長、光忠、定房、公光也)頭

長雄方、事、次主客再拜、主人渡階西邊、尊者進庭中二度

揖讓、次主人至于階下東面立、尊者又至于階東方西面、

又三讓、主人先昇、左足爲先、昇自階西之人爲先、尊者相立、

主人着親王座、尊者入西一間、經辨座前、公卿與座後

着南茵、次按察以下次第離列、昇自南階西邊、經實子

入南西第一間、相分着座、按察發、着座禮、辨少納言外記史等離

列、昇自透渡殿西階着座、外記史昇自座南實子西面小階相分

着、少納言信範給次第於透渡殿行事、兼日事、大辨實長朝臣

召使等取公卿沓、酒部所人參入着座、檢非違使等大夫

經、六位對信隆、兼成、入西榻門着酒部所東北頭床子、兼首婦

爲信、志能景國忠也、戶昇八

尺床子二次一獻、主人起座、此間辨少納言起座、

脚立之二、平伏座後長押下、自實子西行、

令跪西一間邊給、取盃入西一間、經親王座前、就尊者

西南勸之、殿上五位取瓶子、右中將俊通朝臣於渡殿取

盃、進與座勸之主人歸出、此間事不見及、藏人五位取

圓座於東方、敷南座西第六間西柱下敷、主人令着其座

給敷、外記史勸盃地下四位敷、凡件勸盃不見及、二獻

勸盃右馬頭信隆朝臣勸尊者、右中將實國朝臣勸與座

人、三獻勸盃左中將成憲勸尊者、予南面、西一間經辨

少納言座前公卿與座後、居新大納言東北方勸之、按察

起座給尊者盃、按察歸着本座被下盃之時、新大納言又

被下、次人受盃之時予右廻歸本路、次右少辨真憲召永

業、引首一聲也、參上申、永業稱唯經座南實子寢殿西弘廂等

業、尊者之間不見及、居右少辨後方、辨仰可申史生之由、永業史也一揖、遂巡

左廻、復座召官掌、聲召之、官掌稱唯、永業仰云、史生、

世、官掌稱唯、史生官掌等列立庭中、再拜了左廻、遠廻

經列前、渡反橋着中島屋、主人隨身子毛野武

包丁人取鳩、飼渡殿、囉囉飯後、出東、勝門退出、次

雅樂發音樂、龍頭鶴首浮池上、頭以下舞人樂人下船、

經反橋列立橋西池岸左右、奏舞了奏長慶子、經本路歸、乘舟退出、次四獻勸盃、自今度公卿也、自下被勸之、六獻之後仰祿事、辨少納言祿事右中將俊通朝臣、右少將實宗、外記史祿事藏人五位二人也、凡盃杓七獻也、主人起座、勸盃辨座、此事程分明不覺、可尋、凡皆七獻後、或又五巡以後、不詳覺、辨少納言退下長押下、主人經前着空座上、右大辨資長進給之、又退平伏、次主人經本路令歸給之事畢敷穩座、敷則座於寶子此間尊者入祿所方、又被返出、是小便歟、人々被着穩座、按察取拍子、初度云々、笛皇后宮大夫伊實卿、篳篥新三位季行卿、隨御遊期季上獻、歟野本作云々、琵琶前少納言通能、箏右中將俊通朝臣、和琴源宰相師仲卿云々、御遊體頗不優、呂美作一許也、此事如何、予依小患退出、不見此後事、以前事又隨見及之間不具、大殿皇嘉門院出籠中御見物、大殿着烏帽子直衣、公卿參會以前出客亭御覽之、關白令跪簀子給、大殿被仰可令昇給之由、仍懇令着座差筵上給、

今日修院呪師展牛御覽云々、別當信賴卿候御前云々、

廿五日庚辰 天晴、午剋着束帶參內、次參轉輪院御國忌、公卿皇后宮大夫、宰相中將、公親、實長、藤宰相、光忠、侍從宰相、公保、已上、右兵衛督、不帶劍、等參上、殿上人十餘輩也、未剋講演始、御導師明雲僧都、御佛圖佛也、事了布施、公光卿取導師被物、次例時、申剋退出、次參院、次歸私、卅日乙酉 天晴、今夜中宮行啓于大炊御門、右將軍奉也、春日祭使先日府催之間辭退了、然、頭左中辨、奉行被催促、猶旁故障之間難勤仕之由令申了、今夜參詣廣澤寺、行願寺等、

本云 治承四年六月廿五日未剋書寫了、

侍從々五位上藤原朝臣忠季、判、

翌日之朝校合了、

建久四年十月十五日已剋書寫了、

侍從々五位上藤原朝臣兼季、

應永廿七年九月十一日書寫畢、

于時藏人頓  
左近中將藤原朝臣(判)、(私定親卿也)

## 保元四年

二月

元祿第三陽月初三夜、於燈下令書寫、抑此卷始簡會、至大臣大變、  
近衛次將作法尤以詳明也、可謂羽林要樞歟、仍分端方爲兩册者也、  
從四位上行左近衛權中將藤原朝臣定基廿二歲

一日丙戌 天晴、夜雨、今朝頭權辨爲院宣猶春日使可  
勤仕之由、有書札、仍領狀了、納言御許自去月四日有  
卅日穢、然而於事無便、乞摺袴於人々、近衛司并可經  
之人也、各遣消息也、

二日丁亥 雨降、申剋休止、着直衣參左大將之許、三條侍方  
尋職事、無職事、頃之持來云、只今予暫居中門廊之間、

以息男中將實房朝臣着水干袴、被示云、自除日之時頭風更

發、何事哉者、予返答申春日祭可申請陪從裝束之由

也、中將返來、件事所存也、但何日哉、予申十一日之由

了、次參博陸御許、高倉殿、以豐前守長定申舞人半比下重、

博陸被申、大殿命曰、輕服日數內也、先々如此之時不

給也云々、舍弟禪公去年十一月入滅云々、晚頭歸私、

三日戊子 天晴、申剋着束帶參內、晚頭供御膳、是新

藏人清綱初供御膳也、仍自按察大納言通、之許被語此

事如何、然而依彼命難背參上、又今夜妃有行啓、且爲便歟、抑御物忌也、然被破云々、朝膳了之後供掌燈、清網取之立一御臺盤北邊、供了參妃御方、飛寄構出御車寄於東北門方、弘徽殿此間小雨、即休止、戌終剋許寄御車、依程狹不能招、對行也予密々向陽明門騎馬、公卿侍臣多

又自此門被出、御車於上東門、予於陽明門前落馬、出カ依損害猶以供奉、公卿新大納言、經權中納言、雅別當、信源宰相、仲宰相中將、實長右兵衛督、公新三位、季殿上人卅許輩也、大宮南行、二條東行、町南行、入御自高松

殿東面門也、御車唐也、二分等束帶副御車、櫛御車副布衣、下御了後出御殿上、被定立后事、公卿內大臣按察被參加、又自今夜每日可有御觀云々、今夜陪膳越後中將成親朝臣也、抑立后敕使頭權左中辨俊憲朝臣云云、今夜行啓以前被行下名云々、任人無別事歟、除目

時主殿允高階信弘被任少史、本所望外記、仍辭退、更還任主殿允、可謂嗚呼歟、

四日己丑 午剋參納言殿御許、申承春日使之間雜事、

納言殿今日出仕、日様出來被參院美福門院也、布衣權中納言、教以書狀被告補妃姬宮也、來廿一日可有立后事、職事之由、不被所望本職事、人數少之故歟云々、

五日庚寅 天晴、未剋着直衣參左大將許、申請舞人半比下重、是障之故也、着烏帽子直衣被謁、陪從裝束已無術之由被示、雜談之後頃之退出、是關白障時可申次大臣、然太相國無力、左大臣近日被憚世間之體也、仍雖爲方大將、陪從裝束被調之上、重申內大臣也、然被命無力之由、仍向太相國之許、自與方被出之間、閑所程被敷上被着足駄、其音高聲、不似常習歟、頗微咬事歟、着烏帽子直衣被謁、又申此由、被申無力之由、雖納言中有勢之人、如此事相訪常事也者、即退出、參向納言許申合子細、內々可申大殿、是別御訪儀也者、仍參大殿申此由、御返事云、其例如何、今者非人數、不備職掌之身也、但闕不便歟者、仍不能申左右、此事不可依例有無、存前關白可下給之由非申請、不可爲外人、依有關內々申請也、然忽被尋例、不能左右、事與心相違、

後日以長定被仰云、彼舞人半比下重事闕之條不便情思食子細、密々調遣如何、是自殿下調遣之條不可記置、只內々自大殿以別儀遣之由可存者、仍畏申了、何如此臨事可備後代例乎、至于內々事只可依親疎歟、申御返事了後、不知此由、存事闕之由、付納言御許被仰遣別當信之許、已又領狀、于今闕如事遂又自兩所被訪、欲令留申之處、頗無便、仍猶豫之間、乍兩方不申左右、

今夜院女御出給三條亭父內大臣家也云々、雖有催、稱障不供奉、

六日辛卯 天晴、依內番今夜參內、語付他人退出、春日經營之間無暇之故也、

七日壬辰 天晴、秉燭自大殿、以史大夫俊重令送舞人半比下重粉給、中八丈絹十疋也、是關白御障之間、內申請大殿雖可被調送、爲內々事以料絹遣云々、予出中門廊北籠中謁之、後重埜精居中門廊、畏申了、今夜院御方違御幸云々、

八日癸巳 天晴、自姬宮下家司布衣持來御裝束行事注文云、推只今案歟、太凡歟、

廿一日 御立后、  
殿上裝束 御裝束始十二日、

行事越後中將、  
花山院中將、

十二日春日還立也、雖參次々日可參內申了、下家司可書付申次人名之由示、仍令書付了、近代苛法於事如此、

十日乙未 天晴、半漏着缺腋、付魚袋、隨身着鍵輪、不及手振、雜色常色每事以簡略也、率陪從舞人參內、於春花門相待予相率也、入武德門、參弓場殿、發歌笛、藏人出遇、取藏寮大褂與予、々取之舞踏、自本路退出、於春花門邊留藏人等了、秉燭程須參、然舞人半比下重、遲引、仍于今遲々、遂光堅申云、內參者雖不着半比下重、着退紅袴許參上、恒例也者、仍所參內也、半比下重隨到來、即送本府了、別當信被調送也、關白假、大臣恙、不被訪、仍納言殿被仰彼卿也、祿



以下皆送本府了、

十一日丙申 天陰、未日出着直衣、依簡略不及、

相探御劔、

先解除、次

着半靴、騎馬進發春日社、前驅在馬前、侍在後、自宇治

路下向、于時小雨時々下、至于宇治休止、於丈六堂披

破子、申剋至于南都、須宿梨原、然近代不然云々、且依

便直宿立修已講房、與福寺東面北築垣下門內南殿、雖寺中先々件已講舍弟信能中將宿云々、設別當

僧正并立修已講送之、送酒奠於梨原辨、雖催不着宿院

座、秉燭着破戶座、參間馬前々駈騎馬舉松明、隨身前

行同舉之、被了辨着々到殿、予直昇社頭、不必着也、

他姓使又不着、予於西鳥居外洗手、社兼設之、次辨昇

社頭、昇一御棚、北第一也、辨東北、子西北、兼解劔了、中宮使東南、會參氏人西南、已上至子棚下跪指勿泉之

立東一御殿前、立了跪、次辨、予、帶、中宮使着庭座、北面上

會參氏人絕席在西、二三四御棚會參人昇之、次々各二

人昇之、次內侍參上敷筵道、次辨以下取私幣兩段再

拜、氏前驅自座、後持參授之、次社司三人出來、取辨予中宮使等幣入中

門、令付了、返祝之拍時手二度、次廻御馬、度、次辨以下着

直會殿、予須臾起行東遊事、陪從立社東南庭邊也、予

立和琴頭邊、舞了舞人等出南門、四足、騎馬、撒冠老懸、

取續松、稱有盜人、馳馬橫行往還、是例事也、如此至于

梨原、予留宿所了、抑辨藏人左少辨朝方、前中納言朝臣、卿密々相具下

向云、中宮使大進長方、大宮使、、馬寮使助長定也、

十二日丁酉 天晴、日出後起宿所上落、於奈良坂邊小

雨、即休止、今日於奈良坂搦盜人拷問、先例也、然而件

祿於京昨日皆賜了、簡略之時件事強不然、但又於此所

雖不賜祿、兼賜了者、任先例問有盜人事、然近日當國

守停廢府領之間、舞人等經廻無術云々、且夜中少々有

上落志、光賢申此由、仍不可見物、早可上落之由下知

了、坂山鹿出來、甚吉事也、丈六堂邊林開破子、申終剋

至于京、於稻荷伏禮邊駕車歸蓬、窮無術、心肝如摧、

今日立后御裝束始、於高松殿有此事、所々行事衣冠云

云、予殿上行事也、然而今日依爲歸路日難參之由、先

日申了、歸華即令尋之處、既事了云々、

十三日戊戌 天晴、午剋着束帶、帶、參千體新阿彌陀堂、

今日供養習禮也、先參院、次參御堂也、此堂者、先年亂

逆之時、讀鼓院出城南宮、繕鳥合陣之地也、然官軍放火彼御所燒失了、近課太宰大貳清盛朝臣所被建立也、佛者、鳥羽院御平生之時令造立給、未被建立御堂崩御了、三尺彌陀也、御周忌之間人々爲御追善造加、仍其數餘于千體、仍所殘美福門院有御沙汰被安置云々、清盛朝臣侍等拂拭堂中、右中辨親範勤行此事、今日裝束、佛前立花机燈臺許、東簀子中御、階以南敷高麗帖五枚、前庭構舞臺、不引男額、○朝其東立左右樂屋、覆許也、各前立梓各二柄、不立大鼓、用行道大鼓、申剋上卿按察大納言重通、參入、被着簀子座、此御寺上卿信賴也、然依院號直衣、定孝皇后宮、仍被催按察云々、  
早可始行之由、上卿令辨被示、右樂事中將實國朝臣也、然而白地退出、猶且可行之由被示、仍予向樂屋行事、先亂聲、光近忠節振梓三節如恒、次舞人樂人列立樂屋前迎僧、從僧許、次迎講讀師、從僧許、次舞、左萬歲樂、右地久、了上卿以下分散、左方行事左中丞雅賴朝臣參入、早以退出、今日不立僧座、入晚歸私、今日皇后宮有院號事、號上西門院云々、是左兵衛督惟

山槐記 保元四年二月

方卿定申云々、後日頭左大辨顯時朝臣談云、各被定申之院號等、南三條院、當時御所三條、四條院、依爲三條、京極院、法金剛院爲御領爲室町院、付御、上西門院、法金剛院、西京極之故也、當此門、殷富門院、安嘉門院、永昌坊院、令獻給、等也、  
十五日庚子 未剋着衣冠參院、被始立后御裝束、予依爲職事也、今日阿彌陀講、御裝束始了有障、於少納言入道宿所被行、殿上人少々行向、  
十六日辛丑 天晴、入夜雨、小舍人來告皇嘉門院還昇事、不給祿、還昇之時不給歟、  
十七日壬寅 雨降、今日白川千體阿彌陀堂供養延引了、  
十八日癸卯 深更小舍人來、告聽上西門院昇殿之由、院藏人奉仰造廻云々、如此數多之時不賜小舍人祿云云、仍不給、高松院殿上始納言殿不給云々、任此事刑部卿憲方朝臣亮、奉院宣書消息廻告之、小舍人者若內催歟、不可然事也、小舍人者殿上始日可參事也、今日御幸于上西門院、有呪師猿樂興云々、

十九日甲辰 天晴、今日上西門院殿上始也、未剋着束

帶帶劍、隨參彼院、三條宰相也、去夜被于時無人寂寞、雖時午

申剋人々參集、公卿院司許可參云々、院司公卿權中納

言實定卿、元大別當信賴卿、元權大夫等也、而別當不參、清盛

朝臣以下列立中門外、東上北、西、藏人仲重進出向清

盛朝臣、次昇中門廊、自外、跪寢殿西渡殿簾前、申事由於

女房、次仲重歸出本路、可出敷、仰聞食之由、自庭中入

殿上方畢、次清盛朝臣以下舞踏、依爲上皇准母儀敷、

次相尋昇殿、不知殿上事、余退出、是今夜可有御方違

行幸、日影欲沒之故也、傳聞、實定卿、并清盛朝臣以下

四位七八輩、五位成賴一人着殿上、有盃杓、初獻藏人

源賴朝、元六位、少獻盃、二獻安房守經房、元大

頭信隆朝臣、元權等、云々、故待賢門院并美福門院御時、

殿上人數多、兩度着之云々、然今度無其儀敷、不聞及、

院司、

別當、

權中納言實定、元大右衛門督信賴、元權刑部卿憲方

朝臣、元右馬頭信隆朝臣、元權左少將實守、五位也

判官代、

安房守經房、元權

院號日被仰下、大進右中辨親經朝臣不補、藏人

主典代、

檢非違使安倍資良、元顯、院號

左衛門府生同資成、元同資弘、同已上三

中原兼能、

殿上人、

修理大夫資賢朝臣、依藤野語大貳清成朝臣、

治部卿光隆朝臣、精進不參、內藏頭家明朝臣、不立

右中將實國朝臣、右馬頭信隆朝臣、列、不立

頭權左中辨俊憲朝臣、不立左中將成親朝臣、

右中將實房朝臣、不左中將成憲朝臣、不

左中將忠親朝臣、參、大宮權亮實經朝臣、參、

左少將賴定朝臣、不左少將家通朝臣、

左衛門權佐賴憲、參、能登守基家、

藏人辨貞憲、

中宮權亮實家、不參、

右少將信說、不參、

但馬守有房、

已上今日昇殿人也、

刑部卿憲方朝臣、元亮、

藏人前大進成賴、同、

安房守經房、元大進、

已上五人院號日被仰下云々、可尋、

藏人、

左兵衛尉源賴朝、元少進、

藤仲重、

主殿司六人被渡云々、

小舍人員數可尋、

今夜依御方違行幸于白河押小路、亥剋出御、公卿新大

納言、經、右宰相中將、公親、藤宰相光、列立庭中、少納言重

雅鈴奏、出御自日華、公親稱、御御綱、宣陽、建春、待賢等門、至于

東洞院南行、大炊御門東行、河原南行、入御自押小路

中宮大進長方、

左兵衛佐脩憲、不參、

右少將實宗、不參、

兵部少輔時忠、

右中辨親範朝臣、元大進、

左少將實守、元權進、

殿東門、關白騎馬令候御後給、下御之後鈴奏、左中將

信能問公卿、鷄鳴車駕還宮、於路上天明、仍於本宮不

間公卿、歸私之間日沒、月不出殿、

廿日乙巳、天陰、午剋許院御幸于上西門院云々、是後

女院御灸治之故也云々、

廿一日丙午、天陰、今日妹子內親王立后、中宮、午剋着

東帶、縫殿侍繪叙、童朝、參內、頃之內大臣被參、候仗座被奏

宣命、大內記依所勢不候、少內記、南殿御裝束存式、但內辨兀

子自東第三間東柱西邊立云々、可立件柱東邊歟、未剋

內侍臨東階、主上不、御南殿、近將陣階下、左中將賴定、家通朝臣、右少

將兼雅同之、右中將俊通、內辨內大臣昇東階、立之後昇着、經

簀子着兀子、次開門、承明、不明長、關司二人分着承明門

左右、次內辨召舍人、少納言信範參上、歸出、次外辨參

入、新大納言、經、中納言中將、兼房、納言殿、源中納言、權中納

言、實志、源宰相、師伴、宰相中將、公親、藤宰相、光忠、源宰相

中將、定房、內大臣并實定、公親、此間予副砌出日花門、納言殿

依奉致家禮也、宣命使實定參上昇東階、經簀子賜宣

少屬、

間、斜練步加公卿列、次宣命使出野廊東二間、斜步就宣命版、宣制兩段、公卿拜如恒、次宣命使左廻、經公卿列西加本位、欲加列之間、次內大臣出承明、此後垂纒撤臺胡籙、次主上出御御座、畫御座、關白經籙子着御前圓座、數孫庶類、間南柱下、次內大臣同參上着御前圓座、召男共、藏人右衛門權佐真憲持參視續紙、不見及、有宮司除目、

大夫正二位藤原重通、元敕別當、大納言按察使也、

權大夫正二位藤原信賴、權中納言右衛門督、檢非違使別當也、

亮從三位藤原季行、御乳母、

權亮正四位下藤原信能、左近中將也、

大進正五位下藤原成賴、五位職、也、前皇后宮大進、

權大進從五位上藤行隆、治部大輔也、

從五位下藤光方、勘解由、次官也、

少進從五位下源朝長、

權少進 橘 以明、

大屬從五位上中原景兼、大藏大輔也、

權大屬、

除目了、內大臣經階下、於仗座清書、了就弓場奏聞、次被召仰啓陣、先召近衛、左少將賴定朝臣、卷綱、帶、右少將兼雅垂纒、帶、出宣仁門、並參着膝突奉之、次召左右衛門佐、左佐重盛、右佐光定、次召兵衛、左佐脩憲依奈治不參、相扶可參本宮之由、頭權左中辨後憲朝臣被示大外記、元清、依妹、右佐基家、已上賴定、外垂纒也、先是人々皆被參中宮畢、子奉相伴納言殿又參彼宮、內府又被參、于時秉燭以後也、權中將實國朝臣爲冊命使參上立中門、權亮信能朝臣降遇、歸昇、於寢殿西南戶邊啓事由、復命、此間諸大夫等取疊高、一帖二、茵一、敷透渡殿南欄下、北、敕使昇中門廊着座、自簾中被出女房裝束、敕使取之下公卿座南階、踧踐二拜出中門外、敕使節置了者即可參云々、然實國朝知字云々、仍于今迎引、內大臣被臣分卿拜之後之由存○一本此間有命曰、節置了參上申宣命之由云々、御調度敕使參上、藏人左近將監隆成着紅梅下重萌黃表袴、次儀如冊命使、次宮司、并院殿上人等昇上御調度、持參寢殿階隱間、卷件間御簾、大夫權大夫被傳取云々、後聞、權大夫與亮云々、可尋實觀、自中門車

寄戶外昇上之、先大床子二脚、文平博士俊經、加賀守俊清、(後)

下落也、俊清寄俊經、兵部、圓座、刑部大、少輔時忠、伊與守行經、輔爲親、師子形二頭、散位親信大

御椅子、權大進行座、刑部大輔爲親、源御草鞋成賴等也、次公

卿關白、內大臣、大夫(重)、新大納言(益經)、中納言中將(基房)、納言殿、

源中納言(雅通)、權中納言(實定、雅致)、權大夫(信賴)、源宰相(師

仲)、宰相中將(公親)、藤宰相(光忠)源宰、一列、四位(頭權左中辨後

成親子、今一人不見、五位藏人左少辨朝方、土左權守通侍從一列、

於庭中再拜、了退入、公卿自中門內着座、也、西邊渡西廊

後立西尺屏次四位侍從着公卿座末橫座、依座狹三人着

之、五位侍從着中門廊座、次三獻、頭方此間事不見及、次三

獻了有公卿以下祿、侍從預之、予等不着座、仍不給、次

敷御遊座、公卿參着簀子座、殿上召人右中將俊通朝

臣、權亮信能朝臣、權中將實國朝臣、予、右少將兼雅

朝臣、已上參上之時成賴各仰之、但兼雅者臨期被召

入、次御遊、拍子內大臣、付歌信能朝臣、笛實國朝臣、

笙左京大夫隆季卿、篳篥亮季行卿、琵琶大夫、箏兼雅、

笛等節、乍置俊通和琴子也、御遊不惡不善、陪從召人候階

下、公卿絃管人賜祿、他不然、殿上召人不給、事了退

出、打出衣色々々、

廿二日丁未 朝間天晴、今日白河大炊御千體阿彌陀堂

供養也、已剋着束帶帶時、參上彼御堂、予依可勤仕樂行

事、不供奉御幸、兼所參上也、

今日中宮御方事了可有御幸云々、立后以後三ヶ月內

有此事、中宮御可有憚乎、此御堂先年逆亂之時合戰之

地也、爲官軍被燒失之所也、佛者故鳥羽院御平生之時

被造立之三尺千體阿彌陀如來也、爲追善事憚有無之

由被問有識公卿、然不可有憚之由被計申、仍今日可有

供養也、去十七日依雨延引、堂莊嚴見式、內大臣被作

獻者也、午剋上皇臨幸、公卿太政大臣、兼內大臣、按

察、兼新大納言、兼中納言中將、基房、兼納言殿、兼權中納言、

實源宰相、師仲、公藤宰相、光源宰相中將、定

右兵衛督、公左京大夫、隆季、隆中宮亮、隆等參上、關白駕車

令參給、上皇御幸御南門之間、差分末樂人於樂屋、亂

聲、小時止、光時忠節打一奚婁參向、御車入御之時爲

先末樂人先行、此事不可然、猶一奚婁先行、末者可候

御車傍之由、內大臣被勸發實國朝臣云々、此事如何、  
法勝寺供養俊明卿可立末者、於前如太鼓持近候御車

無便之由被稱云々、此事不可爲巨難事歟、樂行事左

予、右實國朝臣也、舞人樂人經御所北各入樂屋了、樂

止、次公卿着變座、次式部彈正着、齋會也、次公卿着堂前

座、此間從僧置管變座等、須振梓之後可罷也。五六輩着座之後、左發亂聲、光

時振梓、退入、次右又亂聲、忠節振梓、退入、次左右共亂

聲、光時忠節相並振梓、謂三、即菩薩鳥出立梓前、舞人

立太鼓前、樂人立太鼓後、吹調子、調、小時止、右同之、

以鳥、左經舞臺東向也、并右樂屋僧座幄前、出中門外、雜

人群入無其處、仰檢非違使能景令掃之、如形得其路、

迎僧衆會幄在門外、雜人群入事且中、發安樂鹽菩薩以下、經本

道如元立本所、衆僧經舞臺東着幄、右便直着之、綱所未

中斷不步連樂人後、此事又樂行事猶可、至于初所、

迎導師呪願於中門外、發河曲子、經本道立本所、導師

呪願須相從、然經右方僧座幄後、於式部彈正座末下

與、於舞臺異長角可下之由在式、不敵事也、導師法務

權僧正惠信、山階寺、呪願法務僧正寬通、東寺長、證誠寂雲

親王、山座、等也、導師呪願登高座之後樂止、并以下入樂

屋、次左右威儀師昇舞臺、取願文呪願文授導師呪願、

次堂童子着庭中座、次圖書官人打金鼓、一響、件金在舞臺

之、次供花、發十天樂、菩薩左右各八人、鳥八人、宏胡蝶

八人、右、到供花机下、末樂人進寄取供花授菩薩以下、

菩薩以下出太鼓鉦鼓間、左右二行、經舞臺到堂壇下、

傳預僧傳供也、供畢蝶鳥着舞臺上草墊、菩薩過草墊之

間發樂、菩薩下舞臺、更歸昇、供舞了退入樂屋、次供

鳥舞、先鳥下舞臺、此間蝶第二四六八渡着鳥草墊、次

鳥歸昇舞臺、供舞了入樂屋、此間雨下如注、次蝶下舞

臺、取花歸昇、舞了又入樂屋、此後各末樂人自舞臺下可令撤

時撤不犯事也、衆僧、次打金、次左方發唄、昇樂、廻唄、唄師四

人經舞臺上、就佛前座、了樂止、次定者沙彌二人進自

南北、昇舞臺禮佛、了就案下、取火舍立、次打金鼓、唄

師發音、次堂童子賦花筥復座、次散花師二人昇舞臺、

衆僧隨之、此間菩薩以下相引列立、此間雨止、如先散

花師發音、樂人發樂、遼河左右相對昇舞臺、自衆僧中前行、左北行、右南行、衆僧隨之、樂行事經舞亭下、左方御堂乾作輪、雜人群入以外、行道尻猶在御前有所學入云々、右方自御堂後來加、左更歸出行道、右方、在後、經舞臺與御堂之間、自舞臺東行道普通之儀也、然內大臣如此期被宗下、左方經御堂後、右方又於御堂坤作輪、左右自南北對東經舞臺上、菩薩以下立本所、衆僧着座、樂止、樂人等入樂屋、次打金、次左右發讚登樂、認聽讚衆昇舞臺、樂止、右方舞鉢、臨期雖供求不出來、借左方用之云々、行事兼不致沙汰也、唱讚了發樂、北庭讚衆復座、樂止、打金、次右方發梵音登樂、梵音衆昇舞臺、樂止、唱梵音了發樂、柱、退歸如前、次打金、次左方發錫杖登樂、鳥向錫杖衆昇舞臺、樂止、供了發樂、藏殿退歸又如初、次堂童子收花宮退入、次打金、次御誦經、左少將家通朝臣進導師右邊、不仰度者退歸、敷座於中納言座前程、召家通朝臣、々々着座給祿、退下中門舞蹈、次賜衆僧布施、殿上人取之、證誠布施口口取之、導師布施公保、隆季卿、呪願布施光忠、定房卿等取之、次導師降高座、發千秋樂、先舞人立拜前、樂人立拜後發之、并

蝶鳥今度不立、先例如此之由、光時忠節所申也、然導師呪願退出如入儀云々者、猶并蝶鳥可先行歟、相尋之處、早以退出云々、雖遣召、不可叶之上、先例不然之由、舞人等申、仍舞人樂人許先行如初、兩師退出之後、舞人以下歸入樂屋了、次打金、衆僧者自閑路各退出也、次奏舞、左先安摩、二舞、安摩欲降舞臺之間、進樂屋下如恒、次又左方萬歲樂、右地久、左蘇合、右新鳥蘇、左採桑老、多成方舞人也、新鳥蘇出之間渡左樂屋着束帶、右採桑老、右舞人以隨身成丸可來之山中、山經示右行事、時老弱以次者可奉仕之山中、予經舞臺前申別當、依爲上卿也、許諸、仍退仰其由了、此間御隨身等舉松明立舞臺左右、次右貴德、多思、依仰不昇舞臺上、上皇御所庭舞之、及昏黑之間、舞臺上自御所不分明之故歟、左陵王、柏光、右納蘇利、多好方、多思光、已上又如貴德、於庭舞之、丁、次還御、發長慶子、予供奉還御、柱繪佛師工許有賞云々、廿三日戊申、天晴、立后以後第三日也、仍着束帶、隨身裝、午剋參中宮、高松、未剋公卿被參集、太政大臣、大夫、重、新大納言、經、納言殿、源中納言、通、權中納言、雅、權大夫、信、源宰相、師、宰相中將、公、藤宰相、光亮等也、



四位侍從着東南弘庇、實國、成親、子、家通等着之有三獻、初獻公卿獻

盃、權亮信能朝臣、殿上人勸盃大進成類、二獻宰相中將

權大進行隆、三獻權大夫、又行隆也、此後御書敕使可參

之處、右中將俊通朝臣遲參未參內云々、仍太政大臣召

役所、大夫仰前驅、內々遣召彼中將、良久及黃昏參上、

立中門、權亮謁之歸參、於寢殿西南戶啓事由、次敷敕

使座、如冊命權亮歸出召敕使、々々昇中門廊內方、進寢

殿西南戶簾下獻御書裏紅薄棧、着座、次居敕使着物等、次諸

大夫等取圓座五枚、對敕使座副北欄東西行連敷之、次

一獻、大夫勸盃了被着東圓座、二獻納言殿、敕使盃被

擬大夫、三獻權大夫、四獻源宰相、五獻藤宰相、已上傳

蓋如二獻、藤宰相不被着圓座退歸、次大夫以下起座被

復本座、納言殿命進退給之間、子拔著、次自簾中被出女房裝

束、敕使取之、御返事同給云々、下自公卿座前階、跣踐

置祿於地上二拜、取祿出中門、此事如何、乍持祿拜歎、

舞踏之時有置說歎、太相國有此說之由被示云々、後日

相尋中御門大納言處、全無其儀、又給御書不拜事也云

云、次人々退出、抑今日不賜啓將佐祿、陰陽頭在憲今

日之由擇申、然大夫以成類申日可有憚哉否之由被問

之、在憲明日之由申、仍今日不賜也、陰陽失歎、

廿四日己酉 時々小雨、給啓將佐還祿云々、昨日依申

日今日給之云々、中門廊敷座、居机甕有勸盃、初獻亮

季行卿、二獻大進成類、三獻權大進行隆、今日大夫權

中納言等被參云々、大夫參內被申處、立后日不被參內

也、

廿五日庚戌 天晴、今夜上西門院始御幸也、子着束帶

帶劍、鏡、乘燭參被院、三條、室町、頃之出御、圖書頭廣賢奉仕御

反問、給祿、次寄御車、權中納言實定卿寄之、公卿按

察、重、新大納言、經、權中納言、實別當、信源宰相、師

相中將、公、右兵衛督、公、左京大夫、隆、中宮亮季、等也、

殿上人十餘輩、出御西門、三條西行、町北行、入御自高

松殿東間、中宮御、西面、出車五兩、檳榔毛也、女房不下、良久

還御、及半漏歸私、

廿七日壬子 天晴、被發遣祈年穀奉幣云々、上卿內大

臣、於南殿有御拜、左少將家朝通臣候御劔關白令取御  
襪云々、未剋參詣日吉社、先年所勞之時祈願也、幣七  
捧、膝突太宮許也、引替牛四頭、太猛懸也、五六頭可  
用也、令方今度自京四宮河原、次關、次韓崎、次社頭也、乘  
燭參宮、成仲於十禪師西廊儲膳、亥時歸落、及鷄鳴到  
蓬畢、

卅日乙卯 天晴、未剋着束帶參內、依陪膳番也、供朝  
夕膳了退出、次參院、此間殿上人等不着布衣、依中宮  
御也、

### 三月小

一日丙辰 天陰、午後雨之間着直衣參內、依當番也、  
左中辨雅賴朝臣供御膳、申剋還私、

二日丁巳 雨降、雷發聲頗微、申剋以後雨止、

三日戊午 陰晴不定、午上時々雨、辰剋着布衣參宇  
治、今日平等院一切經會也、大殿初令入給、予雖申障、

度々有召、仍參上、已剋至于宇治、於木綿遇雨、宇治  
橋太危、仍乘船參、太政大臣、關白、按察、中納言中將  
直衣、被着座、關白端座令坐圓座給、太相國與座、殿上  
人等座長押下也、伴座太狼藉、仍予一兩曲之後退下、  
禮諸堂、忠節舞胡飲酒云々、予未參上之前法會了云々、  
樂行事左方左中將兼實朝臣、右方左少將家通朝臣、布  
衣着劔淺沓、予禮佛後申剋歸路、落イ於深草邊舉松明、今  
日大殿御籠中皇嘉門院同御者也、昨日自九條殿有御  
幸、予獻出車、今一兩右中將俊通朝臣、左少將賴定朝  
臣云々、賴定出車宇治河岸顛倒破損、爲岸頭樹被防不  
入河底、女房存命云々、太危事也、是左中辨雅賴朝臣  
引替牛沛艾之故云々、抑予參上引替四頭、自京稻荷伏  
禮、次木寺、次不成柿等也、

五日庚申 天晴、美福門院御轍法結願、仍院有御幸云  
云、殿上人等着衣冠供奉云々、是中宮御高松殿之故  
也、予依小患<sup>患</sup>不參、

七日壬戌 天晴、着直衣午剋參院、中宮同御座之故

也、頃之參內、今日當番也、申剋退出、

八日辛亥 天晴、今日直物也、內大臣今度始被申行也、予爲窺見次第、入晚參內、着衣冠、覓見之間、秉燭、內大臣、新大納言、經、權中納言、敦、源宰相、仲、皇后宮權大

夫公、等候仗座、兼供掌燈三所、佐木張也、內大臣直被着召官人令敷膝突、次令召外記、々々參上跪小庭、內府被仰勒

文可持參之由、外記稱唯退出、少時持參勘文入、奉上卿、々々披見之、勘文去年冬今年春兩度作之、仍上卿被命外記曰、可進今年勘文許者、外記賜勘文退出、又歸參申云、去年冬執筆、同爲御勤仕、仍所作也者、上卿被答云、雖然欲直今年許者、仍外記退出改書之間、上卿猶如元兩度可進何事之有敬者、依仰外記又令進元勘文、大臣始申行直物之時、多直一度除目之故、如此被命也、然而又二度有例、仍只令進者也、可作一度之由、內府兼內々被仰大外記之處、未承其由云々、二度例又多之、故外記進兩度勘文也、令外

記內覽、關白御高倉亭、內覽了歸參進上卿、々々退下令持外記、經階下就弓場奏聞、藏人敦佐奏之、自女官返賜被

歸着仗座、外記置勘文於上卿前退出、次上卿被目源宰相、宰相揖起座、進上卿前揖、上卿被授勘文、相公指笏

取笏、右廻復座、向東突膝、被廻着左也、拔笏、相公召官人只微音、召外

記、令置硯、文書等皆上之云々、追可隨召文書等大外

記、令置硯、文書等皆上之云々、追可隨召文書等大外

記調文書預置少外記之間、一度皆進了、然而不被返置

之、次第作法、捧夾箒之間事依程遠不見及、於兩殿東階書了相公取硯筥置替勘文筥所、本勘文筥在北、現在南、捧笏取勘文筥、

進上卿前奉之、拔笏揖歸着座如初、上卿披見之、猶有

紙謬之所、令直之、相公參上、給文取副笏復座、直之返上、凡相公可申上卿之事出來之時、置文取笏申之也、

直物、次有小除目、頭權左中辨俊憲朝臣宣下之、書折紙、上卿又賜上卿同令源宰相令書也、式一通、兵一通書之、大政官宰相也、謹奏其官等許上卿被命宰相姓名以折紙、次令外記內覽、次上卿就弓場奏聞、如元、○先返賜歸着仗座、上卿目相公、々々參上卿前、令放召

名、放箒、其次第不詳見、次相公復座、次上卿令官人召外記、々々參上跪小庭上、フシツカセツハモ、サ式乃省、兵乃省候乎、外記申

云式乃省、兵乃省候乎、外記退出、須與外記又參上、申

云、式乃省、兵乃省候乎、上卿仰詞不聞、若令候與、下被仰缺、外記退

出、又須與參上、申云、如初、上宣、召七、外記稱唯退出、謂之三度申、次式部丞則光自幕外砌內參上、々卿被追返、先可賜除目、仍率兵省自小庭可參也、而則光

存可賜直物之由之間也、返出宣仁門、率兵省練立小庭

揖、式當上卿、先是、座立、上程、北面上、上卿北面、問曰、誰曾哉、式省名謁、申官、姓名、兵

省不申失也、次上卿召云、式乃省ヲ、揖稱唯練步、於幕

外屈行着膝突、上卿被下召名、式省指笏賜召名、拔笏

取副召名揖、逆行出幕外、左廻經兵省前東并後、練立

本所揖、次上卿召云、兵乃省、兵部丞揖稱唯參進、賜下

名之儀一同式省、但至于本所左廻立揖、次上卿宣云、

給<sup>マケ</sup>、式兵同音稱唯、式先揖、經兵省前、次兵又右廻步

連出宣仁門、次內府以下退出、于時鷄鳴、凡直物者參

議第一重役云々、終夜予窺見此次策、甚可謂嗚呼、近

代執公事々不運事歟、八座期遙、衆人加上、不可依賢

愚者也、

大外記中原師業申內府云、今日重日也、日次有其沙

汰、重日例只時多有其例、至于代始不詳、天仁依重日

禪、四月被行直物、但天仁者嘉承堀川院崩、其後代始

直物重日有禪歟、不可似彼例、何事有哉之由、又內々

申頭辨了者、

本云  
應永廿七年九月十六日書寫之畢、三月記八日以

後無之、之件本無相尋所在之本、遂可書寫耳、

藏人頭  
左中將<sup>（定賴卿也）</sup>、

應永卅三、四、十一見了判

此一本舊不照山槐記、唯卷首書官銜、以公卿補任參考忠親歷任、則  
與此符合、因定爲山槐記、

元祿元年戊辰十月日

彰考館識

野宮本與書

元祿三年十月九日於燈下令書寫了、同十三日送校合却是春三月爲  
一卷、然分正月、所分成兩冊者也、

左近衛權中將藤原朝臣定基

永曆元年〔平治二年改元〕〔秋〕

七月

一日丁丑 今夜上西門院御幸鳥羽云々、依明日故院御忌日也、

三日己卯 今日法勝寺御八講始也、無御幸、依御物忌云々、公卿五人參云々、別當、寬左大辨顯時卿、中宮亮季行卿、非參議藤宰相俊通、信能朝臣、殿上人三人云

云、予陪膳番也、依有勞謫付右中將家通朝臣畢、

六日壬午 自去四日風、但非猛、

七日癸未 內大臣去夕今朝乍雨度絕入云々、赤痢病已及卅日、萬死一生云々、內大臣左大將等被辭申畢云

云、表使左少將實宗云々、

八日甲申 一昨日自官催文殊會東捧物、今日又使部來請、賜白布一段畢、

當府座頭光堅來請牒判、放生會并北野祭相摸人善可上落牒也、近國七八箇國也、又一通薩摩國相摸訴申忠景忠水訪可停止事、一通河國住人正平相摸入事也、件男相具出來、其禮甚別樣、不異蟻頭歟、然而自稱強力云々、勿論、此事申大將給

○歟脫力之由相尋之處、所勢并辭退之間不能申、所望者出來之時雖不惟大略、如此時早預將補之恒例之由光堅朝中、非強大事、仍所加判也、是何事此牒等可加請印、仍同申請封、爲付印書名上字下給畢、光堅云、舊封等皆押橫蓋、先々或名字片字、或書判云々、

來廿日八幡行幸又延引云々、是官行事用途諸國難濟、仍難叶故云々、王事神事旁有恐、末代口掌只以遁避爲事、世間之體太有若亡、

九日乙酉 今曉寅剋許內大臣公、敬、薨云々、宰相中將實國朝臣於日吉社行御神樂、爲行彼事昨日參彼社、仍開眼之刻不來遇云々、大悲事也、於三條高倉亭薨、女御被坐此所也、嚴閣入道前太政大臣八十有餘猶存命、老少不定之世悲哉、亡者明曉可渡八條堂、其後十三日可有葬云々、晚頭參大納言殿御許、申承雜事、

十日丙戌 天晴、北小路逢屋、○北上、脫字歟、入夜向賴定朝臣宅、訪籠居事、依命遣入車於門內、頭之退歸、

十三日己丑 今日仁和寺宮院御子、高倉三位、出家之後始令參院給、七條河原山座主、院御子、威勢甚云々、而山座主親王院御所也、

院御所也、

於四條河原被相逢、雜人之中圖諍出來、被打破首之者多々、座主逐電逃脫云々、

今夜內府葬送觀音寺云々、

十五日辛卯 今夜月蝕、自寅及丑云々、或說去夜云々、仍所々兩夜修如讀經云々、

播磨前司入道顯親已遷化云々、

今夜所々有人魂云々、是流星歟、後日聞、八幡山又如此云々、

十八日甲午 今夜詣賀茂社、自京步行、或者云、東山

禪林寺東南候築幕開西方、其內立板、西方有妻戶、其

內一人座之程云々、六十有餘聖人籠居彼內閉戶、其上理之、其臺方間許云々、道俗男女群集云々、

十九日乙未 大殿仰云、亞相來廿七日可有參內、可扈從者、是任大臣召仰歟、近日有小恙、仍有減氣者可參

由申畢、雅賴、家通、濟憲、顯信有其催云々、

廿二日戊戌 天晴、未剋參中宮、白川御小付女房入見參

退出、次參亞相御許、花山申終剋參內、依陪膳也、今朝越

後守邦綱朝臣送書札云、一日被聽違昇畢、今日可供膳也、朝膳欲供者、依爲予當番所觸送也、承諾畢、乘燭彼朝臣參內供朝膳、夕膳予供之退出、

自今夜於禁內被行七佛藥師法、阿闍梨法勝力性寺座主圓性、故鳥羽院藏人右少辨成賴奉行、藏人賴保同行事、伊

豫守重盛朝臣勤仕雜事云々、賴保談云、近日殿上番有其沙汰不任人五人、依院宣除籍、所謂周防守隆輔朝

臣、中務大輔長重、民部大輔雅長、若狹守隆信、散位季信等也、又被問不任之子細人四人、所謂上野守重家朝

臣、大藏卿長成朝臣、式部大輔永範朝臣、左中辨雅賴朝臣等也、其沙汰尤理也、但或依職怨劇、或朝夕祗候

女院、頗可有會釋之沙汰歟、只勘二月以後上日、以不足十箇日被行罪科云々、不拘多年之夙夜、可依六月之上日歟、有含怨之輩云々、

廿四日庚子 今夜參詣廣隆寺、

廿七日癸卯 天晴、今日有任大臣召仰事、右大將公能卿申剋參內可被任右大臣云々、尋聞、彼退出之後、大殿

大納言被參內可被任內大臣也、予可扈從之由有大殿仰、仍未剋參東三條、大殿自今朝渡御、申終剋出給、於西洞院面門外被駕車、左中辨雅賴朝臣取沓、予褰籠、扈從予、雅賴、大膳大夫濟憲、遠江權守顯信也、右中將家通朝臣雖有召按察不奉云々、扈從者劣事歟、未得心、如予者全非獻名簡、雖非人、自先人御時依芳御家風參上也、而不知子細之人、只存諸大夫列歟、太奇恠、如雅賴頻今明可取御沓、不可然事也、為大臣且依奉被家禮奉居畢、然而至于取沓者不可然之由亞相殿有命也、亞相參陣、經床子座着陣、雅賴先是着床子、上官等又如此、頭右大辨出陣仰可有任大臣之由、予今日內番也、近日苛法云々、仍付女房入見參之間退出給畢、已四五町出給畢云々、強又不可奔波、任脚追從之間、藤宰相光忠卿、俊通朝臣等相逢、予抑車、雖輕忽依貴職也、彼相公等又抑車頻以謝之、頗無益窮囑無術、只早可被過之由內心覺悟、予直歸蓬畢、有大甕定、公卿自院有催云々、近日就出仕冷然、年齡漸闌、觸事難堪、

孤陋之身、本自所存也、然而臨事又爭不悲、官途衰微、家中閑散、今生宿報可期何時哉、於今者可蓄後世資糧也、

廿九日乙巳 雨降、今日七佛藥師法結願云々、

八月

一日丙午 天陰時々雨、今日蝕、已正現云々、

七佛藥師法今日結願云々、

四日己酉 天晴、未剋參內、依當番也、次參院即退出、

五日庚戌 天晴、太宰大貳清盛卿下向安藝伊津久島、

之年來之宿願云々、

十一日丙辰 天陰、今日有任大臣事、予依小患不出

仕、太政大臣、伊通、元左、基實、右大臣、公能、第三大納言

越宗能、內大臣、基房、第四大納言、中納言、光賴、超、伊實、重通、中納言、兼實、三位、定房、將超、公保、光茂、參議、清盛、非參

通、中納言、兼實、三位、定房、將超、公保、光茂、參議、清盛、非參

比、請安藝國伊津久島云々、 宣命相尋續之、

十二日丁巳 今日陪膳番、依小恙雖語他人各故障、仍示付永範朝臣畢、

十四日己未 今日放生會、上卿以下向云々、權中納言雅教卿、參議公保卿、辨成賴、左近少將蓮家朝臣、右近中將家通朝臣云々、衛門兵衛可尋記、今夜有除目、十五日庚申 秋天高霽、夜月正圓、

十六日辛酉 天晴、自今日彼岸也、仍今朝上皇御幸于城南、經房奉行御念佛事云々、今日有還御云々、駒牽延引、依上卿不參云々、入晚雨降、

十七日壬戌 天陰、乘燭舟沙汰人大石光堅稱大將御使來云、番長中臣季近可爲府生之由可仰下者、明後日可有拜賀云々、仍伴男可爲官人云々、即仰光堅了、今日駒引云々、去夜依上卿不參延引、後聞、上卿大納言殿、宰相俊通、辨雅賴、少納言伊長、左將家通、右將、馬寮助二人參上云々、

十九日甲子 今曉中宮依御惱危急有御出家云々、院去夜有御幸、曉天還御云々、先々此事御發心之由粗有

其聞、然而依上皇御制止不令遂御也、今有御幸有此事、還御前後之條不知事也、御年廿云々、太悲事也、自去春比不入御禁裏、御白河押小路殿也、及晚頭予聞此事、仍逐電參上、自一昨日重惱、御物氣凡不渡云々、御叫音頗漏於玉籠殿、參上之由觸女房退出了、

廿日乙丑 陰晴不定、今日石清水行幸也、予勤仕舞神祇神夜奉獻人、午始剋參內、裝束去夜請之、獻於使禁殿也、只今神寶御覽畢云々、於騎馬所頗有違亂事、仍路頭不供奉、自七條朱雀邊先行、上皇於鳥羽新大納言光賴賴賴宿所、有御見物、予御棧敷前不具雜色、隨身小舍人許也、御幸密々儀云々、依中宮御事不可有御見物之由有風聞、而又於鳥羽者已露顯體也、日沒着御宿院願宮、于時小雨、不及笠、予心中依有憚事、不登社頭退出宿所、少將同宿、大納言殿令沙汰給也、明日雖可立片舞、暫休息之後依有勞事駕車馳歸、引管火井四頭也、孤陋之身陸沈兼存事也、然而近年世間厭却之思逐日倍增、只爲避殃厚面了、抑上卿按察大納言通禰車下向、行幸以前自閑路同駕車被參社頭候也、



廿一日丙寅 天晴、今日還御鳥羽殿云々、依歸忌日也、上皇去夕御見物後還御云々、

廿二日丁卯 雨降、今曉還御大炊御門殿云々、供奉諸

司七八人、其外武士卅騎許在力有御輿前後之由、或者來語、

亂代之極也、不異夷狄之地、可悲々々、

權大納言光頼卿申慶云々、

廿四日己巳 今日賀茂行幸巡檢、上卿以下騎馬云々、

上卿按察大納言通、宰相俊通朝臣、至于近衛高倉騎

馬、被參大納言殿御許云々、數剋閑談之後駕車被歸云

云、中納言中將兼實卿拜賀云々、

廿七日壬申 天陰、今日賀茂行幸也、予勤仕舞人、年

齡漸闌、厚面出仕也、未剋參內、于時神寶御覽畢、仍騎

馬、神寶爲先、次舞人、次供奉諸司等也、出御西門、大

炊御門西行、東洞院更北行、一條東行、於高倉治部卿光隆卿棧敷

云上皇有御見物、申剋宸儀着御社頭、於外鳥居外神祇

官獻大麻、御輿經葎屋西南寄東面、公卿幃內列立、西

上北面當御所、按察大納言上卿、源大納言通、新中納言

定房、左兵衛督公保、左京大夫隆季非參、治部卿光隆非等所列立也、寄御輿之時各跪地、依神事無警蹕、宰

相中將俊通取劍璽、關白取御褙給、下御後撤御輿、次

供御手水、次昇立神寶於前庭、自御所常長方昇立之、自東陽門神祇官人等役之、次

頭辨資長朝臣獻御笏、次供御膳物、役供少納言信範勤

仕之、依五位藏人不候也、次宮主就御所良方獻大麻、

頭辨取之參入能中、返賜宮主着座、次上卿着座、舞人

引御馬、予有憚、中務權大輔長重一人引之、御禊畢賜

上卿捧花、行事宰相取馱、不見及可壽、御禊以前陪從

皆捧花、此事如何、舞人捧又其後賦之、少納言信範一

人取之、殿上人等不役如何、雖非花族、近代以遁避如

此事爲高名、不足言哉、次撤神寶向社頭、先神寶、次舞

人、予有憚不入二鳥居內、次敕使也、上卿、次陪從等也、社

頭事先廻御馬、次東遊、次舞樂、次御神樂云々、此間少

將兼雅依相招向彼宿所、大納言殿家司石見介知遠朝臣、宅休息

之後、入晚歸參、秉燭以後事了、御所遂立柱松、舞人馳

御馬、自北上南、更馳北方也、予馬引遠、仍不能馳、次

幸上社、于時風雨相交太無術、御與寄西面構御與寄、

社頭次第如下、事了左馬助長定爲舞人也於二鳥居內騎馬、

頗似不知案内、上卿被谷云々、然而不下馬云々、勿論

事歟、凡馳御馬時、於二鳥居外騎馬、經御所前至于

鳥居許、更向社頭馳也、事畢予自紫野方駕車歸蓬畢、

今日右大將右大臣公能也、着女郎花下重、左大將赤色也、

行事勸賞、

從三位俊通、相、

從四位上親範、辨、

大外記師元、依所勢不供奉、

已上追可申請云々、各正五位下也、

社司下六人、上十二人云々、下社正禰宜長繼昨日敍正

五位下、近衛院御時爲河合社禰宜之時行幸賞未被仰

下、仍募彼賞敍之、今日敍從四位下、希代事歟、生年二

十二歲云々、

### 九月

一日丙子 天晴、今朝大納言殿御消息云々、只今可來

者、仍馳參、被仰合密事等、兄姬君御事也、次向觀音寺

堂、今日先考御遠忌也、仍修小善、佛普賢、一幅、爲持佛美麗奉圖、

經大集經第一帙、手自寫三行奉書、并外道等也書之、布施供養

存例、大納言殿依爲初齋宮上卿不合向給、佛經兼日仰

付家司云々、內供被籠信貴御山、仍又佛事相具於彼所

被修云々、導師已講淨忠、講演畢申剋歸洛、雖爲陪膳

番、依遠忌不可參內之由、先日示藏人兼光畢、

二日丁丑 有齋宮寮除目、其次被加任人、右衛門督平

清盛、大和守源季長、飛彈守爲行、元大、從五位下信兼、大夫、

四日己卯 天晴、午剋參上西門院、今日御逆修第二七

日也、僧未昇、仍參內、依番也、以女房被仰頭辨曰、群

行日行幸可洗御髮御乎如何、頭辨申云、洗御何事之候

哉者、未剋歸參上西門院、權中納言、雅、右兵衛督顯長

卿、左大辨顯時卿等參候殿上人十餘輩也、講讀畢取布

施退出、導師法橋覺長也、次參大納言殿、晚頭退出、

七日壬午 天陰、今日先妣御遠忌也、仍午剋向觀音寺

堂、修小佛事、以一幅馬頭觀音美麗奉圖、先妣平生之

時、圖六觀音像賜六口聖人、每日有所作、被祈御菩提

之事、雖御沒後于今無意、而件馬頭像於侍聖人之許燒

失、仍殊為不令違彼意趣、仰同佛師奉圖、上表紙有不

動種子、下表紙有觀音利生文、件字等源空閣梨書之、

仍一筆令書之、件人近年在高野御山、去二日專青鳥、

去夕歸來者也、供養了賜聖人畢、經摺寫大文字法花

經、為法花懺法之讀經也、事々有所存也、大納言殿依

神事不令向給、佛經如例家司調進、內供被參信貴、於

彼所被修云々、導師清嚴閣梨也、事畢歸洛、

八日癸未 天晴、今日齋宮院第一女(口)品子誠高、群行也、

上卿大納言殿、未剋令參野宮給云々、予秉燭參內、先

是召仰云々、頭辨仰右大臣、亥剋出御南殿、聞食齋宮

出野宮之由可出御也、然而里內程遠之故、不待歸參使

出御也、近衛引陣、頭辨仰陣、可引之由、陰陽頭賀茂在憲朝臣奉仕

御反問、公卿列雖在西南、退退出之時於堂下給祿、次左將

渡、御與在御與長隨身等相從、公卿、右大臣、即右大將也、卒

夫隆季卿列立、中宮亮季行卿、已予、右少將通能見御與御座、

上兩人非參議、自余各有懷不參、右中將後通卿、左京大

直進御與副力花、寄南階、依神事無鈴奏之故也、宰相中將

離列制御與、脫靴昇殿、開葦戶取御劍置御與、跪御與

東北、可被退置弓之所歟如何、宸儀乘輿無警蹕、相公

不知御草鞋、欲進璽內侍前、東豎簾中、仍更歸取御草

鞋賜東豎、事々無威儀、次取璽宮入葦中閉戶、此間將

監出大刀契、依里亭共候也、御與出御西門、不仰御綱、

高倉北行西行、先陣皆入待賢門、大將已欲入門內之間、頭辨可入

御陽明門之由誠仰、仍更大將以下起陽明門、自余

皆入待賢門畢、此事太奇怪事也、召仰時雖不仰歟、以外事、宮城東大

也、此間御齋院御大膳職、仍稱稱云々、此事先例歟不詳、

路北行、入御陽明門、經建春建禮等門前入御昭慶門、

不供大座例也、五位以上於門前下馬、此事如

何、於處角可下歟、然而猶存古禮太無益隨群、安御與於小安殿壇

下、御與下乘敷筵、敷上筵道於階上、御與壇上下事先例相

儀例略行幸之時幣御小安殿之時跪歟、今日幣已在大極殿、此間仰陣

何可有壇下之儀哉、然而先々有沙汰云々、不知其與儀、

官令開昭慶門、入歟、然而雖以群入頗煩藉歟、右大將院幡內、

某方、此事可尋、自余公卿不列立、徘徊便所云々、幸相中

將進開蓋戶、取御劔供御草鞋、取璽宮閉蓋戶之儀等如恒、入御戶御簾兼卷之、匏有之、於此所又無警蹕也、下御後御與安西廊邊、大刀契置小安殿南壇上、自東第三間置

之、次右府被着昭慶門東腋座、自余公卿不着、次供御厨子所服御膳、雖六齋日依神事供魚味云々、然而依仰不供云々、上卿被問幣備否之由歟、其間事不見及、次着御帛御裝束、無御其條有御不番又職事不申健說云々、但建禮門行幸時無之云々、今夜自內藏察相具奉之云々、頭辨少將通能奉

仕云々、齋王參入之由問食可着御歟、然而兼以着御云々、次供御手水、頭辨供之、及子剋齋王猶不參給、是山城人者一切不參之間每事擁辨イ

怠云々、于時小雨、須臾晴畢、不及笠、子終剋齋王參入、入深壁門歟、可尋、御前大納言雅通卿、宰相公保卿、信能朝臣也、王與駐嘉喜門外、居久禮止古云々、行事左中辨雅賴朝臣參入

小安殿、頭辨申事由、次主上渡御大極殿、兼供延道、筵上供西面、頭辨候御裾、淵白依怪長死之不參給也、侍臣乘指燭候軒廊左右傍內也、不入大極殿云々、然而兩三參入如何々々、藏人三人、以明持御笏、時盛持式笏、兼光賈額櫛笏參從、可相連御後、而太遲怠、次內侍一人參上、藏人皇后宮

大進長方扶持劔璽在小安殿、內侍一人留候守護、次御

座定召御笏、頭辨獻之、次中臣獻大麻、於北面東戶外內侍傳取奉之、返給、此戶開開關司進止之、關司二人

東西戶內兼坐也、次御拜、次令長方被仰齋王可參入之由、長方向嘉喜門代闕仰寮頭季信、次王與寄大極殿北面東一戶、向東寄之、關司開扉、次行事辨自昭訓門相

具女房參入、御與邊具几帳、今二人可參、而各對捍不下車、良久頻遣催、適參入、雅賴季信等引導伴二人、無几帳、又遣取之間太遲、次齋王下御、關司開扉、王與居

東軒廊北方東福門西第二間、先是右大臣起昭慶門座、經北并東廊內并東登廊柱內上官座北邊、至東福門着

西腋座、南面、中帖下敷筵、後立小筵、前有膝突小筵也、內記入宣命於筥置上卿前、次召使王召使傳召、給至出昭訓門、內記取置筥、上卿經本路

還着本座、若中臣忌部退出之後可被着座歟、可尋、次天皇召舍人、二大舍人於昭訓門稱唯、次少納言信範代參入、就東版跪候、次天皇宣、中臣忌部召々、少納言稱

唯出、次中臣祭主親章卿着版、西、忌部率後取就第二版

位、東、次天皇宣、忌部參來古、忌部稱唯昇自東軒廊南

階、東福門入自東戶階、東福門入、經屏風南參進、取外宮幣捧目力

上、於軒廊階東戶、下傳授後取、後取取之、南柱中央北之歟、面捧目立上立、次忌部如前取內宮幣復本位、次天皇

宣、中臣來參、中臣稱唯參上、其路如皇部、天皇敕曰云々、其御

語不聞及、次中臣歸就版、即忌部捧幣與中臣退出、次

天皇令剃御櫛於齋王額御歟、其間事依候壁外不能勞

記、次王輿自東福門寄殿東戶、開扉王輿出自昭訓

門、美福門大路南行、出郁芳門、辨申上卿云、待賢部芳兩門出

門門哉、上卿云云、可依天治例之由被仰下、御其例皆在、可申○用力、何

者當時禁忌有無可被尋者、郁芳門無憚云々、仍用彼門也、宮城東大

路南行、二條東行、出京極、女房駕移網代車云々、東河

前駈留云々、前駈大納言殿、上卿也、中納言使也、而皆以放陸云々、宰相俊通

卿擬弓箭垂纓供奉、次主上還御小安殿、侍臣候脂燭如

初、改易御裝束、頭辨仰藏人云、齋王御輿不及眼路之

程可有還御、早可令見、使者歸來曰、其程遠罷成畢者、

仍出御、予與實宗見御座覆、寄御輿於壇上、予兼問頭

辨云、今度上下如何、答云、無指所見、猶可壇下歟、此

事如何、先例多壇上歟、皆見舊記等、臨御中大將、有思惟、可爲壇上之由被命、仍寄壇上也、此間暫閉昭慶

門、無上臈將、仍予取劔璽、無警蹕、公卿不列也、右大

將立勝內東方、乘輿經本路還宮、于時丑剋、先陣猶出

待賢門、太奇怪事也、於右衛門陣外中臣供御麻、次下

御南殿、予取劔璽供御草鞋、無警蹕鈴奏名謁等、今夜

大將隨身不追前、留守權中納言雅教卿也、伴人雖無指

障、依不堪騎馬被免前駈候留守歟、今朝供御湯云々、

昨夕令洗御髮御云々、〔頭書〕例幣以前群行時被付裝云々、可歌、御裝束儀、

高御座以東二間、至于第三間、身屋內鋪蒲葉薦、南北行

二枚、西間頗向巽方裝飭御床、鋪南面端疊二枚、長、坤

也、上供纒細御半帖、其後立太宋御屏風一帖、其長方北

東戶間、身屋內北柱南頭設齋王座、東西行鋪廣筵、其

上東西行敷兩面端疊二枚、其後東西柱間鋪薦筵、立

太宋御屏風一帖、其後相副屏風、敷綠端帖一枚、齋

王床前南柱北邊頗長坤妻敷葉薦、其上立短足机二

前、其上內藏寮置幣二裏、〔幣〕待參入兼令、裏鋪之云々、御座北頭北柱

內設關白座、西、其後廂一間敷廣筵、南北對座敷綠端

帖二枚、當殿東戶前母屋柱間、南北行鋪葉薦、其上

立太宋御屏風一帖、爲屏風、北屏風、北、其後戶南北腋各置

圓座一枚爲關司座、高御座北階前供燈、在打、東南庭

中務省西面南、竝置中臣忌部版位二、白石也、西中臣、東

壇內程、兩設、東軒戶東福門外也、西腋第一間壁下敷宣

命上卿座、南面後立、筵前、同門內方也、東腋設辨外記史

內記座、其後召使座、南北行三重敷之、昭訓門內也、西面北

腋壁下鋪葉薦一枚、立置幣物八足、其西砌外當一間

引帳、當昭訓門去砌西大舍又引帳、同門外以南帳

帳、設送齋王敕使并御前長奉送使權中納言定房卿

以下座、大納言殿并後通御不被參此座、暫從御殿壇上、令親次第就、昭慶門內東廣設公

卿座、小安殿中戶懸御簾、有鞠三、馬道以東爲御所、其

內殿見及兩殿間軒廊東西柱引帳、每柱有掌燈、付木居

群行雜事爲成功中宮亮季行卿沙汰進云々、讀岐重任

功歟、後聞、午剋王與至于勢多、夜中可至也、而次第遲

怠之間及今云々、近年橋損亡、仍用御船、國司沙汰云

山槐記 永曆元年九月

受領、遣院北面并諸宮等祇候衛府四十餘人、分部署行

事渡云々、然而不必尋遇之間爲自然之擁急、仍今更仰

改、不依各奉行隨到來渡之云々、大納言殿被仰云、山

城人夫一切不參、仍野宮御物不能渡勢、多頓宮、件沙汰

之間御禮遲々、仍辨觸案內於上卿、不參向西河留野

宮、沙汰具如服牛、參大極殿、仍上卿一向令行西河事

給云々、御扇使藏人高階泰綱着青色、有祿云々、

垣下殿上人參西河云々、

雖群行以後、月中爲齋云々、

十日乙酉 天晴、未剋着衣冠參內、今日當番也、次參

上西門院、近日有御造修也、申剋御供養、導師法眼宗

延、酉刻事、畢、公卿左京大夫陸、殿上人取布施、退出、

自大納言殿賜故殿御記書收、年來有御祕藏氣、而近會

參入之次、不披露并不傳女子、早可書取之由被仰、有仍

乍悅令申請悉書取了、已如奉謁青眼、感淚難禁、春日

大明神御惠也、

十一日丙戌 今夜內藏頭家明朝臣消息云、城南寺競

一一七

馬對揚誰人哉、近年如此事無術臨者難堪、然而慈出仕之間王命難遁歟、

十二日丁亥 雨降、參大納言殿、頃之退歸、城南寺競

馬念人書消息相催卅人也、受領七人宛乘尻裝束、水干袴等、又一人宛乘尻料破子、以私使分使、爲院司之人賜

廣歟、彌難堪哉、

十三日戊子 天陰雨降、午後大風、及半漏休止、今日

以下、

十四日己丑 王、院御子、高倉局殿、來月五日於東寺可有

御受戒、可參勤前驅之由有催、領狀畢、

今日齋宮令就察給云々、

十五日庚寅 天晴、午剋着衣冠參院、城南寺競馬念人

散狀書折紙付右衛門權佐時忠奏聞、此事民部權大輔雅長去比內御方除籍、仍不出仕、申可隨重仰之由、仰云、至于院御方早可參者、仍其旨遣仰了、次參內、次參

大納言殿、申承雜事入晚歸畢、

十六日辛卯 天晴、未剋着衣冠參內、依當番也、主上

有出御於小板敷、見參、頃退出了、

十八日癸巳 今夜長奉送使中納言房、歸參內、付藏人

申事由云々、

十九日甲午 天晴、今夜向鳥羽宿所、爲奉行明日競馬

事也、

廿日乙未 天晴、今日城南寺祭也、競馬左方事可奉行

之由、先日以家明朝臣有院宣、仍兼日相催念人、書立

給也、受領宛乘尻裝束已上音悉、又相具總頭衣卯刺可參之由、音消息催之、付右衛門權佐時忠所申散

狀也、早日可有御幸云々、爲尋具雜事、自去夜宿東殿

僧房、近江已語有眞之房、寅剋有御輿迎、鼓笛之聲驚夢、辰始剋着

布衣、縹白髮白練衣、此單練奴袴、參馬場殿、頃之右大將被參、冠直衣前

其後、念人殿上人、不供奉御幸之人少々參上、已刻

有御幸、寄御車於北面階間、予於殿上人座前見參、內

藏頭家明朝臣進寄御車轆掛手、爲執事也、右大將依召寢御

簾、令下立簀子之後、將軍又奏御所御簾、上皇入御、頃

之幣渡、次神馬、田樂巫女、舞人乘、尻分師子、神與等自東

渡埒內於西、本社、此間公卿候簀子、自階東、滋部御光隆、非西簀子、依近習歟、殿

上人候地上座、自御所、西方也、神輿渡、先是家明朝臣奉仰乘尻

等書分下給、仍各下知畢、尙右乘尻武安關白殿、番長、申灸治

爛然不堪之由、仍被加實檢恩免、兼以此由雖申上無御

承引、度々令申殿下給云々、然而依事實有免歟、其後

又番等有被改定事、仍更改着裝束之間頗遲引、武安代

貞弘又雖相具冠衣、失綏太奇怪、借求之間又遲々、雖

可有七番、爲用意密所被指催十六人也、午剋先左乘尻

渡御前、持、次右各渡畢、於馬場未駕御馬、上埒內、皆悉

上畢左乘尻先出、次番負方先出、持、時右方先出、鼓

修理大夫資實朝臣立打之、鉦鼓右少將通能居打之、左

方事予奉行、右方事右中將行方爲家通奉行、坐殿上人座上

邊、

一番、

左、左府生秦兼任、院御、隨身、持、

口取左少將通家朝臣、右少將實宗、各帶劔、拵奴劔、

纏頭予、蘇芳、生衣、右少將兼雅、同、上野守重家朝臣、

黃練、重家爲予上臈、然而固辭取末取之、

山 梳 記 永曆元年九月

右、左府生佐伯重文、

纏頭伊與守重盛朝臣、蘇芳、生衣、無口取、

二番、

左、左府生中臣季近、大將、隨身、

右、左府生秦兼清、勝、

纏頭侍從有房、無口取、

三番、

左、右府生秦兼國、大將、勝、隨身、

口取右兵衛佐親信、

纏頭參河守定隆朝臣、黃練、甲斐守盛隆、蘇芳、生衣、

大將依被候座、頗被致、響應也、將軍令僧三人祈

念、又令泰親令占、可勝之由申云々、

右、左番長下毛野敦助、

稱御馬不合番之由、偏不存負之由、歸候方

居邊、居方、

四番、

左、左府生秦兼文、



纏頭散位爲綱、朽葉、生衣、無口取、

右、左府生下毛野敦則、持、

纏頭散位忠信、女郎在、生衣、無口取、

右大將奉仕、被仰云、神妙令追者、頗發面目

歟、

五番、

左、左番長秦賴文、院御、隨身、勝、

口取右少將兼雅、

纏頭左少將通宗朝臣、家、黃練、右少將實宗、蘇芳、生衣、

右、右番長下毛野敦恒、

六番、

左、右番長下毛野武春、

右、左番長下毛野公貞、

纏頭右兵衛佐實清、蘇芳、生衣、無口取、

七番、

左、右番長下毛野知武、大將、隨身、

右、右近衛播磨貞弘、院御、隨身、

口取左衛門佐基盛、

纏頭右中將家通、蘇芳、生衣、侍從公房、

已上口取纏頭事評定合方之可然之人也、乘燭以前事

畢還御、予不供奉、歸宿所改裝束歸京、

馬場殿裝束、

御所、內藏頭家明朝臣仰鳥羽預、存先例鋪設、御所

西方以黒木柱構假屋、供膳之所歟、本有屋云々、方

屋埒西南方東西行云々、左右騎尻對座、太鼓當方屋

東北樓下立之、東西面、也、鉦鼓太鼓東南北面立之、

或人云、先々立太鼓西云々、埒仰左右衛門也、近衛

府沙汰者令給云々、不立棹、乘尻如水干裝束之時先

先不立歟、

乘尻事、

家明朝臣昨日仰兼弘重近、左右各八人令催之、雖七

番爲用意歟、但是未被番也、雖左近入右、雖右近入

左、臨期被仰下被召之輩、

左、

賴文、武安、季近、敦方、兼文、兼清、  
敦助、公貞、兼任、貞弘、武春、兼國、  
友武、敦則、重文、敦恒、

武安依灸治恩免、敦方又被免畢、次第不寄任日、  
隨本主也、但至于番長者、雖院御隨身府生下、左  
右大將隨身又不依任日、以左爲上、

同裝束、

左、

水干、紅衣、染摺破格子、

袴、未濃、

合袴、生、

已上三種下給也、

所課國々、

石見、永範朝臣、近江、範兼朝臣、上野、重家朝臣、參河、定隆朝臣、尾張、賴盛朝臣、

甲斐、盛隆、駿河、雅長、

乘尻料破子、

越後、邦綱朝臣、

山 枕 記 永曆元年九月

右、

已上予兼日相催、裝束色目任先々儀相計仰下也、  
各宛一具、色體不可有相違故也、前夜付院廳主典  
代請取、左兼弘右重近各給之令賦云々、注出所課  
國々賜主典代政泰爲令催遲怠也、伴主典代可爲  
行事之由內藏頭示送也、

水干、紺鹿子織、

袴、紫摺付袖、

合袴、生、

所課國々、

周防、隆輔朝臣、常陸、能登、基家、丹波、實清、安房、經房、

安藝、隆行、長門、親雅、伊與、重盛朝臣、

已上紫袴一腰、(白)下袴一腰、水干四、

遠江、基盛朝臣、水干三、

破子、

因幡、信隆朝臣、

已上右方事右中將家通朝臣奉行也、可着冠之

由藏頭被仰乘弘重近畢云々、藁沓又乘尻私設也、

右、

念人、

左、

家長朝臣、勞、所

家明朝臣、

師綱朝臣、

永範朝臣、勞、所

邦綱朝臣、勞、所

範兼朝臣、雖申可參、之由不參、

賴盛朝臣、勞、所

定隆朝臣、

保成朝臣、勞、所

雅賴朝臣、為釋行行事可向伊世、仍不加備、去夜上落、

信範、內、番、

道家朝臣、上、參、

長方、

賴憲、重、服、

俊經、同、兼、

雅長、

實宗、

實守、勞、所

兼雅、

濟綱、勞、所

盛隆、

保隆、

為綱、

為清、同、兼、

光能、

親信、

俊定、遠、忌、

已上布衣、但雅賴朝臣、長方束帶、

經家、

知盛、障、故、

資賢朝臣、

季兼朝臣、不、參、

隆輔朝臣、

長成朝臣、不、參、

信隆朝臣、

致盛朝臣、

親範朝臣、不、參、

重盛朝臣、

師盛朝臣、不、參、

賴實、同、

基家、同、

重房、同、

通能、

實清、

俊清、不、參、

清雅、同、

經房、

定能、不、參、

有房、

隆行、不、參、

公房、

基盛、

顯方、

言章、不、參、

盛方、

忠信、

泰通、不、參、

親雅、

御馬事、

召受領、又御厩御馬撰定、去十四日右大將并家明朝臣奉仰、向馬場殿調走足、隨身等皆參、同十七日於得大寺馬場又馳御馬云々、此所右大將領也、雖私所、鳥羽遼遠之上、隨身等住宅在上邊、於事有便之

由被取御氣色之由、將軍被命也、各走足無勝劣之由  
隨身等申云々、臨期不可申訴之由各仰合畢、設十四  
日番料云々、爲用意也、臨期自一番取下之、先左乘  
尻取之云々、

廿二日丁酉 天晴、依當番午刻參內、殿下可令參給可  
屬從之由有其仰、仍參向、於中御門東洞院奉逢、仍下  
車、卽相從參內、顯信同候御共、御軍網代、前駟衣冠、  
御隨身皆候御車後、自大盤所方令參入給、頃之御退  
出、雖可令參院給、被仰所勞更發之由直令退出給畢、  
予猶追從、入御後參大殿御方、依窮屈須臾歸蓬屋、  
時晴進天文密奏、藏人時盛奏之、去夜有大流星云々、  
件事歟、

廿五日庚子 陰晴不定、已剋向北山邊、求免委歷覽山  
野、入晚歸畢、

廿七日壬寅 天晴、殿下仰資能示送云、今日可令參院  
給事出來、一切無人、參上哉、隨左右可有御出者、可參  
由申、未剋參大納言殿<sup>在山</sup>院、申承雜事、申剋參殿下、良

久出御、前駟五人、下臈隨身三人許也、太輕忽歟、令  
參院給、時忠令人見參、秉燭以後御對面、頃之令參內  
給、依陣中步行、戌刻令退出給、予自令駕車給之所歸<sup>前</sup>  
畢畢、

院御所門前日吉社司延曆寺所司三四十人許群立、是  
依內山事訴申菅貞衡、<sup>兵長者云々</sup>

廿八日癸卯 今夜前中將賴定來臨、世間稱無賴之由、  
深夜歸畢、

廿九日甲辰 大將軍遊行間、北屋有可修造事、仍爲違  
王相自今夜宿北對東妻、

(花通家文庫本與書)

應永廿九年九月廿八日於燈下書畢、追可令校合而已、(在判)

以下俟廢癩書

延寶三三日夜一校了、權右少辨俊方筆也、(十六才)

享保十年十一月十三日於勤修寺之亭校合、

右大辨俊將

山 瀧 記 永曆元年九月十月

〔大炊御門本奥書〕

山瀧記十五册、借請今出河大納言〔公親卿〕本、令書寫校合畢、

延寶二年仲春上澆

攝大納言經光

〔野宮本奥書〕

元祿二年正月廿五日校合、少有不審事、遂失之字、以愚推少々改之、猶以他本可改正也、

羽林中郎將藤原定基〔廿一歲〕

元祿五三月一日一見了、

同八年正月廿日再見了、

〔久世本奥書〕

明和五年十一月八日自左大辨宰相〔後臣卿〕請讓者也、

紀 光

### 永曆元年〔冬〕

十月

八日壬子 天陰、

早旦大外記師元令六位外記師繼送往亡日拜賀例、〔書〕

加禮紙綴之、但不引樂、

狀云、

大殿、

承德元年三月廿四日任權大納言、〔左大將其歟〕如元

同十五日己卯〔往〕亡、令奏慶賀、

永曆元年十月八日 大外記中原師元

此事昨日所相尋也、仍註送之、去四日以後連々無日次、五日卒爾、六日休日、雖有例、猶思惟、而十一日行幸尤可供奉、而無日次、十日、〔往〕仍相尋者也、但猶於字先召使十一日早旦猶可宜歟、未存一定、

十日甲寅 天晴、時々雨下、

明日行幸已前可從事、仍先爲經內覽、仰三膳出納信仲

召取吉書、入柳宮

十一日乙卯 陰晴不定、

今日朝覲行幸也、予去三日補藏人頭、無日次之間、于今不拜賀、而今日行幸難歇止、仍雖衰日、拜賀并奏吉書也、但衰日之條、九條殿御流不用云々、然而故花山

院大臣殿令任皇后宮大夫御之時、知足院禪閣于時御願諫、雖御衰日令拜賀給、是行啓定必可參御之故云々、

具見故殿御記、其後令至左大臣給、吉例不求、幸甚幸甚、

卯時着關服縮縮綾表袴、黑牛比、今日依初參、兼日申開白敷

五位藏人之時申大殿御裝束了、今日申博陸何事之有哉者、仍隨使命也、氏長者御物尤吉物也、仰牛比不給下重許、着彼御裝束也、表袴下給堅文、着關服之間、不能着用、不御用意、爲之如何之由、先日又申合置相殿、

被仰云、用下重何事之有哉、隨使申主上御裝束、幼主之時更不能着用、然而私亂之令用之恒例也、准據彼事不可有巨難解者、又兼所卷綴也、依行幸也、拜賀之時猶可飛還敷、卷綴不持笏之由有一說、此事如何之由申、大納言殿命云、其參院、其二立中門、而、藏人重房、勸解由次官經、着衣冠相逢、申事之由、復命之後舞踏、下尻房所令許也、

今日申吉書之由、同令傳申了、人々不覽院云々、仍只申入事之由也、次參大殿、廣殿殿上、御門西光長相逢、二拜、次參博陸御方之間、早以令參內給了云々、仍參內、立弓場

山 梳 記 永曆元年十月

殿、藏人賴保二藤進相逢、復命之後舞踏、次撤劔笏入無名門代、昇小板敷、經大盤上着與座、上盤下程謂小盤盤、次長盤下程也、

次藏人賴保付簡、本列所上藏、人頭字敷、次賴保覽主殿司催湯漬、主殿司居湯漬於折敷、藏人頭前以折敷、經大盤上居予前、上下大也、次又居二杯、一杯與座最末大盤中程、一杯端方聚末、居了藏人取氣色、予

目許、賴保着端座、次食了置箸、實不真氣、色許也、藏人歸着橫敷、予起座居小板敷、令藏人賴保付內侍伺御氣色、可傳奏

之由有仰、仍出上戶、此殿領者此吉也、大內之儀出御此御座之時、也抑不出御者可召御簡也、時出上戶召御簡之時、然而此間內侍傳、令賴保取文杖、於渡

殿插之、於鬼間付內侍、即返給、昔昔昨日仰出納召取之、其而早以參內給、不御邊殿上、爲御大盤所之由、便宜經內經之由命內侍、而

不御云々、仍先奏聞、按杖返給、文杖返給藏人令置、相尋殿下御在所、納言信範取御氣色、次關白自南殿方令出居殿上給、此殿上

狹小、大盤上綴一尺餘、仍爲御覽吉書、依便宜合着端座敷、予候小板敷、依御目覽吉書不

用文杖、以手奉之、令結給返給、即結申、先內藏奏、次廣額懸紙一枚、其作法、先返給之時隨行、取文返逆行置前、御衣裳、付板敷開

懸紙方置文、先內藏奏請奏給申、押合申之、其詞云、內藏、案申、臨時公用料以年料內宛給、申之事、殿下目御、予徵音稱唯、息內卷之置左方、次取廣額解文給申云、美乃、司、申、當、年、御服、絹

マツノフ  
進上<sub>上</sub>申<sub>申</sub>事、目御、同前、次作  
付板敷卷懸紙、殘五六寸捲卷之退候、申了後關白令起座給、予  
着與座、初着、藏人賴保持來硯、引廣絹文裏紙、無懸紙、押挾  
座下學書端書、

可成返抄、

藏人頭左近衛權中將藤原朝臣忠親、

給藏人賴保、賴保下給出納、即成返抄、入柳篋、以紙捻結之、加判返

給起座、次於便所懸綾帶劔胡籙懸尻取副吉書引懸紙於

弓、進右仗、着膝突下、權中納言實長卿被結、予仰云、

マツノマ、歸出了、先是頭辦下行幸日時、仍帶弓箭也、

抑已下見御  
親行幸部、

### 十一月

一日乙亥 天晴、未剋參大納言殿、申承雜事、次參大

殿申條々、

一、中院行幸事雖可申沙汰、五節臨時祭奉行事繁多、

被仰付五位藏人如何、

仰云、被仰五位藏人何事之有哉、但經奏聞可隨敕定、  
此旨付內侍奏聞、仰云、早可仰付五位藏人、

一、帳臺試日當御物忌、出御有如何、

仰云、先々當御物忌無此事者、

此旨付內侍奏聞、仰云、去年依御物忌無出御云々、

今年御物忌強非堅固、猶欲出御者、

一、陪從章盛五、臨時祭定文入笛了、而藤原惟盛前兵部丞

訴申、

仰云、章盛為貞元子重代者也、尤可奉仕笛、但其藝

劣者不便、可依敕定、

此旨付內侍奏聞、仰云、可相計者、重申云、於笛惟盛

雖優、章盛重代之上為上臈、有改定者又為彼訴歟、

只可依敕定、

已上三ヶ條申大殿、次奏聞、博陸內相府相共令向宇治

網代給云々、仍不能申也、

兼獨供膳、藏人以明持來手水、予洗手供之加恒、但朝

饌許也、夕宮內卿師綱朝臣可供之云々、也才戌剋退出、

令申給、此旨可申前關白者、予即參彼殿申此旨、御返事云、爲院宣被催定了、令參熊野候了、仍不能申左右、可有救定者、

此旨歸參付通能申入畢、深更歸宅、

着直衣御使不便歟、然而爲御使及遲引者可無便、仍乍宿衣所參也、

今日法金剛院一切經會云々、右中將家通朝臣爲樂行事云々、今一人可尋、

四日戊寅 天陰、未剋瀧口八人到來、訴申不仕之輩可釋歟、予書消息可遣吉上之由示付藏人時盛了、賜酒肴、自本家人瀧口可相尋體持成也、追賜續瓶子、畫文

瓶子紫薄樣褰口給、折敷立薄樣入交菓子、乘與入夜亂舞、退出之時猶於門內亂舞、予仰侍令賜松明、下薦

取之前行、狂亂了、

亥刻許西方有火、西京邊云々、

五日己卯 天晴、藏人左近將監來云、內藏寮御櫛主一昨參上、其後令引五節櫛云々、

戌剋許南方有火、七條坊門西洞院云々、誠云、本十六大法師政堂宅云々、

六日庚辰 天晴、入道太相國被送使、前豐後守云々、丹波五

節内々所致其沙汰也、彼入道、而瀧口送物使無可然之衛

府、欲差賜彼所之上薦一人者、予答申云、早可差進也

者、未剋參内、右中辨朝方朝臣云、昨日初出仕者、去月

雖重服者吉服也、

藏人賴保云、去夕頭辨始着臺盤、束帶云々、件藏人依

御使不着也云々、宮内卿師綱又一兩着之云々、戌剋北

方出火、安居院邊云々、即滅了、

今日春日御遷宮云々、左少辨俊經下向行事、至于來十

一日逗留可奉行云々、

八日壬午 天晴、新大納言光被示送云、可獻五節之

處、已服假事出來、外嬖尼云々、太相明徳室、故後忠親女子、逐電參大

殿、付長定申此旨、仰云、先々如此之時被仰親昵之人

内々沙汰澁恒事也、可然人誰々乎、予申云、別當、光、公、

新中納言、顯、右兵衛督顯、之間可被仰歟、御返事云、早

經奏聞、隨救定可仰件人々者、次付信國申博陸、仰云、



令申給、此旨可申關白者、予即參彼殿申此旨、

御返事云、爲院宣被催定了、令參熊野候了、仍不能申左右、可有敕定者、

此旨歸參付通能申入畢、深更歸宅、

着直衣御使不便歟、然而爲御使及遲引者可無便、仍乍宿衣所參也、

今日法金剛院一切經會云々、右中將家通朝臣爲樂行事云々、今一人可尋、

四日戊寅 天陰、未剋瀧口八人到來、訴申不仕之輩可尋歟、

約之由、予書消息可遣吉上之由示付藏人時盛了、賜酒肴、自本人瀧口可相尋體持成也、追賜續瓶子、畫文

瓶子、紫薄樣裏口給、折敷立薄樣入交菓子、乘興入夜亂舞、退出之時猶於門內亂舞、予仰侍令賜松明、下蔭取之前行、狂亂了、

亥刻許西方有火、西京邊云々、

五日己卯 天晴、藏人左近將監來云、內藏寮御櫛主一昨參上、其後令引五節櫛云々、

戊剋許南方有火、七條坊門西洞院云々、或云、木工大夫法

六日庚辰 天晴、入道太相國被送使前豐後守云、丹波五

節内々所致其沙汰也、國也、被入道而瀧口送物使無可然之衛府、欲差賜彼所之上臈一人者、予答申云、早可差進也

者、未剋參内、右中辨朝方朝臣云、昨日初出仕者、去月雖重服者吉服也

藏人賴保云、去夕頭辨始着臺盤、束帶云々、件藏人依御使不着也云々、宮内卿師綱又一兩着之云々、戊剋北方出火、安居院邊云々、即滅了、

今日春日御遷宮云々、左少辨俊經下向行事、至于來十

一日逗留可奉行云々、

八日壬午 天晴、新大納言輿、被示送云、可獻五節之處、已服假事出來、外姨尼云々、太相國舊案、故後患卿女子逐電參大

殿、付長定申此旨、仰云、先々如此之時被仰親昵之人内々沙汰渡恒事也、可然人誰々乎、予申云、別當、公

新中納言、顯、右兵衛督長顯之間可被仰賦、御返事云、早經奏聞、隨敕定可仰件人々者、次付信國申博陸、仰云、

尤不便開食了者、次參內、於鬼間付內侍奏聞、敕定云、早可計催者、即先有此沙汰、猶可致用意、可被獻之人、追可被仰之由遣仰大納言許了、次遣仰別當之許了、卒爾之間難叶之由被辭申、重又仰遣云、於他人不可叶、依爲親昵彼大納言內々可被致沙汰、猶可獻者、請文云、於關如者非沙汰限、早可獻者、此旨付藏人時盛奏了、次參大殿、付藏人少納言信範申此旨、御寢云々、明日可申之由示付了、同可申關白殿之由示了、次五節事被仰別當了、早内々可被申合之由告申新大納言了、及半漏退出、

顯時卿、顯長卿、依光忠卿母氏彼卿等被也服及來十七日、仍仰云、公光卿也、

九日癸未 天晴、藏人判官時盛來云、明日平野祭臨時、祭宣命上卿事、唯今參別當御許申了、被申可參之由者、今夜新藏人仲重初參云々、

藏人少納言示送云、中院行幸御湯殿役可勤仕者、予申承了之由、此事觸山蔭後胤之人勤來者也、予外戚所觸

也、近來左府黨勤仕、實家朝臣當時服候云々、十日甲申 天晴、藏人仲重來、予逢謁、命云、明日可從事、禁色事欲被宣下者、予諾了、別當于時中被納言、被參內即仰了、

未剋參內、令藏人時盛奏聞事、

一、新大納言申、依服假辭申初齋院上卿事、

仰云、早申前關白、隨彼命可催者、

一、五節事兩國各不可略參、御覽之由有院宣、御物詣以前各領狀了、而共三以不致其沙汰之由唯今言上事、仰云、於若狹者内々有女院御沙汰、而此間御重惱、每事不能御沙汰、爲不關公事唯如形自閑道可參云々、爲彼院仰重難被催歟、同可申前關白者、

奉仰參大殿、付高佐申此旨、

一、初齋院上卿事、

仰云、相計無障之人可催者、

一、五節、

早如院宣重可相催、於若狹事可隨敕定者、又歸參內申

此旨、謹責丹波、兩三度之後參事許領狀、依半漏今夜不奏聞、

申剋平野臨時祭有御禊、

藏人時盛奉仕御殿御裝束、大炊御門殿儀、

垂御簾、母屋也、依懸簾庇以反燈樓網、西第三間供御座、北妻敷小筵二枚、其上供高麗半站、當間西二間立幣案二脚、葉薦方東西供之、其御座暫撤之、其東當御座間敷圓座二枚、使座願退巽下也、于時雨下、

仍立幣案於中門廊、願向乾、雖可向西、宮主後當御浴、行事藏人召新御次出御、額間、次予供御草鞋、平敷御座不

可供歟、而但後三條院御時供之、右府被申不可供之由、其後不召云々、然者又有召不可為後例、即候御罷着御座、西面着御、此御座向乾兼供之、次獻御笏、藏人傳之、御笏宮蓋內敷袋、其上註御笏、次供御贖物、藏人授予、取散米入御前四間居御筵上、藏人次宮主獻大麻於長

橋西端、大內儀跪取之持之、主上取之有御息返給、令取

也、予給之返給宮主、宮主着座、使右兵衛佐實清御贖物、御贖物、信範

從來、取人形授之、信範退歸、予取米退出、次使進案

下、指笏取幣立、次御再拜、予參進賜御笏、持參宮入御、使置幣退出、次別當就弓場被奏宣命、無草也、內記存知持、信範奏之、返給、召使於仗座賜之、依御物忌也、

陪從舞人裝束兼日行事藏人下請奏、內藏寮調之下

給、  
馬召寮、太別樣也、  
居饗云々、

藏人皇后宮權大進長方送書云、春日社遷宮事、土左守

信經朝臣奉之、而先年被取損色、其後四五ヶ年之間破

損一倍、仍申重被注損色、件事宣下覆奏文欲奏之處、

服假事出來、又彼遷宮去六日過了、於今不可被下之由

存之處、大殿仰云、遷宮者正殿許也、自余猶未終其功、

早可宣下者、此文大納言殿令奏給文也、宣下氏職事可宜、

仍付申者、予返事云、早可宣下者、

十一日乙酉 天晴、午剋參大殿、付資能申事、五節參

入事、丹波申不可存略之由、至于御覽其方難及者、

仰云、猶可被責、且可申事之由、

此間關白御方被立梅宮神馬御祓、南階御敷弘筵、其畢令坐寶子給、束帶、隨身等乘尻等渡南庭、自南山中出東、更上薦爲先渡西出中門、了令入給、信範云、今日大神寶次第自內令申大殿御、唯今清書持參也者、次參大納言殿申承雜事、

未剋參內、大神寶未持參、件事本藏人皇后宮權大進長方奉行、而去七日服假事出來辭申、仍予奉仰、仰藏人少納言信範了、六位左衛門尉藤賴保延、奉行、頻遣催、行事所桂芳坊御所大炊御門高倉也、申人夫依不相叶于今遲引之由、兼日召藏內受領等百人可遣之由下知云々、所纔進三十三云

云、又昨日仰使廳被召人夫、同前云々、而間已及秉燭、行事藏人賴保相具神寶參內、太神宮以下至于韓神奉渡、園分猶以奉行事務所、況於他社乎、不足言、此後信範召左右馬部付諸國雜掌太難叶、秉燭以後御覽、先是申剋許大納言殿令着仗座給、就弓場且被奏聞宣命草、篋二、信範奏之、次又就弓場被奏清書、入篋二合、五信範召具藏人泰綱、各取一合奏聞、於鬼間邊、此後大納言殿暫被付內侍、返給、候小板敷被仰云

山 槐 記 永曆元年十一月

須參八省也、而神寶引之間暗、次有御湯殿、次掃部寮敷筵二枚於西三間、儀(○)石灰壇、東西行南北對敷之、三間敷圓座、用大床子四座、爲御座、左右供二間母屋敷圓座一枚、用障簾、爲關白御座、次於長橋下、此殿依便也、自小板開韓楨蓋、上取居神寶、御細工成五位殿上人并六位昇之居筵上、與內宮、御一蓋、鋪以下物一居了申此由、次出御、御直

着御圓座、目蓋御座上關白令候第二間圓座給、次予經筵西并中、暫雖用持名、無其氣色、仍參進者也、令在反御、跪內宮神寶傍、先覽幣、次覽御鏡、備觀覽也、如本覆也、共次歸自本路、跪長押下、覽外宮御幣并御鏡同前、次催五六位令撤之、次覽宇佐、加御置儀如初、幣許覽之、太神宮以下不覽鏡、令置之間予候

篋子、此殿無覽了又撤之、次石清水、覽了又撤之、次賀茂同前、次日前國懸同前、次京內五社、松尾、平野、稻荷、大原野、韓禰、一度覽之、撤了入御、七道之口各可覽歟、無夫不持參、不足言、但先例不覽南海道云々、日前御覽了之故也、次御馬御覽、撤弘筵、下庇御簾、第三間簾中副御簾、退北二供圓座、

一四一

用大床、次出御、御束帶、爲御、關白合候二間籬中、予進候發

子、第二間、予仰可引御馬之由、行事藏人傳催、自東中門

引入御馬四疋、三正伊世、一正宇佐三匣引廻、引出西中門、予退候

主上入御、伊世御馬遣八省、宇佐御馬并使給御馬暫令

候、次有御拜事、其儀、垂御籠、此殿無孫氏、仍下母屋、○殿宇

第四間敷小筵一枚、南北其上供半帖、高麗、東方在東、

左右供掌燈、西第一間立黑漆案一脚、西北行、有、其上置

宇佐御劔、御鏡宮、御幣宮等、御劔入宮、及西朝北、南北行置

彼上○被止歟、此事如何、賴保云、院御時御劔宮東西、當御座間

敷宮主使等座、次出御、關白候御籬給、予供御笏、次供

御贖物、信籠役供、宮主獻大座、予供之、返給、已上僅見

野御、次宮主着座、次使着座、御禮了宮主使退出、予撤

行事藏人賴保參進、昇出神寶、案、取加、次入御、次撤御

裝束、無伊勢御拜事如何、大殿令進次第給、信籠奉行

之、尤不審、追可尋事也、

次如常敷畫御座、依孫氏、暫撤之、

次予召使、可候殿上歟、合殿只、使進候第三間、先撤年中行事障

御邊歟、而先候二間、真久信籠密、主上可有被仰事歟、而無其儀

御氣色、依爲定事歟、次信籠取御裝束、御半臂、下、

間障子、出第二間、被使出殿上方、次使下長橋、於西廊

砌躑躅、舞踏退出、於八省給宣命云々、諸社使等皆於八

省賜宣命云々、件使等見定文、有先日記、事了退出了、

後聞、神寶無夫、積雜役車云々、未曾有事也、

十三日丁亥、天晴、史廣重來曰、明日大原野祭辦分配

人有憚、自餘或障、或所勞、穢氣云々、申事之由可相催

者、即書消息遣左少辨俊經、申所勞、參內申此旨、重催

促、仍可參云々、此請文給史了、史勸他姓人爲行事辨例、覽治

又令氏大史爲代例承平天曆云々、重寶、永久天承嗣後云々、

付藏人賴保奏事、

一、初齋院上卿事、

當時無障人五人、近日重經假公卿十四相催之處、按察、障

之、權、大納言、勤初齋宮上卿了、連々、中納言公通卿、恒所勞

由、權、大納言、長齋無術之由申之、中納言公通卿、之聞不

事之由申、權中納言雅教、住所火事之後寄宿實長卿家、彼

別

當、當職之間不慮不淨  
事候歟、可慮重仰

已上申旨如此、本奉行源大納言依服假、被改新大納

言、彼人又服假、而源大納言日數今日許也、如元可

被仰歟、將別當申可隨重仰之由可仰彼人歟者、

仰云、源大納言明日可奉歟、猶申障者別當卿可宜、

且可申前關白者、大殿仰云、源大納言返奉行事、可

被尋先例歟者、

一、五節參御覽事、

御覽事權中納言雅教卿致其沙汰、參事丹波令沙汰

之由、申上、於御覽者人々訪相違事出來、其力難及者、

仰云、各有一何事之有哉者、

大殿仰同前、

一、臨時祭二歌事、

賴方奉之日來勤仕、而服假之間不參、信綱申可承仰

之由、賴方申云、賴方重服之時不被仰、只堪能者雖

不蒙仰歌了者、

仰云、賴方申旨非無理者、

大殿仰云、件事先々不聞食事也、若如行事藏人令沙

汰歟、

範基賴方皆被仰下此歌之由申所也、可尋、

一、備前國司申宇佐使供給諸庄園土佐對擇任先宣旨

被催促事、

仰、依前關白命可宣下者、

件國大殿御沙汰也、仍自彼殿下給此解狀申此旨、

大殿仰云、依神事所申也、早可宣下者、

參大納言殿奉下了、仰依請也、近日院御、此次奉下春日社

損色、官注申文奉下了、件文長方宣下、而依服假、覆奏

之後未宣下、依憚所付也、氏人可宣下云々、仍奉下了、

一、大原野祭行事辨事、子細、

一、輕服人近日多々、除服早可出仕之由欲被仰下如

何、

仰云、可然、大殿仰同前、

件人々書消息告除服可出仕之由、可仰下上卿事也、

而近代只仰障人歟、爲事之時書連歟、

今夜還宮大內、依五節也、戌終出御、其儀如恒、宰相中將不參、予取劔璽、參上公卿右大將、左大將、左京大夫隆季卿、非參、大中納言不參、但中納言實長卿參上、奉召仰事、行幸召仰頭辨奉、大宮、行供大宮行啓也、出御西門、大炊御門西行、大宮北行、入御陽明建春門、於同門內有立樂、北方也、可尋、右少將實宗候鈴奏、藏人少納言信範依供奉內侍所也、左少將通家朝臣問名謁、入御清涼殿、藏人仲重申內侍所渡御之由、主上御直衣、令坐石灰壇御、聞食奉安置了由入御、右少將兼雅供奉、左少將通家供奉行幸雖歸參、不參遇獻五位藏人信範供奉之、供神物事信範兼日下知出納云々、而不仰內藏寮、令相尋之處無其設云々、早可供之由信範責催也、凡內侍所遷御時必有供神物也、大炊御門殿守護事故義康男奉之云々、而御所守護瀧口二人可候之由可仰本所之由信範示、予答曰、最可然、但五節之間瀧口雖一人不可闕、且禁中盛光也、而近日城外輩多、人數少、爲之如何、所乘祇候何事之有哉、但又七道使大歌

召人之間人數滿了、其外闕也、若有官所乘左兵衛尉紀久良、左馬允橘公清有其便哉如何、信範諾了、仍仰藏人時盛了、大殿祭辨右中辨朝方云々、人也、十四日戊子 天晴、五節行事小舍人進櫛、彫飾廿、裝紙屋紙置柳篋未剝參內、秉燭以後退出、

十五日己丑 天晴、早且自田原供御所持來甘栗三十籠、上廿、以供御人彼沙汰人忠節所進也、有解文、不給返抄、只留了、召イ五節之時爲恒例持來兩貫首之許云々、自關白殿爲信範奉行被仰云、大藏少輔伊岐善盛造畢吉田社申覆勘、早可奏下者、無於假殿被行二季御祭例、仍來廿二日祭以前十七日可有遷宮、彼以前可宣下云々、入晚給之、

五節參入之日着直衣流例也、明日又淵醉以前難奏聞、仍雖着直衣付藏人時盛奏聞、次密々於小板敷下別當公光了、內々所相語也、不可爲例、爲不令怠神事也、又他藏人、戊剋參內、候小板敷催遣五節、仰預藏人、權中納言、戎別當、公、若狹守隆信舞姬曉參云々、實者只今自閑道密々參上、於五節所裝束、近代例也、

丹波守成行舞姬遲參、頻遣催、自入道太相國八條亭被獻云々、亥終參朔平門之由預藏人觸、予令藏人等令告

殿上人等、是非催促相調也、不用頭之人者、自開道廻向、有會尺之人者、列立神仙門外、雲客列立神仙

門外、瀧口皆悉來殿上口、上勞三人水干袴着狩褌、四勞稱懸色衣、負狩懸恒例也、抑來殿上口事先送不分明、藤大納言宗能說云、藏一兩人相具、或不然云々、而殿上口雜人狼藉來扱、又非無便宜也、藏

人取指燭在神仙門邊、予進出、一薦以明、二薦賴保取指燭前行、右中將家通朝臣、左少將通家朝臣、右少將

實宗、兼雅相副予傍、是非打任事、殊各有芳心也、次頭辨退出、三薦時盛、新藏人仲重取指燭、次殿上人等

從來、經後涼殿西北并弘徽登花殿等西、立貞觀殿北壇上、西上北面、予戶西間西柱西邊、頭辨立向柱東邊、此立所詳無所見、然而相尋人々所消息也、殿上人立兩貫

首之東方、而殊有芳心之人々、忌彼列少々立予傍、而被相引多又立西方、予示曰、早可列東者、仍行向了、藏

人等猶取指燭在傍也、或古○已、藏人五位四位立定之後、藏人猶指燭付下仕也云々、而近代如此、但無指燭者定暗歟、近代瀧口列居玄輝門西廊前、予令藏人

召瀧口四五人、令候玄輝門左右令拂雜人、先是自朔平門至于玄輝門內東折、自貞觀殿東上戶至于常寧殿良

壇下敷筵道、今夜敷筵太別變、行事藏人懈怠也、殿上人皆悉向朔平門、先女房六人參入、次重二人、次下仕二人、指實相副之、次舞姬

參入、經藏人五位、等取几帳角、凡參入之間主殿官人立明、此事非例、只內々自入道太相國許被語預藏人云、官人頗難澁、然

而猶令奉仕云々、可被相語近衛官人歎如何、舞姬入玄輝門之後予入貞觀殿西上戶常寧殿西壇、經南自后町

廊、經承香殿西長橋、爲重御覽新構之長橋也、今朝自承香殿西階南方頗有餘、○所、候小板敷、令藏人賴保申事之由、

頃之出御、額間、御直衣、紫散地葉文御放袴、紅雅額、打掛、淺御沓、今夜出御無劍璽傍也、頭辨供御沓、關

白、直衣、出自浮、右大臣、內大臣、已上、別當、束帶、々、劍笏、予文存衣給、行方

等列居孫庇、出力廂雲客皆悉取指燭前行、兼設筵道、孫庇

北行、出力於第三間、即經長橋并承香殿額間后町廊、入常寧殿馬道、入御大師局、關白命襲御覽給、頭公卿在御後、予

頭辨同候其後、不取指燭也、關白直入御籠中、兩丞相

暫徘徊戶外、依召入籠中、別當被向五節所、藏人被女參上、頭辨取茵令持童女、令入帳臺東戶、令教訓帳

臺南方當西第一間姬君座令候、次舞姬參入、理髮一人



許相副、令取几帳參入、自餘加制止不參入、四所參入次第如此、上薦、先昇北面西上列居、預藏人以明持鑑立戶南方、予頭辨立北方、令閉戶之時藏人昇殿、床子可鑣閉也、然而近代只押立云々、先是召大歌令候后町廊邊、舞姬昇了發歌笛、予頭辨候大師局戶外、殿上人皆列立后町廊、先阿音、次鬢佐々良、次萬歲樂、各亂舞、次雲客列入殿馬道、頭辨舞、次予舞、了如元歸下、次舞姬退下、自上薦退出、次還御、予獻御沓、右大將自后町廊至于承香殿西橋被着沓如何、后町廊東西令瀧口拂雜人令祇候左右、丑剋事了退出、

今年行事辨所不調御簾、遷幸之時御簾調、仍先日申大殿之處、可用伴御簾者、行事藏人以明、出納一薦清重也、

十六日庚寅 天晴、未剋參內、直衣、彌色字女織物奴袴、腹白色衣二紅單、括堅衣裏濃紅梅出表、入綿薄赤下袴、申終始殿上事、一獻勸盃新藏人仲重取杓、二獻時盛、今度讓頭辨令取盃、次朗詠、藏人少納言信範詠之、次召預敷反給、使參上、衣冠、藏人等出神仙門外

響應歎、次三獻預勸盃、三坏之後許定令肩脫、下薦進寄令脫之、予以下從之脫畢、次預歌今樣、季兼朝臣以下付之、五坏之後予受取之、以明取杓、次亂舞、畢阿音、出下戶、於渡殿着沓、為先下薦、經御裝物所南、大蓋殿路御簾後涼殿東簀子下御湯殿介、兼撤馬形障子及朝餉障子等、女房出綵袖、瀧口於黑戶西邊相待候在予後、如隨身不相具也、經弘徽殿登華殿等西、入貞觀殿東上戶、昇常寧殿良壇上、猶着沓廻立五節所、差劔退出、今日無所々淵醉、美福門院御不豫無便之故也、

今朝令丹波內侍被仰云、今夜殿上人可進櫛之由可仰者、仍令藏人告廻殿上人等畢、

戌剋着束帶參內、今夜御前試也、御殿御裝束如恒、今夜不敷弘座、又歎伴座不敷也、然而近代為流例敷之、而藏人逐電、寒氣無術、童女座南廊壁東間西行南北對敷之、人々參集後令藏人申事之由、閉殿上戶及青璣門、大歌候長橋南壁下、引幔於柱、此事不見指圖、然而近例歎、可尋、依仰令昇舞姬、行向南殿西北脇戶下、取齒

几帳等引導也、舞姬不居參集座、直理髮等取茵相具令參入大師、先是自北長橋參入在參集座、立几帳不着御前、頗有耻氣如何、參入畢大歌發歌笛、次內侍鳴扇、予進長橋下、仰云、御歌返也、次大歌發歌笛、次童女舞姬下、此間問名謁云、誰會、先是大歌等退出太奇怪、次召櫛撤御裝束、殿上人取櫛置御簾前、或一或二置畢、藏人取之進御前畢、予并頭辨不獻也、

十七日辛卯 朝間小雪、已刻參內、今日不出衣、着籠也、催人々、

未始劑且始殿上事、今日預不出來、二龍賴保饗應殊甚也、事畢廻向五節所如昨、瀧口五六人許參會、自余遲參、仍召籠畢、又本自不參輩同召籠、但依重科不入上日、此旨上薦并事行殿上口令藏人時盛仰下畢、童御覽儀具見指圖、后町廊令鋪筵道、御前長橋不敷之、依雪濕雖令敷筵、其時不降、仍令撤畢、于時關白遲參給、仰云、且可召公卿、仍予告此旨於右府之間、殿下參給、予奉目下、殿下參上、依仰令入籠中給、右府以下着御前圓座、件圓座並不設之相尋所之案不候云々、行事藏人可尋置不敬事也、仍予仰時盛密々令取集、藏人即發下圓座令敷之、殿下御座

山槐記 永曆元年十一月

供厚圓座、仍重二枚附之、磁公卿員七枚敷之、而殿下御座中、仍右府被案件座畢、孫虎二間以南敷之也、右大臣、內大臣、中納言四人、兼實、實定、實長、公光、太多上古無此例、直衣出衣、但別當不出也、予令藏人令催童女、先是令參設承香殿邊、權中納言童女參上、左中將實家朝臣、左少將實守朝臣等付之、昇北第三間長押上南行、居南第三間、公卿座上、兩將副之、自實子參上、依仰取扇、次返給、兩童女公卿座前至于一間、右側、左廻更退歸、下仕下承香殿西階、經竹臺西當童候庭、藏人賴保仲重引導之、藏人者可經火炬屋東也、而經西、不知故實歟、進退唯隨童也、庭濕之間予令藏人仰主殿寮、仁壽殿實子下砂令敷彼路、事畢公卿歸着殿上、予逐電退出、于時秉燭以前也、

戊剋着束帶縫藏、卷嬰、懸袴、帶、參內、今夜中院行幸也、召府廳頭大石光堅、相尋小忌、即持來、於小坂敷着之、第具見、次負壺取弓、去年記、戊終刻出御、品御、予付劔內侍、關白合候御裾給、頭辨取殿下御裾、右中將家通朝臣付襲內侍、設腰輿有案、於日華門、靜或人會、更欲昇御與於月花、次小忌公卿列南庭、次寄御輿、次予取御劔入御輿、次乘御、予

取御草鞋給東豎子、次取璽、宮同安畢、次持立御輿、御輿、長許  
負奉任之、無下契、大刃、不候、次小忌公卿先行、經月華門陰明  
駕與丁也。

門中和門、大忌幄前公卿列、三位二人、隆季  
季行之外不候、次入御中院南

門、近將不立替、小忌公卿列立西炬火屋北、北上、辨後、  
東面、在曠外、居、昇居御輿於神嘉殿南階前、壇下、  
供筵道、家通朝臣

取劔授內侍、出居庶壁戶、○外、  
東、送可使西戶內歟、予供御草鞋、次取璽宮授

內侍、昇御南階、自庇西行、入御西南戶、予參上寒幌、  
關白不入御戶內、次予逐電經西壇上、入御湯殿西向

戶、撤裝束着當色、為藏人頭之人於此所脫之云々、奉  
仕御浴殿、先是依召參上、奉解御裝束、以下御次第注

別記、次昇御令着齋服御、供御贖、次御手水、次供  
笏、次采女申時、入御、此間予着裝束、猶不帶兵具、神

殿事畢還御、次脫本齋服御、又着御齋服、御贖又進替  
之、已上御帶用帛御裝束帶、無文玉  
丸、次供脇御膳、次供御

手水、次又入御神殿、御手、  
開扉、入御時可開歟、事畢還御、着御  
本帛御裝束、已上件等役等予一身奉仕之、次予逐電帶  
弓箭劔參上南面、于時出御、予取劔璽安之、左近猶副

御輿、右不立替也、出中和門之間欲問大忌公卿、無其  
人、仍無名謁、不足言、御輿令過近衛轡前御之間、官人

取拍子歌千歲、副御輿至于月花門外、右近官人不候、  
無堪能者歟、可尋、下御之後左少將通家朝臣問名謁、

次還御本殿、于時丑剋歟、抑御湯殿人四位一人六位一  
人也、予先日誰人可奉仕候哉之由申院、仰云、可申大

殿、仍申彼殿、仰云、右大臣一族中可被催歟、而中院御  
幸事、申事之由仰付藏人少納言信範、實家朝臣假服、

仍予可奉仕之由有天氣云々、仍所勤仕也、觸山蔭卿後  
胤之人勤仕役、予外戚所相觸也、頗展轉事歟、六位藏

人賴保也、  
十八日壬辰 天晴、今日節會也、戌剋着私小忌、其儀具見  
去年記、

參內、人々宿老及經服人不着之、右府召、予出陣、副仙  
仁門南扉、左足為先經幕中、故殿貫首之時令經幕內御

云々、着膝突、外任奏予付內侍奏之、返出仰云、列三、出、  
御南殿、內侍置劔璽於東置物机、藏人取式宮式、一帖入、  
候、

御後、頭辨取之置西机、先是近將陣階前、內辨、右大  
臣、着兀

子、頭辨出、內侍臨東楹、內辨謝座參上、次開門、次闈司着座、次內辨召舍人、次第如恒、外辦公卿昇堂上、暫後各起座、出御殿良戶向五節所、內辨、小忌宰相、長新宰相能不向、頃之歸着、此間童女可昇之由令藏人令催之、三獻畢出舞姬、先令昇下小忌臺盤於東方、理髮扶持之、兼令參集西屏風外、敷茵立几帳、童女西壁下敷帖列居也、女官取脂燭、指イ經寶子立柱外、舞姬舞了大歌無音、仍密々令催之、事畢還御、宣命使左兵衛督公保卿口口口大夫史命云、祿所辨不候、右少辨依所勞退出者、予答云、先例如何、大辨宰相祇候、於事者不可闕、唯申案内者、

十九日癸巳 今夜右大臣始候官奏云々、右大辨朝方參上之由、後日示送、

廿一日乙未 天晴、未剋參花山院申承雜事、左少辨後院判經官代參上、申兩社御幸雜事、大納言殿爲院別當令奉行給也、

申剋參內、依賀茂臨時祭御馬御覽事也、頃之關白殿直衣

山槐記 永曆元年十一月

令參給、仰行事藏人以明垂庇御簾、取大床子圓座令敷第三間爲御座、取陪膳圓座數石灰壇、二間、爲殿下御座、予聞御座定之由、取毛付文、引寄右毛付、禮紙卷籠左文持、如形合書也、察官令持、出殿上東戶、進候第二間寶子、北面、候時藏人可被傳之、北毛付仰藏人令引御馬、先左六疋引之、近代良敷、自瀧口引入、三匣之後一御馬當御前之時仰云、乘レ御馬乘等騎之、忠經稱所勞之由、引立御馬、於竹盛東不騎、大奇怪事也、三匣之後仰云、下リ、次引出畢、次右六疋次第同前、引出畢左廻出殿上、給毛付文於

於行事藏人罷出畢、

廿三日丁酉 陰晴不定、着直衣、類楚日未出以前參內、先是弓場殿居朝飯、弓場殿東柱及軒廊柱引傍北行、東西對座、陪從兩三參入在東座、舞人不參行事、藏人一

人者大盤所之渡殿南柱并御裝物所東柱引廻綱、召馬、懸舞人陪從裝束、舞人副渡殿廢外東上、陪從御裝物所前北上、撤打毯障子、予候鬼間長押下、上格字向、南柱程也、藏人等候御膳宿前邊、令藏人內々申云、舞人陪從等裝束可分給者、仰云、早可給者、仍各分給、舞人皆以使者請之、藏人取之、於高遣戶邊給之、近

代例也、次賜陪從、兩三參入、藏人取之下立高遣戶前

石上給之、使賜御裝束去夕遣了云々、人長裝束自所給了云々、不能列也、賦了逐電退出、

辰剗着束帶、裝束待取盡、帶令着巡方、上野守重家朝臣告予、不足着改、耻辱也、今日依念不動每日之念謂之所致、今年宿願則文云、耻辱失意云々、已此事歎、

恒、催人々遲參、所使等頗懈怠、仍且所遣私使、內豎等多令召候獻公卿許、

供御湯、內藏寮獻、御膳云々、

奉仕御禊御裝束、其儀見、差圍、

次出御、自二(〇三才)間南、方予參上、裝御簾、

次獻御笏、於青澤門邊藏人傳之、經笏子入御座北間、自御前、獻之、自御後可獻之、由見江次第、而付被殿御也、

次供御贖物、於青澤門取之、藏人傳之、藏人少納言信範供其路如、獻御笏、米(〇散米貳才)左、予取之人形御右、信範取之、予傳

次宮主獻大麻、入仙在門、於長橋於西方跪取之、宮主兼重候於東端可獻也、

次宮主着座、御息了返給、

次使進案下、指笏取幣立、次御拜、了持參御笏、蓋、賜御笏、

次使置幣退出、出仙、次予參進裏御簾、主上入御、

次撤幣并御座、次立御椅子、用殿上毯代、可用二色布、相尋、藏人所之處、近年不候用掃部

察總代云々、敷庭座、其儀見、仍用彼寮、

次出御、自三間南方也、予候御、次予出殿上召公卿、跪右大臣座、上目之、候

小板

右大臣被奏宣命、內記入宣命於管、入無名門持參、自御座覆東方障子南方裝子入御座南間奏覽之、願御右府、返給、件宣命出御以前可奏、但出御椅子之間奏覽又先例也、予返給右府、右府召使、候盛朝臣入無名門候小板敷、給之退出、次公卿着壁下座、經無名、

以下、予出殿上召、經年中行事障子南與北端平頭爾跪候、伺天氣、願令願目給、微音稱唯、跣踐下、南廊小板敷座後、此路或兩座中央云々、然而公卿人々有後路、仍仰此路也、出長橋馬道、經舞人陪從座前(西也)、自人長座南向瀧口、仍召成之由於行事、藏人以明經竹筭并大短屋束、入仁壽殿土座、出南第二間、是極失也、除南作合間可出自北第四間也、而見謬出之、不覺事也、短慮之者、駐任朝庭、於事有失非不存也、出仙在門金奏時、令取在小板敷前之番著、次使

之抑御氣色召男共之由注次第策、然而近代只計其禮推參之、

以下入瀧口戶着座、

次一獻、予於仙在門外取杯、藏人傳之所雜色取瓶子相送、於仙在門

沓退出、藏人少納言信範勸、次二獻、勸孟右大臣、出明儀門、立東二間、孟、陪從勸孟所乘取瓶子、安房守經房取孟傳之、左衛門左

爲親取瓶子、陪從勸孟刑、次右府着垣下座、經房、藏人奏綱置御

部卿家明朝臣、瀧子所乘、重仙五位不參、又藏

人居之、次三獻、勸孟中納言實室綱、藏人傳孟、件綱輕服日數內也、禪

例也、次三獻、有無如何之由、關嚴間被答云、何有禪哉者、仍被勤仕

也、後日大納言被仰云、尤可憚、至于立立者可役也者、瀧子

經房、陪從勸孟宮內卿前綱朝臣、瀧子所乘、納言殿着垣下也、歌人登

歌笛、次安挿花螺、盃銅蓋於長橋東端、馬道北也、藏人秦國兩度役之、非藏人光能于時逐也、太奇怪事也、先居蓋於上置北方、次挿在置其南、動盃三獻之時、一獻之後或置之、但猶三獻以後似宜歎。次敷重

杯圓座、前所衆一人取之、置陪從前、次賜重坏、刑部大輔賴朝重盛朝臣、勸舞人可用英華之人也、而兼日雖相催不參也、仍用四位下殿、所衆取瓶子、藏人大進長方勸陪從座、所衆取瓶子、次賜揮

花、長方重坏之後退歸、使留長橋下賦之、右府以下取之後、出宣花門候殿上也、中宮亮季行獨常息少將定能、仍賜次人云々、仍予賜彼少將也、予不依位次公獨取了取之、四位五位少々取了後、猶少々雖看人數、長方取集之、進出賦陪從了。

次使以下起座、次入御、關白令候御廢給、予爲賜御草鞋雖進參、乍着入御了。次令諸司

撤庭座饌等、兼仰瀛口令、次主殿掃除庭中、令敷公卿圓座於簀子并長橋、

次出御、予奉氣色關白、關白參上給、奉整御身體、御草鞋乍着先度入御也。

次予召公卿、於殿上目右府、關白直令着圓座也。次侍臣着座、予以下兩三、候長橋下座、次予

昇南廊小板敷、候年中行事障子東方、與障子北、端平頭、主上令願

面御、微音稱唯、下本所着香、經火炬屋并一竹臺西、向承香殿土庇邊、召行事藏人、仰召成之由、經竹臺并

火炬屋東、入仁壽殿土庇、出南第一間、除遣合也、先度思、出二間、生運遣、恨也、着次歌人發歌笛、次使歌人等到竹臺西北邊、使立西、是賜給鹿、社頭料賜殿上、次舞人出御前舞、出仁壽殿庇第一三二〇、琴也、雜色二人持御琴、二、問舞也、而直進

山 枕 記 永曆元年十一月

庭中、求子駿河舞了舞人退入、

如何、予參進給御草鞋、關白令候御簾給、次公卿退下、于時夕陽欲沒之間也、近年動庭座及秉燭、今日事殊所最員也、

使前讚岐守俊盛朝臣、

舞人、

右兵衛佐實清、中務少輔長重、

若狹守隆信、左少將定能、

侍從有房、少納言重雅、

伊長、中務大輔長明、

左近將監以明、行、左衛門少尉賴保、廷尉、日藏人、

歌人、前隱岐守雅範朝臣、定、前右馬權頭能宣朝臣、

雅樂頭範基、歌、散位成綱、

相模權守信綱、散位章盛、笛、

重光、加、長經、加、

式部丞盛清、和琴、兵部丞賴盛、篳篥、

前兵部丞雅盛、 俊基、

二歌賴方輕服、仍雖不被仰信綱候歌也、

人長秦兼成、兼文輕服

事了馳參院、今朝自熊野御還向也、日來奏下事并五節臨時祭間事付時忠奏了、

亥剋歸參內、可有還立御神樂、御座如晝、不撤東庭敷

御神樂座、而間左少將通能雜色、於殿上口邊傳主殿司

云、美福門院已令崩給云々、日來御重惱也、予付內侍

申云、御神樂有無如何之、仰云、可申前關白、逐電參彼

殿、尋職事、不候、仍付近習侍申入、御返事云、可依先

例、但所存不可候歟、即又歸參申此旨、敕定云、不可

有御神樂者、仍其由仰行事藏人了退出、子始剋所歸參

也、但使舞人等祇候彼院人々、或自路頭或陽明門邊馳

參云々、於知足院邊各聞此事云々、亥剋許崩御云々、使舞人一人不候、仍祿不及沙汰也、

廿四日戊戌 今夜美福門院御葬送、火葬 自押小路殿

白渡御鳥羽東殿云々、越後權守資隆前火、次侍十八許

取松前行、次御車、次公卿等步行、

令參籠公卿、

藤大納言、能、宗 源大納言、通、雅 源中納言、定、房

藤宰相、藤、親 中宮亮、幸、行 新宰相、能、信

入道右大臣、定、雅 入道大納言、通、成 云々、

近衛司二人、

通能、 定能、

少納言一人、

重雅、

已上不申事之由參籠云々、恒出仕人并院司頗有御不請氣云々、大納言殿御葬送御共參上如何之由令申院

給、爲院司不可然之由有仰、仍不參給云々、

廿七日辛丑 時々雨下、及晚休、止、今夜自大內還幸大

炊御門殿、頭辨奉行云々、乘燭先參大納言殿、申承雜

事、次參內、無召仰并不下日時以前出御畫御座、此間

陰陽頭在憲朝臣於無名門申日時之由、仍頭辨取之插

杖云々、渡大炊御門殿了、仍持手經簀子、於額間孫庇

覽關白殿、次直入額間跪奏覽、奉上猶御返給、於陣下上

卿、此間猶令佇立晝御座御、頗違亂事等也、頭辨良久

不歸參、仍推出御南殿、予仰可引陣將渡之由、右將家

通朝臣許也、左將不候云々、不敵事也、予便密於東階

下着靴向日華門、與家通朝臣見御座覆、先是公卿列

立、左大將追參入、新藤中納言實長、別當公光、左京大夫隆季、予相副御輿至南階、直昇殿

上、於階西邊開葺戶入劔璽、取御草鞋如恒、出日花門之

間左大將仰御綱、於宣陽門邊頭辨被命予云、有騎馬所

勞不可供奉、追可參也、鈴奏少納言不候、藏人少納言

信範供奉內侍所、於大炊御門殿近將可勤仕也、予答

云、家通朝臣中將也、先例不詳、右少將實宗先供奉行

傳、幸方歸參可供奉內侍所歟者、然間於建春門人々騎馬之

間猶以無音、予以隨身示頭辨云、鈴奏事如何者、頭辨

被示云、實宗承可供奉內侍所之由、不相具馬、於中將

例者、御即位之時成憲朝臣勸之有先例之由、信範所申

也者、予答云、可示家通朝臣、頭辨命此旨於彼中將、中

將可勤之由承諾了、太不便沙汰也、成憲朝臣例寂惡例

也、院御時實長卿爲中將之時無他將、仍雖當仁固辭不

勤之、件夜無鈴奏也、中將例上古無之歟、重可尋事也、

今夜無立樂、若美福門院御事故歟、但未奏遺令、此事

可尋、於西門外獻大麻、御輿寄南階、予開葺戶取劔璽、

供御草鞋、便廻參御後撤御輿、家通朝臣一人相副歟、

右中將家通朝臣奏鈴、敕答之後直進上達部上頭問名

謁、今夜儀不敵次第也、鈴奏名謁兼行無便宜、然而只

一人候之間如何、雖無先例、猶奏了經公卿後可問歟如

何、未代之極也、可悲々々、入御後頃之內侍所渡御、右

少將實宗許供奉、左將不候又如何、職事信範供奉也、

于時雪降中夜過寸、退出次又參大納言殿、依有可申事

也、卽歸蓬、

廿八日壬寅 藏人以明來云、小舍人兼宗、自讚岐院御

時召小舍人、只件男許也、其器優、欲申補定額者、予答

云、有理者何事有哉、但被召問守時宗明イ時等如何、且可

被申頭辨也者、以明向頭辨、返來云、被補何事之有哉

之由頭辨有命、予答云、然者承了者、件定額者近代十



二人云々、只貫首進止云々、

廿九日癸卯 新大納言障後初齋院上卿事、先日示付

右少辨時忠申院、今日有勞事、密々以消息相尋、仰云、

可催新中納言、顯時也、上、此旨遣仰中納言之許、請文云、

今日復日也、以無障日可獻請文、暫此旨不可申上者、

卅日甲辰 陰晴不定、申刻參院、次參內、免瀧口賴平

正時召籠了、依爲八十島公役、雖私事爲令出仕也、仰

藏人時盛了、次參大納言殿、申奉雜事、申可參御堂御

八講之由、命云、瀧口尤可相具也者、入晚參御堂、瀧口

信俊相逢、便召具了、秉燭以後殿下令參給、入御阿彌

陀堂門、昇南廻廊西石階、自蓮子西方昇南階令着南庇

饗座給、御座東方奥座、無對座也、中納言中將以下同着座、侍從候座

末、次政業取盃<sub>居</sub>、居御前退、以長取瓶子、殿下取盃令

擬中納言、中將進參給之傳左大辨、次予以下傳蓋、宮

內卿師綱、上野守重家朝臣令着堂中座、御座二站、次第着

座、侍從一行列席也、朝座了有行香、殿下令進行香机

下給、中納言中將、予、師綱朝臣、重家朝臣、賴輔朝臣、

家通朝臣、濟綱等直自座上列席、三綱頒輪、次第傳下

了、經机南殿下令立北第三間南柱下、東次經上臈前北

行列立、次經篋子西行香、出南第一間、經篋子列席本

所、次第傳上、自下退歸着本座、左大辨依小除目先是

參陣畢、予窮屈無術、仍不待夕座退出畢、

今夜有小除目、內藏頭平重盛(家明辭退等)、勘解由長、宣安長、內膳奉(膳高階信顯)、外記大夫、

上卿新中納言顯時卿、宰相左大辨資長朝臣、頭辨雅賴

宣下之、

(本云) 正應四年九月十一日以或本令自書寫了、

正四位下行右近權中將藤原朝臣列、(生年廿八歲、

應永廿五年三月十七日書寫了、

此本帥中納言公雅卿本也、

(大炊御門本與書) 從四位上行左近衛權中將藤原朝臣列、

(山槐記十五册) 借請今出河大納言(公規卿)本、令書寫校合畢、

延寶二年仲春中泮

權大納言經光

(野宮與本與志)  
元祿二年後正月十四日校合畢、

左近衛權中將藤原定基

元祿五三月十一日一覽了、

元祿第九正月廿五日再見了、

僧正任事、

仰云、前關白可被計申者、

參殿之處、渡御桂新住所作事所云々、

一、經範所進之公家御勘文事、

仰云、早可奏申御愼之由、可有御祈者、

參關白殿、先申事由、可有御覽之由被仰、仍付  
信國獻之、即返給、今日公家御衰日也、仍不奏、

一、右兵衛志武清、兵庫屬季長依病辭申所帶官事、

仰云、聞食畢、

申關白殿、同前、

已上明日可申內并大殿也、申刻歸亭、

三日丁未 陰晴不定、時々小雨、未刻參大殿、付高佐  
申事、

一、興福寺申三會巡事、

仰云、依有例、申事次可在御定之由可申院云々、

大殿仰旨付行隆申院、

仰云、三會巡今度不被任之由訴申者、尤有其理、

十二月、

一日乙巳 天晴、申刻許瀧口十一人列來、惟宗賴平獻

二字、日來城外、其後召籠之間于今遲參云々、賜酒肴、

入夜退出畢、

二日丙午 天晴、經範號奈持來公家明年御勘文、書一

懸紙、予明年勘文詔付了、

未刻參院、付藏人治部大輔行隆申事、

一、興福寺衆徒重申、依三會巡、以別當僧正超越上臈

山槐記 永曆元年十一月十二月

至于指申一事者頗任意歟、被問人々如何、

院宣旨又申大殿、

仰云、被問人々何事之候哉、

予申云、被問人々事、於陣可被定歟、將内々可被

問歟、

大殿仰云、仗議可無骨、只可被問可然人々也、

予又申云、入道右大臣、藤大納言參籠美福門院御

忌、何樣可候哉、兼又中納言公通、雅致卿近日如

此事被加問、件人々可問歟云々、

大殿仰云、參籠女院人々、於門外令問何事之有乎、

兩納言不可然、強不可及廣、只大納言已上可問也者、

一、太政大臣被申、皇太后宮少進良清望申非藏人事、

大殿仰云、可申事由、

院宣云、大殿可令計申給、

大殿仰云、件男子細委不知給、可在御定、

院宣云、可申内、

敕定云、當時非藏人三人、々數雖多四人有其例、可

依院仰云々、

今夜不能申院、明日可申云々、

一、清原宗直望申藏人所衆事、史大夫景直子

申大殿、仰云、早可奏聞、

申院、仰云、大殿可仰下之由被申者早可宣下、重申

大殿、早可仰下、

申内、聞食了、

明日召名簿可仰下也、

一、昨日所申院武清季良辭書事、

申大殿、

仰云、聞食了、

參大納言殿奉下、但今日國忌日也、明日可令下給

之由内々申置了、

已上兩三度往反、夜陰歸宅、

抑以行隆自院下給皇后宮未給御申文、隆季卿示保實

可被備、事次可宣下者、此旨申大殿了、

四日戊申 夜間雪降、深二許寸、午刻向右大臣公能、

亭、姊小路北、萬里小路東、是興福寺衆徒申今度僧事、不被任三會

巡、以別常權僧正惠信任大僧正闕事、有上藏二人、僧正寬

正覺忠(益信舍弟)、可被計中之由也、而被向菩提樹院云々、仍示

符範實預置解狀案了、正文又可特向人、人許之故也、次向入道前太政大

臣亭、八條北、萬里小路西、付係中納言長、奉奏狀、被命云、先雖可

見參、近年髀腰居老耄無術上、此間風病相侵不能面

謁、尤有恐對面之由可被披露也、抑三會巡不任事訴申

者、尤有其理、而至于超越事者可在敕定者、次向太政

大臣亭、九條北、堀川東堂也、於佛前被謁、着重服小直衣、中納言伊賀彌菟

被申旨同入道太政大臣、以此旨令申也、內々被命云、

若被尋所思之氣色者、以外非道之由所申也、仍可在敕

定之由申也、止可申、覺信依三會巡任僧正者、非超越上

薦、先例不覺悟事也、數刻及他言談、又被命云、美福門

院崩事可被行廢朝許云々、是普通后宮儀也、養祖母不

可有錫紵之由法家勘申、尤理也、然而服者依恩云々、

朱雀院幸太后之時、令奉問思食置事御、太后被仰云、

不見宮在位之時事遺恨也者、朱雀院爲叶彼御意趣忽

遜位、村上踐祚、仍天曆御時爲先院宣、參內人先可參

院之由被宣下、依母后一言忽有即位事、依難令謝彼恩

給、雖無例有忌月云々、而當今即位事故鳥羽院思食立

者、女院自襁褓中被奉養育、依思食彼院事也、而父不

即位子即位事雖有先例、無乍置見存父其子即位之例、

仍當院有踐祚、相繼當今有即位、云院云內、彼恩爭可

令謝盡給哉、普通儀無術有變事歟、又被命云、故中納

言雖無才庸性質、一事觸耳無忘却、公事之間事大略令

申聞了、而逝去了、如諸家記者、可賜彼子息小男等、手

自抄置父書等多々、如代々之物後代散落者悲事也、欲

破却也、除目執筆事卅餘々年之間殊入功抄出、或訪先

達、汝有其志者欲教授、不可披露、先所作之次第可與、

以彼土代可出問、予答申云、如此事可進申也、然而依

思身不肯不出其語、不能申左右者、明春閑日可來、必

可教授也者、如此言談之間有被流涕事等、尤理也、入

晚歸蓬屋、今日人々申狀未取具、仍明日可申也、以消

息相尋人々三人、

入道右大臣、須行向也、而被和議女院御忌、仍以消息申家司許也。

被申云、三會巡今度不被行者彼賞欲朽之由申、尤理也、於許否者可在敕定云々、

藤大納言、能、宗

被申云、尤可被任之、

大納言、賴、光

如此事可在敕定者、

私被命云、覺信例可爲准的歟、但彼次第轉任此上

臆超越許否可在敕定、如此預願問願面外無計略、

自今以後可申除之、

大納言殿去夜申置了、明日參院次可申請也、

今夜御堂御八講結願、依少患不參、大納言殿令參給云

云、常陸國條事定、大納言殿可令申行御云々、而公卿

不參、仍延引云々、陳大死樣出來、不可終歟。

戊刻光盛送書云、明日左大將殿可有着陣、其旨可下知

府者、今年明日之外無日次之故也、別當公光參陣、被

勸八十島日時云々、十日進發、十二日發、右中辨朝方朝臣參陣云々、

藏人仲重以小舍人告送云、只今殿上犬生子食之、仍犬死穢出來、仍所觸申也者、

後聞、今日陪膳右馬頭信隆朝臣、而彼人勤院每日御被

陪膳、仍經院奏之處、犬死穢不可混合院、不可參內、通

家朝臣候院、早參籠可勤仕之由被仰云々、

五日己酉 天晴、未刻向右大臣亭、爲承昨日所申置之

三會巡事也、被出遇被談雜事、被申旨被書檀紙請文許歟此

間被取出手本一合被見予、神妙物等也、道風銀泥經位

記本、佐理詩清書、拾遺納言願文消息等數通也、被命

云、消息一卷今日引出物可與、可撰出者、仍一卷申請

了、又道風位記本三宮御本云々、大納言一條院御願文暨申請

了、令寫取也、次參大納言殿、令申給旨書消息下給、取

加參大殿、經御覽仰云、早可奏者、次參院御所、無便宜

云々、仍退出了、于時秉燭以後也、今夜院御佛名云々、

判官代重方奉行之、

六日庚戌 天晴、午刻參院、付行隆申上事、

一、南都三會巡事人々被計申狀七通、進覽之、卷籠禮紙一枚、此事

去夜申入大殿了、

仰云、猶可申合前關白、衆徒任意申請之條如何、被任凡僧一如何、

此事令申大殿、而令渡桂御、依爲密々事不參上、明日可申也、

一、太政大臣被申良清內非藏人事、

可申內之由一日有院宣、敕定云、當時三人雖人數多、四人又有例、只在御定、此旨申院、無左右御返事、未刻歸蓬屋、

宮內卿師綱朝臣語曰、美福門院御骨奉渡高野御山、依御遺言也、而鳥羽東殿故院令起立御塔二基御、一基被納故院御骨、今一基此女院御料也、然而可置高野之由有御意趣云々、而彼御塔三昧僧天台、六口、并故院御塔三昧六口合力奉留御骨、訴申何被貴弘法大師

可被賤傳教大師哉、故院令定置御事今更改易不當之由申之云々、仍遣重方被仰子細之處、申云、然者可分置御骨於兩所、此儀又以外事也、御骨雖不御坐、御塔

三昧僧者不怠之由、能々被仰舍、仍去二日遂奉渡高野了云々、

七日辛亥 天晴、午刻參大殿、付高佐申事、

一、三會巡事申昨日院宣趣、

仰云、畏奉了、只可依御定、

此旨參院付時忠申了、

一、陪從等申准諸道博士被免五位役事、

仰云、早可奏、又以信基申關白殿了、

參院申、仰云、此事先年所申也、然而陪從役者雖似

連連、又無所役之時多之、世間役勤仕五位不幾被

免者、定無人勤役歟、但前關白可被計申者、

次付右少辨時忠申入事、但馬庄可寄御厨子所御符事、

備中敕旨被改立可獻院御領等也、入晚退出了、

院東門外、大原野社司神人等持梓柳群立有訴申事、不知子細、

法橋增印付公家御勘文、一通法橋增印、封之、一通經範、不封、無禮紙宿紙、

兩御所藤中納言實定卿參陣、就御所被御體御卜奏、藏

人右衛門尉時盛奏之、置日記御厨子、別當今日參陣、  
可被勘改八十島使日時、本儀來十日進發、十二日祭云々、而着  
十五日進發、同十六日祭云々、不當公家御食日之  
時多用西日云々、來十七日酉日也、可然神妙歎、

藏人高階泰綱、藤原仲重、頭辨仰別當云々、

藏人藤兼隆、原イ院判官代、平信季、信範二男、  
關白幼弟、

今夜宿大炊御門富小路宿所、幕末門院御  
邸所宅也

十一日乙卯 天晴、午刻參內、付內侍申事、

自初齋院被申瀧口源盛致依爲事行辭申公役事、行事辨  
送予

仰云、可計差進者、申院殿下、此事強非大事、然而近

也

代事有內奏輩之故也、

次參院、付行隆申事、

一、山座主被申珍豪望申御佛名御導師事、

仰、前關白可被計申者、

一、初齋院上卿新中納言顯進請文事、

仰、聞食了、

下給文、

敦方申讓與御應伺職於男友武事、右大將參上  
被申也

仰云、早奏覽可仰下者、

次參關白殿、付敦綱申以前事等了、

次參大殿御方、職事不候、仍空退出了、

瀧口盛親參殿、仍負胡籙進來、予其依無指要事令啓了、

外記云、今日神今食少納言不參、昨日頭辨奉院宣被

催、猶申障、而頭辨稱所勞不被申上、早可奏者、予答早

可付他人之由、史云、神今食辨不參、早可奏聞、予答以

有所勞之由、

十二日丙辰 天晴、出納仲政持來粟力栗津御厨申文、加新

網代辨備供御事、加判返給了、

瀧口源盛致依補事行辭申初齋院公役、仍仰平季久了、

但件男今月許之由申請也、其人不被申請、又カ又無殊可付

輩、凡可爲廻公役之可下知也、有脫左少辨俊經奉齋院

仰示送云、瀧口藤原爲信可申請公役也、依被申請、自

本宮改季久仰爲信了、以書狀命藏人賴保了、

十三日丁巳 來十五日八十島使進發、公役瀧口今一

人申加云々、源盛致差遣之由、事行藤親綱來示也、

十五日己未 陰晴不定、今日八十島使典侍右衛門督濟盛親女子、下

向也、自六波羅家云々、仍已終剋爲見物密々、向七條室

町小屋、大納言殿同見物給、午刻進發、先神寶韓楨二

合、次八足、次敕使藏人右衛門尉平時盛、延尉三藏、衣冠青

色袍、合懸調度、隨身火丁小舍人宗時、相具、已上騎馬、無

首尾至朱雀邊、不可然歟、瀧口惟宗賴平十五藏、此公後依爲藏人共上藤通

云、負胡籙在共、御衣公役云々、次一家殿上人、地下人

十三人、尾張守賴盛朝臣、常陸介教盛朝臣、伊賀守經

盛朝臣、藏人少納言信範、帶、紀伊前司雅重、右少辨時

忠、冠、佐渡前司爲信、宮內卿大夫資長、淡路兵衛佐宗

盛、藏人大夫親宗、少男二人、已上布衣、金吾一、典興侍車、

唐車、車副八人、頭木上下、出款冬衣、半筒着赤色上下、次伊豫守重

出款冬衣、蘇芳打交綱、車後出短包、八、車副稱習、次伊豫守重

盛朝臣騎馬供奉、連檢非使、平貞能、左近將監奏兼弘、

在、次女房車四兩、一家人々、車新調、女房衣色、五、所次童女車

一兩、所乘瀧口各、次半物車一兩、同、次左宰相中將俊通卿

駕毛車相送、隨身垂袴褐衣、次備中守信忠以下及衛尉

武者所九十三人、次中持四合、次艦打出女房裝束入長  
檣持列、未刻事了歸宅、

着束帶參大殿、付信國申事、

一、自院下給敦方申讓與御應倒於二男友武事、大殿

仰、可仰下之由有院宣者早可下、

此旨參院付行隆奏聞、

參內、付丹後內侍奏聞、仰藏人以明了、以明仰出納

令成牒云々、或抄云、下文云々、仰召遣道志章盛、馬寮沙

汰者一人不必召左、可仰下之由仰以明傳奏、內侍位階

姓名可令仰聞廷尉之由下知了、依爲內侍宣、廷尉尤

可下知也、

一、山座主被申珍豪申御佛名御導師事、

大殿仰云、故白河院御時有瑕瑾之者被仰御導師之

間、以外事出來、能相尋如然事可申上也、

一、內侍所御神樂殿上召人以下事、

仰、可申內、

參院奏聞、次觸藏人大輔行隆之處、補職事後未奉行



藏人方事、爲神事奉行尤可宜之由示合、彼人承諾、仍示付了、此事依院宣可奉行由頭辨被示送、不然之由行隆所命也、如何、

次參院、付行隆申事、

一、殿上番陪膳番可結改之由被仰下、而近日參寵女院御忌人并重服人多々、被除彼輩、以件分又被賦宛他人者、雖自番雖他番頗有事煩歎、明春一定之後被結如何、

仰云、尤可然、其間只不可闕樣可計沙汰、

秉燭以後參內、右大臣着仗座被行不堪定、新中納言顯時卿、經大辨人也、參議左大辨資長朝臣執筆、事了有官奏、右大臣初被奏也、但吉書并荒奏先日被奏了云々、權右中辨成賴朝臣奏申、付內侍取御氣色、御直、次成賴朝臣出陣、申出御之由於右大臣、次右府奏聞、了歸着陣、即被退出、內覽此後云々、關白令坐里亭、依可經時刻也、藏人云、頭右大辨雖參不見申文如何、大辨兩人參之時、或並見之、或相替見之、而職事方參之時被命如何者、頭辨出陣、下太神宮解狀、右府被給後、又自國中被下甲斐濟物免除申文、歸出云、太神宮解狀不加他文歸入又可下歟、然而又何事有之乎者、

十六日庚申 今日荷前云々、頭辨被尋沙汰云々、內侍向縫殿寮云々、

十七日辛酉 今夜有高麗國擄留商人之定云々、可尋諸遣勘文定文等、

十八日壬戌 出納仲政持來御應伺補任牒、或抄下文云々、又近代如此云々、去十五日所仰下也、然而又牒有例、致方讓友武也、然而讓之由不載牒也、加判返給了、

廿日甲子 申刻自院有召馳參、以行隆被仰下云、近江國司申日吉造宮事、以國司力難終其功可爲院御沙汰、

可被催諸庄園之由申上、而被仰舍新大納言之處、職事可奏之由所申也、仍被仰頭辨之處、近日歲末公事多之

由申、殊忿思食事也、汝早可尋沙汰者、申承了之由、次參內、書消息遣近江守範兼之許、可言上之事等早承子細可奏聞之由也、返事云、明且相具文書可參者、

廿一日乙丑 晚頭近江守範兼朝臣相具日吉造宮文書等、今日美福門院遣令奏聞云々、去十一月廿三日崩、廿五日御葬云々、被過神今食之間

及于、上卿富小路中納言公通、辨權右中辨成賴參云々、被固關警固、廢朝三箇日云々、

廿二日丙寅 參院、付權右中辨成賴朝臣奏日吉造宮事、件事辭申也、可付他人之由有仰、不被指仰其人、追可申定也、

先是參大殿、付飛驒前司季長申事、

一、太政大臣被申後七日阿闍梨宗海望申事、

仰云、早可奏、但被定了様聞食也、

付成賴申院、仰云、早被定了、

一、大納言殿令申給橋信保所雜色望申事、

仰云、早可奏、

院仰云、大殿可令計給、

一、陪從等申五位役事、

大殿仰云、強非急事、聞食定可有左右之由令申給、

院仰云、然者暫可令候、

今夕被仰開關、二夕日也、先例可尋、小一條院崩時二

夕日歟、可引勘、明日國忌也、仍今日被縮行云々、去夕

警固之由不聞及、仍垂纓參內、忽卷纓祇候、

廿三日丁卯 參大殿、付資能申事、

大納言殿令申給信保事、院仰趣、

仰云、早可<sup>申歟</sup>內辨<sup>可歟</sup>仰下、

此間付盛隆申院、

仰云、同<sup>同力</sup>申內可仰下、

付藏人時盛申內、

仰云、院宣切了者早可仰下、

明日申關白殿可仰下也、

參院、付盛隆申云、日吉造宮事可仰他人之由昨日蒙

仰、可仰誰人乎、

仰云、可仰行隆、行隆於御前奉之云々、仍文書等返遣

範兼許畢、依未奏也、

廿四日戊辰 天晴、自田原供御所持來甘栗卅籠、是爲

恒例獻藏人頭云々、五節之時同所持來也、副送文、不

及返抄并祿事也、藏人大進長方送書云、御佛名僧名可

定申者、答云、聊有故障、可被申頭辨、又直被定申何

事之有乎者、兼燭以後參關白殿、申覽所雜色名簿、<sup>橋信</sup>

大納言給也、<sup>昨</sup>付藏人少納言信範申之、仰云、聞食畢者、<sup>日申院大殿也</sup>

次參內、今夜御佛名也、藏人大進長方奉行也、御殿御裝束見差圖、大炊御門殿以南裝束之儀、頭辨被命云、僧名未定申也、汝已參入、於今者可定申歟者、答云、可隨所命也、但藏人大進觸申者、只又令定申給何事之有乎者、頭辨承諾、參朝餉被定申、歸出被命云、有種々失禮等、流墨書落物一也云々、于時公卿四五輩被候殿上、右將軍可被參云々、可被相待歟、將且可被行之由頭辨合藏人被奏、仰云、早只可始行者、此旨行事藏人賴保床觸、予祇候鬼間邊也、予命云、早可召僧者、賴保出弓場殿、仰圖書令打鐘、於西中門外仰御導師、兼昇唐陣座、依便歟、甚無理、次出居着座、次公卿參上、中納言實定、公光、參議顯長、後通、三位隆季光隆進參入也、名力、跪屏風外、右中將家通朝臣問之、問上首人也、自餘次第、名說、但遲參人問之、名力、次第、謁參入、次御導師以下參入、一御導師直就禮盤、次堂童子著座、藏人大進長方、奉行人也、並江橋守顯信、次入廂第一間、跪散花机下、長方授花宮五枚於顯信、顯信賦次第僧、長方取一枚授一導師、在禮盤也、堂童子等着本座、子也、次次第僧等列禮盤下、次第僧第一依唄留座、法用了僧復座、堂童子取花宮、

顯信自上取之、若自下可取歟、次殿上五位居火櫃於公卿并僧座前、先可置僧前也、而置公卿前失也、不置弟子僧前、御導師置禮盤傍也、次藤中納言召藏人被仰指油事、藏人二人、一人取指燭、一人取油參入指竹形、今夜不指他燈等如何、次初夜了御導師着座、次半夜御導師昇、此間可申栢梨、而左將一人不參、左少將通家朝臣家在陣中遲參、不足言、頻遣召、適以參入、半夜已畢後夜導師昇、了申栢梨、公卿起座着殿上、一獻勸盃通家朝臣、次令藏人公卿召、予參着公卿座末、次二獻右少將基家朝臣勸盃、三獻實宗、左將通家朝臣外不參、仍相語兩人也、予雖爲左、年預藏人頭不勸盃者也、事了公卿歸着公卿座、先是藏人大進長方被綿、左肩、無贊、被方也、次公卿解劍置本座、經孫庇代入額間、跪居行香机東南、此殿南面也、先是行事藏人賴保前行分輪、公卿不足、予并播磨守家明朝臣朝臣雖上、列下、末座、人々居廻禮盤後方、次第傳下輪、經禮盤後半、自第三間入母屋列立北簾前、以東、更出第三間并公卿座末、自孫庇代東行、如先列居傳上薦、自下退歸、

次公卿帶劔取笏、自孫庇進內侍廳下、先是藏人大進長  
方自內侍手傳取祿授公卿、公卿指笏取之入額間、後通  
櫻間、賜在禮盤之御導師、次人々次第取之、額間并母屋  
如何、自僧座前方授之退歸、自余皆左廻、左京大夫隆季  
三間自僧座前方授之退歸、仍白掛授第二公卿  
卿獨右廻也、御導師猷仁爲法橋、仍白掛授第二公卿  
也、勤初座了着母屋座之故也、次僧退下、次予以下四  
位五位參入屏風自座、予乍座問云、誰々加公卿以下名謁  
也、次公卿以下退出、出居退、今夜出居座無如亂舞物、  
令悼美福門院御事也、去月廿三予於小板敷召藏人賴保、  
下橋信保名簿、無禮紙可爲所雜色、賴保下出納仲政、三  
了、遣所下人許云々、不遣小舍人云々、頭辨參院并殿  
之間、名謁之時不候、是有可被仰事云々、仍藤中納言  
實、暫可候之由示置云々、

後聞、  
權少僧都禎喜、剽闕、元法眼也、而東寺兩長者僧正竟通權少僧  
日御修法、權少僧都公延眞言不深、爲宗苦行之人也、權律師定藏爲  
太元法阿闍梨、仍禎喜所補也、但大殿仰云、太元阿闍梨者本下殿人  
所勤在也、仍不任長者歟、依行被法何不在哉、可被依人事歟云々、然  
而其例只一人有之云々、近代不然之故被任歟、價綱者廿六人也、而

山 槐 記 永曆元年十二月

近日今二人剽闕云々、求闕可被任歟、將猶可爲剽闕歟之由、被問太  
政大臣、中御門大納言、新大納言云々、中御門大納言卿猶求闕可被  
任之由被計申云々、  
他人不聞及也、

東寺長者禎喜、見右、

從三位平時子、臨時、典侍御乳母、左衛門督清盛卿室、

廿五日己巳 雨降、宿大炊御門直廬、明日可着陣也、

今夜綾小路室町火事、大夫大工員、時倉云々

廿六日庚午 時々雨下、巳時着束帶、帶劔笏、隨身、着左近

陣、大炊御門殿儀也、右伏有公卿座、左伏無其座、今日大將可有者陣、仍大宮依座、命置妻以籠爲外座、東方有橫影、假用之、於彼所遊行也、數聲可

准知大內、先入敷政門代、於宣仁門代邊間殿上時、府生大

石光豎歸來云、已二點者、吉時兼舍覺、悟光豎也、次予進着端座、北向、

大內可當戶、次光豎入日奏於管置予右邊、座下、次置硯、予

東向居直、開見日奏、書名字、如元卷之返給、次進移

文、見了如元卷之、取封紙、可入加移文當也、而兼入、書名之

上字許返給之、光豎取之、次又撤硯、次光豎取印橫置

橫敷南邊地上、稱名簿申開印橫、予揖許、光豎稱唯開

橫板、上敷布、開移文、見定印上下捺之、如元納辛橫付

封、又稱名簿、申御封付了之由、予又揖許、光豎稱唯取

橫退出、次予退出、歸大炊御門宿所、脫裝束休息、參內并退出之間雜色一人頗前行、令追法師并犬等、是例也、凡着陣日不遇上薦、不可向他所、雖參陣猶不昇殿上、直所歸華也、然而有急事之時歸家、改裝束歸參、又先例也、今日大將可令着陣給、予未參陣、爲右少將之時着彼陣、遷任左中將之後未着本陣、連々有故障之故也、此由申大殿之處、仰云、我爲大將始着陣之時、按察大納言重通當日早日所着陣也、任彼例可着也、又前太政大臣宗、伴時爲頭中將同所着也、汝必可着者、仍所參着也、

亥刻左大將內大臣基房參陣給、先令着右仗、此殿公卿在右仗之故也、有申文、左大辨宰相資、候橫敷云々、次有藏人方吉書、予奏下之如恒、伴吉書兼不奉行、仍本陣事許致沙汰、頭辨祇候之由存知之間、俄以藏人信季有其便、仍忽然宣下、大炊御門東洞院辻引幔擬陽明門歟、官沙汰也、次經南庭令向本陣給、前驅參會、自門外隨身許相從、先令着端座北面、近代不着、次予着橫敷座少將直座、是故實也、

南端、次少將通家朝臣、五位少將可着之由有仰、然而定能所發、伊保重服、仍通家參着也、四位少將又有先例、寬治少將忠、着予北方、先是供掌燈、燈端座中央只所舉也、用致朝臣所着也、散木張、又府者立明、次將監藤原景安置日奏當於少將座傍、通家朝臣欲差劔取之直參進置大將前、北次取硯同竝置、將監同持參、大將開日奏加署給、朝臣二字也、如元卷之、令結紙捻給、次通家進取之下將監、不撤硯、將監又進移文此宮封紙加入也、通家取之進大將復座、大將開見之、如元卷之、取封紙書之、次通家參進撤移文。次撤硯、次將監景安取印辛橫置南緣上、將座南邊也、先堅云、大內之儀、於次將座與條左大將之時於高松立案印之云々、爲里亭可依彼依、○便了、歟之由、今朝內々示予也、答云、里亭者摸大內事也、久季隨覺悟先例地上之由中者、惟壇上可用緣歟、近衛殿陣座以緣上用地上敷膝突、仍惟彼儀也、後日披具年々記、左近立案、右近不立案云々、但又近例或左近不立之、右近立之、稱名籍申可開之由、大將揮許、將監稱唯開之、捺印移文、其儀見今朝記、印上下光堅見定令捺之、次付封了將監申其由、大將揮許、將監稱唯取印橫退出、次通家朝臣退出、次予退出、次大將退出給、于時風吹、予歸大炊御門亭、改裝束歸三條了、今日有御髮上事、

廿七日辛亥 天晴、廢朝以後今日有政始云々、今夜行

幸大內、元三間可御之故也、戌剋出御、近衛引陣、陰陽

頭賀茂在憲朝臣奉供御反間、左近渡御輿在西中門之故也、次公卿

列立、次關司就版、敕答之後少納言奏鈴、次御輿寄南

階、予開葦戶置御劍、次乘御、次入璽宮閉葦戶、出御

西門、大炊御門西行、大宮北行、入御陽明建春宣陽門、

於此門外大下御、後有鈴奏、名謫、入御清涼殿、予付劍內侍、

他將等未參御後、仍璽內侍藏人少納言信範令付、

今夜內侍所御神樂也、自大炊御門殿入御溫明殿之後

申事由、亥刻出御、予供御草鞋、左少將通家朝臣取畫

御座御劍前行、關白令候御襪給、予又取關白御襪、經

長橋并南殿、北簀子新構長橋、自南殿東北并橋東行至于綾綺殿橋自一階斜渡下也、殿南一間北折、及額間中央也、

殿神殿西戶、外御拜座御屏風內、予取御草鞋賜藏人、取

御笏供之、引襄御屏風、通家持御劍候御屏風外、關白

被仰云、聊有勞事仍退出也者、御拜了令鳴御笏、予取

筥蓋開御屏風給笏給藏人、次供御草鞋、予候御襪、着

神宴御座、通家朝臣授御劍於內侍令置御座邊、次予下

綾綺殿西階、經花德門入溫明殿北上戶、着殿上人座

上、兼侍臣兩三祇候、次殿上召人着座、左少將通家朝

臣、左中將實家朝臣、右少將實定、侍從有房、持笏太奇

召人何右少將兼雅、前彈正少弼師廣依可取拍子、與、被入

又着殿上召人座末、雅樂頭範基、散位賴方、相模權守

信綱、式部丞盛清、兵部丞賴業、前兵部丞惟盛等也、人

長奏兼成着座、次一獻予垂纒撤老懸劍等、爲勸本座、北宮

內卿師綱朝臣勸末座、予瓶予所雜色可取也、而進奉不

參云々、所衆如何之由、藏人少納言以藏人時盛示予、

答云、不分明、可被相計、又命云、非藏人如何、予又答

云、只可隨命、仍非藏人光能取瓶子、次二獻、本座右馬

頭信隆朝臣、末座左馬頭重盛朝臣、信範示予云、可有

三獻歟如何、予答云、夜及深更、又勸盃人不候、相加韓

神之時有三獻、何事有之哉者、仍二獻之後人長作法、

笛惟盛、篳篥賴業、和琴實家朝臣、歌、本通家朝臣、末

師廣、此後殿上地下近衛等官人皆以着座、殿上人不動

座也、次始神樂、所作如庭火之時、拍子兩人今夜初度、  
 也、韓神了勸盃、本座權右中辨成頼朝臣、未藏人<sup>座方</sup>少納  
 言信範、次人長召予、々起座、陪從座下方如跪歸入、次  
 兼雅、次召實家朝臣、是人長失禮也、不可依本末、可依  
 位階也、召實定、次陪從頗狂拜、次先張早歌之、予末拍  
 子取<sup>之方</sup>云、星了南午座仰也、其駒之時人長出舞了、歌欲  
 終之間予取藤與實家朝臣、依彈琴、不依位階、居本座第一也、殿上人次第取  
 之、次經花德門參御所、予供御草鞋候御襪、關自早以合退、出給之故也、  
 通家朝臣候御劔、入御之後退出、

廿九日癸酉 天晴、申刻許右衛門督送書云、辭申大貳  
 也、今日必可奏者、仍即參院付行隆奏此旨、仰云、早可  
 申內并前關白也、仍參高倉殿、付兵部少輔信基先申關  
 白殿、仰云、早可奏、次付高佐申大殿、仰云、早奏、次付  
 丹波內侍奏聞、仰云、猶可隨院宣、此旨歸參付美濃守  
 基仲<sup>近習人皆退出、仍所申也、</sup>、申事由、仰云、可被下<sup>稱旨、有女殿</sup>、此旨付那  
 網朝臣申大殿、早可仰下、此旨申關白殿、聞食了、次奏  
 聞、早可宣下、祇候小板敷之間新中納言顯時卿參內、

被坐小板敷、下件辭書、被結、仰云、依請、頭辨折紙於  
 陣下上卿、

少監物藤信清、 藤在公、

左京少進藤盛友、 遠江守藤基範、

上總介源雅賢、 越前守平基盛、元運

丹波守藤季能、元越 太宰大貳藤成範、

左近權少將藤脩範、 左兵衛少志多季國、

從五下、 左馬允藤兼房、

源雅賢、實、 藤兼隆、職人、 橘爲正、

藏人藤永清、院職人、一職

辭退、 少監物中原治定、 源行光、

書博士伊岐致成、 左馬允大江宗友、

山城守藤季忠、 太宰大貳平清盛、

追儼上卿新中納言、顯時、宰相左大辨資長、近將基家朝臣  
 只一人參上、太不敵事也、殿上人兩三輩參上、追儼者

不及催事也、近代如此、無術事也、及子終猶不被始行、觸案內於頭辨退、曉天歸參候四方拜、此事在明日記、

應永廿五年八月廿九日

前大外記入道常經筆也、劍（俗名師豐）

（大炊御門本與書）  
山槐記十五冊借讀今出河大納言（公規卿）本、令書寫校合畢、

延寶二年三月上旬

權大納言經光

（野宮本與書）  
元祿第二姑流後二校畢、

左親衛亞將藤原定基

元祿第五三十八日一覽了、

元祿九年林鐘十二日再見了、

### 永曆二一年（應保元）

#### 三月大

一日癸巳 天晴、入夜雨降、

八日 直物也、內大臣始申行也、上卿被目源宰相、師、

宰相揖起座、進上卿前揖、上卿被授勘文、相公指笏取

宮右廻復座、向東突騰被、書了、擇笏取勘文宮進上卿前奉

之、拔笏揖歸着座、

今日直物、凡相公可申上卿之事出來時置文取笏申之

也、

十日 雨降、今日上卿富小路中納言、通、公參議左兵衛督

公保卿、武衛置笏於左方、引寄硯摺墨、次披見文、取小

刀摺可字、後日復任除目京官可字摺事奉尋亞相殿、此

事有兩說、不摺之說善歟、

今日復任除目上卿富小路中納言、通、公參議左兵衛督公

保卿、納言召官人令敷膝突、次令官人召外記、令跪小

庭、上卿揖、外記稱唯唯着膝突、上卿被仰勘文硯等可持



參之由、外記稱唯退入、入勘文於宮持參奉、今一人置硯於宰相右方、次上卿被見勘文、如元卷之被目武

衛、武衛揖自座前被燒類口口居上卿前、上卿被授勘文於武衛、

武衛置笏於左方、給勘文取副笏、文內右廻歸着本座候、上卿被目、武衛置笏於左方、引寄硯摺墨、次披見文、取

小刀摺可字、

勘文書樣、用白紙

可復任

木工寮

頭正四位下藤原朝臣邦綱、

應保元年三月十日

次披外任勘文置前、取續紙引紙細卷之、入硯篋下方、

次撥置續紙、卷返染筆伺上卿氣色、上卿揖許、武衛書

之、書樣、書紙屋綱紙九、

太政官謹奏、

出羽國、

守從五位上高階朝臣泰任、

下野國、

守正四位下藤原朝臣爲親、

越後國、

守正四位下藤原朝臣邦綱、

應保元年三月十日

件勘文書樣、書白紙

可復任

出羽國、

守從五位上高階朝臣泰任、

下野國、

守.....爲親、

武藏國、

守.....邦綱、

出羽可爲下野次歟如何、

次武衛書了放與紙入硯篋、卷除目更一返披見之、勘文

二通并除目子籠禮紙一枚、件禮紙本乃勘文ノ禮紙也、取副笏進寄上卿

前、置笏被獻之、上卿取之、武衛歸着本座、上卿披見、

召外記内覽、

(此次四葉破損虫損、筆記不明)

永曆二年(應保元)

四月

一日癸卯 天晴、夜陰小雨、已刻着白重、半比下重、用無文、餘如、宿侍人々、或冬直衣、或冬衣冠、改御裝束藏人定正奉行、藏人所衆雜役雜色可參、然而未見、今日有平座、

可被行初齋院司除目、仍人々申文書目六於折紙奏覽、仰云、早可申關白、次以尹明給折紙、新大納言申中務

丞遠範申兵部丞馬助事、

顯時顯長卿申正三位事、

兼雅申四位事、

已上四箇條、○不審於新大納言、以下文有誤殿敷、清盛卿傳奏也、然而此事

可然之由非奏聞、依爲人々申事申達也云々、此事可

申關白、予申云、不可申院敷如何、仰云、早可申也、

次參大殿覽折紙、仰云、早可申院、

次申關白殿、仰同前、

次申院司、有御合點、又被加仰事多之、又賜御報書、可持參大殿、後見成親朝臣中將事、經房時忠正五位下事也、

次參大殿進御書、申折紙子細、付長定

仰云、如被仰下任何事之有乎、

次於直廬如御合點、更書折紙持參院、

仰云、此定早可仰下、

次參內奏聞、仰云、早可仰下、頗多々之由内々有天氣云々、

云々、

次取申文兼引懸紙裏紙、只一通、各卷テ不結シテ押合テ左右手ニ取合出陣、出陣、於與座下

新中納言顯時卿被結一通、仰云、依請、

次被問子細、密々獻折紙畢、相尋齋院司請奏之處、敕

別當付行事辨兼獻上卿了云々、此事如何、付職事可奏

下歟、若又依爲齋院上卿獻上卿歟、然者又上卿付職事

可被奏、無其儀恒儀敕別當可付職事歟、於陣上卿密々

被見件請奏於予、此儀不可相違由申了、

件請文書様、或康和記云、書齋院、其與一字引下テ書所望人也、今度無齋院二字如何、可尋、

前佐渡守從五位上高階朝臣爲清、

望長官、

散位從五位下藤原朝臣親實、

正六位上菅原朝臣忠詮、

望次官、

正六位上行少監物藤原朝臣光俊、

正六位上行右衛門少志豐原親國、

望判官、

散位從五位下賀茂縣主義繼、

正六位上大江義康、

望主典、

永曆二年四月一日

有禮紙懸紙等、抑主典共前齋院主典也、長元六年粟田

秀高渡例不愜、仍尋其例後日被任、寬治義基又後日任

之、但子細不分明、而康和、天仁、天治、大治、長承仲

義基清同日任了、仍任近例今夜任了、且先例可憚之條

不愜之故強不申出、二分又任判官有其例、次上卿被示

云、前駟事先是已定申了、除日同日者恒例也、然而新

大納言明日内々可修佛事者、仍明後日欲定申、而大外

記師元申云、先々多々同日也、大納言有佛事憚者明日

以後可催申、於定者何事之候乎者、仍定申了、此事如

何、本自依私事、云神事云公事輒延引、不甘心、不可及

沙汰事也、前駟者、

大納言光頼、中納言實長、參議顯長、俊通、

四位隆輔、周防守頼輔、刑部守基家、右少實宗、同、

五位國雅、治部大輔實清、右兵衛衛佐定能、左少有房、侍從

次第使、

左馬助長定、今夜辭申所職、仍改義靈了、更

右馬允、

此事等申承上卿之後歸參殿上、

次上卿召内記、以詞被仰殺位、

正五位下藤經房、祖父爲隆卿去天承二年

平時忠、前侍賢門院去、  
大治五年御給、

從五位下中原政泰、外記、

山槐記 永曆二年四月

大江廣實、已上臨時、

源親實、爵、

次除目被始行、

神祇權少副大中臣爲定、父祭主爲仲器申、  
自院令申給、

左少史大江廣康、文章生、自院令申給、  
右少史菅野頼仲、出納一爵  
内舍人藤佐長、同盛元、同志明、已上選任、清盛朝臣申由頭辨示之、

同範康、中原安遠、源憲親、已上臨時、  
内給、

内匠少允中原宗親、臨時内給、職人少

太皇太后宮少進藤憲定、

皇后宮大權進高階信章、少進平範保、已上本宮贈、右付

大學少允中原兼遠、功、自院令申給、  
少屬高橋國盛、奏、

主計屬惟宗範行、察奏、信通、  
大藏少丞中原親基、上西門院、  
去年御給、

主殿頭高階爲清、申給、自大殿令

采女佑中原師季、父師元辭但馬權守  
申任、自院令申給、

彈正少弼源保信、自院令申給、  
右京少進平家兼、女御殿、  
去年給、

左近將曹大石光賢、麻、  
右近中將藤成親、選任、自院

左衛門少志中原國景、府奏、自院令申給、  
左兵衛少尉平信季、職、

山槐記。永曆二年四月

少志藤時兼、奏、府 左馬助藤義憲、元

右馬助藤資能、自關白殿、令中給 齋院長官高階爲清、

次官藤親實、菅原忠詮、判官藤光定、

豐原親國、主典賀茂義繼、大江義康、

勘解由判官三善仲康、齋院御車功

山城介大江廣實、典 下野守大江信遠、前司、無故障任如何、自院令申給

但馬權守藤忠時、大學廟器功 能登介源宗綱、八幡行幸、蕃屋功

筑後權守橘爲實、齋院宮主

辭申所帶、

太皇太后宮少進源盛業、山城介中原盛康、

左馬助源長定、

除書了上卿就御所被奏、依御寢只可返給之由、通古兼取內

侍云々、仍自鬼間邊持歸、依爲御物忌先奏聞之由、上

卿被命、予內覽有無內々取御氣色、不可然之由有關白

殿仰、仍申其旨了、上卿被示神妙之由、近代可有如此

用意也、及深更持參里亭內覽爲衆人不便事也、次被

下二省、今夜書手左兵衛督公保卿也、書聞書一通獻院

一七四

了、以一通可進大殿、一通可進關白殿、一通可遣大理之許之由、示藏人退出了、心肝如摧、

公卿敕使神寶於左近府被始云々、行事藏人治部大輔行隆、右兵衛尉平時盛、出納右衛門少志中原清重、小舍人守時云々、

二日甲辰

三日乙巳 天陰、河內守師業來尋書博士舉事之由、大

外記師元來悅采女佑師季事、右馬助資能來悅拜任事、

申刻參內、御禊前駟左少將定能申所勞之由、此旨奏

聞、可申院、院仰可申內、內仰不分明、爲之如何、頭辨

來云、明日可有樂所始、汝可補別當也、答承了之由、

次參大納言殿、申承雜事、秉燭以後歸參、

四日丙午 雨下、晚頭參內、今夜可有樂所始之故也、

樂人等參集於長橋邊、內々聞食音樂、秉燭以後入御、

仍予付內侍奏日時、

書樣、

擇申可被始樂所日時、

今日四日丙午、

時申酉、

永曆二年四月四日

陰陽頭賀茂朝臣在憲、

凡仰樂所別當以下事并日時奏聞事、日來申沙汰之職事可奏下獻、而頭辨依假籠居、無示付職事、仍予取奏

日時也、次於弓場邊帶劍取笏、帶劍事相尋前次政大臣之處、於別當也、大納言殿命可帶劍、藤大納言命云、詳者不覺倍、臨時祭之時常御物忘者帶劍、不然之時不帶云々、然而依兩人御說帶劍也、經南庭向樂所、屋假爲此所也、藏人通定取指燭在前、瀧口捧

笏從、予先着座、北面上南、兼居饗於中壁東、爲寄人并樂人等座、隨使用之、懸紺垂布於殿上人及寄人等座南面、

次藏人通定勸盃、所衆取瓶子、通定取續杓、二獻陪從

賴方勸盃、次立箸、依更深深雨止三獻、右中將家通朝

臣帶侍從泰通、不帶同所着座也、左少將通家朝臣、右少

將通能朝臣、依所勞服假等不參也、次忠節申云、雖甚

雨爲事始、如形捧笠欲舞如何、尤可然之由予示、答了、次吹

調子、先萬歲樂、光近以下四人令差笠列立舞之、依所

狹相並舞之、光近束帶、自余衣冠、地久忠節成方束帶、

自余衣冠、事了可書着到之由示付藏人通定、歸參殿

山槐記 永曆二年四月

上、抑依甚雨不可有內參之由有敕定、太相國被示云、

內參樂者萬歲樂也、今夜寄人陪從者不獻名簿之由忠

節所申也、自余者獻云々、可尋、即退出了、

大殿梅津殿御渡云々、故顯親朝臣山庄也、而召取有御

造作云々、

六日戊申 天陰、午後小雨、今日平野祭也、依例被立

殿上使、依可有御諫午刻參內、行事藏人源通定奉仕御

裝束、其儀、大吹御門高倉殿、垂母屋御簾、卷西庇御簾、此

無孫處、仍西第三間敷小筵二枚、南、北、其上供高麗御半帖、

緣方在南庭當御座西間掃部寮敷葉薦、南、北、其上內藏寮

東西黑染机二脚、南、北、其上其東方寄立幣四捧、机、其上其東方當御

座間敷圓座一枚爲宮主座、其巽方四五許尺敷同圓座

一枚爲使座、御膳棚上置御笏、篋蓋敷御笏、并御贖物、宣

命上卿行事藏人催之、兼日沙汰、刻限可參云々、內記

令催候、宮主令催候、陪從舞人等也、令催候、內侍送本

社了、有公俊、口二人、五位藏人一人爲役供候、召新御湯帷、

事具了未刻許令藏人通定奏聞、先供御湯、次出御、御束

額間、予參進候御簾、着御々座、西、次予持參御笏、乍入蓋  
也、令取御、宮持歸返給藏人、次取贖物、米、藏人、藏人治部大輔  
行隆取人形相從、自御座西間供敷筵上、米御左、人、次跪  
長橋末方、取大麻宮主兼持笏取、參進、令取大麻木御息之  
後、予歸出返給宮主、宮主令給机南着座、使少納言重  
雅白重螺貝取笏、不付  
魚袋如何、不見及歟、、正笏參進着座、此間小雨、然而不及  
笠、仍猶用晴儀、御禊了宮主退出、陪從於中門外發物  
聲、次使進幣案下、捧笏取合幣四捧立、次御拜了使置  
幣退出、次予持參御笏宮蓋、給御笏退歸、藏人須臾參  
進候御簾、入御了可撤御裝束之由仰行事藏人了、次新  
中納言顯、被候殿上端座、當、召內記、內記令持參宣命、篋、  
上卿藏人被示云、宣命以藏人大輔令奏如何、予答云、  
何事之候哉、但隨仰可參奏也、只觸申也、次大輔奏了  
云々、次返給宣命、次召使、使參進候小板敷、上卿以宣  
命給使、使取副笏退出向社頭、上卿召內記返給宮、凡  
奏宣命事早晚不定事也、外記清原定雄來云、明日梅宮  
祭分配上卿左衛門督公光卿也、而申所勞、內々傳聞矣治  
云々、但相扶

爲御幸御裝束行事參三井寺云々、如何、何、納言以下欲催之處皆  
不動神事公事勤御事、請大夫不申此旨歟、  
申障、早可奏聞之由、大外記所申也者、仍先申新中納  
言、被命云、分配上卿代者宰相所勤也、可何樣哉、年來  
承習此旨、而此大外記猶催上卿如何、外記定雄云、雖  
上卿、爲分配之人之下臈者、皆催申之由、大外記所申  
也云々、然而宰相之中猶有可被催之人々、仍遣催顯長  
卿資長朝臣許了、顯長卿申可參勤之由、其旨仰外記  
了、戊刻許藏人通定來小板敷下云、重盛朝臣郎從於藏  
人所屋後見付死人手、招傍輩令見、已是實也、又遣小  
舍人令見、申旨同前、此旨可觸申之由、彼朝臣所申也  
者、予答云、近日殿重神事等被行之比也、早可申事之  
由者、通定付重盛朝臣奏聞、可立札陣、并明日梅宮祭  
內侍不可穢、并諸司不可混合件穢物、早々可令取棄之  
由、仰藏人通定了、穢間公事停否事問師元、光  
梅宮祭事、

內裏穢之時、以不穢之諸司令供奉、恒例也、但永長  
元年住吉神主國基堂供養之間、死穢出來、及內裏、

仍件祭延引、可用中西云々、然而用下酉了者、予答云、永長穢者遍及天下、仍延引歟、諸司不穢之時、有被行諸社祭之例者、猶可被行歟、師元曰、最可然事也、

擬階奏事、

永長行之由勘事、

灌佛、

同前、

已上是可隨敕定事也、

此事今夜及深更不能申達、又頭辨日來依服假籠居無方于見讓、仍欲奏之間、頭辨被申沙汰云々、仍乍悅慎不申子細、最可有謬失之故也、頭辨云、穢物若經數日歟、然者穢滿天下歟、此事如何、穢者以見爲始事歟、依不審內々相尋兼成之處、答云、以見出爲始也、

七日己酉 天晴、早旦參內、昨日事依不審爲何形勢也、後聞、梅宮祭以不穢之諸司被行了云々、但內侍不參云云、此事奇怪事也、相尋之處、停否事猶被申大殿、頭辨

馳參桂縣之間及夜陰、依件左右內侍欲發向之間不待之被行了云々、大殿仰、依例被行何事有哉云々、

擬階奏事、

頭辨申行云、近日嚴重神事之間被行之者、穢氣自然可及廣、延引常事也、定考以前被行之何事之有哉、

灌佛事、

頭辨申云、穢及廣停止何事之有哉、

已上兩事先以藏人賴保令申左右給、可依例之由令

申御返事給之間、頭辨辨方又參桂申大殿、其停止何事之

有乎云々、仍兩事停止了云々、

今朝上皇幸園城寺別院平等院、御冠直衣、駕御底御車、公卿侍臣束帶云々、是長吏前大僧正建立此堂、寄進祈願寺云々、仍御幸、此事可被遂去月廿一日也、而天台衆徒疑申可被起戒壇置探題蜂起、仍御幸停止、上皇令合怒給、彼時山僧御修法皆結願壞壇、故遂令申公家給同以結願、殿下同前、近日諸家不請山僧云々、座主最雲親王以下皆以閉門、御修法結願之間太似有



禁忌云々、可被尋子細之處、無彼兩事者於有臨幸更不可鬱申云々、仍今日有御幸也、傳聞、山僧着甲冑皆降東坂下成陣、若戒壇事爲一定者欲發向云々、不恐王化、悲事也、後日藏人少納言信範談云、爲仰勸賞所供奉也、晏茶羅供也、供養中間以右少辨時忠召信範參進、仰云、法橋能智可敍法眼、可置阿闍梨五口云々、信範奉仰示前大僧正云、阿闍梨可被置此寺歟、先度被置了、被加置歟、僧正云、可置金堂園城寺者、此間供養了、御加布施之時信範仰源大納言、雜々々々々々云、法會中間不被仰如何、信範云、雖可然、能智不候當座之僧也、阿闍梨又不被置此堂、仍退申也、源大納言云、然者還御之時可被仰歟、此條無益、早可仰下之由被答、布施之間稱無便之由、乍立大納言被仰頭辨云々、近代事首尾不調事也、凡者今月齋月也、臨幸不快、先年放高陽院正親殿令建立持佛堂、依爲賀茂祭以前不可被行之由、故顯賴卿申止之由同所談也、

八日庚戌 天陰時々小雨、今日灌佛雖可被行、內裏有五體不具穢、近日神事殊重、其穢可及廣之故停止云、藏人賴保云、山形持參門外、自大盤所召取鎌猿淨飯王遣諸宮丁云々、  
今日上皇自三井寺還御、公卿殿上人布衣、着縫物狩衣、唐衣奴袴殊結構云々、  
九日辛亥 天晴、午剋參內申事、  
一、師元申、禊祭奉行外記政泰去一日除目次敍儀、仍定雄奉行、卒爾之間無其用意、依有例用閑路如何、  
初齋院年辨以下用閑路恒例也、而又依有例今年辨可渡大路云々、若爲後日尋所申也者、  
一、參籠禁中穢了、於今雖無別事、臨事申沙汰神事其禪可候歟、藏人仰他人如何、仰云、外記事可申院、奉行事早可仰他人、  
仍仰付藏人少納言了、行事藏人改賴保仰二薦時盛了、次參大殿申外記閑路事、  
仰云、有例者何事之可有哉、

歸參內、院密々御幸法住寺殿、相待還御之間及晡時適還御、付盛隆申以前條々了、夜陰退出、

傳聞、山僧等恐懼恩免云々、三井寺御幸之間無爲無事之故歟、灌佛行事少舍人季守持來造物一枚、

十日壬子 初齋院行事辨俊經<sup>左</sup>、示送云、禁中穢可至

十二日、初齋院御禊沙汰於事定有其煩歟、然者任承平真元保延等例、可用式日十六日之由院宣、以此旨經奏

聞早可下知者、答云、依觸件穢藏人少納言信範可奉行<sup>之</sup>由被仰下了、然者早可被觸彼人也者、本儀來十三日可有禊也、

十二日甲寅 天晴、右少辨時忠以院宣示送云、觸禁中穢也、可參門外、有被仰事也、予申目所勞、即又仰云、

爲御使可被獻內裏、以雅賴令申御了、不可參上者、

十三日乙卯 天晴、今日公卿敕使有召仰云々、別當卿<sup>清盛</sup>參候殿上、頭辨仰之云々、

稻荷祭如例云々、院於二河守定隆朝臣宅<sup>七條北、東</sup>有御見物、今日院有御移徙于法住寺殿、<sup>彼是曰、作殿四郭被籠十餘町、其内堂舍大小八十</sup>

<sup>餘字被壞、衆</sup>皇后宮<sup>近年無</sup>御同車云々、三箇<sup>日力</sup>以後可還<sup>人有總云々</sup>御同宿、

御大炊御門殿云々、  
有小除目云々、<sup>穢少外記中原長盛、少内記藤原貞軌、大和守藤盛長、伊勢守平正時還着、上總權守摘行俊、</sup>

十六日戊午 天晴、今日初齋院<sup>院第三女母儀三品禊東河</sup>行事日來申沙汰之、

入御紫野院<sup>所謂一條以北木院也</sup>、日也、藏人方事予日來申沙汰之、

而去六日觸內裏穢了、<sup>五體不具也</sup>穢中奉行神事大有恐、仍申事由仰付藏人少納言信範了、但可供奉諸司云々、行事

所事申皆沙汰具了、雖不可有殊沙汰、臨事有可奏事者可無便宜之故也、一昨日猶可還奉行之由有救命、然而

近日左目小患、仍辭申了、又同有所存之故也、申刻爲見物密々立車於西洞院一條邊相待之處、日脚漸沒事

太微々、日入之後適<sup>不切物見</sup>行事官等渡晴、<sup>黑轆</sup>先行事左少辨俊經駕車、<sup>不切物見</sup>牛童纏濃歎冬衣、黃

單、不出衣、

辨侍、<sup>白張不出衣、白衣</sup>雜色六人、<sup>有笠持、</sup>

次外記中原長盛、<sup>去十三日在駕車不切物見、</sup>牛童香上下白衣、

小舍人童淺黃、<sup>雜色四人、</sup>

次史大江高重駕車、已上同外說、但牛童香白童、織衣也、又不相具小舍人童、

行事官駕車渡晴不渡事、初齋院禪了先例不同、或說今

度公卿騎馬前行、彼以前駕車似無便之故用闊路云々、

次御祓物一荷、可列京、

次左右京職等、職後歟、

次五位前駐、下臈爲先、但行列太狼藉、一兩波間學松明

丹波守隆行、小舍人童二人、期黃歎冬衣、上臈、雜色六人着白張、

侍從有房、小舍人童二人、朽葉、御木衣、無雜色、

左兵衛佐實清、小舍人童二人、二藍歎冬衣、隨身二人、着纒給、差襪、無雜色、

治部權大輔國雅、小舍人、雜色四五人、着白張、

次四位、

右少將實宗朝臣、隨身二人、着纒給、差襪、

右少將基家朝臣、隨身二人同前、常陸介致盛朝臣歟、着白張雜色四五人在共、

刑部大輔賴輔朝臣、小舍人童、雜色四五人許、

周防守隆輔朝臣、小舍人童一人、雜色九人、

次參議左近中將俊通卿、隨身四人、着纒給、真平胡鏡、依爲左用、鷲羽、皆取松明二人在馬前二人在馬

副後、馬副不取松、無雜色、

右兵衛督顯長卿、隨身四人、着纒給真平胡鏡、依爲右用、鷲羽、皆取松明前行、馬副二人取松明在馬後、無雜色、

次權中納言實長卿、馬副轡之外四人取松明、馬前後各二人也、無雜色、

權大納言光賴卿遲參在御輿後、櫛外馬副皆取松明、二人左馬前、四人在後、雜色相具七八人、

已上和鞍付杏葉、御皆有認、無着靴、用遮鞍之人、

次々第使左馬助義憲、隨身二人差襪取松明前行、小舍人童一人、雜色不着當色、

次長官主殿頭高階爲清、雜色一人取松明前行、凡着當色雜色皆可取松明歟、

次御輿、無腰輿之例也、

次藏人所陪從可供奉歟、而早以前行、雜色二人渡車、今度依爲初齋院、雜色四人橋信保、衆二人大江隆守、供奉也、存例先日雜色二人衆四人出納相催之、予下知如此也、

次一車、

次院司次官加判官等、

次敕使典侍車、在前駐、皆別當典侍、滿盛卿女子也、非渡祭之典侍者不具女房車例也、

次行列右馬允歟、黑暗之間不見及、

次女別當車、

次宣旨車、其內室女一兩也

次出車六兩、女房裝束、三兩紅匂、二四、一兩紫匂、一兩

萌黃匂、

次馬寮車敷、

其路出大膳職北門、待賢門、宮城東大路北行、一條東

行也、月出事了歸畢、

可尋記事、

一、牛御覽事、

殿下令獻一車牛給、出納仲政二膳也一人間也、禊祭行事五位出納也

引肥牛、小舍人着布袴引之云々、

一、所陪從御覽事、

其儀同祭日云々、雜色信保遲參云々、已上頭辨雅賴、

朝臣候簀子云々、

一、扇使事、

行事藏人賴保云々、一藤判官也

一、敕使典侍參北陣哉否事、

一、垣下殿上人事、

一、采女催獻列爲禊齋哉事、河原

一、飭馬車、

一、三車轍事、

殿下令獻給云々、

今日依爲凶會日、齋王不入御神殿云々、先例有凶會日

禊、然而入御神殿否事無所見、仍以大殿御使行事少

辨俊經、同中御門大納言宗能大納言殿兩人、中御門大

納言被申云、密々後日以吉日入御可宜歟者、大納言殿

令申給、可准群行例、後日入御可宜者云々、仍今日不

入御云々、見廿八日記、

十八日庚申 天晴、深更向大炊御門宿所、明日爲參內

也、送舞人摺袴腰線也、引重合袴裏之、於使少將通能朝臣、之許、消息表書

云、使少將殿、是例也、

今日被發遣伊勢幣云々、傳聞是去年太神寶欲奉納、開

御戶更不令開給、于今猶不令開給御之故云々、件御祈

也、彼神寶納東寶殿云々、

十九日辛酉 天晴、午終剋着束帶卷纏綴帶劔、相具弓連等、參內、自

夜宿大炊所陪從參否相尋行事藏人賴保、一藤、皆以參上

御門直廳、藏人等下晝御座庇御殿、次秋御門高倉、第三間

簾中供御圓座、子圓座、次令藏人申事由、未刻出御々座、

召予、帶号、參申事具之山、進第二間寶子、召藏人仰雜色

所乘可參由、雜色四人衆二人、青色袴、二藍下重、鼻切沓、雜色

自東中門方也、參進、小舍人童各相具參上、予、當御座間程跪

居庭、西上、予仰云、南へ罷向々、各乍跪右廻、早廻、如本歸

向、予仰云、御馬取テ參禮、次各自本路退出、

取御馬參入、馬部不相副、各、三廻廻廻右、引廻庭中、第一雜

色當御前之時予仰云、罷乘禮、各騎也、頗沛艾去引出東方乘

騎、事外沛艾、三匝後下馬、不必限三度可隨御歟、而押下馬、又別仰、

引次第出了、入御、次予退出殿上了、申刺近衛使右近

少將通能朝臣參內、佇立弓場殿代、予令藏人申事由、

出御簾中、藏人兵衛尉半信季云、可卷御簾也、出御晝

御座、可召使歟、予申案內、仰云、只可垂御簾、又奏云、

使可候長押橋、自御座件所不見、其便不宜、可開西向

妻戶歟、仰云、強雖不當御眼路何事之有哉、件戶只如

常可開也、信季云、保延信範爲藏人之時里亭儀相叶今

儀、件年開西戶卷庇御簾、出御晝御座、是師行入道爲

使之時事也云々、然而可御簾中由有天氣也、正笏候長

橋上圓座、兼數、次藏人皆定正源通定取衝重居使前、便路

在之、然而擬殿上戶方、經北、次藏人治部大輔行隆於小板敷取

盃進出、其路、勸使、藏人左兵衛尉平信季取瓶子相從、次

頭右大辨雅賴朝臣於鬼間方取救祿、紅打、進出自寢殿

西簀子賜使、近代雖不召御、舞後可給歟、次使退下、進出

西廊砌外、懸祿於左肩舞踏、此間陪從等發歌笛、次舞

人參進南庭、舞求子退出、先例賜祿、佐渡云々、近年不然

歟、次頭辨奏云、飭馬可經御覽歟、又於西門密々在御

見物云々、不可有此儀歟、仰云、早於西面可御覽也者、

於御殿庭御覽之時、飭馬手振、仍予頭辨侍臣一兩參西面方候

緣、主上於簾中御覽、先舞人前行、次使、次隨身手振及

雜色等皆以御覽、飭馬櫛遲參、仍舍人引之、引馬櫛一

人又遲參、仍兼成一人與舍人引之、皆入西面南門、出

同北門也、

次車自北渡南、不過左衛門陣、自陣門北方更遣返了、

近衛使、

先是女使參上北陣、行事藏人給祿、遣列見了、行事藏

右近少將源通能朝臣、二藍半比  
下重、立南方、隨身懸

人賴保未剋相具女房扇參本院、歸參內、負壺、頭辨云、

隨身疊繪如恒、差鞭、敷懸於左方肩、

爲延尉可負平胡籙歟、予答云、可然也、行事藏人云、源

小舍人童六人萌黃、付藤、以紅薄樣結髮付葵、不付

中納言車誤遣典侍宅了、女房已駕之、次又遣新大納言

物忌、馬副如恒、鉾葵懸冠、

車之處、申餘剩之由返了云々、仍命婦出車已闕如、爲

雜色二藍上下、欸冬衣、付藤丸、

之如何、予答云、體遣尋猶可將向之由速可仰遣也者、

笠付藤丸、

宣命今朝內記持向典侍宅付之云々太奇惟、行事藏人

傍馬賜大殿御馬、御舍人兼方者前、黃上下、付藤丸、

尋取令付內侍所、彼女官獻內侍、々々給內藏寮使云

櫛、院御隨身、右府生秦兼任唐綾袴、袴、右關白隨身、左府生下毛野武成、付平織、武成任日上臈也、然而院御隨身取上手、

云、次逐電下宿所、改裝束駕車、密々向油小路末、於埽

引馬、籠鞍竹鈎切、付、付傳送、

北方見物、延尉及行事官已渡了云々、頃之使々渡晴、

櫛、左府生秦兼成、付彈基馬、府官人也、大將隨身右番長下毛野友武付婚手、

皇后宮使、

車透本文懸金銅伏輪、

太皇太后宮使、

牛自大殿給之、童太郎丸着赤色上下、付藤丸、

大夫進藤憲定、雜色當色、袴、上下黃衣、

馬寮使、

已上無備引馬等、希代事、若有其例歟、或人云、還

右助藤資能、雜色當色、萌黃、欸冬衣、

日可爲步行歟如何、

內藏寮使、

權助安倍泰茂、雜色當色、薄色白衣、

山城介不見、早以渡畢歟、可尋、廣實可供奉也、

次第使、

左馬助藤義憲、隨身二人、童一人許也

長官、

主殿頭高階爲清、雜色當色、纏敷冬衣、

御輿、

次々官判官等、

次所陪從、

雜色四人之内二人渡車、有取物、殘二人乘、二人皆無取物車、

次出車五兩、女房衣紅躑躅、

童女車一兩、

次典侍出車五兩、白衣、

次命婦出車二兩、今一兩頗相遠之間、遲々歟、尤以不便、

次藏人出車二兩、

次々第使左馬允、次第頗違亂歟、女騎之類不能委記、

日入之程事了歸三條畢、

行事上卿新中納言、顯時、宰相左大辨、資長、

辨俊經、右少、外記中原長盛、史大江高重、

院於故信賴卿烏丸棧敷密々有御見物云々、

今日公卿敕使來廿二日、可被發遣、宸筆宣命草被召仰大學頭範兼

朝臣、御師讀也、本範朝臣爲下、藤也、云々、頭辨談云、昨日可

被召仰、仍參內、而申不知書樣之由、令申大殿、給御返

事云、件草不候、故顯業卿又永範朝臣皆於家始奉之草

進、如彼等尋出可調進歟、又本自何不被仰永範哉云

云、而問近日大殿令進草案給、仍去夜及深更之趣今日

被召仰也、

廿日壬戌 天晴、還立及晚頭云々、其故使將飭馬櫛右

府生兼任裝束不調出之間如此遲々云々、垣下四位

五位六位各二人也、而右中將家通朝臣、少納言重雅藏

人賴保、一、鶴、左兵衛尉、信季、判官、許參候、右少將實宗朝臣、侍從

泰通、散位成經昨日申所勞不參、其後行事藏人雖相催

遲參歟、如何也、

今夜可有行幸大內、是來廿二日可被發遣公卿敕使、依

可幸八省也、戍剗着關腋參內、於路上或下人告延引之由、猶以參內、大將以下供奉、諸司皆以參上、各分散、相尋延引由緒之處、藏人源通定云、申刻許頭辨參門外奏云、內裏有穢物之由、敕使清盛有夢想、仍不參入也、大內里內被檢察之後可有行幸歟者、仍仰出納令見廻禁裏、無其物、又遣瀧口惟宗家信於大內令見之、兵庫頭源賴政彼內裏宿直人也、伴郎從相共尋求之間、宣陽門陣屋果有死人頭、又將見八省之處、應天門外朱雀門內同又有死人頭、仍行幸延引、應天門外有穢物、八省被立幣之憚有無可勘申之由、以藏人通定被仰大外記師元云々、藏人治部大輔行隆祇候、六位如此事奉行願凡哉如何、師元明日可勘申之由奏聞云々、先是晝御座御物、大床子、殿上御倚子、簡、臺盤、朝餉御物、不殘一物依仰火急運渡大內云々、仍皆觸穢、太不便事也、有穢疑被尋求者、彼左右之後可被渡御物、不可說事也、雖未代狗神靈如在、可恐可悅、夕御膳於大內可供之故、御器御臺盤渡了云々、藏人問所爲、予答云、可用節

會御臺盤等歟、若不穢先可被尋彼歟者、凡此間事遣觸合頭辨了云々、仍緩々退出、

廿二日甲子 天晴、及夕陰、今日可被發遣公卿敕使、當今仍去廿日夜可幸大內、今日有可幸八省之議也、而大內有五體不具穢、子細見仍無自里內當日臨幸之例之故、行幸停止歟、日出之程參內、先是右大臣右大臣被候仗座、又敕使右衛門督清盛卿、參木檢非違予參上、即參內候殿上、座神寶夜半許自行事所左近、奉渡了云々、弓場殿代中門廊、敷葉薦、昇之唐檳等、行事藏人治部大輔行隆、左兵衛少尉平信季、本奉行二齋判官平時盛也、而行向行事所之次、休息大內藏人町之間觸穢、仍改定云、出納右衛門志中原清重、一小舍人守時也、行隆奏神寶持參之由、次庇一二間大炊御門北、高倉東御所、掃部寮敷筵、典端相並東西行敷之、西立、第三間中央供新厚圓座一枚、可當內、晝御座依觸大內穢、以夜御殿御臺二枚敷之、無御苗御視御劍等、皆運渡大內、仍被申大殿、未獻之間只敷御座許也、神寶御覽了之後被穢也、御苗古牧、御劍師手、ヒトツカ、葉辛裝束、御視寫、秋野許給、御亂紫瓦、筆班竹、御、母屋御籠、尋常穢、大床子御櫃、此物等以行隆去夜被申大殿云々、然事也、大床子御櫃以下御物不殘一物皆渡大內、見苦之、反內燈爐、又故以行隆被申大殿、可被下御座之由令申給云々、



外同之、大内之儀孫庇不反、次行隆及藏人等昇神寶相置之、其次第、

奧筵內宮、

第一、御筋劔、以柄方爲御座方、東

紫淡平緒、不付御劔、只二陪、引展置御緒方、安カ

已上劔筵蓋上敷劔袋案之、

第二、御弓、赤塗御箭八筋、御持一、御幣串四筋、(已上上方爲御座方相竝、御劔蓋置同筵端方、

已上置辛橫蓋、

第三、錦蓋御鏡筵、御幣筵、玉佩筵、作在

鳳宮、白唐綾一段、裏紫薄様、

赤地錦、同以薄綾裏之、先々以紙裏之、予爲五位藏人

已上又置辛橫蓋、置御劔弓蓋西方、

第四、御裝束一襲、裏打裏納御衣筵、御束帶具也、御帶紫帖御帶也、

置朱漆辛橫蓋、

第五、彫馬、

不入辛橫蓋也、藏人乍置昇立、予示不可然之由、行隆承讀令撤蓋、只置踏板於筵上也、

凡所存、第一御裝束、第二錦蓋以下、第三御劔御弓

相竝、第四彫馬歟、一旦示此旨、強不執、端筵外宮、內宮置了之後、又置之、

第一、御

第二、以下、

第三、錦蓋

第四、彫馬、是例也、

已上色目同內宮、但外宮無御裝束也、

第五、師子形筵、居同辛橫蓋、是荒祭御出、仍先式內外宮神寶未中央立之、

已上居了行隆申事由、先是供御湯、獻御令書辰筆宣命、

大學頭範兼朝臣草進、不付職事直奏覽歟如何、去十

內侍少納言云々、一人早以遣神祇官了、是爲令棄幣也、八省有穢之故、

於神祇官發云々、瀧口一人爲公役相副云々、

卯始出御、御直衣御、予候筵子、此殿無孫庇之故也、伺天氣、有御目、

予進昇一間、自筵二枚之間東行、取カ跪御鏡筵下、蓋經叡

覽、蓋ヲ西方ニ立之様ヲ入、帷ヲ引ノケテ御鏡筵ノ片ヲ顯

引上テ、向御前備天覽、乍本所如此覽也、如元覽了、次覽幣

筵、如御次自本路歸出跪長押下、又覽外宮御鏡幣筵、一

同內宮儀、次被仰云、此ハカリ歟、予奏云、師子形覽事

毛候、有御目、仍進寄取件筥蓋、乍本所御覽之後、覆蓋  
退候簀子、次入御、次撤神祇寶、五位、左衛門權佐爲執、藏人治部

六位役之相副出、小舍人送神祇官、於八省可被發遣也、而懸

記之處、或時被用穢、或時不被用、大輔行塵、侍從有房等也  
之由、以謂師光昨日姿之故云々、相副目錄四通、一通內宮、一通外

通、通荒祭、一  
可用大床子圓座也、然而渡大、次御々圓座、御束帶、依可  
內了、仍用神祇御覽之時、有御拜也、次予參進

候第二間簀子、仰御馬可引之、由於行事藏人、次自東中  
間引入御馬三疋、左三右一也、近衛等引也、三匝之後如本引

出了、次入御、次予退歸、次可召敕使於御前、仍更卷庇  
御簾、撤御圓座、即出御々座、御束帶、予兼候簀子、有御目、

仍出殿上戶召敕使、跪居座上、只氣、出小板敷方、次敕使出  
上戶參進、當御眼路跪、准第一間簀子也、此殿無孫庇

之故也、可候年中行事障子下、然而比內裏其程相隔之  
故如此、主上御目、敕使深揖、微音稱唯參進跪、御座間

膝行、昇長押、指笏給宸筆宣命、令封、拔笏取副逆行候  
長押下、被仰御願趣歎、次敕使左廻歸出殿上、被候端

山 梳 記 永 曆 二 年 四 月

歸參歎分明不承仰、重可取御氣色者、予付內侍奏聞、  
仰云、參宮之後可燒也者、予歸出殿上仰其旨、了敕使

退下於弓場殿、懸宸筆宣命於頸、生絹袋繫之、着陣座、  
先是御馬御覽中間、右府於陣合行隆被奏宣命草、無辭別

尤可有其沙汰也、職事可申行也、近日天  
變地妖類云々、件事等相尋可被載事歎、良久右府就弓場被奏宣  
命清書、行隆奏之、返給、右府又被奏使王、申御馬之由、

行隆又奏聞、仰聞食了之由、次右府被向神祇官、敕使  
相次被向了、於南殿可有御拜也、仍差遣騎馬小舍人於

神祇官、幣發遣之、後力即馳歸可申其旨之由仰舍遣之、辰終  
小舍人馳歸申云、幣早以發遣者、予由事由、頃之出御、

此殿無南殿、御殿爲兼用之、仍二間東一間上御簾、立  
廻太末御屏風、巽方頗開之、其中敷小筵二枚、長坤、其上

敷御半帖、高入御々拜座、不供御草鞋、爲同殿無其、予懸置候  
御裾獻御笏、藏人兼持候、乍筥蓋自御後右方獻之、令取御笏也、引

塞御屏風御後、次御拜、兩殿再拜、先了令鳴御笏御、予  
開御屏風後、差寄御笏筥給之返給藏人、次入御、予今

一 八 七

日堅固物忌也、然而蟄居不穩便、仍參內、還可爲禳灾

之謀歟、但今明夜殊可慎、仍不可參內、示行隆了、又內  
內申女房了逐電退出、于時已始刻也、於二條町逢敕使  
自神祇官退歸精進屋、四條、於西洞院又逢上卿、但各有  
相違也、

參宮來廿五日云々、仍今日可着甲賀驛家之故殊被急  
也、歸京廿八日云々、

今夜於前庭可有御拜、予不參上、使進發儀可尋記、後  
日奉尋大納言殿、仰云、先神寶祿辛櫛、次看督長六人  
騎、冠也、予申云、六人如何、余不知子細、若所相具檢非違使康俊之看督長相具歟、次送人々、以隨身四  
人、着背、駕移馬、次敕使、不相交、是恒事也、次檢非違使康俊、同次  
六位廿余人下向、抑觸大內穢之間、殿上雜物不具、今日見之、御  
椅子時簡如本、長臺盤一脚無之、殿上簡無之、藏人日  
給着到圍棊彈棊又無之、御殿御物無一物、立上鈴鹿皆  
渡了、禁裏太不快、御膳具無之、仍用土器、御臺盤用節  
會之時、無大床子、仍於朝餉方供之云々、  
能登少將基送書云、瀧口遠明二字獻之云々、件男持參  
云々、

廿五日丁卯 天晴、寅刻許藏人通定示送云、今日御拜  
如法已刻之由被仰云者、仍已刻參內、奉仕御座、於二  
間、依里內疑行隆以通定奏云、今日御拜御座於何所可候  
南殿也乎、兼又不可有夜御拜歟如何者、仰云、清盛卿敕使奏云、  
今日御拜同者可被用參宮之時、已時計可參宮之由所  
申也、然者只今可有御拜也、且又可示合予、先行隆來  
示敕語之趣於予、々申云、且晝庭中儀不分明、晝者南  
殿也、夜庭中也、唯南殿儀於二間御拜可宜歟、於今夜  
御拜有無者可有敕定、但每夜御拜者恒例也、敕使參宮  
之時御拜者是爲別御願歟、神事以重爲先、先々或進發  
以前有御拜、或又至于歸京日有之、如此事可隨叡慮、  
凡者今日兩度御拜何事之候乎、尙々又有御思惟者可  
被仰前關白歟者、仰云、如令申兩度可有御拜、只今御  
拜御座可用南殿者、頃之出御、予獻御笏、次第見同敕  
使進發時儀、御拜了入御之後、參向大納言殿申承雜  
事、未刻許退歸、

命曰、我存生之時相構可補檢非違使別當、々職之時

所存事三事不遂、遺恨也、

一、放生會上卿相具一員下向事、檢非違使騎移馬之者一員之時也、雖行幸皆乘只鞍也、而故信賴卿元三出仕令乘差泥障之馬、不相具前駟、有若亡事也、有前駟無一員恒事也、有一員無前駟未聞見事也、

一、遠所行幸之時相具下部事、

下部着水干小袴此時也、件裝束水干者紺藍摺無式法、美麗調之、小袴者フクサ紫爾染タル一色令着也、是如衛士所着赤狩衣色也、

一、內裏近邊火事之時着木蘭地奴袴事、陣中之時着之、文ハ如恒奴袴也、予申云、着件袴之時着紅衣歟、

命云、可然也、

予問申云、大理狩衣裏有無如何、色又如何、

命云、縹裏表襖、茶染襖皆着之也、

申云、白裏如何、

命云、打任ハ不着、但遠所頗月見之時着縹白裏也、

申云、火丁看督長有着烏帽之時乎、

命云、火丁內裏燒亡之時着之、是卒爾之儀也、

爲故實一兩人必令着烏帽歟、取彼白羽大理負之、着烏帽者、可爲早參之儀也、大理負白羽之時、火丁三人負白羽也、今一人ハ不負、而惟方入道亂逆之時、火丁皆負之、我又負之、無謂事也、中院右府入道高野御幸之時、火丁着烏帽云々、看督長布衣、遠所之時常事也、我當職之時美福門院自熊の御還向之時、參向稻荷之時令着之、白張淺黃隨思令着也、

申云、隨身布衣可着何色乎、

命云、淺黃青仁香等歟、

廿八日庚午 天晴、巳時公卿敕使束帶歸京、於弓場殿

申事由、次被召御前云々、去廿二日進發、太早速越驛、

今夜御書所傳文云々、假以殿上北庇大炊御門殿儀主殿爲

其所、懸御籠、主上密々御覽云々、題云、鶴作勝遊友、

輔有連句云々、參仕雲客左京權大夫顯廣朝臣、若狹守

重家朝臣、大藏卿長成朝臣、權中辨成賴朝臣、左少辨

俊經、藏人皇后宮權大進長方、儒者式部大輔永範朝

臣、大學頭範兼、已上御師美濃權守有光朝臣、前大内記範

明朝臣、大内記信重、者、序式部權少輔成光、式部大夫敦

周云々、

今日前太政大臣宗、東常、參内被修造立上、去年件立上頭

所衆改御殿御裝束之間打損頗拔出云々、仍課琵琶造

重光、於渡殿西北廊續之、俊通卿爲具被參於畫御座被

彈箏云々、

齋院始入御神殿云々、明日依凶會日不入御、去廿一日

雖可入御本院有犬死穢、今日入給云々、

廿九日辛未 天晴、未刻參大殿申神戶御厨司事、取勝

寺成功事、依爲佛神事兩度申之、陸方博讀同方申之、皇嘉

門院自去比渡御此殿、招女官付御匣殿入見參了、次參

大納言殿申承雜事、次參内申已前兩條、雲客侍中於畫

御座有絃管事、

照永廿五年六月廿三寫終了、

一見了、但不能改直僻字也、判、

永享三年二月九日以定親卿本書寫了、

追可校侍也、

右山槐記永曆二年四月（三十四葉半）、以平松黃門時量卿本一

校了、

元祿四年十二月

〔野宮本奥書〕

元祿九七十四一見校正了、

〔大炊御門本奥書〕

山槐記十五册、借請今出河大納言（公規卿）本、令書寫校合畢、

延寶二年三月中辭

權大納言經光

本云、光相朝臣筆也、

應保元年（永曆二改元）〔秋〕

七月

一日壬申 未刻大雨、頃之休止、藏人菅定正爲敕使自去月廿六日向神泉苑請雨、歸參於殿上口付藏人通定奏聞、內侍賜紅打御衣於通定、々々於殿上口授定正、行方々々云々、可舞踏歎如何、定正後日云、所相尋先達也者、後日定正云、昨日於神泉未始御祓陰陽師在靈之、以前黑蛇出來、陰陽師相其拜之祈念之處、卽入池畢、以之知可有感應之由、果而翌日大雨、殊勝事也者、今日以後不向云々、

二日癸酉 天晴、藏人判官時盛二來曰、於姊小路西洞院及傷女官子男之者、欲相搦之處、逃入院御持佛堂預宅、仍不能亂入、不可逃隱之由仰了、爲之如何、早仰付檢非違使可令請取歎之由答了、

瀧口事行二人來有訴事等、子細答了、

三日甲戌 雨下、終日不休、依旱魃自去月卅日、於神

泉苑被行孔雀經御讀經、第二日雨下、今日當第四日、終日降雨、傳聞、昨日白蛇現本尊後、御導師權律師定遍云々、又一長者權少僧都禎喜參上云々、雖末代佛法靈驗殊勝者歎、

四日乙亥 雨降、今日神泉苑御讀經結願云々、右少將兼雅爲敕使仰度者云々、今日廣瀨龍田祭也、仍被尋先例之處有例、仍被仰之由、藏人少納言信範所示也、件人奉行也、

南京玄修法眼示送曰、自被始行龍穴御讀經之日雨下、其後大雨云々、靈驗又以殊勝、件御讀經事被仰山階寺別當法務僧正惠信云々、或人來曰、鳴水泛溢、依御幸所渡之橋不可叶云々、然而猶以御幸于法勝寺、裸形之輩相副御車、又公卿殿上人各相具裸形之輩數十人渡之、大納言殿不令供奉給、兼駕車令渡給、前驅等設車被渡云々、

五日丙子 天晴、

六日丁丑 天晴、

七日戊寅 天陰、今日法勝寺御八講終、白川院御、仍有御幸、予着束帶隨身、已刻參院、大炊御門南、午始出御東門、大炊御門東行、尊勝寺東大路南行、取勝寺北大路東行、法勝寺西大路南行、入御阿彌陀堂西南築垣下、公卿右大臣、大納言殿、藤中納言、實三位一人、左京大夫隆季、新藤宰相、信能向御車寄北上西面列云々、予加公卿列、殿上人立池尻南方并御所南欄下、御牛於門外放之、意御車東面、右府以下躡居地上、關白駕車令候御後、經御堂東南簀子參進、褰御車簾、上皇下御、公卿經御堂前、於東北昇階下撤、劍笏、經簀子次第着座、々々下無所、仍予不加着、候北庇座、公卿一兩又來被候此所、夕座講論了、御佛供養行香例時如恒、御布施之時予不取之、依爲御國忌也、職事如此正事布施不取之例也、先是丙大臣、新中納言、顯左大辨實長、參加、予於西北昇階下帶劍取笏、出北門騎馬、即出御、經本路至于京極南行、至于河原、還御法住寺殿、丙大臣、三位三人、藤宰相外公卿不供奉、殿上人列御車宿方、予存公卿列立殿上方、

而公卿列殿上方、仍俄殿上人率渡北方、太奇異、公卿就御所可立也、如何々々、意御車前中門廊、御隨身左府生秦兼賴伺御氣色、兼賴跪向御車下奉目內大臣、內府參進、褰御車簾、下御、上下分散、于時申刻、按察重、嘉逝之後、大納言殿令奉法勝寺上卿給、仍每日令參給云々、抑亞相殿可令奉行平野大原野行幸事給也、而御八講之間神事無便之故、來八日可有定之由先日彼殿所被仰也、乞巧奠如恒云々、藏人嘗定正奉行、棚立東對南庭、東三條東對儀也、虛、西庭無其所之故也、院御時又如此之由後日定正所示也、八日己卯 天晴、秉燭參內、大納言殿參陣給、令定申平野來月十日、大原野來月廿五日、行幸日時給、付行事辨左少辨俊經被奏之、宰相大理云々、自宇佐未被上落、然而依爲巡役也、大外記師元、大夫史永業奉行云々、定了上卿以下引率被向行事所云々、先日大納言被仰云、今日文殊會也、行幸定如何之由自官申上、然而散所佛事難注

進事猶有例、仍何事之有哉之由所存也者、藏人方事藏人少納言信範奉行、舞人行事藏人左兵衛尉平信季、御所作事藏人菅定正可奉行云々、次藤中納言<sup>實</sup>被定申鴨御祖社假殿遷宮日時、信範同所奉行也、件事只<sup>且</sup>勘日時下給社之許云々、造營事公家不知食、廿年一度本社作改云々、

昨日於法勝寺、信範命曰、兩社行幸舞人定、多者日時同日也、可定申歟者、予答可參內之由、仍件事了後於朝餉定申、次第如恒、見前々記歟、

書様、

平野大原野 行幸、

舞人、

賴盛朝臣、

實口朝臣、

隆信、

有房、

長重、

公房、

長明、

泰通、

時盛、

信季、

歌人、

隆輔朝臣、

光家朝臣、

範基、

賴方、

經時、

業綱、

信綱、

盛綱、

笛、

藤原經盛、

筆築、

藤原賴成、

永曆二年七月八日

定了定文給行事藏人了退出、裝束於行事所調之、仍不書定文也。

丑終刻許有火、內裏<sup>東三條</sup>近々之由下人來告、仍着直衣

馳參、三條坊門南鳥丸西備中守爲清宅云々、仰藏人尋

直官人并所衆瀧口等見參、無風火消、禁裏無怖畏、仍

退出、上就寢御、依無女房不奏案內云々、明且可入見

參之由、觸內侍并少將通能朝臣了、

今日文殊會也、肩居群集東寺、乞食群集西寺、公卿以



下出捧物、自官催之賜彼等云々、予今年無催、仍不獻捧物、公卿書廻文、假令、

太政大臣家

令明法生中原、奉、

右大臣家

令太皇太后宮大屬、奉、

如此令書別所奉也、

九日庚辰

十日辛巳

十一日壬午 天晴、午刻姪者着帶、權少僧都明玄護心、

差隼人正清定遣住房、陰陽頭賀茂在憲朝臣來始每日

解除、今度自調之、主稅助丹波重成獻仙沼子、籠帶內、

十二日癸未

十三日甲申 天晴、所衆等招瀧口於右近馬場競馬云

云、瀧口新設水干袴、朽葉鹿子縮水干、紫袴摺摺加令袴所衆冠柏挾、染狩

袴水干、又任意裁入錦繡云々、立錦煙、以的摸太鼓、以

薄樣紙等爲筒、以表帶手綱爲撈緒、以小弓造鉦鼓臺、

懸同的爲鉦鼓、見物車馬如朔云々、

十四日乙酉 天晴、自大和國密御園持來盆供瓜、是依

例獻藏人頭云々、副解文、散位藤原爲實上云々、木工允惟盛賜返抄、侍所々司也、所獻瓜一駄、貝八依例送盆於木幡世觀音寺等、

今夜月蝕、初丑初刻五十六分、加時寅三刻九分、復未卯五刻廿二分、大分時既先日經範持來

勘文、無殊慎、可有吉慶云々、

囑三口淨侶、令轉讀藥師經、

於御殿有藥師經御讀經、僧侶十二口、二間仁王講二口

云々、藏人皇后宮權大進長方奉行云々、後聞、於天台

被行千僧御讀經、右少將基家朝臣爲度者使、左中辨親

範朝臣奉行、而不登山云々、如何、

御盆、

十五日丙戌 天晴、

十六日丁亥 天晴、光賢持來放生會并北野會相撲府

牒、加判返給、又申云、放生會將脩範可參勤之由所申

也者、

十七日戊子 天晴、未刻參關白殿、付信國申文書、大

殿令渡山科殿給了云々、次參內奏文、今夜有條事定

云々、

別當自宇佐還向云々、

十八日己丑

十九日庚寅 天晴、未刻奉供養藥師像、一尺六寸、當金

奉造請仁和寺內供、自今夜以同佛令延玄阿闍梨一七ヶ

日奉供、

尊勝施羅尼阿彌陀大呪光明真言奉受內供了、

廿日辛卯 天晴、未刻參院寺、法准、相具瀧口源盛致、付甲

斐守盛隆奏文書、次參內、

今日御物忌也、

廿一日壬辰 天晴、出納仲正持來牒、近江御厨事也、

加判返給了、同牒書二枚、同加判一通、爲留置藏人所

也、是例事也、大殿自桂殿令歸高倉殿、令過蓬門前給、

廿二日癸巳

廿三日甲午 天陰、今夜被行小除目、

造東大寺長官藤朝方、兼、

次官三善爲信、兼、

山 枕 記 應保元年七月

判官三善惟長、兼、

主典惟宗行政、兼、

左近將監藤原範忠、

左兵衛少尉源通定、藏人、右馬允平親長、

上卿中納言公通卿、書手左兵衛督公保卿云々、

廿四日乙未

廿五日丙申 天晴、被發遣祈年穀奉幣云々、已刻右大

臣參陣、於南殿有御拜、頭辨候御裾云々、藏人方事藏

人少納言信範申沙汰云々、予不參、依爲御物忌也、此

殿無宿所、去夜頭辨可被宿之由藏人定正示送、仍不參

也、抑爲御物忌之時、於石灰壇御拜先例也、而出南殿

未知其由緒事也、

北野使菅家五位奉仕例也、而真衡救鞠、定宗申所勞、

此外無五位、仍被尋例、遣式部大夫爲範云々、

廿八日己亥 天晴、卯刻參內、依御物品自安別當西町牙屋陣

來月廿日平野行幸、同廿五日大原野行幸、仍今日可被

發遣九社稻伊、石、實、松、平、奉幣也、行事藏人菅定正奉仕御

拜御座於南殿、予問由緒答曰、去廿五日祈年殿奉幣日同當御物忌、仍觸申子細於頭辨之處、被答曰、不可依御物忌、可奉仕南殿者、今日如此所奉仕也、予重命云、最不審事也、御物忌之時者於石灰壇御拜恒例也、非別仰者以事次可伺天氣歟者、藏人少納言信範參入、示旨同予命趣、仍定正經奏聞、仰云、可然之事也、御座早可供改者、定正令撤南殿御裝束、石灰壇<sup>以南面</sup>、敷小筵一枚、其上供御半帖、<sup>不立御屏、風之側也、</sup>但此殿<sup>東三條東</sup>對儀也、御殿西向也、仍令向巽方御者頗似無便、仍南面西第一間御隔子上之、四季御屏風西方供御座、隨便擬之也、且與給侍中相議令上南面也、御簾本自皆垂之、此間頭辨參入示定正云、伊勢幣者雖御物忌出御南殿也者、定正答曰、依予命也、此間定正來示、此事如何未聞未見事也、但管見短慮之者定存謬事歟、可出御南殿者可被破御物忌、不然者於石灰壇御拜萬人所知也、最爲奇、已刻上卿<sup>大納言殿</sup>、令參陣給、信範進出陣、平野社行幸可爲來月廿日之由奉仰、<sup>先日被勤十九日、而件日御物忌出來、仍被延今日也、</sup>次上卿就御所被奏宣命草

并日時勘文、<sup>改廿日</sup>信範奏之、但依爲外宿桂殿邊、付藏人定正奏之、即返給、次又上卿就御所被奏清書、便被奏使王申御馬之由、信範奏之如前、奏聞之後返給、上卿被向八省、使宰相左兵衛督公保卿、別當清盛卿、<sup>行</sup>右兵衛督顯長兼被參八省云々、伊勢幣發遣之時即可申其旨之由仰、含小舍人差遣八省、良久行事外記中原長盛自八省歸參申云、稻荷使能定朝臣領狀而申所勞、重致譴責之處、晦跡他行、早自藏人方可被催歟者、信範付定正奏聞、仰云、緩意沙汰太不便事也、雅重朝臣候殿上、早可差遣也者、仍雅重朝臣忽退出、改裝束參八省云々、八幡使源憲雅朝臣云々、午剋伊勢幣進發之由、<sup>進方</sup>小舍人歸參申、仍着御裝束出御石灰壇、予自鬼間參<sup>進方</sup>、<sup>宣</sup>獻御笏、次御拜了歸給御笏、返給藏人退、藏人少納言信範諫曰、東大寺申請三箇條、

一、南大門、應和年中爲大風顛倒、今以寺家力欲建立、而先例如此寺中大事可被告申、山陵歟事、

一、金剛力士寺家其力難及、自公家可有御沙汰事、

一、造東大寺長官以下可被任事、

已上三箇條申旨如此、

先山陵使事被問外記、注申不詳之由、仍可被計申之由、  
被問太政大臣、伊通、入道右大臣、雅定、大納言、光賴、權中納言、雅教、左大辨實長、等云々、太相國被申云、此事公家不知食、寺家經營事也、不可有山陵使歟、造畢之後至于

申如度者、最可有御助成、凡者應和以後聖代幾許哉、  
又別當賢聖幾許哉、然而全無此沙汰、先可被修造大佛殿、其後可有他事、當時鴻梁一支已折、又東庇漏濕云云、無彼沙汰、骨張此事、不甘心事也云々、入道右府被申云、外記勘申事者、以記錄越許申事也、臨其時依其事不行、依其事行之、各若有由緒歟、於往古事者不知給、白川院御時遜位也、盛重蒙受領功修造大佛殿、其時且所覺悟也、件事爲近例、早被尋彼時例、依件可被行歟云々、大中納言左大丞等皆被申可有山陵使之由云々、

就右府入道被申旨、被尋盛重時之例之處、無被行事、仍無山陵使者、

山槐記 應保元年七月八月

次金剛力士事、任申請注功程終成功云々、次造長官以下事有裁許、去廿三日被任了、

已上兩條不及顧問云々、

廿九日庚子

八月

一日辛丑 陰晴不定、時々小雨、未刻參內、左衛門督公光卿被奏文、近江守籠季外、被問國大領府大社宮間符等也。予參會之間便被付

奏、付內侍奏聞、返給、次請印被奏、藏人時盛奏之、金吾內文了被參殿上、予言談數刻退出了、新大納言光賴入勸修寺、今日八講始云々、

二日壬寅 天陰、今夜院法住寺西御所御渡云々、公卿直衣、仍大納言殿借召予薄色奴袴、又前駟馬一疋依召

引進也、後聞、有黃牛、陰陽頭賀茂在憲奉仕御反問云云、無御纏饌、空腹各々分散云々、凡今夜事無人行事、每事依違云々、

三日癸卯 今夜上西門院自大炊御門殿御幸法住寺殿、  
去後院御所渡、御之御所也、院又渡御七條上御所云々、

四日甲辰 今朝皇嘉門院自高倉殿御幸梅津殿、中納言中將實供奉、關白殿駕車令渡給云々、

五日 雨降、前阿波守說方來示付高越寺解狀、可奏聞之由答了、又談云、右府不食頗增氣云々、大臣愼之由有天變之由、泰親觸告云々、然而緩々無沙汰云々、

六日丙午 朝暮雨下、未刻參內、奏興福寺解狀、准祇園大原野檢校別當、行幸時寺家勸笠等也、仰云、可被計申之由可申前關白者、次參院、法住寺七條未上御所、付光能奏聞、

仰同者、瀧口源盛致相具、自今夜於禁裏被行七佛藥師法、阿闍梨法印重瑜也、供米以下大理被沙汰進云々、頭辨、藏人新武衛通定、出納右衛門少志清重奉行、以

寢殿某三條爲壇所、以藏人所爲宿所、殿上暫渡御出居廊、藏人所、北廊也、

今夜鴨御祖假殿遷宮云々、社家造之、但行事辨俊經參向云々、

七日丁未 夕雨、晚頭密々參廣隆寺、

八日戊申 天晴、午刻參大殿、付信國申事、

一、興福寺申大原野檢校別當始被補事、院內仰云、可被計申者、

大殿令申給云、此事非舊事、始申請事也、難計申、苟爲藤氏片端計申此事、就善惡有恐、可在敕定者、

大殿御返事之旨奏聞、仰云、前關白如此令申、爲之如何之由早可申院者、

一、權中納言雅被覆奏多武峯損色事、大殿仰云、最以不便事也、早可尋成功之人者、大殿仰旨奏聞畢、

予仰藏人出納、令尋成功人、

一、兼子前阿波守說方妻也申尊勝寺末寺阿波園高越寺被制止他人妨事、

大殿仰云、早可奏聞者、敕定云、前關白可被計申者、

次參內、付藏人通定奏聞以前三箇條、敕定見右、依御物忌不覽文書、以詞奏達、退出之間、上官等群立陣、予

下裾過前、明日可參院也、公俊瀧口可召進之由、仰出納了、

右衛門督公光卿參陣、被奏昨日釋奠見參、退出之間不見其儀、可尋注、博士等給祿、

九日己酉 天晴、午刻參院、法住寺、禪口中、原成親在共付木工頭清雅

申興福寺申大原野檢校別當權事、自内令申給旨也、仰云、如此事可依先例、子細不知此事者、猶重可被計申

之由可被申前關白歟者、此間參内奏聞、仰云、以此趣猶可觸前關白者、次參大殿、付彈正弼清高朝臣申敕定

趣、御返事云、所存昨日申了、氏社事左右難申、猶可在敕定者、兼子申高越寺事、依仰申之計申給之由、同申

大殿、仰云、可被問論人歟者、次歸參内申存趣、仰云、可隨前關白計申之由思食之處、如此被申、無思食得

事、爲之如何者、兼子事早可問論人者、

十日庚戌 天晴、乘獨參内、戌終刻出御々修法壇所、東三條發殿、去月六日發行七佛藥師法、自東北渡殿南面至于寢殿東面戸供筵

山 槐 記 應保元年八月

鞋如何、有御劍敷筵、道無御草鞋如何、先々夜如此云云、頭辨、脫方御後、侍臣候指燭、宿直人相交、時間於南御下有音樂、御加持了還御、

十一日辛亥 天晴、晚頭參大納言殿、命曰、内供跑瘡無術云々、乘獨參内、出御々修法壇所、予候御劍、次第

如去夜、還御之後退出、  
午刻許右大臣、正二位右近、大將公能也於大炊御門北高倉東亭薨、自

去月廿五日爲祈年穀奉幣上卿參内、其後所勞更發不食云々、春秋四十七、可悲々々、太皇太后出御禁裏、權

大夫公保卿參上行々啓事、宮司一兩供奉、御車唐云云、渡御姊小路富小路亭云々、皇后宮又自院有行啓云々、

十二日壬子 天陰、夕少雨、晚頭參大納言殿、依召也、命曰、大將已有闕、我當其仁、但中納言中將兼被申者、

爲大殿御進止不可及左右、若右近衛近代彼御一族不通房以後、吉及兼長兼、之由被存者、他人誰人可任乎、此事欲觸申

大殿、汝參上可伺松容者、予奉命參上、付高佐申達、是

君達無御沙汰者之由也、御返事曰、承了、早可被申院并内也者、予歸參申此旨了歸亭、今夜有小除日、是大原野行幸之間成功之人前成功之人也、仍先被任之後

法橋尊隆、今熊野鐘樓功、十三日癸丑、陰晴不定、午刻須臾大雨、即休止、同終刻參内、

依超越功可造畢之故云々、頭辨書所望輩於折紙昨日進院、而不被仰彼人、召藏人少納言信範可加任人、書加下給云々、此事如何、上卿新中納言、時宰相任人、内舍人中原久盛、

今日七佛藥師法結願也、御額間存先々自寢殿東北廊敷筵道、仍予仰之自額間令敷、信範相具掃部寮令敷續之、予候御劔、御修法次第如先々、樂人等候砌、但阿闍梨以下伴侶廿口、有廿一反禮拜事、御加持了右少將通

縫殿助藤原經盛、  
沿部權少輔菅原真衡、  
民部少輔源顯信、

能朝臣取被物、不帶劔如何、差笏可帶劔也、此事近將役也、仍先例皆帶劔者也、予須取也、然而可候御劔之

少錄中原國親、  
木工頭藤原信保、  
左京大夫藤原邦綱、兼

故無便宜、仍通能朝臣取之、頭辨示予曰、依爲御前不賜布施歟、予答云、可然祿計可給也、又示合曰、祿誰人

少屬菅原友實、  
左衛門少尉橘盛康、  
藤原實宗、  
遠江介佐伯宿禰久真、

可取哉、汝可取歟、將四位上臈可取歟、答曰、多者近將役也、然者下官可取歟、但又其首又取之歟、但他將候

右衛門少尉藤原季經、  
右兵衛少尉藤原季行、  
左兵衛少尉惟宗信房、  
左馬助平信業、兼

可令取歟如何、仍示通能朝臣令取也、無勸賞、無度者、事了還御、

少允藤原良成、  
右馬少允藤原盛景、

依大殿仰、申驚興福寺申大原野檢校別當事、仰云、早可隨院仰者、

十四日甲寅 天晴、午刻參院、法住寺北瀧口藤原親綱在

共、付成親朝臣申大原野檢校事、仰云、忽不可有沙汰

者、次參內、申院宣趣、仰云、聞食了、次參大殿申同旨、

仰云、以此旨可仰遣南都之由可仰左大辨者、即退出、

相具寺解送左大丞之許了、

今日放生會、上卿以下々々向云々、

上卿新大納言、光宰相別當、盛辨右少辨時忠、榮右近

衛、左少將隆憲、右朝負、左以尉爲代、佐基監熊野詣、楯兵衛、左實

少將基家朝臣、佐爲親所勞云々、右行事辨、右寮馬助以下可尋注、

左少辨俊經曰、鴨御祖社假殿御遷宮去六日夜也、依爲

奉行所參也、辨許參也、件造營事社家勤之、但金物神

殿御裝束御鏡及神寶等自官行事所調送、半分已爲成

功者、

十五日 天陰、殿下被立八幡乘尻云々、依不足召瀧口

二人云々、

十六日丙辰 天晴、今夜有駒引、上卿新藤中納言、長

宰相別當、盛辨少納言、近將基家朝臣、實宗朝臣、脩

範、皆右少將也、引分使院脩範、大殿基家、關白殿實宗

云々、於中門廊東庭東三、分取云々、行事藏人嘗定正送

駒一疋、

十七日丁巳 朝間雨、午後休止、未刻參院、瀧口信俊付

左少將時忠申事、

乘燭以後退出、明後日可被行秋除目云々、藏人少納言

信範申沙汰云々、

內府飽瘡云々、仍今夜自高倉殿被渡左大辨長、之許云

云、彼朝臣被借屏風一雙、送了、關白殿成恐令渡近衛

殿母儀二品給云々、

廿日庚申 天晴、今日平野行幸也、午始刻參內、上卿

大納言付藏人少納言信範令奏宣命草給、次覽神寶、殿上

五位六位役之、未刻出御書御座、南間敷新圓座爲御

座、殿下令候大床子南方給、御覽了暨可歸入御、其間

可撤神寶之由存之處、頭辨依禮服日殿內不可參並頭先可撤

之由示、仍撤之、次暫入御、供筵道、次出御、予付劔內

侍、次將可催之由予仰藏人、遂不參、仍璽內侍無扶持



之人、極以不便事也、御南殿、仰陣可引之由、次陰陽頭

賀茂在憲朝臣奉仕御反間、下西階、出納仲政取大褂

授之、次仰將可渡之由、次公卿列立、大納言上卿、預〇一本

長、左衛門督公光、新中納言顯時、別當清盛、左京大夫隆季、中納言實

左宰相中將俊通、三位中將實房、左右大將所爲不供奉、右將軍自去夜

俄所勞云々、爲供奉忍昨日被次寄御與、怒公卿將御與過之間

行除目、而所勢太過恨事也副御與如恒、無鈴奏、神社行幸例也、俊通卿役劍璫、出

御東門、行才二條院宮城大路北行、於冷泉中納言與侍棧數、一條

西行、宮城西大路更南行、正親町末西行、木辻大路北

行、一條北二許町更東行、寄御與於葺屋西面、公卿以

下跪地、下御之後當北一間立格案二脚、其北方東第一

二三昇立御劍橫、柄北、其西御梓檜、柄警前敷宮主座、

其西南敷敷使座、予撤胡籬劍、不撤下尻獻御笏、往反北

一間乾角、次供御贖物、藏人治部大輔行隆役供、次宮

主就部屋乾獻大廳、予傳供之、返給、宮主着座、此間舞

人中務大輔賴盛朝臣、左兵衛佐神寶乾方向社引立之、次御禊

了宮主退出、此間予撤御贖物、言殿、進幣案下、擗

笏取幣立給、主上御拜了令咳聲御、敕使置幣歸着座

給、予給御笏、次中宮權大夫實長卿言也、取捧花捧敕使

御冠、侍臣於囘外給捧花於舞人、次上卿參向社頭、先

是付藏人少納言被奏宣命清書云々、先神賀、次舞人、

次上宰相等也、廻御馬、東遊、次舞四曲、茂藤樂地久、依

例無御神樂也、日沒上卿令歸參御所給、付信範被奏御

願平安之由、次被奏山城獻物、次被奏見參云々、予候

御所北方之間不見子細、次敷公卿座、葺屋西南敷之、次上

卿以下一兩着座、此間取御前囘、舞人四位二人、中務大輔

放四人、左兵衛佐實賴、侍從有房不馳、仍降從監賴盛、公房少

納言、重雅六位藏人、右衛門尉盛延尉也、信範曰、廷尉不馳也、右兵

衛尉信季上御馬、自北至于南自上臈上之、次自下臈向

社頭馳之、次賜公卿祿、予取殿下御祿伺御氣色賜御隨

身了、次公卿持祿列立、次寄御與、予始稱警蹕、宰相中

將役劍璫、三位中將退出之故也、他將不警蹕、于時秉

燭、車駕還宮、有警蹕奏鈴名謁等、左少將通家朝臣間

之、廻御後行事、入御之後逐電退出、社司勸賞可尋注、

行事官賞大原野之後可被仰也、

今日留守富小路中納言云々、

廿五日乙丑 朝間雨降、辰刻以後休止、今日天皇行幸大原野社、仍已刻參內、午刻出御、次第大概同去廿日平野、左右大將依飽瘡猶不被供奉、雖有先例希代事也、御輿出御東門、東三條北行、二條西行、朱雀門大路南行、七條西行、申刻歇餉在二所、安御輿於南面、其不供御膳、着御着到殿、寄御輿於件殿南面第三間、兼構御輿寄、公卿列立南場內、自御所寄御輿依安御輿寄公卿不跪地、下御之後公卿着自御所西屋、次女房供御手水、次予供御笏、經南宮子自西而南一間南角往及、或自第二間云々、次供御贖物、行隆俊供、次宮主就御所南面獻大麻、予傳供之、返給、次宮主着座、次敕使<sup>上</sup>着座、此度無名、只敕使參進之山藏人少納言信範所命也、大納言殿仰云、職事告示也、御禊了撤御贖物、敕使取幣立給、次御拜了、予給御笏給藏人、敕使置幣歸着座、次宰相中將俊通卿取副捧花於弓、自南場門進出、捧敕使御冠、次敕使相具神寶參入社頭、次采女供晝御膳、藏人賴保勅曰、御膳乍兩度於此頓宮可供歟、予曰、一度可供歟、今一度於本宮供之例也者、賴保曰、存此旨之慮、於平野社乍兩度供

之由承之、仍所申也者、東遊之間大納言殿令下宿所給、依召予參入、神主儲御宿所西松林後僧房也、陵王之間令歸參給、予尋申舞數、亞相被仰云、於此宮六曲也、所謂萬歲樂、地久、賀殿、延喜樂、陵王、納蘇利等也、故花山院左大臣殿爲此兩社上卿之時、於平野四曲、見於此社六曲被行、仍如此行之、而先日於平野大外記師元云、左大臣殿上卿之時於平野六曲之由申行云々、而上卿四曲之由被仰、師元自懷中披見折紙、承伏之由談論也、社頭事了、次上卿付信範被奏獻物見參等、信範捧笏奏之、日沒舞人馳御馬、先是敷公卿座於御所坤地上、北上、次予進欲召公卿之間、上卿於曠外被仰召歟之由、脫方申、而之間諸卿皆參上、仍端座不申、脫沓昇座上可申也、取御所西并南方之西場等、舞人於鳥居前駕馬、至于殿下御休幕前程更馳之、藏人左兵衛尉平信季所勞、仍藏人左兵衛尉源通定爲其代、仰四位陪從周防守隆輔、前民部大輔光家等也、五位以下追可注、次賜公卿祿、關白御祿史取之授予、々取之於欄下伺御氣色、

仰云、可給隨身者、予召右番長武春給之、次寄御輿、始稱警蹕、于時秉燭、還幸之間無馱餉、子刻車駕還宮、被仰行事官賞、

從四位下藤兼雅、上卿、御議、

參議清盛卿、辨俊經、外記師元、史永業追可申請、

廿六日丙寅

廿七日丁卯

廿八日戊辰 雨降、今日內大臣宗能、庇大饗定、大內記信重書定文云々、

光賢持來府大糧米牒、加判返給了、

九 月

一日庚午 天陰、今日先考遠忌也送佛經、法世曼茶羅大集、乘少經三卷、於觀音寺、依有病者不參向也、

二日辛未 午後雨下雷發、頃之休止、

三日壬申 天晴、已刻上皇々子誕生、母藤故兵部大輔時信女、母故民部卿顯願

女也、上西門院女房小辨局〇九字悉當為誣入母儀之云々、小辨局即建春門院也、

四日癸酉 雨降、今夜有改元定云々、改永曆二年爲應保元年、參議左大辨資長朝臣勸申云々、依天下炮瘡也、公家御胞瘡云々、予有所勞近日不參內、

七日丙子 今日先妣御忌日也、送佛正觀、法經花於觀音寺堂、依有病者不參向、

藏人頼保一臈列官、持來漆骨十具、扇紙十枚、與子、調進內裏之餘分云々、所裏紙屋紙也、

出納仲政持來々月十日松尾北野行幸牒、加判返給了、

八日丁丑

九日戊寅 天陰、午後雨下、早且自丹波甘栗御園持粟

一荷、四足、不給返、所相副送文也、抄例也、

哺時着束帶先參、大納言殿、申承雜事、秉燭參內、謁丹波內侍、主上御胞瘡已令熟給云々、予依所勞日來不參內、今日始所參也、醫師主稅頭丹波知康、同助重長、施藥院使憲基等祇候云々、

平座上卿中宮權大夫實長、參議右兵衛督顯長卿云々、

大外記師元曰、今夜少納言不參、信範重雅日來申可參由、只今遣觸別限之處、申所勞、爲之如何、無少納言行平座多有先例、然而可申此由者、令藏人定正奏聞、仰云、可爲計者、上卿已參上、夜欲及深更、有例者何事之有哉之由、示大外記了退出、

十日己卯

十一日庚辰 天陰、申刻向藤大納言<sup>定亭</sup>、

次參內、爲奏例幣宣命、大納言殿令候仗座給、藏人賴保曰、依召參陣、大納言殿令奏宣命辭別給、頭辨被申送云々、有三箇條、

一、去年大神寶欲奉納之處、御戶不令被開給事、一、去八日依御藥奉幣諸社、依爲例幣以前不被奉幣事、一、太神宮怪異事、職事進仗頭須宣下事也、而頭辨有病者不出仕、藏人少納言所勞、藏人大輔佐異辭別可仰下也、而件人小兒天亡、雖七歲以前、嚴重神事有猶豫之心云々、去夜其旨觸予、理之所推全不可及憚、背法條何有其憚哉、然而予小兒去比同以天亡、以同事難請取

他人奉行事、仍返送了、其後以消息內々獻上卿云々、

此事如何云々、宣命以六位藏人令奏聞給、主上御惱非大事御云々、已令熟御云々、宮內卿師綱朝臣供御膳、十二日辛巳

十五日甲申 天晴、申刻着直衣參內、雖痢病更發、久不參內、似籠居太無由、仍片時相扶參內、觸子細於內侍、即退出、

有除目云々、

權中納言<sup>藤力</sup>俊通、<sup>宰相中將勞、越越</sup>公保、<sup>光忠、顯長</sup>

參議同親隆、<sup>坊官</sup>勞、

少納言同資隆、<sup>五位藏人</sup>右少辨藤長方、

大膳權大夫安部廣賢、<sup>元權</sup>左京大夫藤顯廣、

權大夫平信範、<sup>元藏人</sup>攝津守高階泰經、<sup>元出</sup>常陸介藤範季、<sup>元近</sup>近江守同實清、<sup>兼</sup>

出羽守同爲信、<sup>大夫</sup>佐渡守小槻隆職、<sup>永業辭攝</sup>左中將藤兼雅、<sup>尉勞</sup>實宗、<sup>實宗、通能、</sup>但已上六人皆任下藤也、

少將同泰通、<sup>元侍</sup>左衛門佐同雅隆、

右衛門督平清盛、<sup>如元</sup>

左衛門佐同雅隆、

權佐藤光方、尉源 爲經、

左馬權頭平經盛、

宣旨

別當、

清盛、如元、

使藤光方、

藏人、

藤重方、皇后宮權大夫也、地下人也。

解官、

左馬權頭兼常陸介平教盛、

右少辨兼右衛門佐平時忠、

主上御胞瘡之後今日始有御浴殿云々、

十六日乙酉 今夜鳴御祖社遷宮、此造宮依恒例社家經營、但調進神寶神殿之御裝束、行事辨左少辨後經也、神殿之御裝束盡自官付社家、遷宮亥刻云々、行事辨後經參入、着中門西廡座、自社家居號、次遷宮之間敷半坊於中門湖下、辨居朝御膳於假殿供之、夕於新殿供之、遷宮之後辨歸若木座食納禮退出云々、後日後經所談也。

十七日丙戌 天晴、午刻參內、申河內國大江御厨訴

事、內藏頭重盛朝臣所付也、

一、停止法通寺坊、如舊可隨進止事、

一、作人募權門威不持進供御事、

一、本田二百卅丁外被新加百卅丁宛、每日一丁料田

限永代無懈怠辨進供御事、

一、已上所申請之百卅丁若無裁許者、可割給十八日

料田九丁八反事、件每月十八日者、本自非御精進

口、而依白河上皇仰、雖六齋外、十八日最可爲御精

進、仍其後不供魚味、而院御宇猶可爲魚味之由被仰

下、仍更供進之間、本田荒廢本數猶以減少、而又此

日相具、然者可被加件日料田之由申請事、

一、本田之內或成河或荒廢、仍以田領熟所被立改事、

一、國中池河津等任延喜五年牒可爲御厨領事、

一、平岡恩智兩庄如元可爲御厨領事、

已上七箇條付藏人通定奏聞、仰云、此旨可申前關白

者、仍參彼殿、付飛驒前司季長申入、仰法通寺事々切

了、被成牒何事之有哉、自余新儀者不被尋子細者爲後

若有訴歟、於有舊跡事者被仰下何事之有哉、次參大納

言殿申承雜事、次參內、申殿下御返事、仰云、最然事等

也、於作人不持進供御之事最不當也、早可隨所勘之由可仰下、於新儀者不可然者、予申云、池并兩庄事雖舊跡經時代、此事只不被子細可被仰下歟者、仰無左右、晚頭退出了、

十八日丁酉 天晴、未刻着直衣參內、大江御厨訴事、停止法通寺坊事、作人可持進供御事、兩事依昨日仰可成給藏人所牒之由、仰藏人通定了、

十九日戊戌 天晴、內府着陣云々、藏人治部大輔行隆奉仰、祭主可爲神祇大副大中臣朝臣師親之由、仰內府云々、被改爲仲也、伴人勞淺不當仁、而去春雖依院宣被補、令改定云々、

藏人宮內大輔重方從事云々、  
廿日己亥 天陰、未刻着束帶參內、依聞及可有陣公事之由也、內大臣被候仗座、今日被發遣伊勢幣也、伴幣依御惱去八日被立廿一社幣、而例幣以前先例不被立伊勢幣割置云々、被付例幣之由外記勘申云々、仍去八日石清水已下發遣、十一日例幣之時無其沙汰被取

落了云々、已上頭辨奉行之由藏人大輔所示也、仍今日

被發遣也、有辭別云々、所司談方候不奉付例幣之由、鼠糞

損之御帳帷調改被獻之由、件御儀事可調進日須仰上卿也、而內々行隆仰右中辨朝方令調云々、

極失錯之由行隆所示也、今祭主神祇權少副大中臣爲仲依淺

勞無功、以大副大中臣師親朝臣被改補之由、去春依院宣件爲仰所補也、

等被申云々、宣命草以行隆於陣被奏、清書就御

所被奏、返給、即被向八省了、先是丹波內侍向八省了、

今日無御拜、仍又不供御裝束、御惱雖御平癒未令復尋

常御之故也、及晚頭退出了、

廿三日戊寅 天晴、未刻參內、可有遷幸四條坊門東洞

院右大將家、可沙汰云々、

廿四日己卯 天晴、申刻參內、晚頭退出、

廿五日庚辰 天晴、未刻參大納言殿、次參內、立札於

陣、問子細、藏人出來曰、南殿北靈有小死人、無頭手胸骨、被

定五體不具穢了、仍行幸舞人并不穢人職事不可參入

之由所被仰下也、但藏人宮內大輔重方申事由參入、職

事一人最可候也、仍參入歟、余所案、無奉神事、參入何

憚之有哉、又推參之條背被仰下、仍觸案內於女房、返事云、不參入何事之有哉者、庭中無憚、至于中門徘徊、出納納政成大江御厨牒、加判返給了、又持來月奏、同加判了退出了、

廿七日壬午 朝間巳刻以後天晴、午刻向仁和寺內供許、本房登云々、仍被<sub>他房</sub>、申付訴體、晚頭歸蓬、

廿八日癸未 天晴、左近府領出雲國母里庄筵卅枚相副解文自府送進之、給返抄了、侍所々司所書給也、

廿九日甲申

卅日乙酉 天陰、晚雨下、去夜藏人治部大輔行隆被給

言示送曰、五節事可申沙汰者、申承了之由、仍公卿受

領遷任國司等也、但無領人、不幾、仍初任人少々書之、未役人々書折紙、未刻參內奏聞、

至于明日內更有五體不具穢、仰云、可被計申之由可申前關白

仍不昇殿、以藏人通定奏之、次參大殿、付高佐申之、御返事云、五節沙汰頗遲罷

成歎、可獻之人々可在敕定、但右大臣雖未役、先年欲

獻之間臨期服暇事出來、伴雜事内々沙汰渡改按察了、

雖可獻可致沙汰之人季行重服、仍難叶歎、仍今年難獻、

又未役下臚其數候、此旨可奏者、次參內申御返事、仰云、開食了者、予重奏云、然者可仰誰人々哉、仰云、猶不令計得御、仰合清盛卿可被仰可定也者、仍歸蓬了、頭辨曰、高倉殿可爲皇居、仍爲見御所只今所參也者、本儀四條坊門東洞院右大將家可爲皇居也、而六角堂爲陣中、參詣道俗可不通之由寺僧申云々、仍改易歎、內裏有穢、而頭辨參領、又參入大殿、而不穢之人參大殿、猶不參入內裏、此事如何、未得其心、神祇官供御贖物、官人不穢、於陣外供之云々、是例也、

應永廿五年六月十五日書寫畢、

（大炊御門本真書）

山槐記十五冊、借請今出河大納言（公規卿）本令書寫校合畢、

延寶二年三月下旬

權大納言經光

（花廬屋文庫本真書）

延寶五三二日一校了、

弘化二年四月廿六日夜讀了、卅日加卷了、

安政二七廿八一讀了、

元 幹  
春 村

應保元年 于時賞

十一月

二日、御方違行幸事、

三日、造内裏上棟事、

四日、平野祭事、

五日、梅宮祭事、

八日、於東三條春日詣定事、

十三日、被始公卿敕使神寶事、

十八日、童御覽日相當美福門院周忌、御覽有無如何

事、并例事、

十九日、遷幸大内事、

廿日、女御殿淵醉有無事、

其日五節帳臺事、

廿二日、殿上淵醉事、

廿三日、殿上淵醉童御覽事、

廿四日、節會事、自大内還幸事、

於東三條入内定事、  
廿九日、被行解官事、

### 應保元年

十一月

一日己巳 天晴、參大殿付高佐申事、

一、内大臣申與隆寺事、

一、十生申雜事免除事、

一、攝津國司申雜事、

已上内覽奏聞事等注奏事目六、

次參内、付藤人願保奏聞、乘燭以後退出了

二日庚午 天晴、

乘燭着關腋參内、爲御方違行幸勘解由小路殿之故也、

付藏人通定奏事、

一、内大臣申與隆寺事、



一、董御覽公卿事、

一、中院行幸奉行事、

已上依仰參大殿欲申仰旨之處、職事皆退出、仍空歸

參了、

亥剋許出御、西門東洞院南行陽明門大路東行、京極西

小路南行、入御勘解由小路殿西門、藏人治部大輔行隆

奏日時、仰上卿、伴人今夜行幸奉行也、召仰之間事相尋

子、子細具示了、御反問在憲、鈴奏少納言伊長參任、公

卿大納言二人、忠雅、雅通、中納言五人、實長、定房、公光、顯時、俊通、宰相四

人、光忠、隆季、顯長、實國、三位一人、實賢、留守左大辨、長、實、左少辨、俊親、

藏人左兵衛尉、通定、勘解由小路殿御裝束事、并大床子之

間官奉行、御所鋪設掃除、藏人定正兼參上行也、大殿

祭右中辨朝方奉行、曉天還御、參任公卿左衛門督、光、公

新宰相、隆季、修理大夫資賢卿、宰相中將實國朝臣等也、

源中納言、房、定、追參會、博陸去夜御退出、依御咳氣不令參

給、兩大將不參、仍宰相中將仰御綱、還御之後逐電退

出、

今度行幸自高倉殿至于勘解由小路殿、其程近、仍可

爲步行歛之議出來、然而遂騎馬之由被仰下云々、行

隆申沙汰之、

三日辛未 天晴、

午剋內裏上棟、東洞院西、三條坊門北、傳聞、南殿前卯酉妻立幄、上

卿、光顯、東面着之、辨左中辨親範朝臣、大夫史永業、

六位史等北面西上着之、造酒正祐安勸益、三獻同人勤

之云々、午剋上棟、右近將監多忠節打太鼓、舞臺如恒、音

打、次大打、而行事辨仰云、不可有少打云々、可歌、事了大工賜祿、座次有論、仍兩人

日時相竝可給之由被下知云々、

四日壬申 陰晴不定、

午剋參大納言殿申承雜事、次參內、次參大殿御宿所、

付伊賀守長定覽文書、次歸參內、付藏人通定奏聞、子

細在別目六、

今日平野祭也、上卿源中納言、房、定、并俊經、左少、事了未剋

被參內、不待殿上使、是例也云々、內侍今明向社頭、行

事藏人定正致沙汰、瀧口相具云々、申剋殿上使左兵衛

佐實清關祿、地緒、爲袋、垂纒也。參上、相續宣命上卿新中納言通、  
參內、先是行事藏人奉仕御裝束、其儀、高倉殿、  
西面、

寢殿南面垂母屋御簾、卷庇御簾、此殿無孫庇、庇用孫庇也。以階間供  
御座、仍西面令改直了、伊勢御拜之時不必向彼社頭事也。小筵

上供御半帖如恒、幣案宮主使座以之可准知、且見先  
先記等、依及秉燭御座左右供掌燈、主殿取松明候砌

邊、抑當簀子懸燈樓、予令撤之了、御座撤孫庇供庇  
了、仍可懸燈樓哉如何、仰藏人令撤畢、

上卿使等參上之由、行事藏人奏之、御梳櫛并御湯殿之  
間已及秉燭了、戊剋出御、御東帶、自池東御所着御裝束、自長

道云々、於御草鞋者不召云々、頭辨候御共云々、予取御笏供之、返給、行力宮主次宮主着

座、次使下尻正笏着座、不脱次御禊了、予并藏人大輔參  
進撤御贖物、次使進幣案下跪、差笏取幣立、次御拜了、

使置幣退出、此間予參進給御笏、次入御、次撤御幣、御  
禊之間不發物聲如何、予相尋之令發、次上卿就弓場付

藏人定正被奏宣命、次返給上卿着殿上、次內記獻宣命  
於上卿、次上卿召使於小板敷給之、次使參社頭、事了

予逐電退出、上卿後任中納言之後未被聽昇殿、仍不被  
奏宣命之以前、付藏人定正被申昇殿、即敕許、仍於弓

場代拜舞、定正申次之、  
今日春日祭、仍不念誦、行事辨朝方朝臣、右中近衛使左

少將通家朝臣、去年勸賀茂祭使、然而內侍波、依無其人被仰云々、下向、藏人通  
定送之云々、

五日癸酉 天晴、  
今日梅宮祭、藤宰相忠行事云々、辨成賴朝臣中也、而

依犬死穢、左少辨俊經俄參勤云々、隼人正清定依爲氏  
人參上、歸來語云、然而依訴訟參右府之間、上已下參

入、數剋不行事、仍依上卿命、史取史生馬令馳向、遣召  
社司等、於法金剛院前相逢歸參、申剋事了、各々分散  
云々、

六日甲戌 天晴、  
未剋參內、付藏人賴保奏云、五節者侍臣等所存也、定

皆參歎、然而近年或奉仰遣消息催之、何樣可候乎者、  
仰云、尤可被催也、雖存事、臨期不參事出來者見苦事

也、早可遣仰者、仍各殊可早參之由、書消息遣了、書本一通賜非藏人光能令書之、入晚退出、

七日乙亥 天晴、

藏人頼保一來示五節事等、

八日丙子 天晴、

未剋參大納言殿、次參內、晚頭退出、

今日於東三條有春日詣定云々、後日兵部權少輔光長

注送、參入公卿右府、內府、新中納言、後藤宰相、光治

部卿、光隆、修理大夫、實資、已執筆家司左少辨俊經、行事

陰陽頭賀茂在憲朝臣、漏剋博士安倍時晴勘日時、剋限

殿下自近衛殿令渡給、申終事始、乘燭已後事了云々、

十日戊寅 陰晴不定、

未剋參大納言殿申奉雜事、中將還昇事可奏之由被仰、

仍參大殿、付高佐申之、被仰云、尤可然、早可奏、又申

上大歌別當可被補之由、本所申請之、同早可奏之由被

仰、仍參內、付藏人定正奏聞、仰云、兼雅朝臣還昇事早

可仰者、大歌別當事誰人可補哉之由、可申大殿者、仍

又參彼殿申此旨、令申給云、大納言忠、第一、可為別當、以

此旨奏聞、仰云、早其定可仰下者、中將還昇事、令藏人

定正仰出納了、小舍人行向彼策、大納言殿被仰云、不

給祿、頗有不請之氣、此事先日被尋仰予、予還昇之時

不給之由申、仍令存其旨給歟、大歌別當事向內府第仰

下之、乘燭以後歸蓬、

十二日庚辰 天晴、

今日小童十三歲、法橋可出家、仍申終相具參仁和寺宮、寺

御日沒之程有召、仍參御經藏、宮出給、予候御前、小童

參上、役僧持來手洗水瓶、脇足上置湯帷、祖設之兼送法橋

之、兼送次氏明神已下午居拜、次髮左右結分、法橋練覺登

禮盤為戒師、阿闍梨寬顯為唄師、常陸公覺照、越後君

長遠取指燭、刺力手祐緣也、先刺右方、次左刺了、於閉所

改法師裝束、色、鈍、不着袈裟參上、居力各禮盤左方、次戒師授

袈裟、次戒師以下退出、先是宮被擇仰名字寬性云々、

乘燭退出、沙彌退出、禪公留本寺、練覺所相具也、予今

日着直衣、共人三人、前內藏助實輔、禪口、惟頼、惟季、帶胡袋、

十三日 天晴、

未剋參內、左中辨親範朝臣云、伯耆國五節童御覽之間、無可扶持之殿上人、內々伺天氣哉者此旨付藏人賴保奏聞、仰云、可申前關白者、彼殿付長定申之、令申給云、先々如此申之時、其日參入殿上人々中隨仰付童女

先例也、以此旨可奏者、歸參、付非藏人尹明奏聞、聞食了、其時可有沙汰者、此旨示左中丞了、乘燭以後退出、今日被始公卿敕使神寶事、藏人治部大輔行隆、左衛門尉賴保、延出納三善仲政、二藏、小舍人矢田部則弘云々、左近府爲行事所、陰陽頭加茂在憲朝臣<sub>衣</sub>、於藏人所勸

申日時、敕使權大納言<sub>光</sub>、可被奉云々、十四日 天晴、

未剋參內、今日右大臣着陣云々、近衛東洞院<sub>陣</sub>、立暢門、爲陽明門代、及入晚猶不被參、仍不見次第、左大辨參陣云々、被退出之後、新大納言<sub>公</sub>着陣、二品之後也、右少辨長方申文云々、黃昏參大納言<sub>通</sub>殿<sub>花山</sub>、夕方中將<sub>忠雅息繁雅也</sub>可申慶也、乘燭已後被參內、當府隨身五人來、一人賜

祿返還本府、下家司取之、四人在共、狩胡籙<sub>子借</sub>、盡脛巾也、隨身等私裝束來也、於門外駕車、左兵衛尉政清在共、先參內、次大殿、次關白殿右府<sub>依方</sub>、次中宮云々、亞相殿被出之後予歸宅、

十六日甲申

未剋參內、童御覽日可參公卿等重申驚、仰云、前々人數何人許參事哉之由、可申前關白者、次參彼殿、付高佐申仰之旨、御返事云、三四人參候歟、多時不過四五人候者、此旨奏聞、無左右仰、晚頭退出、

十八日丙戌 天陰、

午剋參內、以藏人賴保被仰云、童御覽日相當美福門院周忌正日、御覽有無如何之由、可觸前關白者、參彼殿、付伊與守邦綱申仰旨、御返事云、兼日尤沙汰可候<sub>計留</sub>事<sub>爾古</sub>、候<sub>禮奈</sub>、姬宮被准母儀、以其方思食者、尤其沙汰可候、且可被准例<sub>計</sub>候<sub>計</sub>、被尋天可被許行候歟者、此旨參御前奏聞、先是令淡路守宗盛被仰云、職事皆直參御前可奏申者、仍所咫尺龍顏也、凡職事者可近習也、而近

代全不然、今被復舊儀歟、日來參御前職事頭辨雅賴朝臣、藏人治部大輔行隆等也、予、藏人右少辨長方、宮内大輔重方等、疎遠之人也、敕定、早々問例者、召遣大外記師元、晚頭參上、問准據例、申云、

五節無童御覽例、

康平七年十一月十六日、五節參内、十八日、無童御

覽并殿上召物、依去九日民部卿長家卿蒞也、

應德元年十一月十七日、五節參内、十九日無童御

覽、依去九月二日中宮賀子御事也、

寬治三年十一月十一日、五節參内、無童御覽并殿上

召物、依去九月廿八日右大臣室源隆子事也、

同年十一月十五日、五節參内、十七日、無童御覽、依

右大臣病也、

永長元年十一月十五日、五節參内、十七日、無童御

覽并殿上召物、依去八月七日郁芳門院御事也、

承德元年十一月十五日、五節參入、十七日、無童御

覽、依郁芳門院御事也、但有帳臺御出、

此例等全不相叶、長家卿帝外叔父也、六條右府此又外舅也、堀川院母儀雖爲京極大殿猶子、已是難避事也、賢子中宮當時后也、又以勿論、郁芳門院被准母儀、其條不相似此旨間、外記申云、六條右府者雖外舅、被用京極殿之時可輕也、姬宮爲母儀、然者美福門院爲祖母、尤可被避也者、予又問云、姬宮被准母儀者非昨今事、女院御平生之時儀也、然而養祖母無御錫紵之由、法家勘申、仍去年不被行其儀、又五十日之中今年正月節會不被止舞樂、而今至于周闕被憚其事如仰、阿方先輕後重例可勘申歟者、師元答云、於其例者不分明者、以此例奏聞、仰云、以此旨可觸前關白者、參彼殿、付高佐進覽、御返事云、以此例可被問人々者、奏此旨、仰云、早可問、且又可被問誰候哉、申云、太政之於止々、内之於止々、入道太政之於止々、入道右之於止々、藤大納言先例被問候也、仰云、藤大納言止々被問候、而伊勢敕使事内々奉候如何、仰云、可然者、次參大納言殿、次向内府亭、被申旨等在明日記、

十九日丁亥 天晴、

辰刻向太政大臣亭、九條顯川堂、於九體堂兼攝御前被謁也、行違申入、歸來引算、相國、以法師號左衛門房、着白水干袴在御前、相招着生小直衣被導了、申五節童御覽有無事可被計申之由、細見昨、被申云、五十日中節會音樂不被止、周忌御正日不可重於被歟、任例可被行歟、

內々被談事、

本自尤可被重行事也、自襁褓中令奉養育御姬宮母儀之條者、彼院令申置御事也、帝王養母之儀者、始自延喜事也、所謂穩子九條殿女也、貴爲皇太后、寬平法皇令申無先例不可然之由給、然而是不可依例、令存母儀給之由被仰云々、姬宮可有院號、而非后宮之院號無先例、可計申之由、先日被問仰、申云、先女院號者、始自東三條院、院號貴於后者將賤歟之由、可被問法家、小一條院者東東宮也、而院號之後可爲三宮下之由被宣下、太上天皇者別事也、只院號者更不可貴於后位事也、但自內親王院號無先例、又被准母儀不奉尊號之例、○有服文歟、又雖兩條無例者、孝者爲先重、

尤可有院號之由申了者、今度除目少々有偏頗之由我申旨、世間披露云々、申四位侍從事風聞歟、四位侍從者可任中將之人、可任中辨之人、可敝三位之人也、仍先例皆任人爲華族、未聞如俊光之窮者任之例、此旨內々申之風聞歟、近日無天下之樣承如何、宰相昇進事、於親隆卿爲坊官、可然、隆季卿何故候哉、無指奉公家富優息昇崇班、淺穢キ事也、頭中將頭辨辛苦煩亂奉公、不被採用不可說事也、上古未有如此事、信濃國申任小男依有惡濟物臨時役一事不被對捍、又未申異様、其故、近代國司申異損不免國申免公物私用、故六條修理大夫被申計留不可異損國亡之時者、可減私物、被勞國申請公物私用必有報答、有大事病患自然滅亡也、我存此旨、有事次之時可披露也、信乃國重任功申請官文殿、件事申付頭辨之處、被勘功程之由返答、道內々尋官之處、全無其沙汰之由申也、仍以此旨內々申入、仰云、雅賴虛言、申不及云々、君令知食虛言之人歟、申文欲付汝者、

信濃國濟禱祭用途、而拂底窮濟了、稱相嘗料暮後年分  
譴責、此事不可說事也、禊祭者用途過分事也、仍長官  
以後餘分渡祭、猶以未濟國分當相用途、是定例也、而  
不知故實之長官暮後年分、然者任終年如何、此旨或人  
問云、知受領之濟例人也者、是依受領非知此事、有世  
間此程事何不存知乎、

次向入道太相國亭、八條堂兼小殿、以下皆攝守政違申入、依不被  
耳下、高聲、被申云、此臨時之興宴之樣事也、已相當御正  
奉之通聞、足立、乘被坐盤上、申事等、耳不通、仍政違寄  
日被停止可宜、又中院行幸無時多、有時少、共被停止  
可宜歟、

次向入道右大臣亭、中院、源中納言、定房被相逢、被申云、去正月不被止  
音樂、有童御覽、首尾相叶、被行尤可宜、但此事臨時興  
宴也、有思食事止天被止、無難申人歟、但於中院行幸  
者為神事、可候近衛歌千歲、頗其後雖似向背、至于被  
止件事之儀餘儀候歟、中御門、停否之間可有敕定事歟、  
內大臣亭去夜參向、當小踏、被申云、先々於事輕儀事者  
不知給、於今度尤可被停止事也、御覽者自天曆御宇

被始事也、召於在五節所之童御覽、仰云、無由方遠思  
鶴、此事後代其例止成奈、次止候計り、然者是臨時興遊也、被  
止何事之有哉、至于中院行幸者為神事、可候歟、

大納言殿去夜同所參也、令申給旨同太相國、但至于中  
院行幸猶可被止、童御覽者內心思食儀也、然者爭有  
神事行幸哉也、此旨等參內奏聞、仰云、可被觸前關白、忠通  
參彼殿、付資能申入、御返事云、正月音樂不被止、今更  
被止、此事首尾不相叶之體候歟、猶御覽可候歟者、次  
歸參奏聞、仰云、中院行幸停止何也、爾曾思食鶴爾、猶被行  
實可吉、又奏云、上達部誰々可召哉、仰云、去年定ニテ

有南書御教書遣人々許、次參關白殿申此次第、退出、  
戊剋着闕腋參內、今夜遷幸大內也、藏人宮內大輔重方  
申沙汰、亥剋出御西門、上東門大路西行、宮城東大路  
南行、入陽明、建春、日華門、次第如恒、

廿日戊子 天陰、

午剋參內、去夜治部卿光隆卿示予云、女御殿瀧醉可候  
歟者、予答云、可隨本所仰也者、治部卿云、猶内々取御

氣色可吉者、仍內々付女房奏聞、仰云、先々何様事哉之由可尋前關白殿、仍參彼殿、令季長申此旨、御返事云、此事非知食事、本所致用意事也、仍非可計申者、此旨奏聞、次於上御壺禰覽五節殿上人散狀、返給、次淵辭事伺御氣色仰云、凡此事可有事歟、予暫不可申左右、又仰云、無止<sub>三</sub>有南物乎、取折紙予退歸、大理依召被參御前、予招五節預藏人、問每事具否、申無懈怠之由、重可催行之由仰舍、晚頭退出、

廿一日己丑 天晴、

自田原供御所持甘栗三十籠、是舞人忠節沙汰獻之、多庄上云々、

今日五節舞姬參內、源中納言(定房)、攝中納言(顯時)、攝津守(泰經)、伯耆守(基親)等也、但伯耆外密々參、戌剋參內、仰預藏人遣催也、五節亥剋參朔平門云々、仍予頭辨相共向玄障門、次第見去年記、右中將實宗朝臣、左中將兼雅朝臣、左少將公房、右少將泰通相從予後、殊芳意也、參入次第、先童女二人、次女房六人、次下仕二人、次姬宮參入了、經后町廊參御殿、令藏人頼

保申事由、頭之出御、關白、出遣打右大臣、其房、被出右大將、兼實被中宮權大夫、實長、不別當、清盛、左衛門督、公不出、出遣打、予、頭辨在御後、入大師局、關白同被參入、右府以下被候馬道、上臈少々猶可被參入歟、次舞姬參入帳臺、源中納言舞姬經南壇上、入馬道南戶、入帳臺、權中納言舞姬自帳臺南中戶直參入、攝津又入坤中戶、伯耆經北壇上、入馬道北戶、入帳臺、此事不似例年、下臈五節所者自西遣戶先々所出也、事了舞姬自上臈退下、次還御之後退出、于時丑剋、

廿二日庚寅 天晴、夕陰、

未剋參內、薄色白色白單、出御厚衣、申剋殿上事始、盃醉五獻、三獻藏人宮內大輔重方朝預賴保饗應太猛、事了廻五節所、其儀具見去年記、乘燭之程退出、着束帶參內、今夜御前試也、亥終剋舞姬昇、次第且又見去年記、頭辨仰御歌可返之由、內待不鳴扇如何、予問名調、事了撤御裝束、依仰召殿上人於孫庇朗詠今様亂舞、次獻櫛、予不獻、事了丑剋退出、頭辨不候此座、近日天氣不快



云々、

今日美福門院周忌御法事於押小路殿白被行云々、

廿三日辛卯 天晴、

午剋參内、未剋始殿上事、今日預藏人不參殿上、仍二

薦時盛頗有響應、凡二龍響應者非流例事也、然而件藏

人殊來觸、又申可然殿上人等云々、依可有童女御覽、

每事省略、盃酌三獻已也、二獻右衛門權佐光方朗詠、

三獻右中將實宗朝臣今様、事了廻五節所、經承香殿參

御殿、令藏人令催童女、權中納言童一人遲參、仍日沒

之間參上、關白令出裏渡紅梅厚衣給、合候實長籠中給、大殿若公忠通阿、同被

候、右大將被出紅梅薄衣、中宮權大夫被出裏款冬被候孫

庇、右大臣其房被出紫薄衣追被參加、別當今日不被參、左衛門督公光

又依所勞不參、次權中納言童女參上、藏人右少辨長

方、出裏款冬厚衣右衛門權佐光方扶持之、藏人時盛定正相副

下任、次伯耆童女參上、先日申無可付之人之由、仍今

日參入人書立奏聞、仰云、顯信兵部少輔師廣前彈正少輔、可付者、

仍令藏人仰其旨、件兩人扶持童、藏人信季通定付下

仕、已上列居之後、右府、○說此後逐電退出、

今夜可有中院行幸、仍着束帶歸參内、小忌上卿等申

障、仍權中納言顯時、獻五箇人也道催、是藏人大進重方奉行也、

戌終剋參入、次出御、宰相中將實國爲小忌不前行、副

御輿、幸神嘉殿、宰相中將取劔授内侍、予供御草鞋、取

璽篔又授内侍、予藏人賴保奉仕御湯殿、次第注別紙、

依近代例御湯一度供之、又不令改齋服給、但去年令改

御、今度被問、予申近代例、有御詣、女官等誤昇入御辛

積於神殿云々、不可說事也、予候御湯殿、行事藏人辨

重方於彼邊可致沙汰也、太不便事也、左款右少將公房、右

少將通能朝臣褻神殿曉、然間大外記師元自通能傍走

入神殿云々、此事如何、關白猶不入、攝政得入、未聞大

外記參入儀、定有先例歟、可尋、今夜供脇御膳、依仰所

止也、但於御手水者兩度召之、事了還御、予於中和門

外間大忌公卿、其儀、於件列前暫留御輿、予伏弓頗進

問云、誰々、公卿名謁、光忠顯長、資長等也、實長卿還御之時不候、一兩聲之間御

輿令過給、不被唱了、故實云々、令過近衛帳前給之間、

官人等副御與歌千歲、至于月花門下御之後、予稱響蹕、宰相中將取劔璽、左少將公房開公卿、予爲奉行御後事早廻之故、示付公房也、還御本殿之後曉天退出、具事見去年記了、主殿司指燭在南殿東北階之間、有自後押頸程者、仍絕入、引入脂燭於懷中之間、腕及衣袖少々燒蘇生云々、有恐々々、

廿四日壬辰 天晴、

秉燭以後着私小忌參內、亥剋公卿參集、右大臣、大納言忠雅、雅通、公通、中納言實長、定房、參議光忠、實長、小忌公卿顯時不參、宰相實國參、頭辨奉博陸仰、出仗座、與、仰一上事可被奉行之由於右府、關白爲左大臣、仍令議、申一上於彼右府給也、此事非奏事之由、頭辨示予、可尋、今夜內辨右府始奉仕、南殿有出御、於御膳事與養重方、召大歌別當事宰相中將實國、小、其作法、下簀子、入南庇東西間、并母屋東、立內辨巽方、奉仰左廻、經本路下東階、令陣官人申大歌別當召之由、忠雅、歸昇立東第二間簀子、西向左願、一、着本座、此間大歌別當忠雅、昇東階着座、御酒敕使左大辨資長、宣命使藤宰相光忠、見參左大辨資長給之、願カ小忌臺盤立

東第二間、仍無下立儀、舞姬立次第有違亂、入御已前內辨退下、被向祿所、仍下部存入御之由昇殿、仍令追却之、此間還御、關白退出給、予候御簾、入御之後退出、

後日亞相殿被仰云、件作法我所教訓也、爲參議之時所用之作法如此、又說、奉內辨仰右廻立南簀子、左願之後下東階、申大歌別當召之由、歸着本座、次大歌別當昇東階、此儀非也、被召之人不參之前、使參上無理、又說、立軒廊待大歌別當、爲先彼人後昇殿、又良久相待無理、先下傳告召之由、歸昇立簀子、左願歸着之間、大歌別當自東階昇之時行過也、是善說也、立簀子左願者召儀也云々、

頭辨談云、外記廳後有足跡、其體鋒如率都婆、指有七寸、傍方行三行四至于上官床子邊步歸、此事去中句事云々、

廿六日甲子 天晴、今夜自大內還幸高倉殿、出御之間關白殿不令參給、仍予取御襪、然而博陸於弓場令申三

品慶給、大殿姪公爲關白殿猶子可有入、入明義門、令參會南殿

內、仍今夜被敘三品、件殿也。

御後、仍予奉授御裾於博陸、次第如恒、出御日花宣陽

建春陽明門等、入御高倉殿西門、入御之後退出、

行幸以前於東三條有入內定云々、

有三品宣下事云々、頭辨奉仰大納言殿、御名育子云

云、頭辨又爲敕使參彼殿、後日頭辨談云、先欲宣下敝

位事之間、先參東三條奉御名、歸參可被下之由、左少

辨俊經示送、仍參彼殿、御名評定之間良久、仍敕使可

參之由有議、仍頭辨依召着座、關白殿令出居給、敕使

座東對孫庇南階東間南北妻敷高麗帖一枚、其上敷茵、

殿下御座階西間敷圓座、敕使着座、無申詞、賜女房裝

束、下中門廊南方、頗進出西方二拜云々、其後歸參內、

於仗座宣下敝位於大納言殿云々、次第前後不相叶、然

而行幸已成之間有此儀云々、

廿七日乙未 雨下、

晚頭參內、奏信季定正上日事、任上日定正可爲上臈之

由有仰、仍其旨仰一臈判官賴保了、

廿八日丙申 雨下、

未剋參內奏文書、晚頭退出、裏書了、

廿九日

今夜被行解官云々、

右馬頭兼因幡守信隆、

右中將成親、

右少將兼能登守實家、

美濃守兼主水正基仲、

飛驒守爲行、

內匠頭範忠、

上卿中宮權大夫實長卿、頭辨、

本云、本一條中納言實秋卿也。

應永廿五年五月廿九日書寫了、

從四位上行左近衛中將兼參河權介藤原朝臣定親(朝)、

永享三年二月十八日以左相公羽林定親卿本書寫了、未校也、

左近衛權中將從四位下藤原朝臣隆遠(判)、

同六年九七一見了、

頭右大丞(忠長)(判)、

右山槐記、(應保元十一月)以警尾權大納言(隆遠卿)自筆寫

令書寫了、尤可詠矣、同日一校、

寛政八年六月廿八日

散位正二位 藤(衞)押

# 應保元年

十二月

一日己亥 午刻參內奏文書、內侍所御神樂可爲來七日旨奏聞、但來五日公卿敕使可進發、參宮間每夜可有

御拜、其間雖神事不可有他事歟之由、內々尋外記、爲

同伊勢事不可禱之由、師元所答也、此旨粗奏聞、仰云、

且可觸合前關白力此旨參彼殿申達、被仰云、打思

爲同神問歟禱歟、但有例哉之由可尋歟者、仍

且問歟行事藏人信季了、

二日庚子

三日辛丑

天晴、未刻參內、內侍所御神樂召人通家朝

臣有房中所勞、仍奏聞、仰云、可召誰人哉之由可問歟前

關白、即參彼殿、付伊賀守長定申之、御口事云、定能公

房泰通之間可被召歟、其旨奏問歟曰、早可催伴輩

者、晚頭參內、大納言殿、申承問歟退出、

藏人問歟隆云、太神宮權禰宜四日公卿敕使以後九

十八人加增。五日敕使祿之間相違出來、仍祿可給  
哉否事。人々云々、一代一度一神社司給一階、

而去六日任申請賜爵級了、其時無沙汰、今被召交名之  
時、依加增此沙汰出來、太不便事也、禰宜補事祭主任

意之間如此云々、抑又件祿敕使私乞請受領、而近代難  
叶之間、付行事所催給諸國、已爲流例歟、

四日壬寅 天晴、黃昏參御堂、瀧口二瀧重、先是內  
大納言殿、藤宰相、新藤宰相、參候、朝

座始之後參候、殿上人重家朝臣位階、大輔  
賴輔朝臣、民部少輔顯信、前彈正少弼、

下不參給、明日公卿敕使可進發、仍今日  
行事兵部權少輔光長、阿波權守俊成、公卿座前指口民

部大夫盛周持參、大納言令追返、藏人五位可俊也、  
召行事、俊成參上、被仰朝座可始之由、次朝座了

次始夕座、次行香、賴輔朝臣以上列之、次例時、  
殿令退出給、予同退出、講師布施殿上人

取之、其間事、深更參內宿侍、明日公卿敕使神

寶御覽、可爲早方速、仍所參宿也、

五日癸卯 卯剋昇殿、去夜所宿今日公卿敕使進  
發日也、行事藏人治部大輔行隆、左衛門少尉藤原賴

保、一藤延遣催神寶於行事所、左近出納三善仲政、小舍人  
矢田部則弘、布相具神寶參入、掃部寮敷葉薦於西對東

砌、高倉殿籠籠昇立神寶、次藏人大輔以下六位藏人等昇  
居神寶於石灰壇間、五位藏人達參、仍且如此今昇居

也、內藏寮官人又遲參、仍行事小舍人及御細工成親等  
籠了、置神寶次第見去四月記歟、抑今官

也、錦一段唐綾一段、宣命

○此間數行缺

歟、後間、自三條持向祓戸云々、違失歟、次  
二人、次一家人々十二人、右中辨朝方朝臣、束帶、今藏

房、束帶、此人輕服日數、仍藏人宮內權大輔重方、  
權佐光方、冠、衣長門守親隆、冠、衣兵部權大輔光定、

右

同、  
盛隆、同、越中守光雅、同、次敕使衣冠、無袖、  
不出衣、  
着半靴、  
辨成賴朝臣、布衣、次衛府上日輩十餘輩

又無如中侍、成賴朝臣、光定、光雅許下向云々、

未始剋進發了、  
勢多驛家、今夜可着甲賀云々、

參宮來九日云々、  
參內、出南庭有御拜、予候御

裾、獻御笏并御草鞋、右少將通能朝臣御劔、侍臣候脂

燭、

自大行方臣殿有召、參、令伊賀守邦綱朝臣被仰云、入內御

衾覆人被撰無憚之人事也、相計可被仰歟之由可奏

聞者、可申前關白也者、又歸參申此旨、御返事云、廻思

慮、凡可然人不候、猶忠親內々相尋可申之由可奏也、

又歸參奏聞、仰云、早可尋、又大殿仰云、入內御所事被

仰付頭辨、而天氣不快不參御前云々、此事爲吉

事頗不快、此天也者、申承了之由、藏人通定兼

申藏人方致沙汰事、御籠云々、深更退出、至

不休、

六日甲辰 雨下、午後降止不定、昨日參關白、申內侍

所御神樂事、次參大納言殿、申承雜事、公卿敕使頗存  
簡略、  
問申云、拍挾者可依帶劔歟、御答云、雖不帶  
劔之人結、  
相挾常事也、

大殿、付邦綱申御衾覆人事、大臣以下多有憚、

中宮權大夫實長、源中納言定房、宰相中將實此三

人無憚之人也、實長卿者有當月姪者、中納言定房宰

相中將室爲輕服之內、  
憚可候、右大將殿御子息

未出來給、然而無他人尤可然歟之由申入、此事去夜內

內可尋聞之由被仰、仍行方以々內緣各尋聞也、去夜大殿被

仰云、此事妻無障并子息不關之人所參也者、如此所尋

申也、御返事云、早可奏、可隨敕定也、次參內、經管御

興之間不得其便、事了深更出御拜御座、申此旨、仰、右

大將ニテモ有南、次奏曰、陪從盛清參詣能野、內侍所御

神樂可被召俊基歟之由、範基所申也、但又和琴彈盛綱

候、可隨仰者、仰云、盛綱可召歟、  
次第如去夜、

依雨止供御座於庭中、又如去夜、右  
朝臣候

御劔、入御之後參大殿、付邦綱朝臣  
事、

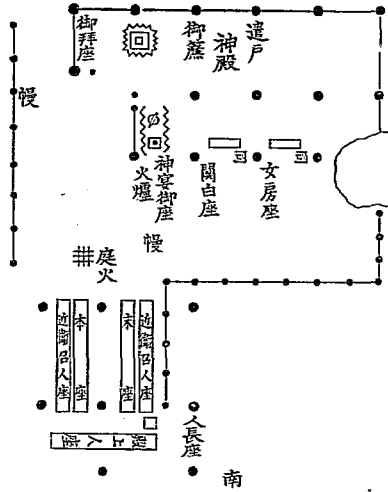
仰云、佐爾古奇、承御返事逐電退出、

七日乙巳 雨下、今日内侍所御神樂也、酉刻參内、行

事藏人 少尉平信季敷御神宴座、

高倉殿儀、

門東卯酉廊爲内侍所、



口兩儀敷座出車宿屋内、戌刻出御、公卿敷使御拜御座、  
依雨儀准 供御草鞋御笏、候御裾、右少將定

能取御劔前行、内侍所先御拜、予獻御笏、御

拜了賜御笏、次御神樂口予着殿上人座、依所狹及末

座、然而依御所予着末座、次殿上人座 實宗朝臣、

右少將通能朝臣、右中將兼雅朝臣、定能、公房、彈

正弼師廣、陪從範基、成綱、信綱、源惟盛、藤賴業、盛

綱、人長兼成着座、次一獻予、頭辨勸本座末、所雜色瓶

子、二獻太宰大貳成憲朝臣、參川守定隆朝臣、瓶子所

衆、可有三獻、然而殿上人不着座、相催之間太遲々、夜

深雨下、頗無心、先例又相具韓神度三獻常事也、仍止

三獻了、次人長作法、笛惟盛、篳篥和琴範基、本歌師

廣、末歌信綱、已上所作了、召人等着座、次近衛召人着

座、拍子師廣信綱取之、勸盃、勘解由次官經房、

中務大輔長重、次人長立召予、次召頭

辨、次召實宗、信綱、盛綱、次前帳早歌

了、予仰星、師廣、其駒、人長入了、歌未

了、予取祿給範基、依彈、琴着座上之故也、予以下

略取之、人長入之間内藏官人給腰差、又同官人給近衛

召人、祿事了還御、右中〔取御劔前行、入御之後退出、

八日丙午 天晴、午時有產事、生男子、無其程醫師

〔不來過、只令閑梨一人暫加持、在月迫之由

〕忽又未渡物氣、纔所修誦經七八

予有申沙汰事等、仍獻息口給祿、被物一重、右、亮宗親參、同

給之、重長來、同給祿了、閑梨祿女房衣三領予取之授、

又令侍送牛於本房、依日次不宜明可獻勸文之由、在憲

所申也、

九日丁未 天晴、今日關白殿春日詣、初未明出御、但

於八條邊令相待供奉之人給云々、予爲見物向九條口

邊、供奉之人多遲參、太輕忽也、御車檳榔、御前

中辨親範朝臣、少納言重雅、大夫史永業、外記

也、無後驕、次右大將、次別當、藤宰相、光

自餘猶遲參、追被參云々、予見物之

言殿、申承產之間雜事、次歸三條西

參內宿侍、春日詣之間爲留守也、口事予、藏人治部大

輔行隆、近衛同右中將實宗朝臣、右少將通能等也、

十日戊申 天晴、已刻昇殿、今夜有御遊、笛宰相中將、

實宗、重家朝臣、筆兵部丞惟盛、琵琶民部丞有保

也、被仰云、相其實宗兼雅等可參者、仍參上御贊

子口和琴、歌、兼雅等、主上令彈琵琶御、半夜

入御、退出宿花山院、

十一日己酉 天晴、今日未刻小兒湯始、下家司着衣

冠、相具仕丁二人、一人持厚角口、汲庚方流水、大宮川傍

有出水、汲件尻、讀書造酒正中原祐定、助教類聚可用紀

傳人、然而其人邦光有障、仍用祐安、且大納言殿御子

息、被用經家云々、仍追彼例、鳴絃右衛門尉滿清、近士

敦景、中宮長隆仲等也、六人可列、然而其人等有障、

仍三人列之、皆衣冠、讀書人立砌下、鳴

讀孝經、予行向尋沙汰次第歸、宿花山院、飛

香舍可爲三品御所、件修理

學寮募播磨國納物功、由寮又申云、於年

新米者非免除之限、此間申之山被口理非也、爲急事先



濟之間遣仰了、

十二日庚戌 天晴、申剗參大殿、以季長申來十六日可

有行 [ ] 之由、密々令渡飛香舍給、御覽二品御所之

體云々、口被仰置女房云々、人若有申事者、密々向九

條之由可口云々、口之間敕使 [ ] 可催誰人哉由、以伊

豫守邦綱朝臣申入、回不承御返事 [ ] 間可申也、次

參內、召納殿藏人頼保一尋入內之間御裝束、先入內夜

御直衣御張袴等着御有之由尋內侍歸參、然而白御衣

二單紅打御衣事被仰遣內藏介之許了、頼保以消息示

也、御冠可用臨時祭日、御草鞋可獻調、柳宮相設可授、

御草鞋可持向大將宿所之由同仰了、

御使內侍事、内々令藏人相尋女房、答云、職事可申定

歟、又答云、無障之人難知、相計可隨天氣之由示了、

御書薄樣事、紅無薄也、而永久度下繪 [ ] 樣覺

悟之由、太政大臣伊被申大納言殿云々、仍保 [ ] 東

宮度、任彼例薄衣、紅ノ方爾以黃泥被畫 [ ] 猶

此事有不審、可尋、始渡御三品御方日御裝束 [ ] 所御直

衣紐打白御

袴御草鞋、先日自納殿下行糸於織手了、 [ ] 渡御

服所也、 [ ] 事可尋沙汰之由、示付藏人治部大輔行隆了、藏

人頼藏分配也、而入內御所事奉行之間無他事之 [ ]

混合奉行 [ ] 之由申、仍定正可奉行之由仰了、大

內行幸事、於大內奉仕御裝束、可請取御物事示付定

正、自此殿渡御物并藏人方雜事示付信季了、

十三日辛亥 天晴、未剗參大殿、令邦綱朝臣申定入內

敕使事、仰云、入內日可爲左中將兼雅朝臣始渡御日可

爲予、永久故殿爲四位少將入內日敕使令勤給、露顯前

太相國爲頭中將勤仕之故歟、又被仰云、扈從公卿殿上

人可催給之由等可奏聞者、以高佐申事、大納言殿口給

粟津御厨領也、訴申、公卿敕使勢多檢非違使資良打破

供御人首、仰使 [ ] 沙汰事也、仰云、早可

奏者、

次參內奏聞條々、公卿殿上人早可催敕使 [ ]

粟津訴事早可遣仰別當之許、書消息遣仰別而 [ ] 入

內御事和歌誰人可讀哉、予不申左右、仰云、曰、東宮之時經宗卿可讀也、予奏曰、御歌可宜、

歸三條、明日小兒七夜事爲尋沙汰也、酉刻右大臣參陣、被定荷前、使并公卿分配、公卿敕使歸參候殿上端座、藏人治部大輔行隆奏聞之、

十四日壬子 天晴、一龍判官賴保來、產今日滿七箇日、

仍猶不昇堂上立地下、予相逢、賴保云、入內御衾事爲申子細、今朝罷向內藏頭之許、不可闕之由被申者、內藏寮御衾事、先日爲頭辨奉行被下知之、紅打面葵綾裏單文長九尺八幅只一領也、以此旨致沙汰云々、而昨日自御服所申不審之由之時予始聞之、本奉行頭辨也、予去六日可奉行之由、大殿下仰、其後每事只催尋不可懈怠之由、今如此有違失、尤以不便、予所存長九、縫合天、二重天、上差上、一、差也、然者、已過半減、仍今更致沙汰也、且御、至于今雖織出御、間難叶、相構可被沙

山槐記 應保元年十二月

汰之由、示送<sup>舒力</sup>曰內藏介之許、有承口也、先度不知先例之由、申御服所、又織手支度、云々、其准相叶云々、案不可異儀哉、抑縮可入、由、自御服所尋申、此事有兩說、共不可、之由答了、猶可承

一決之由重申、答云、如形被<sup>白衣</sup>事之口哉者、小兒沐浴了、給祿<sup>一重</sup>於讀書人、<sup>造酒正</sup>內藏助宗輔著衣冠取之、

今夜七夜也、聊儲盃雀、其儀、寢殿出几帳帷、同東面三箇間并南一間卷御簾、西障子并北妻戶懸御簾、副立四尺屏風、北第一間副屏風敷高麗帖一枚、其上敷東京齋、爲大納言殿御座、無對座敷、南二箇間頗立屏風、敷高麗帖、爲大納言殿、息所、其東三箇間出白几帳帷、<sup>於此處蓬簾</sup>東西立白燈臺、<sup>在打</sup>中門廊車寄戶北、紫帖二枚爲役諸大夫座、其北方立燈臺、子上又立燈臺一本、<sup>無打</sup>二棟廊東西置懷紙等、<sup>面力</sup>車宿口間引幔爲經所、申不立遣西面車宿、乘燭之、客饗、<sup>大納言御料高杯十二本、無打敷例也、殿上人料各三本、冷汗兼出加之盃酌之後</sup>

濟之間遣仰了、

十二日庚戌 天晴、申剋參大殿、以季長申來十六日可

有行 [ ] 之由、密々令渡飛香舍給、御覽二品御所之

體云々、口被仰置女房云々、人若有申事者、密々向九

條之由可云々、口之間敕使 [ ] 可催誰人哉由、以伊

豫守邦綱朝臣申入、同不承御返事 [ ] 間可申也、次

參内、召納殿藏人頼保一尋入内之間御裝束、先入内夜

御直衣御張袴等着御有之由尋内侍歸參、然而白御衣

二單紅打御衣事被仰遣内藏介之許了、頼保以消息示

也、御冠可用臨時祭日、御草鞋可獻調、柳筥相設可授、

御草鞋可持向右大將宿所之由同仰了、

御使内侍事、内々令藏人相尋女房、答云、職事可申定

歟、又答云、無障之人難知、相計可隨天氣之由示了、

御書薄樣事、紅無薄也、而永久度下繪 [ ] 樣覺

悟之由太政大臣伊、被申大納言殿云々、仍保 [ ] 東

宮度、任彼例薄衣、紅、方爾以黃泥被書 [ ] 猶

此事有不審、可尋、始渡御三品御方日御裝束 [ ] 所御直

衣 [ ] 張御、事、先日自納殿下行糸於織手了、 [ ] 渡御

袴御草鞋、服所也、

[ ] 事可尋沙汰之由、示付藏人治部大輔行隆了、藏

人藏分配也、而入内御所事奉行之間無他事之 [ ]

[ ] 混合奉行 [ ] 之由申、仍定正可奉行之由仰了、大

内行幸事、於大内奉仕御裝束、可請取御物事示付定

正、自此殿渡御物并藏人方雜事示付信季了、

十三日辛亥 天晴、未刻參大殿、令邦綱朝臣申定入内

敕使事、仰云、入内日可爲左中將兼雅朝臣、始渡御日可

爲予、永久故殿爲四位少將入内日敕使令勤給、露顯前

太相國爲頭中將勤仕之故歟、又被仰云、扈從公卿殿上

人可催給之由等可奏聞者、以高佐申事、大納言殿口給

粟津御厨被殿御領也、訴申、公卿敕使勢多檢非違使資良打破

供御人首、仰使 [ ] 沙汰事也、仰云、早可

奏者、

次參内奏聞條々、公卿殿上人早可催敕使 [ ]

粟津訴事、早可遣仰別當之許、書消息遣仰別而 [ ] 入

內御事和歌誰人可讀哉、予不申左右、仰云、曰  
東宮之時經宗卿可讀也、予奏曰、御歌可宜  
歟、

歸三條、明日小兒七夜事爲尋沙汰也、酉刻右大臣參陣、被定荷前使并公卿分配、公卿敕使言新大納歸參候殿上端座、藏人治部大輔行隆奏聞之、

十四日壬子 天晴、一龍判官賴保來、產今日滿七箇日、

仍猶不昇堂上立地下、予相逢、賴保云、入內御衾事爲申子細、今朝能向內藏頭之許、不可闕之由被申者、內藏寮御衾事、先日爲頭辨奉行被下知之、紅打面葵綾裏單文長九尺八幅只一領也、以此旨致沙汰云々、而昨日自御服所申不審之由之時予始聞之、本奉行頭辨也、予去六日可奉行之由、大殿下仰、其後每事只催尋不可懈怠之由、今如此有違失、尤以不便、予

所存長九縫合天ニテ重天、上差テ上、

方ニ差也、然者、已過半減、仍今更致沙

汰者也、至于今雖織出御、間難叶、相構可被沙

汰之由、示送行方曰內藏介之許、有承口也、先度不知先例之由、申御服所、又織手支度、云々、其准相叶云々、案不可異儀哉、抑綿可入、由、自御服所

尋申、此事有兩說、共不可、之由答了、猶可承

一決之由重申、答云、如形被、事之口哉者、

小兒沐浴了、給祿白衣、造酒正、內藏助宗輔着衣冠取之、

今夜七夜也、聊儲盃雀、其儀、寢殿出几帳帷、同東面

三箇間并南一間卷御簾、西障子并北妻戶懸御簾、副立

四尺屏風、北第一間副屏風敷高麗帖一枚、其上敷東京

茵、爲大納言殿御座、無對座敷、南二箇間頗立屏風、敷

高麗帖、爲大納言殿、息所、其東三箇間出白几

帳帷、於此麻袋座、東西立白燈臺、在打中門

廊車寄戶北、紫帖一枚爲役諸大夫座、其北

方立燈臺、無打子上又立燈臺一本、二棟廊

東西置懷紙等、車宿口間引帳爲襪所、申不立遣西面

車宿、秉燭之、客襪、大納言御料高弁十二本、無打敷例也殿

上人料各二本、冷汗兼唐加之盃酌之後

可供、然而此  
事許存略、

〔〕寢并懷紙、居雜色所製、自大納

言姬〔〕令送細長給、入衣箱白二重、戊刻大納言殿直

代車、令渡給、予下立中門廊東庭、令給之間予奉居、

中將被口御共經二陣廊所令着座給、予、直并中將衣着

座、無便之故也、左京大夫顯廣朝臣、直勘解由次官經

房冠着與、次一獻、為賴持參盃、勘解由次官起座傳獻

大納言殿、次為賴取杓傳勘解由次官、取之奉勸、次二

獻、以明傳盃於勘解由、經房傳杓於勘解由、殿上人杓

清定取之、此間立明、官人六人、予為府年預、仍行事光

賢也、取松明立東南座、太遲々、客着座以前可列立也、

勘解由、殿上人、予口輔清定相分勸之、諸司官人役之、

次三獻〔〕盃於勘解由、杓定輔持參傳勘解、殿上

〔〕次署預粥役人同計、次置懷紙、大納言御

祈、為賴取出高坏、保盛取懷紙居高坏東方上、高坏居

傍、殿〔〕給、次五位等役之、副土高坏、大納言殿御

祈廿帖、白薄様五帖、〔〕祈十五帖、薄様三帖、各以

白平組結之、

〔〕由起座、進二棟廊籠下取劔、入給、獻大納

〔〕道中將進被取之、次大納言殿令出給、予御車籠之

由、於口駟、大納言殿被仰云、客出不可然、仍予下立砌

下、亞相於門外令駕御車給、今夜儀大概用天治例、大

納言殿御七夜故左大臣令渡給、依吉例追彼例也、其時

依為大臣敷御茵歟、然而又公卿座敷茵不可有其難、且

又奉饗之心太也事如存、幸甚々々、次為賴藏人也、為產

婦陪膳取打敷、次諸大夫役之、次敷圓座於南階間中

央、為賴着之、先是下家司大學屬國成冠、令出納立粥

棚、其上居粥桶加杓、黑器七口、次勘解由判官仲康、木

工允惟盛、所〔〕仰出納召之、予為

粥於黑器、次仲康咳聲、藏人頭、何所召也、為賴問之、其詞見故殿

〔〕度、每度如此、下家司取松明前行、予時小雲呈

〔〕事了各退出、撤粥棚、次送懷紙、入長檜、相副下

〔〕納進大納言殿、今日事利永朝臣着衣冠所行也、

十五日癸丑 陰晴不定、午刻參大殿、付高佐申事、

一、大僧都禪智申法勝寺執行事、

被仰云、人申事也、早可奏、

一、可尋遣經房之由所被仰下也之歟永久立后記申不候之由事、

被仰云、件文書光房朝臣存日借冷酒合稱力大櫃一カ合了、非可混合他書、猶相求可獻之由可仰也者、

次參內奏事、

一、禪智執行事、

仰、前關白可被計申之由可觸、

一、內藏寮申諸國未濟事、

仰同前、

一、納殿藏人賴保申犬頭糸盡了、所下雖有限、早速月七カ口

下頗有惡、仰付可獻五位職事可被救決、正日節口

會以後御裝束無其用途、仍所申請也、

仰同前、

口歸參大殿下付資能申救定趣事、

一、禪智申事被補何事之有哉、何者、可補と申事不候、

且御寺修理殊可致忠節之由申請之故也、且又可在

救定者、

一、內藏寮申請未濟國々事、可遣御教書也、

一、犬頭糸事早可被仰付五位藏人也、

次又歸參奏聞、

一、禪智事、

仰云、又無望申之人歟、予奏曰、不承及候、其後

一、內藏寮申未濟事、

依前關白事、

一、犬頭糸事、

仰長方、

刻參內、大納言殿密々相具中將爲令練習射場始

事合參向給、仍予所參會也、被仰云、鬼間格子

之時不下、依凶事被廢御殿之時下之由、所傳聞

也、相尋之處、下之、近代如此事不及沙汰歟、

又被仰云、外記門出立者、少納言當外記門南柱程立路

中央程、其北少辨中辨等列云々、次第南上東面列立、

其東折東外記史列立、次末座宰相出門、不揖、副築垣南行、當日上卿次人當門南築垣自北第二間右廻向北

立、下襲尻不引隨也、身許雖立歸尻猶在左前、其次人前人之南方二頗寄西方立、其體同前、如此鷹行者、人多之時至于左衛門陣南屏邊也、然者末座人計上臚人數立留也、如此立定後、上卿出外記門、向少納言辨等揖、有答揖、臣者不揖上官、只頗顧面、納言者頗顧

少揖之、公卿揖、公卿答揖、次最末人左廻向南所、又為上卿有揖之故也、又為次上於鷹行者不憚也、

上卿未參之間刻限至者、召仕於左衛門陣戶申時、仰、戶引々、仍開外記門、其後上卿參者、宰相起座下立、知戶引之由不着左衛門陣座、直入外記門、近代者以後上卿參入、召使申時也、

南所出立事者、以上臚為先、中辨列、經櫻樹西、出辻、經置路北、是九條殿御流所用之路也、櫛匣辻東口路也、他家雖辻西步路、上官者橫切北上列行、前駐

雜色經北櫻樹北、出陽明門、自北間雜人出之、自南間上卿以下退出、於南溜下立歸揖出、

上卿着左衛門陣者、宰相出外記門北辻、下尻參入、雜色留之、凡又自伴所不追前、

大臣者北座柱西、大中納言者柱東、宰相者雖東砌立沓脫下揖昇沓脫、脫沓入中間、自經後着南座柱東、與上卿對座也、公卿着左衛門陣座、着座大臣入建春門者、存不可有政、公卿引率參內、不着座大臣參入者不參內、是知之故也、大臣參內之時、過前之間參議平伏也、近

十六日甲寅 天晴、未刻參大殿、付伊豫守邦綱朝臣從公卿前趾殿上人散狀返給、次參內奏聞、返給、口領授左中辨俊經、依為殿下家司、奉行入內事之故也、朝臣召予、參進、仰云、入內御書簿樣者每度紅歎、皆紅候、又被仰云、下繪有無如何、予奏曰、永久度口侍候之由承候、然而無槩書物、只無薄之由所注也、仰云、口者可何樣哉、奏

繪有無如何、予奏曰、永久度口侍候之由承候、然而無槩書物、只無薄之由所注也、仰云、口者可何樣哉、奏

曰、舊記所見不候、何事之候哉、仰云無天有奉奉、

申刻、内大臣、大納言殿、新藤中納言、敬、中宮權大夫、

實權中納言、時藤宰相、光忠、新宰相、隆季、左大辨、資參、候仗

座、有院號定、人々一同定申可爲八條院之由、但隆季

卿定申云、若可爲門號者、藻壁門院可宜、左大辨申云

殿富門院可宜云々、藏人宮内權大輔重方奏聞、大殿仰

云、八條院可宜之由令申給、仍被用八條院、今日不被

補別當、公卿少々被參彼長頭參花山院改裝束、歸

參、今夜可有行幸于大内依入内之故也、戌終剋出御

西門、洞院東大路以行、上東長東門大路南行、入御

陽明門建春宣陽門、出建春門長予下日時於中

宮權大夫、右府遲參、仍先所下也、内侍所渡御、長藏

人右少辨長方奉行、次將右少將泰通、左不參云々、内

侍所長時在憲勘申、此文近例不被下云々、藏人所

尋沙汰也、長扇二枚調進、殿下依先日召也、

頭辨奉行、仍送長許、返事云、依服假不出仕、直可

送伊豫守邦綱朝臣之由被答、仍送彼人之許了、

口今夜於禁裏被始行御修法七壇、是明年正月朔日餽

御祈也、

十七日辛卯 天晴、未刻參内、今夜三位殿大殿第二御女、母儀前上野守

頭後女、鸞督殿、大殿女房也、入内事爲關白、御猶子之儀有御沙汰、御名香子、御歲十六、可有入内事、予藏人

方事申沙汰、本家事左少辨俊經奉行、内々用途等事伊

豫守邦綱奉行、東三條御裝束行事參川權守高佐、飛香

舍御裝束行事伊賀守長定、御籠修理掃除藏人方沙汰

也、藏人左兵衛尉源通宗新藏人、証候彼殿者也、仍便自大殿奉之奉行、關白

殿口自今朝令參内給、御裝束事有御沙汰、左大辨宰相

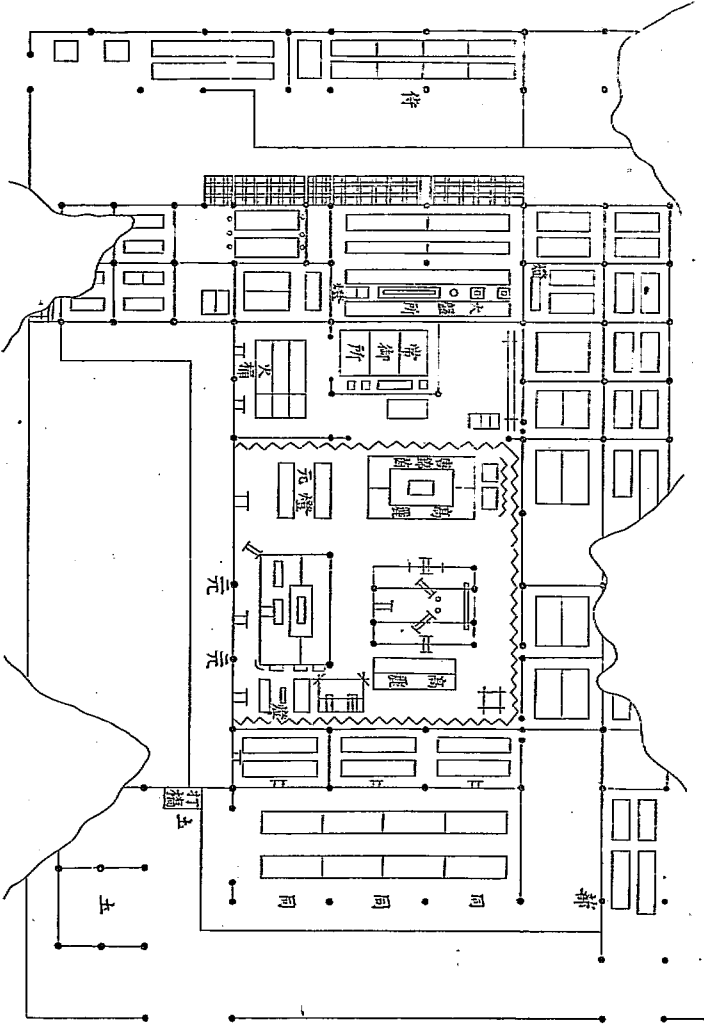
長

飛香舍御裝束事、

其儀



山 桃 記 應保元年十二月



東孫庇南三間爲上達部座、敷弘筵、其上南上對座敷高禮帖各  
 國所、次此中遣戶北一間爲殿上人座、敷弘筵、其上南上對座敷  
 課、次同東庇三箇間爲女房座、敷弘筵、同列對座敷高禮一帖、  
 同國、次同東庇三箇間爲女房座、東方出几帳、即是公卿位後也、  
 母屋以東三間爲畫御座、母屋并南庇敷弘筵、筵、有差、母屋  
 御籠卷之、高立四尺屏、四方懸壁代如恒、以裏皆爲內、高與  
 同角也、壁代、中央間立御帳、空、懸唐綾帷、而唐、又裏小文  
 而懸也、東南西并三方卷之、立几帳、唐綾、其內敷、帖二枚、  
 中央又敷三枚、其上敷筵、錦絲唐綾、中敷上立枕几帳  
 二本、高一尺四五寸許、赤木摺貝、八字立、置御劍、袋、  
 帷赤色、細蘇芳科流粗細也、置紅御袂、紅打、上、種、  
 紅系上差、御鏡懸御口方柱二本、枕  
 御衾者、露顯日御料也、此、  
 方柱如恒、御帳東間南北妻敷高禮二枚、出其、  
 立衣架二基、南衣架懸御衣、二色十紅單、梅二重繪御上着、  
 紫文紅振御袴等也、懸次第御衣、紅、但腰三裏織物  
 上差下、階懸御袴、又御衣南方懸御袂、北衣架口懸御衣、御  
 帳西間西北妻敷經網帖二枚、其上敷東京、其北方  
 東西妻立御厨子二脚、東一脚上階居香宮二合、頗高宮也、下階  
 第三合、空納也、件宮二合、其後并副東北西壁代立亘五尺屏  
 口用也、下階置宮二合、

山棟記 應保元年十二月

風八帖、一帖母屋調度、後殘七帖間別各一帖、之、國自殿以長定令  
 風、帖者立一丈間定事也、雖雖有少、大殿仰日、五尺屏  
 分又何事之有哉、其後立直更無相違、御帳間南庇東西妻敷經網  
 帖二枚、其上敷龍鬚二枚、敷唐錦茵、前方立脇足、其東  
 方置御硯、方立三尺几帳、上置之、同御座東方寄北  
 柱立口、北置薰爐、其南置泔器、其南立唐匣宮、其南  
 上御鏡懸、其南立鏡臺、懸鏡、額、其後自北柱下  
 臺納也、屏風一帖、御座東西間對座高禮帖每間出  
 間妻戶及常御、御置几帳也、畫御座東間立燈臺、金輪上居金銅盤、  
 居同、油加狹、同西間東釣金懸燈樓、副庇東西遣戶立四尺屏  
 風各一帖、畫御座以西二箇間所母屋西棟分南立障子、  
 開口、口左右立脇障子、懸御帳帷爲御所、其內敷經網三  
 枚、東西、御座東立御厨子一脚、在上階南居薰爐、北置硯宮、下階  
 方、入銀物具、懸于下入簾樣等、無緒、御厨子南、帳中御座南方立  
 三尺御几帳、御帳副東北障子敷高禮帖各一枚、副北壁  
 釣長棹、副東戶頗寄北方置御辛積二合、落、殿四方各口  
 口南障、懸燈樓、此燈樓、其方、口下居御火桶一口、爲口  
 也、件火南庇二間東西行、帖三枚、御帳前帖上置御火

榻、其西帖置一炭取、東立燈臺、其礎如畫西

遣戶西方又敷高禮帖三枚、次西爲大盤所南上

對座敷高禮帖各二枚、立大盤但北遣戶可取歟、

何、上下立燈臺、其北方居火櫃二合、在金、其北遣戶北方

副東壁立黑漆厨子所、居菓子廿合、各上下、西孫庇敷紫帖

二行對座、西南小舍南二間爲女房局、西廻廊小垣以北

二間爲侍雜仕宿云々、戶屋中遣戶以北三箇間爲侍、其

北爲女官及半物雜仕祇候所、北小門北爲釜殿、

凝華舍爲女房局并關白殿御直廬、襲芳舍爲右大將上

宿所、爲御被覆相具可被參也、

申刻殿下令參東三條給、大殿三位殿自自內藏

寮持參御衾、紅打長九尺廣九幅、面小紫綾、裏單文二重、以

白御衣二、同御單也、直藏人昇之、進入大盤所、乘燭以紅打

衣在御所、仍不獻之、藏人昇之、進入大盤所、乘燭以紅打

次御衾置御帳內、伴人無障之人也、紅御宿紅打

同置御帳內、皆置御跡方也、

口夜右大將上被參宿襲芳舍、將軍依可被覆御衾也、自

北門敷筵道參入、女房十二人着二色衣紅單云々、乘燭

敷使左近衛中將兼中宮權亮兼雅朝臣參上、予付內侍

奏聞敷使參上之由、頃之自鬼間令掌侍說予伊保守勾當也

給御書、紅酒樣、無源并下給等、紅一重緒、其上如藥裏、被書

使令給之、暫置殿上大盤上、予尋彼所事具否之由於左

少辨俊經之許、使者歸事具了、早可參者哉、戊

朔中將取御書給小舍人中原守時、冠、守時本自

持柳筥給柳筥持之、中將帶劔取笏、參向東三

條、乘車之時御書入車入東三條東門、立中門外

砌內、左少辨俊經相逢申敷敷使座於東對

南唐庇西一間、北面、高麗帖上敷茵、次召敷使、

敷使捧笏取御書、柳筥、自中門廊參進獻廊中、西方

件間女房出袖、大殿下御此內、不着茵、次一獻、右中辨朝

云々、關白殿御西篋子邊云々、居東邊、次一獻、方朝臣、二

獻、勸盃權中納言後通、三獻、右大將次女房出祿、白衣一重襦

無御返事、敷使取之、經中門廊西緣、中門西砌外頗進

出二拜、於中門着沓、歸參內、小敷、舍人有腰差、又預盃酌

云々、敷使昇高遣戶、取祿置打毬障子下、付藏人申御

書進了之由、後給祿於主殿司、了被退出、

亥剋三品殿參給、前駝殿上人卅許輩扈從、公卿關白殿、右大將、新藤中納言雅敏、權中納言顯時、新中納言俊通、藤隆季卿、治部卿光隆卿、修理大夫資賢、已上二人非參議、宰相中將實國朝臣、左大辨資長、口上自內催遣、大殿先日付子令申請給也、但大

臣已上不催、

口車十兩、櫻、

口車一兩、左中將兼

口車一兩、雅候、

騎蓋御車於東對南面、陰陽介賀茂在憲朝臣奉仕

御返間、出御東門北行、二條西行、大宮北行、入御上

東門、立御車於朔平門外立榻、去門砌二丈立御車云々、先例

二丈、大殿密々駕御車、至于此外門御見物云々、藏人左

衛門尉藤賴保一藤判官着青色帶緞笏仰轡車、後開、賴保小舍人二人

衣、取指燭前行、出殿上口、向朔平門下北垣即見障、事

可尋、若里內無燈故見障歟、召吉上、二々々稱唯進、仰曰、從

或人曰、於壇上仰之云々、三位藤原朝臣乃參給手車令人、次吉上上唯、次賴保歸

入、次駕移御轡車、諸大夫十二人引入口玄輝門、經貞

觀殿北并登花殿西、寄飛香舍惠北小門兼敷

山 枕 記 應保元年十二月

出、御車寄立御屏風御几帳、此間主上密々出弘徽殿、爲御見物云々、女房等候御共、下御之後、公卿入東面

南門着座、南上、女房下自式乾門、入遊義門南小門參

入、敷筵道、女房出袖上白、於公卿座後、令敷筵道於昇

御路、殿至御湯殿介、自妻戶外東折、自上御臺關廂戶下、公卿

座上戶井東土戶開之、件門內立尾付諸、御湯殿、次公卿座有勸盃、

介東西進戶門之流口各兩三令候、禁雜人往反、一獻、頭辨雅賴朝臣、出殿上、々々人座前、綵押笏取盃南行、昇座上、

得業生定正、二獻、中納言顯時、瓶事了人々退出、二獻之後

可居汗也、而兼居之、櫻行事之失也、子刻掌侍說子內侍

也、號伊豫也、前肥前守保就朝臣女云々、參三品御方、入東南戶、

實者下總權守親弘女也、件人仍所參也、兼開之、申可令昇御之由、給祿、女裝、召女官、々々參件戶

出几帳、邊傳取祿、內侍歸參、次三位、令昇給、傳聞、女房

二人前行、一人持燭、又三人在御後、一人持御裳、關白殿

左右大將扶持之、予候御浴殿邊、三位殿上御壺禰之門

將、殿方妻戶下取被供、予傳獻之、令辨藏人令設

邊也、主上入御夜御殿西戶御帳中、次三位殿自上

御盥禰方入夜御殿北戶、入御々帳內、右大將參進被覆御衾、次取御草鞋退出、於御湯殿介賜前駢也、參川權守高佐人賜柳篋高佐遣宿所、三箇日置彼宿所後、可被獻女御之方云々、次右府取指燭、伊豫守邦綱朝臣某等取之、入夜御殿燃付燈樓火、歸出入飛香舍南面東方戶、經畫御座前了、燃付塗籠內燈樓云々、又生付其下火桶炭、邦綱參入三箇日不消、令給大炊殿也御共女房宿侍上御靈禰、藏人定正通定依仰宿御湯殿介、此後予退出、

丹波內侍曰、夜大殿燈三箇日之間不可消歟、予答曰、不知事也、火事波御方許事歟、入內以後三箇日間禁庭掃、事令藏人相尋主殿允正方、申云、禁中如恒也、女御口三箇日之間不掃者、入內之間藏人方今度致沙汰事、

飛香舍修理事、御籠事、御衾事、仰內御衾覆人事、依大殿仰先日申定三位殿御帳內御衾調進人事、依大殿仰申定、相尋無禰之人處、無其人、大殿仰云、初度大妻相

具、子息不聞人為撰也云云、相尋之處、無其人、右大將未生子、尤可吉之由申定了、三日餅事、調進人同前、雖號三日餅、近代露顯日所供也、敕使事、入內夜、始渡御日、

御書薄樣事、見上、御裝束事、御直衣、入內夜露雖獻御衣、不令用楚、論云々、御草鞋事、入內夜料、始渡御料、

冠事、自式乾門至遊宜門南小門上昇御踏、雖無所見、依狼藉設之、

後開、今日三位殿被補家司職事云々、家司伊豫守兼右京大後經、兵部少輔光長、丹波守隆行、散位兼光、職事飛騨守季長、散位光綱、

十八日丙辰、陰陽晴不定、未刻參內、帶取劔依候飛香舍、女房出袖、兵部權少輔光長立東面南小門內申家司慶、左少辨後經相逢復命、後再拜、申剋、殿下、右

大將、中宮權大夫、實、新中納言、後、藤宰相光忠、等、東、

一獻、勅孟予、押笏取盃、藏人時成傳之、奉盃於殿下、子取次符同、右府御盃之後返給藏人、瓶子藏人右衛門尉時盛、

次二獻、藤宰相隆季病、源、次居汗、殿下御陪膳刑部子木工頭信保、

大輔、藏人五位等役也、右府手長五位上臈可

勤云々、中人宮樞大夫、瓶子事

了人々退出、大膳大夫、酒類退出、乘燭以後歸參、亥剋內侍爲御

使參飛香舍、次昇殿、如去夜儀、今夜右大將束帶、殿下

右府直衣、昇御了後退出、藏人定正云、今朝三位殿還

御飛香舍、未明事也、

十九日丁巳、陰晴不定、入夜小雪、巳剋治部權少輔菅

原貞衛宅錦小路南、王生東燒亡、今日人々參飛香舍有盃酌事云

云、予乘燭之後參內、仍不見次第、傳聞、一獻、頭辨、瓶子事、

兵衛尉、左大辨資長、瓶子事、子藏人左不信、前彈正弼時廣、民部權少輔時信事、

人、今日着座人殿下、右大將、源中納言、房、藤

宰相光忠隆、季資長、又治部卿光隆、修理大夫資賢等參、亥剋三

位殿口夜大殿給、次第如去夜、御湯殿介打橋筵道之外

仍東西敷場筵、昇給了退出、

國、申請未濟國々催給事書消息遣之下劣國

出納仰遣、

廿日戊午、陰晴不定、申刻參大納言殿、次參內、正月

公事等注一紙、藏人辨大輔大進等許定各分配了、戌剋

有吉書奏、右大臣始被候奏也、藏人右少辨長方於朝餉

奏申、藏人通定奉仕御裝束、藏人辨曰、夜大殿南戶東

扉頗可開、又藏人辨曰、夜大殿南戶御硯宮居御座巽角

帖上蓋、西北方頗開之、次出御、關白着衣冠御共出給、

令候昆明池障子後邊給、長方年中行事障子西北、遜、跪伺御

氣色、稱唯經南殿、陣召右府、々々經階下入弓場

行合間南廊、間北面立給、史捧奏於杖參進、自

右方獻之、右府、取奏、昇青環門、經年中行事障子

東、孫庇乃自中央、平北行、御座間長押下二尺許跪、乾

向膝行至、下、西向昇長押、奏覽、主上令取奏御、

令置御口御、次右府逆行下長押、左廻大輪廻着圓座、

跪圓座後、猶乍持被候、次主上結御、了右府置杖、自圓

座頗退下、自南方參進、其儀如先、次取文杖左廻退下、今度

結文、但無詞、無稱唯、可尋、次取文杖左廻退下、今度

經年中行事障子西、下青環門、立本所賜奏、史拔笏退

出、藏人辨曰、奏內覽之間殿下出遇、相尋文杖之處、無

之歟、仍取副笏覽了、

三位殿今朝令下給事天明云々、今夜可令昇口少將  
內侍參上申之、三箇夜間者頗撰無障之人、自口敷筵道  
事本自非恒例事、然而其道狼藉、故令敷之、口每夜不  
關事所司難祇候、仍打橋上并御湯殿妻口狼藉之故  
也、留置筵道二枚置彼邊、每夜臨昇口人可敷之  
由仰了、

丹波內侍曰、內藏司御衾今夜以後可置何處哉者、予答  
曰、其條無所見、只可被准常御服敷者、內侍猶曰、可被  
獻女御々方之由、或人中、如何、予答曰、相尋可左右  
者、此事不知不聞事也、然管見人若有違例可無便、仍  
參三位殿御方、相尋女房兵衛局、曰、其事不承及、但內  
內可申大殿也、頃之相尋之處、答曰、大殿仰云、件事不  
聞及事也者、仍其旨示內侍了、

今日被行尊勝寺灌頂、上卿源大納言雅、被參事被口僧  
名、右中辨朝方朝臣奏之、

又被行圓宗寺寂勝會、上卿新藤中納言雅、被定僧  
名、行事辨左中辨親範朝臣也、示有勞事、私相語左少

辨俊經云々、

右大將上相共令退出給、口來依御衾覆所被祇候也、

廿一日己未 天晴、乘燭參內、定申御佛名僧名、上朝

餉御口子寶子、供常燈、次主上御籠中、次予取硯續紙

跪布障子南方、主上令引寄御籠御、予稱唯參進定申儀

委見先年之記、

定文書樣、

御導師、

法橋上人位猷仁、

權御導師、

永尋、

定延、

口僧、

慶殿、

慶寬、

隆豪、

應保元年十二月廿一日、

御覽了歸出參凝花舍內覽、次下給行事藏人了、行事藏人右衛門尉平時盛<sub>延尉</sub>、曰、事具之由可奏之旨、藏人宮內大輔重方<sub>奉行</sub>、被申、仍奏聞之處、早可始行之由敕定者、仍予於鬼間仰御導師可召之由、而問重<sub>口</sub>直經奏聞、次第僧中召入新參人、而舊參御導師<sub>口</sub>訴申爲下劣者之由、仍被召改之間、闕請僧未參也者、<sub>口</sub>沙汰也、大僧正寬遍<sub>法務、東寺一長者</sub>、於仁壽殿始行金輪法、<sub>口</sub>僧廿口也、藏人右少辨長方、左兵衛尉平信季奉行之、御佛名以前可令遇御御修法時御、仍有出御、御佛名御裝束已以奉仕、仍暫撤御路燈臺燈樓等、自額間經長橋至于仁壽殿南面西戶供筵道如恒、出御自額間母屋簾中、予供御草鞋、左中將兼雅朝臣取御劍前行、<sub>依御佛名御裝束置御劍於夜</sub>藏人取傳取授如何、令候御後給、予伺候御共、侍臣取指燭前行、御修法御座發願顯遲々、阿闍梨顯家密々示予曰、先例蒙天許所始行也、存其旨被遲々歎、<sub>口</sub>予參進、此旨申殿下之間、主上有御咳嗽、<sub>口</sub>次發願時了、次有御加持、伴侶下本座、

山 枕 記 應保元年十二月

<sub>口</sub>音事、事了還御、予供草鞋、

<sub>口</sub>御劍前行、入御之後置御劍於<sub>口</sub>、

<sub>口</sub>殿藏人治部大輔行隆取御草鞋、

<sub>口</sub>剋藏人時盛仰鐘、并御導、<sub>師力</sub>出居昇、公卿昇、<sub>殿下、大納言</sub>實長、<sub>顯時、宰相親隆、隆</sub>季實國、<sub>三位光隆、資賢</sub>次僧昇、堂童子藏人宮內大輔重方

中務大輔長明勤之、次賜火櫃於僧并公卿座、半夜御導師昇之後、令申柏梨、次殿下以下着殿上、有三獻、<sub>一獻、三獻</sub>

先<sub>口</sub>二獻之後召付藏人頭於座末、今夜無召、頗心中爲悅、次公卿歸着御前座、此間出居有小亂舞、予不着、爲

藏人頭之人不着例也、錫杖之時重方奉被綿御導師、自後持之下座、僧新經座上自前方被之、皆<sub>口</sub>左肩

也、藏人通定持之相從、又藏人信季取細長<sub>口</sub>從直

就弟子僧座賜之、佛名了有行香、殿下<sub>列力</sub>之、資賢

卿不立也、次給祿、次僧退下、次公卿退下、次<sub>口</sub>退

下、事了退出、

<sub>藏力</sub><sub>口</sub>人大輔行隆談曰、可有朝觀行幸之由、今日爲御使參

院中之、御返事云、承候了者、



廿二日庚申 天晴、左近府沙汰者光賢來曰、山城國保季

朝臣、敵功過請、白丁返抄請判、仍加判返給了、又曰、符

下丁馬號神今食荷自右寮被押取之、欲被仰寮頭者、仍賜書狀了、

又自府持來柏梨一瓶、宜取返器了、自伊豫守邦綱朝臣許示送曰、來廿七日可渡御三位殿御方事、任例

者、可申定之由答了、

廿三日辛酉 天陰、未刻參內奏事、

來廿七日始可渡御飛香舍、近代伴日多被下女御宣旨、

候歟、

仰可然、

口御共上達部可被召誰哉、永久五年人カ候、今度關白右大

臣右大將許者、將任永久例五人可召歟如何、

仰云、可怎樣候哉、

奏曰、三人何事之候哉、又猶可依永久例者、今二

人隨仰可召候、

仰云、此事被仰合前關白如何、又不然トモ有奏奉哉

如何、

奏曰、被仰、何事之候哉、

仰曰、早可觸、

一、伴日勸盜荷公卿可被催之由、本所被申、可催候哉、

仰曰、早可催、

望輩五人、刑部錄紀則盛、左衛門志安陸資弘、為重方

可計申之由被仰下、猶怎樣可候哉、凡者器量難知

候、猶可依敕定候歟、

仰曰、伴輩子細不知食事也、忠親計多良牟能かり南

牟由、思食也、

次參大殿、申御共人事、付高佐

御返事云、任永久例五人何事之候哉、五節童御覽之時

被召人々中可奉敕定者、

又申云、片野御應飼下毛野武安知武訴申免田作人不

辨地利、任先例賜所牒令果事、又為楢葉御牧住人御應

飼等被追捕住宅、并凌破了、為御領事自殿下可

被尋下歟、將可奏歟者、

仰云、其事任先例賜牒何事之有哉、早可奏、楠葉詔

口申關白可賜彼沙汰也、

次方  
口參申御共公卿事、

仰云、早如彼命可召、

次申應簡免田事、

仰云、早可賜牒、

次參關白殿御宿所、令候三位殿御方飛香給、令參御殿

給之間申楠葉事、

被仰云、早可給邦綱事、

今日被發遣荷前使、申刻進發、

使新大納言、通、源中納言、實權中納言、顯時、新中納言

口藤宰相、光新宰相、隆季、

口定送內侍、藏人宮內大輔重方所尋沙汰也、永安門

口取之、他行之間不開件門遲々云々、新宰相季曰、

大外記門者無益也云々、此事可尋勘合、秉燭之後出御

仁壽殿、依之行方修御修法也、其儀如去廿七日、右中將實

宗朝臣候御共、宰相中將實國朝臣着直衣候御後、頗似

關白、如何々々、還御之後退出、

廿四日壬戌 朝間雨下、未刻參大納言殿、予申云、來

廿七日可被下女御宣旨、永久故左大臣殿爲上卿令宣

下給、定追彼例可令參給之由沙汰候歟、令答給曰、彼

御例太可見苦、大臣殿其時爲右大將人者叶、例儀者不

叶、件日不可然之由所存也、且又他人可候御共云々、

可無骨歟、予申云、至于御共口事之候哉、永久故

大臣殿一大納言右大將也、其時下籠口通仲實等

卿候御共、至于件條非沙汰之條之限歟、口仰云、猶

不可差出、若有沙汰者可申襪所勞之由也者、口付邦

綱朝臣、申女御宣旨下公卿事、予申云、口故左大臣

爲右大將宣下、今度若可申右大將歟、仰云、右大將聊

有不例事云々、件日參入不定歟、花山院大納之叶永

例、可申彼人也、

予申云、以此旨可申彼人候、但近日依襪所勞、且御佛

名之時不被參候、然而觸申可申左右候、抑三夜餅者始

渡御日可候歟、而右大將可令供給、若爲御所勞者爲之

如何、

又仰云、餅事若三夜供之歟、内々可尋申大將殿之由口

仰邦綱之、上卿事大納言不可參之由被申者、其

可事闕可申事之由也、

付飛驒守秀長申也、

厩飼下毛野武安友武等申事、

田作人地利對捍賜牒課取事、

仰云、賜牒何事之有哉、早可奏、

爲楠葉御牧任人被凌礫御應伺事、

仰云、給解狀於彼沙汰人、可被相尋之由、可申關白、

一、出納所望輩事申各器量等事、

仰云、猶能相尋、撰堪其器之者、可被補出納者、其

數少其役多職也、而于今猶有其闕、及數月早可被補

也、

一、大僧正寬被申顯豪申東寺小灌頂請事、

仰云、早可奏、

又參大納言殿、申上卿事、被仰云、然者可參上也、無術

事也、

内及秉燭、御所無便宜、不奏條々、

通定曰、元三御簾用途大炊寮功渡播國々申

旨、去年九月被宣下云、彼寮納物除口上熟食外免除

者、寮申云、去四月被宣下口依公用繁多、於年判米者

不納異損成功口濟者奏聞、仰云、可申前關白、予

重奏期日近々間、事及闕如候歟、宣旨顯然爭

前後差別哉、何様可候哉、

云、然者今度者先可濟之也、可仰下者、

不出御修法御座、仍退出丁、

天地災變玄宮北極御祭、仍藏人口定正三

參籠大極殿、陰陽師大膳大夫安陪廣賢朝臣、是天地

災變也、藏人左兵衛尉平信季四參籠、陰陽寮陰陽介

賀茂在憲朝臣可奉仕、是又北極御祭也、各相具瀧口一

人自今夜口籠口云々、

廿五日癸亥 天陰、申刻參内、秉燭之後於御座禰奏

聞事、

〔一〕僧正申顯豪灌頂事、

□可計申之由、可觸前關白、

〔二〕淨妙寺申爲主稅允忠弘被押坊末寺仙遊寺領蔭原

庄事、

仰同前、

一、出納事、

仰同前、

次出御修法御座、右少將國雅候御劔、予候<sup>御力</sup>草鞋、殿

上人候指燭、

藏人右少辨長方於御修法御座、奏位祿文、□右大

臣被奏之、

□之後有官奏云々、右府被候、予依窮□退出、仍

不見次第、

參川守定隆朝臣曰、自踐祚始每日不定刻限奉拜太神

宮御、女房供奉、密々儀也、其時取大床子圓座敷石灰

壇、里内之時常御前隨便用新圓座御直衣也、無御潔

齋、只御手水許□、

來廿七日女御宣旨可被下之由、令有内々告大夫史永

業宿禰、々々令辨侍催辨、予問云、外記不□、答曰、

□罷入、但爲大事可告候歟、予曰然者可告也、予又問

云、件日只女御宣旨許歟、無被副仰□歟、答曰不候也、

予問云、女御□殿□付他方哉、答曰、三品□女御也、

廿六日甲子 天陰、午刻向内府亭、尋申條々、

次參大殿、付伊賀守長定申事、

一、出納申輩事、可被補何人哉之由、可令□之由有敕

定事、

御返事云、雖如此承、委不知給事、猶職事者知子細

給歟、被相尋可在敕定、

〔二〕僧正被申顯豪申東寺小灌頂事、

御返事云、如承者、有裁許何事之有哉、年<sup>奈止</sup>老多留

者爾候奈利、御修法<sup>奈止</sup>被召毛齡關者宜候事也、但此

上乃子細、委不知給、可在敕定、

一、造酒司申、攝津國大田保爲奈佐原<sup>庄被力</sup>妨事、先日

奏聞之時仰云、國司訴件庄□事彼裁許有無後可有

沙汰者、而其後無及沙汰之間、猶以虜掠、任先宣旨

欲蒙裁許之由、被仰云、早可奏、

一、淨妙寺申、蔭原庄爲主稅允忠弘致押取事、猶可令計申給之由、有敕定、

御返事云、依氏寺事執申了、所存者爲公寺領可返給歟、但猶有御不審者可被問忠弘口、

一、明日女御宣旨公卿藤大納言可參

被仰云、左爾古曾候奏禮、

〔一〕、明日出御路可出御朝餉歟事、

被仰云、自御手水間可出御也、

參內、於上御壺齋奏事、

一、出納事、

仰、可爲右衛門志安陪資弘、

一、顯豪申澁頂事、

仰、早可仰下、

一、造酒司申大田保事、

仰、問奈佐原庄、

淨妙寺申蔭原庄事、

仰、一旦猶問忠弘可有其沙汰歟、

今夜可有官奏、右府可被候云々、乘燭以後退出、今日未刻小兒着衣、予有憚、仍女房令着之、今日八條院殿上始云々、殿上人至于今日未定不便、兼日可被定事也、予被聽昇殿、可近江守實清示送、于時深更、事定了歟、可參之由不參、後日可參也、

〔於院寺〕有朝觀行幸定云々、

〔被行玄宮北極天地災變御祭、是正月口依日他御

祈也、子細去廿四日記、

廿七日乙丑 天陰、已刻參大殿、高倉殿北町、邦綱朝臣宿所也、欲申條々

之處、近習人皆以不候、仍空退出之間、以侍被仰曰、

只今可傳申之人不候也、何事哉者、予申曰、入御飛香

舍間何間哉、予所存、其御座間歟、永久度入御自仍爲蒙口所申也、又昨日以長定申

入事等、隨仰可申者、

仰云、入御間者御門間也、件間無打出也、

被仰云、他事書付可給者、

口折紙申事、

一、造酒司申、攝津國大田保爲奈原庄被押妨事、

敕定曰、問彼庄、

一、淨妙寺申、未寺仙遊寺領蔭原庄爲主稅允忠弘被

虜領事、

敕定曰、一旦猶問忠弘可有其沙汰歟、

〔二〕僧正申、阿闍梨顯豪東寺灌頂請事、

敕定曰、早可仰下、

一、出納事、

敕定曰、以資弘名簿可仰下、

一、藤原知政申、以父玄蕃允信政兵衛尉功爲知政功

事、

敕定曰、可令計申給、

口殿仰曰、已上任仰可仰下、

〔一〕寺事者此沙汰也、可給解狀者仍厭上了、知政功

〔二〕功徒罷成極罪口也、如此事輕事也、被宣下何事之有

哉、

次參內、出陽明門內相逢高佐、以彼人已前條々申關白

殿了、殿下自其夜御々宿所疑在也、高佐口御湯殿介示

御返事、被仰曰、如何、早可仰下口主上始渡御三位殿

御方飛香日也、

口日致沙汰事、

御冠、御直衣、紅打御衣、白御衣二、小、御單、

御草鞋、

御書薄樣、紅、無漚并下給、二重可入、然而條分相加〔

柳篋、小舍人持御書之時所也、

敕使、

小舍人一人、布

筵道、

御劍持事、

御共上達部、

指燭、若及夜景者可用也、

可參女御々方之公卿事、

〔殿上人事、已上兩事係本所氣色、申事由所催遊也、

〔〕餅事、同陪膳事、

口刻參內、召御前、上方、參上、仰云、今日始可渡御飛香舍、其儀如何、予答曰、別事不可候、大略申了、〔〕還

御程爭可知食哉、予奏曰、關白可被口歎、申刻公卿殿、

右大臣、大納言、中宮大夫(雅通)、右大將(兼理)、別當(清盛)、右衛門督(公光)、口中納言(顯時)、新中納言(俊通)、藤宰相光忠、陸季卿、治部卿光隆、權大夫資賢卿(已上二人非參懸)、幸相中殿上人參集、自本將實國、右大辨資長朝臣參〔〕宮權大夫候殿上、所內先日有其仰、仍申、尋飛香舍事具之由、予密々付內侍申御事由予所相催也、

書可給之口召予於朝餉、予不帶劍笏、是禁中敷使例也、參進賜御書口

無薄并下給、但有內陰、如香樂裏之、結頸、以紅薄襪給口結々、口出殿之、其體大美麗也、非納殿所進歟、主上御上御靈禱、仍〔〕

下戶、經與座、於小板敷下着沓、出神仙門、口殿上四賜御

書於小舍人中原守時、件小舍人口置御書、兼持柳宮候

此所也、守時持御書前口予相具隨身小舍人童許、兼體布

人〔〕太奇座、口經後涼殿西北、于時小雨、至于飛香舍東

面南門之戶外、小舍人持御書在傍、頃之左少辨俊經

口出北小門、自築垣外來、予取御書立、柳宮、左少辨正

笏遙謁、揖入門、昇簀子、先申關白殿、卿座也、依御許口

進申女房、出登御座簀子申之、次歸出、令敷敷使座、口諸大

夫二人取高麗帖一枚、經公卿座東簀子、副東南渡殿北

間西透垣敷之、次諸大夫〔〕東京齒、敷件疊上、次

左少辨歸出召予、々參口就南面東第一間戶下、獻御書

於女房、退着〔〕西着西南方、次一獻、右近少將通能朝

臣帶劍、勸盃、諸大夫取瓶子、次二獻、右中將實宗朝臣、

次諸大夫三人各取圓座一枚敷予對座、次三獻、左大辨

宰相、實長、瓶子前正少弼師廣、已上予受口皆置座下、

次相公着南圓座、自予座、次諸大夫口肴物居予前、折敷高

也、次居相公前、廣折敷一本、次四獻、左衛門督、公光中、瓶子大膳

大夫濟綱、予受盃傳相公、口金吾着中圓座、次居肴物

於金吾前、已上兩人〔〕卿座末邊簀子、捧笏取盃也、

次五獻、源大〔〕座東簀子至于南戶前件戶、簀子

口差笏取盃、諸大夫居盃於折敷、相從來也、右少將國雅帶劍、取〔〕相從、

亞相着予座北上、頗向勸之、已前兩人來〔〕右金吾、々々

傳相公、大納言不着圓座被退出、〔〕被出御返事、予

參進給之、御返事紅薄、置扇上、自几帳綻被出、又被

出祿、女裝束、口自几帳帷下押出、同取之、予開撰取不可混

合、扨出裝之故、唐衣裳

也、歸出着此間猶金管左大、出小門外、賜御返事於小舍人

賜賜祿於隨身、不拜、依有御返事也、口經本路、於

殿上口取御返事并祿、欲昇殿、野本云、殿一本作小板敷、公卿被祇候、

仍昇橫敷間、出下戶落置祿、口打毬障子南方、參朝餉、

進御返事、祿主殿力司等分取云々、次自御手水間、經御

湯殿東北、自北口至于飛香舍南面東第二間、除東庇并孫庇也、謂御

也、懸間次主上出御、御直、關白殿令候御籠給、予供

御草鞋、右中將實宗朝臣懸尻於表手取畫御座御劔前行、關白

殿、右大臣、右大將、中宮權大夫、實、別當、清、盛、左衛門督

公光候御共、入御籠中、殿下令候御籠給、予取御草鞋

給藏人實宗、朝臣力進御劔於女房、自入御間、西間獻之、次殿下以下令

着公卿座口、一獻頭辨、雅領、朝臣、瓶子藏人宗正、次二獻藤

季、隆瓶子少納言口雅、三獻新中納言、後、瓶子左少

將定能、事了殿下次御共人々起座、殿邊、于時

柔燭、仍侍臣候指燭、次予出仗座、昇輿座奉仰大

納言殿曰、以從三位藤原朝臣可爲女御、此間依可有

仗儀內大臣參口候輿座、然而大納言殿任永久例可令

宣下口給之由、先日有大殿仰之故也、內府兼被候障口

大納言殿被仰、然而只可仰之由有彼御命也、次口納言

殿觸內府、移着端座、令敷膝突、召辨、辨俊經參

上、被下女御事、俊經出敷政門、仰大夫史永業

宿禰、俊經永業起座、方奉之、抑大納言殿此事宣

下之後、須臾起座令歸着輿座給也、官符請印上卿左衛

門督公云々、

關白殿、右大臣、右大將、兼令候殿上給、予歸參弓場奏、

給、北上西列立、殿下、參之時、令立給也、予奉相逢、昇小板敷、經輿座於

付內侍奏之、帶劔笏歸出復命、歸入殿下力以下拜舞、

口參女御々方、告申女御宣旨下之由、相逢左少辨俊經

申此旨也、此事非別儀事也、仍又不及盃酌也、

殿上男女房祿、家司左少辨俊經等、分之祿入辛

糴持參此所云々、家司左衛門口清原能景相副計致出

納康光、位、五女御口邊給之云々、

殿上人樣、下家司等付

口口一重加袴、白掛一重、



口位、

口上除外任猶兼京官人并女御家司之外給之、不參殿上

人等稍不送遣、出納小舍人等分取云々、

〔女〕房祿、御乳母并典侍科公卿取之、藏人至于鬼間傳之、權中納言後

通、藤等相光忠、隆季卿等也、參議左大臣實長朝臣雖爲其列、迴參、仍不取、抑公卿取母許扇絹等殿上人可取歟之由、相公達被問後經、々々答曰、至于典侍猶公卿可取歟、然而人々不承引、被退出了

掌侍以下殿上人四位五位取之、置鬼間布障子内、已上密々令藏人一兩於大盤所不混合次第令並置之、如女官致沙汰

者定有狼藉事歟、仍如此所計行也、

〔乳〕母二人、大納言三位、(故右京大夫師重朝臣女)、帥三位、(清盛卿室)、

口葡萄酒織物唐衣、青單、摺裳、紅張袴、梅織物表

着、紅打衣、濃紅梅衣五、

已上裝赤色織物平裘、納蒔繪衣篋、在入帷、

上品八丈絹十五疋、裘、絹、

〔典侍〕四人、

〔各〕女裝束一具、濃打衣一重、已上裝、白假裝、

口八丈絹四疋、絹、

〔掌侍〕六人、

〔各〕女裝束一具、假裝、白、

口品八丈絹三疋、裘、絹、

〔命婦〕十二人、

〔各〕掛一重、上品八丈絹二疋、紙、

〔藏人〕六人、

平絹白掛一重、上品絹一疋、裝絹〇紙々、

〔得選〕三人、

各白掛一重、

口並置大盤所内之後、令藏人通定色目書假名事也、女房令分之此間加制止不令亂入女官等

女官給祿、

〔内侍〕所、

〔女史〕六人、博士一人、(白掛一重袴)、一、關司十二人、各二疋、腰、次五人、(各絹五疋)、

〔理髮〕六人、同、水取十六人、五位二人三疋、六位十四人二疋、

〔御〕門守六人、各疋、硯磨一人、疋、

〔内〕侍十八人、各疋、今良二人、各布、一反、

〔絲所〕、

〔預〕二人、疋、女孺六人、各疋、

〔刀自〕四人、各疋  
官人代一人、絹

〔御匣〕殿、

〔命〕婦五人、各三疋

藏人四人、絹

口六人、同、

刀自三人、同、

口所、

御廁人六人、同、

〔人〕、各疋

〔上御〕厨子所、

〔刀自〕六人、同、

〔下御〕厨子所、

〔刀自〕六人、同、

水守三人、同、

〔御膳〕宿、

〔采女〕卅三人、四位一〇二人、各三疋、五位九人、各三疋、六位廿三人、各一疋、刀自十八人、各疋

〔進物〕所、

〔刀自〕一人、各疋

〔御手〕水、

〔預〕二人、各疋

〔預〕一人、各疋

女官廿人、各疋

〔書司〕、

〔預〕一人、各疋

女嬭六人、各疋

〔口〕

口十四人、各疋

〔縫殿〕、

〔女嬭〕十六人、五位二人、六位疋、絹

油守十人、各疋

〔今〕良十人、各布、一反、

〔藥司〕、

〔預〕一人、各疋

女嬭五人、各疋

〔掃部〕、

〔女官〕十六人、各疋

〔東豎〕二人、五位二疋、六位疋、絹

〔釜殿〕、

〔仕丁〕四人、布一反

大盤三人、同、

〔主殿〕司十二人、各疋

〔女御〕殿御方可被居垵飯於內大盤所哉、沙汰云云、此事注載次第、然而不注舊記內也、女御々方簡書

事及吉書侍所勾當 追可尋注、

御殿昇御之後、右大將不帶劔侍勞、被取餅之問懷中、歟今夜大 親參行三坏盛銀盤、銀洲

掖上立鶴二翼、上置銀印笈一雙、入紫檀地螺蚶、細力、實是昔大將所 被調進也、參川權守高佐其之、以御湯殿外取盥奉口、然而不盛、尙那網

朝臣、自上御壺彌方被供之、即持歸給、高 開食

申行、今度不見及、次獻女御々方、

定訴申條々有仗儀、內大臣爲上卿、大納言口權大

夫、實左衛門督、光、權中納言、時、顯 隆、左大辨實、參

候、藤宰相、云、依 觸其旨於內府起座了、是依爲

太神宮

口左衛門督猶被候仗座、予仰曰、大法師顯豪爲東寺灌

頂阿闍梨者、此事大僧正寬 口也、仍其旨向彼壇所仁壽殿東底

告申了、

廿八日丙寅 天陰、未刻參內、申刻主上渡御女御殿、

御直衣云々、

隆季卿依可有政着左衛門陣座、予遣雜 朔平

門方、下裾入建春門、

口剋右大將可着陣、可下吉書之由、有大殿 也、以

藏人通定召吉書於出納仲政、召口內藏寮請奏米拾斛

也、藏人頭奏之時十石、五 口杖捧之、跪昆明池障子東方篋

子、近日恒御、爾候、仰云、古予稱唯參候逢奏覽如恒、

事臨時之儀也、返給結申、退出、藏人通 晝御座

邊、便授文杖了、懷中吉書、此 無參內、相尋之處、

政了之後可被參、城前司季經朝臣 上卿源大納言遲

參云々、

野宮本朱書、

矢野太郎識

〇右應保元年十二月竊大炊御門本、以野宮本校之、以( )所補皆係

野宮本朱書、

〇已下迄永萬元年正月、底本所載(〇)但應保二年十

月及長寬二年三月今所新補也、而殆皆是採逢幸故

實抄補綴爲篇者、如例言既述焉、

十一日 天晴、入夜大雪、甚寒、

五日 公卿敕使發遣、上卿右大臣被候端、參議隆親卿同

上之時參議必可 參之故也云々、

十五日 天晴大寒、

今日申終剋參內、大納言殿密々相具中將、爲令練習射場始賂弓等事令參內給、仍予所參會也、

被仰云、外記門出立者、少納言當外記門南柱程立路中央程、其北少辨中辨等列云々次第南上東面列立、其末折東外記史列立、次末座宰相出門、不揖、副築垣南行、當日上卿次人當門南築垣自北第二間右廻而北立、下襲尻不引隨也、身許雖立歸、尻猶在前、其次人前人之南方ニ寄西方立、其體同前、如此雁行者、人多之時至于左衛門陣南屏邊也、然者末座人許上臈人數立留也、如此立定後、上卿出外記門、向少納言辨寺揖、有答揖、大臣者不揖、上官只頗顧面、次納言頗小揖、次向南行、向公卿揖、公卿答揖、次最末人左廻向南所、父爲上卿、其子不列、有揖之故也、父爲次上於雁行者不憚也、

今日上卿未參之間剋限至者、召仕於右衛門陣申時、在座宰相仰、戶引々、仍開外記門、其後上卿參者、宰相起座下立、仍上卿知戶引之由、不着左衛門陣座、直入外

記門、近代者雖刻限以後、上卿參入訖、召仕申時也、

南所出立事者、以上臈爲先、中辨列、經橘樹西、出至櫛匣辻、經置路北、是九條殿御流所用之路也、櫛匣辻東步路也、他家雖辻西步路、上官者橫切北上列行、前駈雜色經北橘樹北、出陽明門、自北間雜人出之、自南間上卿以下退出、於南間溜下立歸揖出、上卿着左衛門陣者、宰相於外記門北辻下尻參入、雜色留之、凡又自伴所不追前、

大臣者北座柱西、大中納言者柱東、宰相者經東砌立沓脫下、揖昇沓脫、々沓入中間、自後着南座柱東、與上卿對座也、

公卿着左衛門陣座、着座大臣入建春門者、存不可有政之由、公卿引率參內、不着座大臣參入者、不參內、是政有無不知之故也、

大臣參內之時、過前之間參議平伏也、

廿三日 雨降、入夜晴、

主上出御々修法御座之時、實國卿着直衣候御後、不可

然事、

今日乘燭之後出御仁壽殿、依御修法也、宰相中將實國朝臣着直衣候後、頗似關白如何、』

〔應保〕二年

三 月

一 日 癸未 天晴、參院、

五 日 雨降、

十九日 立后宮司除目清書、大納言殿、源大納言、權大夫、宰相信能、實國、資長、左大辨等被候仗座、右座府方被仰清書之由於左大辨、仍兩相公依爲上臚起座、次左大辨退下着沓、進昇着參議座上、次右府召官人、被仰外記可召之由、次外記參上跪小庭、右府召硯紙、外記稱唯退出、持參硯紙如、置左大辨左方、仍小庭在北、右府給除目、大丞參進給之歸着、次摺墨、次取紙引禮紙、清書々様、

大政官謹奏、

中宮職、

大夫正二位藤原朝臣兼實、兼、

權大夫正三位藤原朝臣實長、兼、

應保二年三月十九日、

已上一紙、用紙屋紙、

太政官謹奏、

中宮職、

亮正四位下藤原朝臣邦綱、兼、

權亮正四位下藤原朝臣忠親、兼、

大進正五位下藤原朝臣俊綱、兼、（〇符力）、

權大進從五位上高階朝臣隆行、兼、

權大進從五位上藤原朝臣光長、兼、

權少進正六位藤原朝臣季佐、

大屬從五位下大江河臣盛親、

少屬正六位上三善朝臣康信、兼、

權少屬正六位上清原真人能景、兼、

應保二年三月十九日、

以上一紙、同紙也、

書了、清書二通、本除目一通、以上三通、取副笏欲進之

間、右府命令留本除目、仍丞入祝筥畢、件除目外記可持參  
執筆御許歟

山 枕 記 應保二年三月四月

持參清書許、右府被取了之後大丞退歸、被披見之間暫

可候歟、可尋、

上卿披見文之間宰相暫可候其前事、

見上、

浮文表袴事、

廿日 參大納言殿、申承雜事、公卿浮文表袴、織物下

重着之時可用之、但壯年宰相中將ナト着之、又着加伊

練之日可着歟、〇按達幸故實抄、是應保  
元年二月十日之文也。

#### 四 月 大

一日 天晴、今日大宮宰相季隆、着白襲、

八日 灌佛、今日猶着白重人隆季卿

十日 隆季卿着白重、中古爲恒事、然而近代不見、或

曰、此事不甘心、宿老人々可然着之、〇按達幸故實抄、爲  
三年五月六日之記。

奴袴事、

十日 〇按達幸故實抄及玉葉、  
是仁安元年十月十日也。 有立太子事、於東三條亭可

有此事、仍院拜宮可渡御、已時着束帶、殊可劇之由有御氣色云々

抑被催旨者、公卿大臣大納言直衣、中納言宰相衣冠、殿上人束帶云々、是康和例也、然而有先例之上、年齡已闕、用織物奴袴、隨身着布衣條、盡美無骨、存略有恐、仍心中所消息也、

三條中納言實房、薄色輪チカへ固文織物奴袴、不出衣、新中納言宗、綾薄色奴袴、治部卿光忠同、平宰相範綾薄色奴袴、六角宰相家、薄色藤丸浮文奴袴、

十四日 天晴、

着殿上床子儀事、并越床子着、無其謂次第事、無

今日新所句也、記者勤、出居、御記曰、後日大納言殿被仰曰、出居作法無指巨難、但不甘心事有二、

越床子着事、

被仰云、越床子着者、更無其謂事也、參議着床子之時、第一人自下方進立前方着之、下臈來之時、居上次第着之、着定之後、上臈有可立事者、自座上方退出、取末人又自座下方退出、中人欲起座之時、上下有人之時越床着中之如意命使勤仕之者起座可越床子儀

故實抄稱、子也、一人着床子之時、何可越哉者、予申云、不立臺盤之前自前着之、立臺盤之後超着歟、被仰云、猶不甘心事也者、此事寂可然事歟、

十月

一日甲子

藏人右少辨長方仰關白牛車事於左衛門督、公光

正三位行權中納言兼左衛門督藤原朝臣公光

奉 敕、關白左大臣宜聽乘車出入宮中者、

應保、

# 長寬元年

## 正月

一日 天晴、内辨取落宣命之時、以非參議見參給參議例、

内侍傳奏之間、取落宣命返給、右府復座、召宰相中將給宣命、實者無之、仍給非參見參、此事令申合大納言殿給歟、

元日節會内辨誤給目六之時、稱是何物哉之由例、右府召大宮宰相給目六、後聞、相公曰、是何物哉、大納言殿令目給、相公下殿了、今日宰相不着祿所、仍不給、而大二條殿爲内辨召經信卿給之、其時經信申是何物哉云々、

七日 天晴、

御酒敕使東面進立例、

御酒敕使大宮宰相<sup>隆</sup>進立簀子之時向東立、

殺人可入何門哉事、

式兵殺人共入西中門、家通兼雅朝臣問予曰、可入何門哉、答云、西中門擬承明門、式兵可用同門也者、

## 二月

大臣參陣日參議候橫敷事、

十三日 軒廊御卜、内大臣參陣行之、宰相中將<sup>實國</sup>候橫敷云々、

廿三日 午剋參内、於殿上有僉議、此事爲大事、可書歟之由、内府被奏、仰云、雖殿上定、大事者可被書也者、<sup>隆季卿</sup>隆相公書之、續紙<sup>紙屋</sup>書之、草案之後、密々於鬼間被清書、殿上定書之條非常儀云々、

廿五日 今日未一點、内大臣參陣、別當候橫敷、<sup>實抄</sup>按放<sup>是九月十一日之文也、又無今日之字、</sup>

## 三月



山槐記 長寬元年三月十二月 長寬二年正月二月

八日 兩社行幸御祈奉幣定文、隆秀卿書之、平野中使左中將實房卿於、定文仁書正三位藤原朝臣實房、

長寬二年

正月

廿三日 拜賀、〇今補

十二月

廿二日 今夜有下名事、無加任、圖書允伊岐宗光依非

本望辭申、仍被止、上卿源大納言定房、宰相信能着陣、

令宰相切棄續之云々、後聞、相公切之、掣細續目懸陰

陽寮、仍頭切入、同寄陰陽寮、了切棄懷中之、

二月

一日 天晴、

十四日 參院、有普賢講、依可勤仕祈年穀奉幣使、不

取布施退出、

十五日 中宮行啓、大進俊經來將軍前問曰、誰曾將軍

已下名謁、帶符簡入帳持弓名謁

十七日 祈年穀奉幣、上卿<sup>右大</sup>被參、被入之間予平伏、

令居定給之後、予又居直、上卿起座被向東廊、信相公

以下平伏、被出暢門之後猶<sup>信能</sup>被經壇上之間、信相公

平伏、予居直、右大辨<sup>賴</sup>問予曰、此平伏如何、予答曰、

隔幔何可平伏哉、大丞諾、

十九日 征方 拜賀着陣、前駐二人、

三月

廿七日壬子 天晴、依國懸社火事、自去廿二日三箇日被行廢朝、其後今日始有政、上卿別當、頭長、去正月廿一日任中納言、今日始着行、予又同日任參議、始又可着、而昨日別當被示送曰、始可着政、今度爲廢朝之後、若可有憚乎、汝所存如何、予答曰、憚之由不存、且承可令着給之由、仍無猶豫之情、但可隨御進止者、重又被命曰、猶相尋示遣、又相尋先例、自是可申付、此疑奉申合大納言殿、御返事曰、政始已爲吉事、不可憚者、又內々相尋大外記師元、答曰、同大納言殿仰、此旨示送大理之許了、返報曰、遣尋人會計了、隨返報可左右者、已始剋召使來曰、別當顯長卿兄也、故兵部卿顯賴卿子、年四十五云々、目來煩邪、今朝大僧都圓仙入滅、別當依假服、今日政不定、申事由之間、暨不可參之由、大外記師元申者、頃之又召使來曰、猶別當可被參之由被仰下、而

山槐記 長寬二年二月三日

不除服爭出仕哉之由、大理被申、有重仰、只今除服可被參者、當日除服定無其例、即參上、乘毛車、隨身垂袴如恒、相于

時午終刻也、於陽明門下車、入南間、隨身雜色、經置路上柳筥辻以西、經置路北、此事依大納言殿命也、予元所見可尋知、但九條殿御流經北路取○所見見人々

隨身以下留之、於外記門前下尻、過了取之、此事不見諸家大納言殿御命也、爲敬外記經、當時無程然、當建春門扉入砌內、南行立巽庇北間、所謂公卿座、南沓脫下揖昇沓脫、

上、着取末、若下藤追加者、揖居定、召使直沓、次左少辨俊經於外記角下尻、正笏入外記門、東夷戶、開相續右宰

相中將實、參上、經籬內之程、於建春門砌外下尻着座、公卿雖有陣、於外記角一許丈下尻、又雖無雜、不可經其中、此旨示同云、次別當被參、於外記角垣第二間邊下尻、經籬中程、

事具否、召使申少納言未參之由、良久少納言重雅參

上、入外記門、上卿令召使被尋大夫史永業曰、大辨左長雅類、共著入道致御服、不候、南申文如何、答曰、雖無大辨有依爲七々中不出仕

申文常事也者、又令召使見結政事了哉否之由、召使申了由、次召使立東砌外當公卿申時、移、守刻服申也、雖時

記門、二度鳴扉、開北扉、南扉本自次上卿下立揖之間、右宰相中將起座、下立之間予又揖起座、着沓下沓脫立歸

也廻揖、上卿斜入外記門、宰相中將并予自砌內北行、自建春門扉間程出砌外、如上卿入外記門、上卿入廳西庇

中間、於小屋戶外不入內、近代如此云々、或入召使相共舍着之宰相中將立西南砌外、過當角程也、猶可立砌歟、猶可雨日入立

間、北面立揖、予立其西揖、次上卿頗東進南面揖、宰相答揖、上卿入廳後、次宰相中將揖、直自南面妻入西庇着

深沓、予立昇宰相中將之立所、次宰相中將揖進小屋戶外、予欲入內、然而予次無

外、人有嫌之故隨上藤了、着深沓、進廳後、入庇北面西戶、經障子後西方立前方揖着也、次少納言重雅、右中辨野方

朝臣、左少辨俊經已上着、入西廊西戶、前人出砌外程、出庭中列立版位、當廳西第四間、次外記一人、景、史三人、、盛職、親景、各着

深入同戶列立辨後、已上少納言、次上卿宣、メ爪、又音微音高少納言辨同音稱唯、實、訖之後六位同音稱唯、高、猶可尋、

辨揖離列、依爲四位、斜至廳與西廊之角霞下入砌內、經床子前着北床子、中丞入砌之間、少納言進着南床子、

左少辨又同着少納言床子南方、次外記以下步列入西庇北第二間、加北作合也、所着長床子、次右中辨起座、申

申文之由、上卿不答、辨微音稱唯、即居、此稱如何、次第一史立座前讀申、上卿宣、與之、辨少納言乍座摩沓、

兩三度須〇頷、微音稱唯、次外記與申文史同音稱唯、各復座、次第二史讀申、次第同前、今度音頭外記史復稱

唯、兩人之失也、次第三史讀申、上卿給、史不復座、外記以下一度起座、自下經廊中出西戶、申文取副、次辨少納

言自下起座、出廳西二間、自作合間入西廊、經廊中出西戶、次少納言入西戶着床子、如退出路、今度次外記師家

大外記師元〇兄、孫、直辨師尚子、捧箱於目上、史生又捧印去十二月任當職、今日始參政云々

橫、入西戶、經庭中、當西第四間、北折入廳、至上卿一許丈斜行、垂筥屈行、於上卿前机下、筥ヲ左サマニ取廻、

置机上退立、拔笏揖、左廻經印机西邊并机南、着南庀東第二間床子、北面、抑不退立西第二間、渡東之由、注次第、可尋。先是史生置印檣於案上退出西戶外、次上卿揮笏於右尻下、不帶級人、揮左云々。以左右手乍机引寄文、此事如何、右手手指可引寄歟、可尋、以右手一々披見文、是又以左手可開歟、文重テ一枚ヲ押重中、翰案方在右方也、無卷文。見了被見遣外記方、即外記起座、直入印机東間、進立上卿前、此間上卿以左右手推筥取笏、笏落傷子下、召使密々、取之奉之、次外記揮笏取筥左廻、經印机西間并南方向机巽角邊北面立、高聲召史生名、音、史生於戶外稱唯起、入其路、至外記西相竝立、外記授筥於史生、拔笏西面立、史生揮笏取筥置印盤西邊机上、取文披置、把笏退立、申印判之由、上卿宣、ヒ、ヒ、史生稱唯、就案揮笏捺印、拔笏退立、申云、印判ツ、上卿見遣少納言方之後、宣、マ、マ、少納言乍座摩沓唯、次史生就案入文於筥授外記、外記揮笏執筥立、史生取印檣退出、次外記又退出、次上卿以下一度可起之由存之處、上卿無可起之氣色、仍右宰相中將起イ起座、揖右廻出廳後、相公又出、

次上卿出、辨以下出立了之由召使來告、予出西廂中間并外記門中央、不、南行經樹與築垣之間、外記門南方、築垣第四間程、去垣四五尺許、取宋人當建奉、門南柱之中、見舊記或書狀、北柱或外記門南去四許丈云々、如此說等頗遠、近年上卿之外宰相一人參、時立樹南邊、大略當垣第二間南程歟、去垣三尺云々、仍計宰相中將可被立之程、兩人中間置六七人許所立也、又頗進西方事、爲合眼上卿也、資仲卿抄曰、或抄曰、取宋人當建奉門南、數少時臨狀滑右廻北面立、不揖、但間有揖人云々、不可然歟、且尋近代程所立也、在右邊、尺許、北山抄云、去、次上卿出外記門、北、進立四五尺許、圓三許尺者、向少納言辨揖、有答揖、次頗向乾小揖、外記史有答揖、次向南揖、參議有答揖、次予左廻、經樹東入南所門、番南築垣第二柱程、去垣一丈許北面立揖、當時無櫻木也、只進下立、次宰相中將立予東、次上卿入門、至小屋外巽角、向良方脫沓、立歸揖、相公并予答揖、上卿當小屋巽柱南、去五六尺許揖參議、直入北可脫沓也、於小屋邊脫沓者、以次人所爲歟、尤失也、上卿入北之後、

宰相中將并予相共平寄、一度二相並寄北方也、當門南柱立、宰相中

將揖立定、失也、欲平寄并立定時不揖事也、次宰相中

將進小屋巽、今度不揖、又不可然、揖可進也、脫沓着淺

沓、左廻揖予、予答揖、相公左廻入北、予揖進脫沓如人

人、先自左足脫也、經北砌內入、依舞下騰、無立歸揖、北面東戶於沓

脫下揖着座、伴長戶當間也、着座次第如此、次少納言入自南庇西一間、東

行着座、即召大舍人、音、大舍人稱唯、右中辨左少辨着

座、以東爲上、少、納言着取末、束帶只一人參上、居盤於上卿前

大盤上、黑漆切盤也、朱盤合子盛飯、箸盛內塗朱、要黑也、其體如

居運飯之左方、作盤置大盤上也、次居宰相前長臺盤上、其體如西壁下敷半

帖、太政大臣座歟、不立机、其東一二間敷半帖、立黑漆

切臺盤爲納言座、其東間敷長帖、其前立長臺盤爲參議

座、南方西面立長臺盤、爲少納言之料也、對納言座南

長押上立長臺盤、一世源氏料也、南庇落板、立長臺盤、

敷長疊等、辨少納言座、皆兼居盤、飯盛蓋、箸蓋、黑漆、盤也、來盛黑合子、已上

雖無其人、居之例也、次右少史盛職入自參議出入之

戶、立東壁下、上卿居直西向之後左願、次史稱唯趁倚

上卿右方進文、上卿置笏取文、史趁歸立本所、上卿如

見左肩見史立定、次史趁寄着床子、立戶西殿、持文杖居、揖力、次上卿披

見文、取表卷紙置長押上、次史寄立文杖於戶押合、趁

進、隨上卿給披見、上卿仰詞、史每度稱唯、史退歸取文

捧退出、次上卿以下立箸、次少納言召大舍人、々々々

稱取持參湯、唯力、入深碗器居盤、取器居加飯後、汁湯居加可持參也、上卿不被

示左右、少納言又無音、辨雖有奇氣色不示其旨、各居

畢更不居汁、仍予不申上、宰相中將令示告無汁之由、

只如居以菜可用汁之由、相公密々被申上卿、上卿承

諾、仍予取笏氣色上卿、伏箸可申也、失也、次上卿漬湯

被食如何、宰相中將以下取菜用汁如食之、即取湯如飲

置之、宰相中將置箸、字又如此、字後說、悟立也、〇之、相公又同失也、上卿被尋右中辨曰、雖

無初參辨少納言有勸盃歟如何、右中丞申云、辨、政始多所

候也者、仍少納言下座、經辨後昇東階跪揖、此揖、取才、捧笏、

取盃、大舍人於堂下傳盃、次少納言入母屋第一間、斜

至上卿前勸盃、取續杓、大舍人取瓶子、宰相中將伏箸

取笏、參進給盃、不可伏箸、又不取笏、只懷中步昇可給之由、大納言殿被仰之也、是其程雖遠爲連座之故也者、又被

目之<sub>レ</sub><sub>レ</sub>近寄不可然、被目者氣色入酒獻、疑之時可<sub>レ</sub>進也、宰相次被擬參進之時、少納言又返給瓶子於大舍人、又取返入酒失也、

予、予受之目右中辨、中辨氣色、予飲之、入酒持辨起

座、經臺盤上<sub>東方</sub>、入母屋一間、自母屋南間出東庇、斜來

予前、揮笏以左右手受盃、予以右手自臺盤上授之、辨取

之退出復座、<sub>已上無揖、蓋</sub>拔笏擬左少辨、飲之左少丞<sub>辨</sub>又擬

少納言、少納言<sub>雖</sub>改勸盃<sub>爲獻盃</sub>飲之、異候儀也、予俯案之、若

右中辨拔箸覆蓋退出、以下同之、次上卿宰相拔箸、<sub>此可</sub>

其次上卿起座、於沓脫下揖之間、宰相中將起座、於沓

脫下揖之間、又予揖起座、辨少納言當門立、<sub>右中辨當門北</sub>

立、上卿進出向第一辨<sub>揖中間一許丈、西宮北山所註其程、北行、</sub>

宰相中將又出門如此、予又如此、上卿於左衛門陣前程

取尻、宰相中將同前、予猶不取、召使雖取之過外記門

取之、<sub>今案、里內之時過外記門可取歟、於左衛門</sub>上卿經置路上

至于陽明門、宰相中將并予經置路北、自櫛笥辻以東昇

置路、於左兵衛門前程又下北、於同門東程下尻、宰相

中將當左兵衛府門東方大樹程<sub>巽面立、予相連同巽向</sub>

立、<sub>或東面、或南面云々、後日大外記師元○兄云、予二阿經置路</sub>巽向猶不快歟、可尋、辨少納言櫛笥辻以西經置路北、外

<sub>北云々、</sub>記史南上東面竝行、上卿下置路、斜至陽明門南戶間

左廻、西向揖、宰相以下答揖、次上卿右廻出門乘車之

間、宰相中將南面立直、予以下同之、次宰相中將揖出

如上卿、宰相中將出門了、予又揖至于門下立歸揖辨以

下、此事雖相尋、多有揖之由所見也、<sub>之イ</sub>寂末參議揖有無

不審也、但事上卿以下舊記不分寂末人々故也、經信卿

不揖之、猶可揖也、出門乘車、上卿以下相引參內、上

卿被着輿座、直可跪被着端座歟如何、宰相中將予着橫

敷、頃之相公起座被參殿上、予又相從、可有申文云々、

後聞、夜陰有位記請印、上卿別當云々、

### 六月小

廿六日 詣吉田社、參議之後始所參也、雖可詣春日

社、遠遼之間忽難遂之故、先所參也、次詣賀茂社、用毛

車、前驅隼人正清定朝臣、左近將監藤原隆仲等也、隨

身垂袴、

廿七日 賑給定、上卿大納言殿、參議資長、左大召外記

左京、

上卿被仰曰、賑給使例文硯可持參之由被仰、次大外記

一條、加北

師元位五持參例文、置大丞座下方、上卿被仰可置上方之

左衛門權佐藤原朝臣爲親、

由、依未召上、候本座之故也、亦上卿召史、令寄掌燈於

少尉平 康俊、

大丞座方、次上卿令目大丞給、大丞直居昇、此事不可

大志清原 能景、

然、第二宰相直進昇、第三以下其程雖近、下座着沓、

二條、

更着第一宰相座也、次置笏於座下方、引寄硯摺墨、次

左兵衛權佐藤原朝臣親信、

引禮紙卷之返入、次綵持紙、更卷返置硯外、先可卷紙之由、先日大

少尉藤原 盛房、

納言殿所被仰也、次取副紙於笏、伺上卿氣色、隨御目置笏染筆、

少志大江 時賢、

上卿被仰云、賑給使、次々隨小書出外記書紙加、令讀給、大

三四條、

丞隨與奪書之、

、 、 、 、 、 、 、 、 、

第二參議直居昇之時無揖例事、

五六條、

、 、 、 、 、 、 、 、 、

卷續紙作法事、

、 、 、 、 、 、 、 、 、

先卷紙、次可摺墨之由、大納言殿有仰事、小書出事、

、 、 、 、 、 、 、 、 、

已上見上、

七八條、

、 、 、 、 、 、 、 、 、

賑給使定文白紙書樣事、

、 、 、 、 、 、 、 、 、

賑給使、

右京、

一條、加北邊

二條、

三四條、

五六條、

七八條、

長寛二年六月廿七日

以上大概如此、抑四五條外記書落折紙、仍上卿以差文覽之、以無彼折紙、人々被書入、上卿被仰云、右馬屬代入兵庫屬存代官之由、而書入馬寮差文如何、大外記師元候宣仁門外、右大辨雅頼被傳尋此事、師元申云、本所差文之馬屬俄出家、仍取代官賜彼寮、仍以兵庫屬入差文也者、上卿被仰云、然者助代兵庫頭頼政入折紙、不入差文如何、師元申云、五位以上爲代官者、不入本寮差文也、亦上卿被仰大丞云、或書七八條歟、或書七八九條、此例文、久壽二年只書七八條、其外皆書七八九條、被案旨如何、大丞申云、可書七八九條歟、上卿被仰曰、七八條已在其中、只隨存知可被書者、亦上卿如何之由被仰、予并右大丞兩人共申、可被加、於宣仁



門外申云、書七八條、已九條其中候也、加北邊者一條北武者小路候之故也、依上卿御疑、外史一口等書七八條、最不可然事也、右大丞有不甘心之氣、予依無益強不申出、久壽二年定文、左右京共書七八條之由、予奉尋、上卿被仰云、右京許也、左京者加九字、以之知之落字歟、此事專無其理、所謂一條者、自土御門至于中御門、二條者、自中御門至于二條、三條者、自二條至于三條、如此次第可計、仍以坊門立條中、一條內有四坊、一坊內有四保、小一條者、近衛南東洞院西町也、東三條者、一條北西洞院東也、小六條者、楊梅北鳥丸西也、故皆有條號、何以大路許存九條哉、亦北邊者、一條南土御門北也、昔以土御門爲一條大路、其後北邊二丁被入宮城、既爲京中、仍有賑給、師元存武者小路、最不審、重可尋事也、依其儀者、京極東有朱雀堤、被寄彼如何、亦右京加北邊、右京有武者小路歟、旁無理、無異儀可書七八九條事也、左大丞書了定文、今座不加禮紙也、亦不同上卿氣色、直參進也、押造硯於座下方、取副定文於笏、參進揖、置笏於與方、

奉定文、上卿取之、令置宮上給、大丞取笏歸座、不揖如度揖者欲退、亦可揖歟、上卿令披見定文給、被仰云、康俊被書俊房、能景被書良景、亦相替文字等、多可付爪點、可被摺改者、大丞亦參進賜之、取出小刀摺之、書改返上之、次上卿入定文於宮、外記令持之、出宣仁門代、就弓場被奏之、此間予出宣仁門外、上卿令歸着座之後予復座、書了不伺上卿目、直參進、不可然歟事、

於上卿前有揖事、

置笏於與方於上卿前事也、事、

上卿披見文以前復座例事、

上卿就弓場奏聞之間致家禮公卿同起座事、

以上見上、

於宣仁門外伺上卿氣色着座事、

廿九日此條據野宮本及故實抄校之、天晴、廿二社奉幣定、大納言殿兼

令着端座給、予於宣仁門外伺御氣色、取笏令目給、予欲着座之間、上卿被仰云、直可着者、仍至于第一宰相座下揖、昇着座、依上卿命直着第一參議座事、

見上、

上卿大納言殿召外記、廿二社奉幣例文トイフミ、頃之持之、例文置上卿御前、硯置予座上方、予置笏於座下方、引寄硯於前方、先取紙白紙、引禮紙、置續紙於硯下、細卷禮紙、爲不令蔓ハヒコラフ、取合中程、如常返入硯筥、次繆持續紙、更卷返、亦置硯傍摺墨、加筆○二字野本作、次染筆置筆臺、取副續紙於笏紙在、伺上卿御氣色、上卿取笏令目給、予置笏染筆書之、依墨薄、亦取加墨於筆欲摺太凡事也、覺語、即置筆取墨許摺之、大納言殿被仰云、光賴卿爲參議之時、太政大臣伊、爲上卿書定文、中間摺墨令筆尻取墨、太相國太凡之由被示旨、光賴卿後日語我、自知其○知底本作取、據野本改、知其二字故實抄、作所知、失也、内々常習事如此書來也、

定文書樣、

奉幣諸社使、

伊勢、○底本及故實抄缺之、據野本補

石清水、

權中納言藤原朝臣俊通、

散位源朝臣仲賴、

賀茂、

從三位藤原朝臣俊盛、

散位藤原朝臣經國、

松尾、

參議藤原朝臣忠親、

散位源朝臣盛賴、

平野、

參議源朝臣雅賴、

稻荷、

散位藤原朝臣家實、

春日、

散位藤原朝臣爲實、

大原野、

散位藤原朝臣有盛、

大神、

散位橘朝臣政光、

石上、

散位源朝臣家季、

大和、

出雲權守紀朝臣重頼、

廣瀬、

散位藤原朝臣資兼、齊、

龍田、

散位中原朝臣範安、

住吉、

内藏助中原朝臣親成、

日吉、

隼人正橋朝臣清定、

梅宮、

甲斐權守橘朝臣以明、

吉田、

散位藤原朝臣爲範、

廣田、

散位高階朝臣泰綱、

祇園、

散位高階朝臣重範、

北野、

治部權少輔菅原朝臣貞衡、

丹生、

貴布禰、

長寛二年六月廿九日

已上如此、伊勢丹生貴布禰不書使、置其所例也、散三位書從三位、參議雖有兼官只書參議也、抑書住吉了、次上卿被仰梅宮、予申云、可書日吉歟、上卿被仰云、外記所注進如件、但可見次第、令披見御次第并例文給、如予申、仍有御承諾、書了卷之、不加禮紙、取副笏、推遣硯於座下方、起座步端座方、大内儀片足踏帖縁、片足踏差、跪上卿前小

揖、置笏於座與方、以左右手取定文奉上卿、々々取之  
令置管上、令取笏給、予亦取笏小揖、廻與方至參議座、  
乍向彼座突膝居廻揖候、上卿令披見定文給、付頭中將  
被奏、即返給、召外記管加入例文并定文日時等、外記  
取之、過予之後之間、推遣硯筥、外記重之退出、次予揖  
起座、着沓揖歸着橫敷、我座之程也

(本云、此間被損出損)

置笏於座下方事、

先卷紙、次摺墨事、

卷禮紙爲令不臺取合中程故實事、

如取筆取墨樣事、

欲摺墨引寄硯之時、不伺上卿氣色之事、

中間摺墨之時取加筆爲凡儀事、

墨薄之時重摺墨事、

書了取副文於笏、押下硯於座下事、

參進上卿前之時路并此陣、事、

於上卿前有揖事、

上卿不被見以前、依氣色參議復本座事、例イ  
上卿披見文之後、起第一座歸着我座事、

具侍事、遠所之時、雖乘毛車具侍也

被發遣、廿二社奉幣、予勤使、侍三人共用毛車

欲乘車之時下薦有後立歸事、

廿二社奉幣上卿令向八省給、予奉相從、元大外記元已下

又引率、予於欲駕車所立歸、向大外記小揖乘之、

野宮本奥書〇三月及六月之奧

文化十年九月十五日、以滋野非本、仰定群會書寫之、

藤(判)

## 十月

一日 雨降、入夜參院、

五日 左大辨兼光申上之、先下薦可申上之由、大丞觸中

將、通中將答大辨可申上之由、仍大丞申之、

十三日 維摩會衾送關白藏入所、

送文書樣、

左宰相中將家、

奉送、

弐貳條、

右維摩會料奉送如件、

長寬二年十月十三日事業正親祐大江盛親 故

實抄 作房、

十七日○按故實抄、七日也、次自上次第出陣後、取弓矢、取弓矢事、先日奉奉大

納言殿、命曰、右手取矢、尻方在左、弓柄下方、右手取如、左手握弓柄

上方、右手取、左手持之着座、置脊上、但此殿御所在公卿座左方、

然者矢許取返、以尻爲首可置也、矢尻不向御所方之故也、孟流之時、立

弓於弓立、自座下方立之也者、宗家瑠曰、內大臣被申(○命)曰、弓可

持左手者、此事中大納言、被仰云、未見其說、不可然者、

着與座路事、抄爲十月一日、故實

實國卿着與、而於端座未脫沓、經臺盤下着與、是大內儀

也、此陣便只昇與座末方、人々皆如此、予亦昇與方了、

下臈宰相可着與座有例事、

人々參集、相共着陣、中宮權大夫管長、宰相中將實、中御門宰相宗家、予等也、居了辨來

弓場觸上卿、人々以下着陣、依無立陽殿被用陣座、追中大納言、被仰云、可着端座、納言雖與

何事有哉、在此儀者、九月九日雖無、然而故殿御記後日引見之處、上卿參、讓各一人參時、猶令着與給、亦舊記着與座、仍今日着與、

十一月

十四日 今日被發遣荷前使也、先可被行復任之由、召

使來催、仍參內、別當顯被候小板敷、予亦候殿上邊、頃

別當被着陣、件勘文等令外記被內覽、次就御所被奏

之、予書之、越前守保盛也、件勘文懸鈎、亦有文武官勘

文一通、不摺可字令返上、付御所被奏、

十五日 尊勝寺灌頂也、可有僧名定之由、召使來催、

仍所參內也、申刻彼寺上卿源大納言通、被參陣、上卿直

被着端座、召右中辨朝方朝臣召日時、即持來也、即可

令進例文祝筥等之由、被仰彼辨、史持參也、予書定文、

書樣、白紙也、

尊勝寺灌頂、

大阿闍梨、

權僧正俊圓、

讀衆、

法眼和尚位、

權律師、

法橋上人位、

家寬、

、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、  
、

長寛二年十二月十五日

僧名賜予、仍書寫之、上卿被命云、至大辨者上卿讀之令書、於他人者進僧名、是故人口傳也者、書了返上、予觸申云、近年宰相只書僧名許、不參御寺云云、上卿被命云、不可參、

硯無水時、取水瓶入水摺墨事、以之本之、不可必入水馬歟、

十五日○按故實抄、是文治元年十一月十五日也、齋宮卜定、御記云、欲摺墨無

水、仍取瓶入水摺之、

卷取懸紙、爲早速不卷直、以本下方爲左方、返入硯宮

事、

同日御記曰、予取紙置硯宮左方、奥座、二枚ヲ與様へ卷

取テ、返入硯下方、更不卷返、仍以下方、方左方置之、

加敘執筆事、并下名次敘位執筆事、

同日被行下名、上卿平中納言、親、新宰相公時、也、今夜彼

人令切入除目夜彼位簿、是正月七日加敘之儀如此、是、除

目下名之時全無此儀、各當日下內記之故也、兩人所爲

未曾有事也、納言退出之時、於陣殿大外記師尙示此子

細云々、驚歎、相具相公於小板敷皆放棄也、忽書敘位、

於非陣之所書之敘位、言語不及事也、除目次令敘位簿

如元可讀之由、中納言示大外記云々、散々被切之間極

見苦、仍大外記密々持向右大辨、定長、除目、令書直云々、

公事滅亡存在此時歟、

下名次敘位更可書簿事、

已上見前、右見、

「廿日○按故實抄、是仁安二年十一月廿七日也、天晴、今日攝政參詣春日社、

春宮權大夫那綱、前宰相、淺黃奴袴、源宰相實、淺黃奴袴、左大

辨類同、

三位中將兼紫織物奴袴、裏欺冬、織物褂、紫匂衣、紅單衣、左兵衛督成範也、非薄色綾奴袴、新三位方、淺黃奴袴、右兵衛督時忠、四同上、

「廿一日」是文仁安二年十一月廿八日也、參院據處可疑、今日三位中將兼

被着織物梅下重表袴如恒、

「廿二日」據故實抄、是仁安二年十一月廿九日也、三位中將兼薄色浮文奴袴、

出紅打衣、可尋、

白重事以下、故實抄爲治承四年四月八日、

今日三位中將額、被參內、着白襲、朔日不着束帶、火本事

時着直衣、右少辨兼忠同着白襲、朔日不參云々、

光雅云、朔日右少辨不參而着白重之由承之、如何、不

審事也者、

「鞠足直衣時雖夏時冬扇例、已下按故實抄、壽永元年八月廿五日之文也、

成菩提院彼岸結願也、刑部卿輔直衣時槍扇、

「廿二日」按故實抄、是壽永二年二月廿一日也、朝觀行幸、已剋帶束帶、唐藏大須幾、櫻下重、裏張之、唐鏡、新宰相中將、泰通、唐藏大地窠文表袴、緋地不緒沈地劍、打櫻下襲

「廿三日甲辰」按故實抄、是文治五年七月十三日也、晴陰不定、今日以上六字可疑、

右大辨定長相、始着直衣出仕、來予亭、着薄色奴袴、不持笏、持冬扇、

「廿八日」按達幸故實抄、是長寬二年十一月十八日也、豐明節會也、今夜不審事、拜間左大辨立三位宰相列、可列三位中納言後也、

納言宣命可追版去三許尺事、

參議宣命可迫寄版事、

初宣命使隆季卿去版三許尺、納言宣命使如此歟、參議可迫存(〇在)本所立歟、寄歟、但宣命版今夜頗進北仍

依夜陰宣命使略曲折揖事、

後宣命使實國卿常眉程歟、欲折東時進退皆無揖、後曰、陰略

着南座之人昇降階間可副南事、

今日右府下階間副北、可尋、多副南上下歟、

西禮儀取祿可左廻歟事、

今日押小路殿西禮、右府、權大納言長、實給祿左廻、此日

記者參入給、

(○是後有永萬元年正月記、以與後出者重複且其質更劣於後者○全達故之抄出也)削之、

長寬三年(永萬元年改元)

正月

這山槐記者、借請管中納言爲遍卿、以自筆本書令

書寫者也、

慶安二年十二月日

藤原隆貞

一日辛亥 天晴風靜、珍重々々、

午刻着束帶參院巡方魚袋筋銀(委七元旨猶見拜禮部)、拜禮、

次參內小朝拜、見彼部

次右府以下着陣、

公光、定房、顯長、宗家、資長着之、

右府被着移外座之後、實房、予着之、

次頭辨範、進出仰內辨、

次右府被着端座、

次召官人令敷膝突、即被仰可召外記之由、官人清經

鹽頭(預錄)敷賦之後更退居、稱唯退出、召外記、大外記

師元朝臣參進、被問諸司具否并外任奏候哉之由、申候

之由、內辨被示可持參之由、師元稱唯退出、持參之、內

辨不被開之、或次第云、必開之云々、可尋、師元退歸、

次令官人召頭辨、頭辨參進、被奏外任奏、曰、又被奏七諸司奏可

山槐記 長寬三年十二月 長寬三年正月



付内侍所之由、頭辨奏之、又返下、右府披懸紙、倍七二押折置宮内被結、頭辨仰詞云々、如恒、内辨奏整之、返入宮之後、頭辨仰諸司奏可付内侍所之由、聞食、退歸、次召外記、師元朝臣參進下之、

次右府被示左衛門督曰、今者可被着外辨歟者、仍金吾以下着外辨、次第如恒、少納言資隆召外辨、諸卿列立、大略一列、可謝座謝酒了着堂上座、爲異位重行、

光光、定房、顯長、俊通、光忠、隆季、宗家、資長、

三位中將昇階上、依無座退出、予又退出、

抑左大辨示予曰、大辨爲上臈時、物居丁申上之、隨内辨命下殿催事、猶可爲下臈參議之役歟、予答曰、雖爲上臈大辨、必着端座催事申上歟、大丞曰、此事先日申承大納言殿、被仰云、於雜事者、雖非大辨、可爲下臈參議之役歟者、予、然者勿論、但件事未尋申大納言殿者、大丞猶成鬱結、於陣後尋申右府、歸來曰、猶大辨下殿可催也者、如予案、可尋申大納言殿、不申也、○不申二字、故實無之、

後聞、餽飽大丞下殿催之、奉内辨仰稱唯云々、此事如何可尋、飯汁事、欲起座内辨思失、只乍座可仰之、由被示云々、國栖内辨下殿催之、御酒敕使光忠卿、宣命使宗家卿云々、彼卿談云、進立内辨後之時、又給宣命之後、共不揖、是前内府命也、無程故也云々、此事有說々、或兩度揖、先日奉尋大納言殿、御答云、故中院右府被敕訓云、進立時不揖、給宣命揖者、於予者可用此儀也、

二日千子

參院、次參殿下、

朝觀行幸法住寺殿、有勸賞、

正四位下實家、皇后宮、

從四位上賴季、

從四位下定規、院、不可少將、

三日癸丑 參右府、

五日乙卯 晴天、敝位儀式如恒例、

七日丁巳 天晴、

今日謝酒了着堂上、依無座中御門宰相宗、雖爲左大辨之上薦、大辨必可候座之故、相公相議於西階邊留也、

今日右衛門督公、爲宣命使、右府以下列立宣陽殿代南

第三間、東而北上、宣命版先之撤却、右府尋召之、即持參之、

右府命之令置自南第四間砌內、宣命使就版宣制、右

願左廻復座、何、可尋、又版位置遠之時棄版位、只立第三間、是先賢作法也、度々有其例、金

晉亦就版不可然事歟、

○已下逢幸故實抄爲養和元年正月一日之記、按公卿補任等實然、

「左大將 實定、平胡錄、線、

別當、時忠、防劍、魚袋、不帶弓箭、但相具平胡錄、不候節會、

右衛門督、實家、宣胡錄、線、不付魚袋、

右宰相中將、類實、同右衛門督、即衛府、

大宮宰相、實宗、同右、

三位中將、實守、同右衛門督、

新宰相中將、通親、同右、

三位中將後日猶可帶弓箭之由被稱云、北山抄武德殿

儀、依節會不帶弓箭之旨見出云々、

山槐記 長寬三年正月

節會日警固例、天慶三將門亂、平治二年信賴卿亂、今年賴朝等也、而天慶三年正月一日小野宮殿記云、余爲內辨、但衛府佐等帶弓箭者、于時小野宮殿大納言右大將也、已謂衛府、於公卿者不帶弓箭之由、所了見也、

同七日吏部王記云、諸衛次官以上因警固帶弓箭、不用杖棒、但公卿兼武官者依常儀、是亦公卿不帶弓

箭之由分明歟、彼時公卿十一人爲衛府人、小野宮

殿、註、九條殿、中納言左、衛門督、右宰相、敦忠卿中將、等也、彼度可爲

規模、隨真信公見在給、藤氏人皆彼御所爲、又不可

疑吏部王記水心抄等、而平治松殿爲中納言中將、被

帶弓箭、閑院黨又同着之、光賴雜方卿兩人依吏部王

記、于時法性寺殿見存給、只可隨人々所爲給之由被

仰云々、亦八條相國行、實此條實不及恐忌事也、

今度閑院黨皆如平治例、於今尤可然、三位中將亦同

之、左府諷諫歟、可爲規模事歟、又平治賴定卿帶平

胡錄、是左府諷諫也、而今度實教朝臣問左府帶

盡、彼朝臣爲公親卿猶子、如閑院一族、仍有此命歟、於予者猶可依天慶例之由所存也、抑不帶弓箭之公卿可相具胡籙哉否之由、大理右武衛被相尋、答曰、依不可用雖不相具、何事有哉、但爲不慮之備相具之、可有其理者、可帶弓箭哉否之條、彼兩人兼日示合、天慶例難破之由答了、新宰相中將云、平治度光

賴卿所爲者、中院右府諷諫也者、○二字據故實抄補、

後日此由申前太相國、被仰云、無實也、故久我内府其時被談云、光賴申所爲於中院入道、被答云、

サテモ有ナン、以之思彼時、不見天慶例、只一向

存誓固許歟、光賴獨見之者歟、

八日戊午 天晴、及夕陰、

今日可被           、當令 敕使           

九日己未 參賀茂社、參殿下、入夜歸宅、

昨日祭泰山府君、予           

廿一日辛未 除目始、

今夜不審事、院宮御申文有十二通近衛カ御御給所十所也、

其中大宮不被獻、然者可有九通之處、院八條院各二通、齋院一通云々、右大辨復座之後示曰、至此事宰相力不及、爲封、不知可留何文、仍皆獻之者、予答曰、於兩院御申文實難進止、何爲至于齋院者非准后、更不可加院宮之中、不加封可付職事、可入公卿當年給之内歟、然者不可被取之歟、大丞尤可然之由諾、

亦御申文持參之時、三通取副笏殘懷中云々、此事不可然、申文多之時押纏端袖持之、不知彼說歟、

今日予被下勘御給等、着孔雀間座下、大外記師元朝

臣、事了退出、明夜可勘上之故也、不勘上之○據故實間抄補

不着御前座、

後聞、今夜可勘上之由、令藏人執筆被仰、予存明夜

可進之由被仰旨、失錯也、

廿二日 予不着陣、賜下勘文、不返上之間、不着御前

座、而管文人不足可及、予仍所立也、於陣後謁大外記

師元朝臣、被下之文等比コ 二合二枚重テ卷之、如本付短册、二

予、予取之懷中、執筆着座後可奉也、此間候陣、公卿右

大臣、中宮大夫、定長、右大辨類雜等也、予猶可着座之由右

府被命云々、於中門邊逢新中納言、後通、予示此旨、納言

着陣了、予不着、右府被進弓場之間、於便所陳此旨、執

筆着座總大間、次居火櫃了之後、予持參文返上着座、

同日功過定、予懸鉤於表紙上文、

如此懸也、○是四字及鉤、已下、據一本及故實抄補、

勘解由大勘文、實仲抄、懸鉤如此也、然而、鉤體以無刻目爲善云々、

廿二日壬申 天晴、今日大丞雅賴曰、可用功過定文餘紙歟、此事不分明、

予又不分明、但存功過定之時、於硯者便不用之由、注

或抄、紙事不分明、但猶紙屋紙可宜歟、大丞召藏人召

紙書之、後日奉尋亞祖、被仰曰、有兩說、多用白紙歟、先々有沙汰之

時多用白紙、予申云、此事何故歟、被仰云、不知其由者、此事猶不審事也、召藏人召紙、白紙可

召何所歟、紙屋紙可無難事歟、同日功過定、右大辨帳讀了

之後、予置笏於座下方、以右食指引寄硯、取續紙、自置

座下方、取懸紙細卷返、入硯篋、取續紙卷返、置硯篋下

外方、摺墨染筆、如元置筆臺、取副紙於笏請益、置笏染

筆書之、

山 槐 記 長寬三年正月

廿三日癸酉

除目清書、右大辨類雜相共書之、予書、敷任一枚、奏任別紙一

而不得書之由示予、仍籠筆彌紙國書之也、右大辨、奏任奥自木工頭

奏任文官一枚、至于良部書之、召名二枚、右大辨、一通、武官奏任

一枚、武官、予先書了觸上卿退出、○難曉按文意、是係

當在今日之末文、大間上卿下給予、々披見之、召黃紙爲故實、隨召進之

云々、折堺許入硯篋也、又召予被下勘前高陽院內官未

給、予着孔雀間下、大外記師元朝臣起座候小板敷、頃

之以六位外記勘送之、予取之獻之執筆左廻復座、

又有受領舉、人々於弓場殿邊召外記、令進料紙、定房

俊通納言之後書也、此兩納言兼書之懷中、予見新彼解由

所等、隨思書入之、亦書入名字、令外記封其上書名上

字、取副笏各着御前座、次第獻之、

今日清書、○四字、故實抄兩、无故外記持來大間、上卿下給、予披之、

衆人競來見之、召黃紙爲故實、隨召進之云々、折堺許

入硯篋也、次清書、右大辨類雜相共書之、予書、○初文、當按此、

廿四日甲戌

二七五

各有拜禮、

廿五日乙亥 晴天、

參北野、

廿六日丙子 風少々、

下名使平盛國、右、平有成、左、其平中納言郎等、

廿八日戊寅

宗家卿入來、六波羅使、

彌勒講行、

廿九日己卯

參院、入夜歸路、實家卿相伴云々、

民部卿季成願滅云々、年□

□講行也、

二月

一日庚辰 晴天、

參院、次參殿下、

三日壬午

參賀茂平野社、

十日己丑

□宣命□

上卿源大納言、左少辨行隆、

今日太政大臣依重病出家入道、今年七十三歲、老病大

切義也云々、○公卿補任爲十一日之事

十五日甲午 大雨頻終日不止、事云々、

參殿下、

前太政大臣薨、年七十三

十八日丁酉

御修法始、五壇

廿五日甲辰

□尊勝陀羅尼供養□

廿六日乙巳 天晴、

右少將口時以院宣示送云、觸禁中穢、可參

門外、有可被仰事也、予申目所勞、即又仰云、

今日祈年穀奉幣、

上卿源大納言、右少辨長方、兼綱、

伊勢使、

中臣權少祐親長、願歎

忌部大隅前司孝重、

(○以下破損)

三月

一日庚戌 天晴、參院、

七日丙辰 小雨下、

除日被行、

左兵衛尉源信賢、藏人依

木工大工園弘、俄口任也

山槐記 長寛三年二月三月

八日丁巳 晴天、

 參大殿、覽折紙、仰云、早可申院、

 申關白殿、仰同前、

 親朝臣中將事、 

九日戊午、

石清水臨時祭如恒例、

使朝方朝臣、左中辨

 上奉幣差文、

中臣爲真、祓

忌部致光、

卜部兼遠、本方

十日己午 晴、

參殿下、

行幸奉幣發遣、仍 

上卿新中納言實國、右少辨長方、

賀茂社八幡行幸有奉幣云々、

廿二日辛未 小雨降、

廿三日壬申 天晴、及午剋雨下、

石清水行幸、殿下、左右大將供奉也、上卿權中納言實

國卿、參議資光、右少辨長方、

神祇官行列祐長親、宗〔二人史生等也、

### 四月

二日 雨下、

今日已剋着量〔半比下重用之、宿侍人々或共直衣、或

冬衣冠、改御裝束、藏人奉行、藏人所衆雜役雜色可參

云々、

十六日甲午 雨下、晚頭雨止、

齋王禮如恒例、

左兵衛佐雅隆、小舍人童一人、二盃款冬衣、隨身二人、着盤袴着(○委力)襪、無雜色、

伊賀守資能、小舍人童二人、朋黃款冬衣、上括、雜色、六人着白張、

左兵衛佐賴實、小舍人、雜色四人、着盤袴、白張、隨身二人、着盤袴 〓

兵衛佐隆房、隨身四人、着盤袴、實平胡袴、依爲右用、隨身皆取松明前行、馬副二人、取松明在馬後、無雜色、

右少將 隨身二人、着盤袴、傍鞭

右少 〓

〔美濃守〕 雜色九人、童一人、

〔此間數行缺〕

口藏人五位六人、殿上六位二人、共兵衛尉爲前驅、

紅黃也、盡美麗也、相具七八人、

皇后宮使權大進懷經、淡路守也、

引馬櫛 官人助弘、公弘子息也、

番長武助、武道法師子息、

〓 不可用口取云々、

十八日丙申

賀茂行幸延引云々、

十九日丁酉

祭如例年、

使右中將實守、

重近、兼頼、兼任、近種、已上院御隨身也、

爲櫛大宮使亮經盛朝臣、

兼國、兼成爲引馬櫛、

廿日戊戌 天陰、戌刻許雨降、

中宮使大進光長、雜色紫色袴

殿下御隨身四人武成、師武、武安、忠武、爲櫛、物具美麗也云々、

希代事、若有其例歟、或人云、

廿二日庚子 雨下、

院御登山、七ヶ日云々、

公卿六人、殿上人廿餘人爲前駟、

中納言定房、

公保、

實國、

參議親範、

三位實房、

隆季、○按公卿補任、實國隆季當時參議、隆季列實國上、

山槐記 長寛三年四月

廿三日辛丑

御不豫、仍造五大尊、結講右大臣、

廿六日甲辰

參殿下、

今日入道範兼薨去云々、

廿七日乙巳 雨天、今月天氣依無晴、止雨奉幣定云

廿八日丙午 不晴、

御不豫也、

卅日戊申 雨天、

參内、次參殿下、

有十社奉幣、依御不豫也、

上卿新大納言實定卿、左少辨行隆、

伊勢使王行請、

中臣 永親、

忌部 茂重、

卜部 伊致、

致頼、



宣命草



御靈會、

廿五日



參蓮華王院、

阿闍梨



六 月

三日庚辰

向東山清水寺、

入夜參院、

四日辛巳 陰天、

卯上剋大地震、仍參内云々、

五日壬午

寅剋地震、驚入云々、

今日改元爲永萬元年云々、

十日丁亥

御卜奏如恒例云々、

十一日戊子

月次祭如恒例、

十五日壬辰

這山槐記一本、自方長彌借受令書寫華、但亦書反古共ニ書寫也、其之書達幸故實抄也、畢一校了、

元祿十年五月廿日

藤原 篤

長寬三年（永萬元）

六月 大癸未

三日庚辰 未刻雷雨、爲息災奉圖始五大方像、請

令加持御衣木、又令授入齋戒佛師云々、今朝

淨衣、絹、不可用膠之由仰合云々、

依兒女子說、遣小兒於粟田口令賣、相具飯酒、

五日 天晴、今日有改元、改長寬三年爲永萬元也、

予不參、依有犬死穢也、此由昨日召々使觸大外記師口

朝臣畢、左府被奉行<sub>元方</sub>之、口假服右大臣已

申博士參議左大辨資長朝臣、式部大輔兼大

朝臣、安貞<sub>應曆</sub>、文章博士兼陸奥守長光朝臣、

左少辨兼文章博士中宮大進俊經<sub>永萬</sub>、等也、參仕公卿

右大臣、經、按察、公、新大納言、實、別當、左兵衛督、

大宮宰相、右宰相中將、宗、右大辨、賴、

等云々、後日藏人木工頭重方<sub>奉行職</sub>、示送曰、

安貞 宜在敕定由議申、一同可申之由重被仰下、其

難云々、但以永萬可爲年號之由被仰下了、任  
元永 年例、可令作 之由宣下右府詔書施行以  
前

○此間缺致敬

宣旨職人

自陣被 大納

給 大納

左大臣、中宮大 權中納言、後、新中納言、國、

宰相、右宰相中將、宗、右大辨、平宰相、親、等

着陣、此間予依有可尋問事不着陣、左大辨 未着

之、追欲着、雖進宣仁門、依無座候殿 頃

之又大宮宰相被來坐、三位中將、房、治部卿 候殿

上、別當、今日陣儀不見及、月 之

間予窺見之、先左少將脩範朝臣、帶劍 將

監、兼左兵衛佐、此後良久右兵衛佐實保 參列、

又右中將實宗朝臣出來曰、可列 將監已

參入、勿論、左衛門遲參、又 爲親

參入、左府口與口被口之宣命也、

今日陣事不見及、亥刻諸卿辨被昇堂上、

大宮宰相予不着外辨、於無名門邊之、新中納

言國、為宣命使、別當、保、右宰相中將帶弓箭列外

辨、次諸卿中宮大夫(貫長、別當(公孫、)新中納言實國、

辨也、左大辨貫長、右大辨(親範、)平宰相三位中將實房、治部卿免隆、非參

御座孫庇、自御帳經南殿御後、御方前、至于

東中門敷筵、地上又如此、出東中門并東口東洞院北行

同敷之、此間內侍取璽立畫御座御前口左右、取璽內侍經

關白召藏人木工頭重方被仰人々云、為前行可被參口、

人々頗重方重取御氣色、被仰口仰可前行也、然

者於堂上堂下者各可相計者、仍口人向東中門邊可列

立歎、然而只且以前行諸狼藉殊甚、前行公卿

皆步筵道、掃部寮取第敷續之、又每迂引嚮

云々、又有武士少々、藏人將家通朝臣取御劔

前行、左中將實家朝臣皆以紫絹裹之、衛府公

卿平胡籙、但淺履或又用無裏、隨身垂袴壺

也、近衛將縫殿時繪劔外衛闕殿平胡籙、但隨身猶

垂袴壺親隨身負狩胡籙、警固口仰

後日左兵衛佐隆房如口嚴親相公口

被答了、又予示曰、步行幸之時、

雖五位何、相公諸不差之云々、東洞院

北行、入新帝御所西門、洞院、公卿列立如行幸之時、間

宰相中將守次劔璽持之昇立南階簀子、此間次將

階西殿了、此事可尋、依候南庇西方給、內侍良久

不出來、卿相不堪列了、次內侍出御帳左右

方、兩將授劔璽如行幸儀、取之持參夜御殿云々、

此間御裝束清涼殿之儀次攝政召藏人光能、先帝藏

也、被仰補給藏人之由、又被仰昇殿人、藏人又被口牛車

輦車口也、如元之口云々、次攝政先帶劔獨拜給次公卿

侍臣藏人等中門外北上東面列立、公卿一列殿上人一列、不

無極、拜舞昇殿、

藏人頭、

右近衛權中將家通、先帝

左近衛權中將兼雅、同子時從四位上、

五位藏人、

木工頭重方、先帝五

右少辨長方、同、

右衛門權佐爲親、今日新被補權左少辨不殺

六位、

藤原光能、先帝一藤給新也、  
文章博士長光朝臣子、

大膳權亮同定長、故權右中辨光房朝臣五男、年十一、  
申補之、祖父爲藤原堀河院

地下大膳亮補二藏、年又

源宗房、故左馬權頭顯定朝臣子、源中納言

藤原顯房、家歟、前能登守重家朝臣二男、  
皇嘉門院別當代云々、

平經兼、若狹守經盛朝臣二男、  
所妻不聞

殿上人、

正四位下行大藏卿藤原朝臣長成、

正四位下行左京大夫右方亮播摩守藤原朝臣中宮方

正四位下行左近衛權中將藤原朝臣實家、

正四位下行右近衛權中將藤原朝臣實守、

正四位下行左近衛權中將藤原朝臣賴定、

從四位上行右近衛權中將藤原朝臣實宗、

從四位上行侍從源朝臣俊光、

從四位上行左近衛權少將兼駿河守藤原朝臣雅長、

從四位下行右近衛權中將藤原朝臣兼房、

從五位上行左近衛權少將藤原朝臣泰通、

從五位上行左馬頭兼美作守平朝臣宗盛、

從五位上行少納言兼侍從源朝臣

從五位上行侍從源朝臣臣方

從五位上行左兵衛權方佐兼因幡守藤原朝臣朝隆房方

從五位上行三河守藤原朝臣光雅、

從五位上行右近衛權少將藤原朝臣賴實、

被補非藏人、

出納右衛門志中原清重、被渡也、先帝

所衆瀧口各上臈二人被渡之、所衆內舍人口(○中丸)原

主殿司六人參上云々、  
賴中原賴弘瀧口藤原親綱、  
賴同信清

次五位藏人可付於簡、其後各着湯漬、後供膳

可奏吉書也、口早以可覽吉書之由、自殿下御直廬譚責、仍人々不調首尾、應德爲隆卿先着無文裝

殿、湯漬之後改裝束、依彼例今夜定長令

東昇殿、吉書事甚早速、仍逐電、下藏人町

束、子付侍從後光朝臣申請殿下御裝束半比下也、入平裝遣藏人

可尋、同時可着歟、如此之間頭正五位藏人參御直

吉書次第不同云々、甚不可然、頭以下十人職事

口次第可覽也、此後六位藏人率參攝政、只今御東

口條之間也、令左京權大夫信範

口召取

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

之殊恩也、藏人町母屋庇各一間云々、籠疊口手洗檜紙管硯管等可送之由下知了、御更衣行事未勤仕之前、不用高麗、可敷紫云々、

今夜事、藏人右少辨長方所奉行也、

廿六日癸卯 去夜自先帝所被渡之御裝束、被納々殿云々、

廿七日甲辰 天晴、未刻參新院、御所體甚冷然、兼尤

口意事也、次參中宮御方、次參大納言殿、申承

口參內、至于今夜有名謁、口其期祇候伺見

口以下列居一間贊子、藏人大膳亮定長問之、

口名謁、次瀧口候西對砌邊、定長又問云、誰々加

口名謁、依無燈樓火指脂燭、

廿八日乙巳 或人曰、新院御惱猶不輕、今日石屋聖人

密參入奉灸御胸二所、各廿一草、相模守信保奉灸

口聖人療轉屍病云々、自平中納言被舉云々、

口天皇獲

口麟之時、召信貴山命蓮聖人、令

口院崩給之時、召

口三瀧聖人、雖有先蹤、至于醫療口可不者也、後聞又有

口

口

口

口

口

口

口

口

日記厨子二脚、 四季御屏風、

殿上御倚子、 文杖、

時簡、 御膳棚、

已上今度如此、先例少々相違歟、

子天明之後退出、定長不審之故也、

儀、已如贊子、仍殊申補也、聖目甚多、今

口

口

口

口

自獻

口

口

口

口

口

口

口

文裝

有文裝

風力

事

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

口

御鹿食事、其後御瀨<sup>〓</sup>御絕入、其後又不開食云々、

廿九日丙午 天晴、早且召使來<sup>〓</sup>可有御即位定、可

參陣、但刻限者、外記參左府了隨仰重可示告者、申可

之由了、午刻許又召使來曰、左府申刻可參給者、

仍口刻參內、綱代車、〇差脫歌、綱、隨、先候殿上邊、人々曰、

今日定延引云々、又召使來曰、來月五日可被定、又件

日同有政者共可參之由答了、藏人右少辨長方談<sup>〓</sup>

即位定延引之條無所據、雖八月以前讓位<sup>〓</sup>會及

明年事嗟峨有其例之由、右大辨<sup>〓</sup>隨御即位可

延引歎之由有內議、被引日本紀<sup>〓</sup>也、於嗟峨者依

遷都事所延引也、甚難備證據<sup>〓</sup>八月以前讓位之時

大嘗會及明年<sup>〓</sup>

〇此間缺

宰相中將、宗、右兵衛督<sup>〓</sup>重、右大辨<sup>〓</sup>參上、兵

部卿、盛、新中納言、右兵衛督、右馬<sup>〓</sup>隆朝臣、修理大

夫賴盛朝臣、右中辨成賴朝臣、補列<sup>〓</sup>人木工頭重

方、藏人右少辨長方、越中守光雅、六位藏人等、右衛門尉、藤鹿業

右兵衛尉源信賢、源國成、補判<sup>〓</sup>木非藏人等補藏人、章平、(賴盛朝臣子)

生業範、肥前守盛親、<sup>〓</sup>二人<sup>〓</sup>右衛門志中原則弘、補主典

源定成、肥前守盛親、<sup>〓</sup>二人<sup>〓</sup>中原親國、朝臣力補主典

代、重盛卿、定隆<sup>〓</sup>母<sup>〓</sup>中守也、日來雖有國司號、一院女御

云、可為執事云々、母德沙汰也、而奉執事、可知行國之由蒙

後日左少辨俊經曰、中宮大進也、今日當宮被造始八幡御與三

基、立后後定事也、而連々御障之間、于今<sup>〓</sup>行、放生會

料也、以東三條為行事所、後予見<sup>〓</sup>四足立犬防、

卅日丁未 天陰、午刻小雨、今日大祓也、依為分配、申

刻參<sup>〓</sup>雀門、朱力綱代車、差綱、隨身裝束、雖為替間、仍又不卷綱、

車、召使來向此所、前行進前、予昇東第<sup>〓</sup>階、自壇上

西行、召使褰第三間幕、予入此間座、道力南面西、左少辨俊經

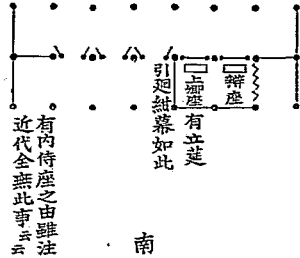
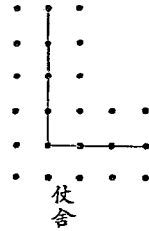
兼在座、東第二間也、南自門內令引出馬、神祇官人予并

辨前居、着座後方脫衣饋<sup>〓</sup>葛蓋居辭、祓間解々細如恒、次神祇官<sup>〓</sup>

大廡取麻<sup>〓</sup>息之、次辨又如此、次退出、事輕忽雖不能

記、為知時務粗記之、

朱雀門裝束禮、



南

近代全無此事云

次參新院、南殿懸巨御簾下之、殿上敷新 [ ] 敷布

緣、自廳居變、折敷居大盤上、三箇日不有此事歟、

內藏介教盛朝臣、左京權大夫信範被聽內昇殿、

或僧來曰、近曾南都有騷動、加賀律師口緣口切房、其

根元、房中有無賴之童、號侍、有母、件口依爲貧賤者、常

乞請巨細雜事於律師、而 [ ] 上下輩嘲哂之蔑如之、童深恥此事、 [ ] 書置消息晦跡逃脫了、經兩三日之後、泉 [ ] 下方被打寄、於件河上方潭沒身命云々、律師口死骸、修七々追善、然之間衆徒聞此事、房中之輩縱雖不善尤可制止、爲一宗極恥也、稱律師過怠切拂房了云々、

永萬元年夏

以勸修寺本、正長元年十月十日即日馳筆、追可校合之、

參議左中將

長寬二年（永萬元）

七月

五日壬子 天晴、今日有御即位定、去月廿九日雖有此定、今日可○脫有字數之由、件日於禁裏召使、有議延引子細見後日記、願告又可有政始云々、共可參仕之由答了、昨日召使來曰、大外記申云、於政始者他人可參也、御即位擬侍從定文汝可書也、朝間可參着政、仍左府晚頭可參給云々、存其旨可參陣者、答承了之由、今日午剋許又召使來曰、左府猶未剋可參給云々、可早參者、仍未終剋先參亞相御許、

申承雜事之間、大外記令召使示送曰、只今平宰相親所被參陣也、不可汝參者、催役之趣數度改易如何、然而件定間人數何限一人哉、先例諸卿多以參入事也、且爲窺見次第、申剋參內、左府未被參、平相公一人在陣、予暫候殿上邊、晚頭左府被參云々、先是予着陣、依爲替

蓋取寫、左府被着陣、召官人令敷膝突、平宰相召官人令催掌燈、相公密語曰、大辨進可仰、自餘可待上廂仰也者、予曰、已以主殿官人取、今不可待上仰歟、相公語仰之、但不確立明如何、頭之次藏人右少辨長方就膝突仰云、御即位之由

山槐記 長寬三年七月

可被告申之伊勢幣十元、日時、并御即位日時、擬侍從令定申、左府小揖、長方退歸、次左府召官人被仰云、辨、官人奉仰歸出召之、左中辨朝方朝臣取笏、依爲參着膝突、左府被仰云、右少辨可參也者、仍左中丞空歸、告其由於右少辨、々々參進、左府被仰云、伊勢幣日時令勘申、此事宣下之次日直可被仰歟、但依大事故、即長方持參日時、

陰陽寮

擇申、可被告御即位由於伊勢大神宮日時、  
今月十一日戊午、時午二點、

永萬元年七月五日 陰陽博士賀茂朝臣濟憲

漏剋博士安倍朝臣時晴

圖書頭攝曆博士兼兼作權兼賀茂朝臣周平

主計助兼助安倍朝臣泰親

主計頭兼頭備中介賀茂朝臣在憲

左府被見了被奏之間被目、仍長方退歸、次左府召官人被仰曰、外記爾宮持參、次外記持參筥、左府取日時被



右、

入宮、次召右少辨被覽攝政殿、御坐外御座所、次令官人召左中辨、裝束、被仰云、御即位日時令勘申、左中辨奉仰退出、次召外記、師元朝臣參進、被仰御即位擬侍從例

正四位下藤原朝臣忠親、  
從四位下藤原朝臣敦宗、

少納言、

文可持參之由、師元朝臣奉仰歸出、持例文宮參進、置左府前、六位外記取硯宮置宰相座、左府被目予、々着

正五位下源朝臣重雅、  
從五位上源朝臣顯信、

不許使字也、  
宣命、

陰陽寮

擇申、御即位日時、

今月廿七日、甲戌、時申二點、

永萬元年七月五日 連署同前

典儀、

正三位藤原朝臣顯長、  
正五位下藤原朝臣資隆、

永萬元年七月五日

左府披見之、被置座前、左中辨退歸、次予搢墨、卷紙取加弓、伺上卿氣色、置弓於硯宮與座之間、隨與奪書之、

書樣、

即位擬侍從、

左、

正三位藤原朝臣宗家、

從四位上藤原朝臣賴秀、

書予名之時、左府被目云、ヤカテ、書定文之間、平相公起座退出、今夜有新院廳始、依被加補別當、參後院云々、右少辨奉返下日時、次藏人大膳權亮藤原定長宣下伊勢幣請奏、左府被結之、紙不引墨紙、左府被寄仰此事、予能々教訓了、後問子細、陳云、光能國談也、甚奇怪事也、下給之、辨結申之、次召外記、大外記中原業俊、六參、下給奉幣日時、宮下給也、師元朝臣我可參カリケル物ナ、後聞、師元朝臣我可參カリケル物ナ、後次予書定文、了取加弓參進、下稱云々、六位給之、頗無便歟、

置弓奉文授左府、乍披見之被目、予復座、披見了卷之後取

又取文置前取笏可被目敷、乍披文(○見下)次召左中辨、入御即

位日時并擬侍從定文於筥、例文等暫取出賜之被覽攝政、

左中辨挿笏宮持參御宿所、次左少辨持參大祓日時、度

參進之次、密取左府御氣色令勘也、

陰陽寮、

擇申、可被行奉幣伊勢太神宮大祓日時、

今月十一日戊午、時卯二點、

永萬元年七月五日 連署同前、

右府披見之、被返下辨結申之、不奏之、依爲上宣文也、

次召內記、少內記三善用仲參進、直着膝突、左府被仰

云、大內記不候敷、用仲申云、聊有所勞不參入者、左府

被仰云、大內記參タラハコソ宣命草モ仰ノ、用仲隨御氣色

退出、今夜不被仰宣命草也、良久左中辨歸參、殿下無職事、無人

之間及數奉返下、次左中辨令勘行事所始日時持參、

陰陽寮

擇申、可被始御即位行事所日時、

山槐記 長寛三年七月

今月五日壬子、時戌二點、

永萬元年七月五日 連署同前

左府披見之被返下、是又上宣文也、次左少辨書禮服人

於折紙紙屋、奉下、左府取之披見之後被入筥、

大納言忠雅、第一、權大納言實長、第四也、

權中納言定房、第三、中宮權大夫也、

權中納言顯長、第五、左兵衛督皇后權大夫也、

參議隆季、第三、參議資長、第五、左大辨也、

次召外記、大外記師元朝臣參進、賜筥、例文筥也、御即位日

服折紙等被加入也懷笏給之退去、予以官人召六位外記、返給硯筥

起座、次左府被起座、膝突不被撤次被參御前、即被退出、予

同退出、又參亞相御許、申今夜次第、歸茅屋、藏人右少

辨曰、右宰相中將爲親王代事、偏職事也、數度被辭申、

其故保元度公親卿勤此役、於一家不吉例也、不可依位

階、他人可勤左方之由被申也、辨曰、公親卿者閑院之

一族之由所知也、太無詮、又當仁之人稱有禁忌不勤者

非分也、下薦又難勤敷之由、申殿下了、所申頗有理之

二八九

由有御氣色云々、凡此事極謬說歟、永治公行、久壽敬長卿、保元公親卿、連々不幸短命不昇納言、恐近年之例歟如何、但又爲奇、予示右少辨曰、應德以宰相中將忠基卿被定右方、與嚴親大納言忠基依被定禮服、被改三位中將經實卿云々、藤大納言有父子儀、有沙汰被定歟、將不然歟者、辨答曰、其事無沙汰、又不存知也者、應德爲房卿具注此旨、不見家記歟如何、左中辨曰、今夜有行事所始、可罷着也者、行事所朝所云々、後日子向左中丞曰、被造始何物哉、答曰、無新調物、只成吉書也者、

藏人方行事所左近府、令藏人右少辨長方、藤光能一藤給料也所奉行也、

六日癸丑 天晴、未刻許召使兼延持參御即位日時無懸紙、定文、予依入右方也、各披見之返給、但定文夜前予書之、筆跡甚狼藉、爲後見彌以有恐、仍密々書改返給了、又持來禮服公卿旨、乞取見之、兼延曰、召使持廻之也、但至于大納言殿可令外記申之由、大外記所申

也、仍召使不參者、

宣旨書様、

正二位行大納言藤原朝臣忠雅、

從二位行權大納言兼中宮大夫藤原朝臣實長、

從二位行權中納言兼中宮權大夫源朝臣定房、

正三位行權中納言兼皇后宮權大夫左兵衛督藤原朝臣顯長、

參議正三位行讚岐權守藤原朝臣隆季、

參議正四位下行左大辨兼勘解由長官周防權守藤原朝臣資長、

左大臣宣、奉 敕、宜令伴等人今月廿七日御即位着

禮服者、

永萬元年七月五日

大炊頭兼掃部頭大外記博士越前權守中原朝臣師元奉

九日丙辰 天陰、時々雨、今日有開關解力外陣事、翌日相尋

上卿新大納言實定之許、返事被注送旨如此、定僻事等候

歟、頗有說々事歟、卒爾承之、彌以迷惑了、御馬事思誤

候、內舍人以外事候歟、愚者如此遺恨々々、平相公參

陣中間退出了、其外人不候々、人々爲見物人々多參陣

候、今度不然、神妙々々所覺候了、

昨日酉刻參陣、右少辨長方來與座、仰可行開關事由、  
移外座、召外記問諸司具否、召內記仰救符事、尋開辨  
仰官符事、尋以下七字野木成之、尋同之誤歟、大內記敦周覽救符草、即

令內覽、了仰清書、次外記覽官符、披見了目外記令退、  
次以右少辨令內覽救符清書官符等、此間仰外記令敷  
座立案、右少辨持參救符官符、次以官人喚內暨、々々  
召司々、暫少納言、其名各忘却中務、內記、主鈴着座、次召近衛將

監仰云、印テ、次召少納言同仰云、印テ、次少納言取二木  
契持來、其次仰可時間之由、少納言進軾申其由、次召  
內記、々々唯着軾時、戌三點、上○少納言、以下廿字悉符歟、少納言歸立案下、  
召內暨一聲、仰時事、內暨申時、點三少納言進軾申其

由、次召內記、々々唯着軾、給救符仰云、注才、注了注時  
刻也、今度持來、次召少納言給救官符等入篋、中務就案  
每御書下請印、了少納言返進救符官符、取官符給少納言、少  
納言復座、召內記、於軾令開木契裏紙了、召辨令覆奏  
返給之後、次召少納言給救符木契、少納言內記主鈴等

此間有委細事等、不能記、  
令封緘、內記書銘等、封調了少納言持來、次少納言以

下退去、次召內暨令召開關使等、內舍人三人列立、仰  
云、使等御馬給、是大失錯也、不可說々々、思出召軾、  
次第給木契救符等、仰詞如常、內舍人各還本所、一度  
退出了、此後召左右馬允、并仰可給御馬之由了、召內  
記返給篋了、其後辨○山本作外陣如常、先召仰左右馬寮  
兵庫寮也、次召仰六府將佐了、今日御即位之由伊勢使  
延引、依攝政御脚病也、

十五日壬戌 天晴、有被告申御即位之由伊勢使定、左  
府被定申、大宮宰相陸候座云々、去五日被定十一日可  
被發遣之處、攝政殿御脚病更發、依難參着給延引、來  
十七日可發遣云々、

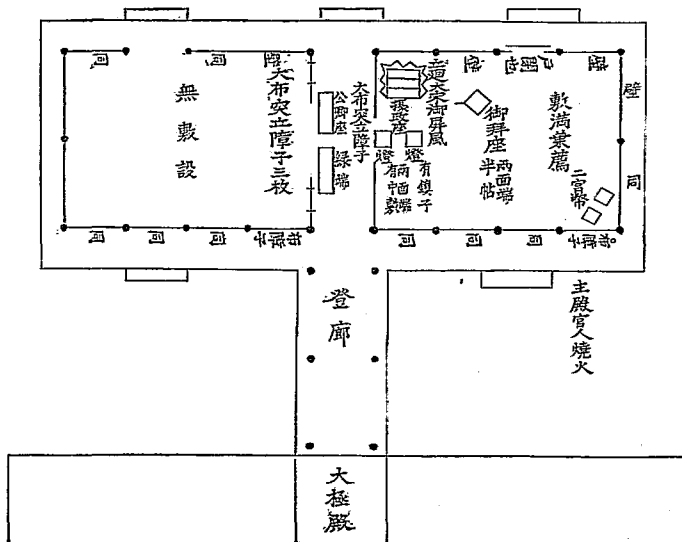
十七日甲子 雨降晚頭体止、今月被告申御即位由於  
伊勢太神宮也、イ元、幼主時攝政參、入省被奉幣、可扈從之由有攝政仰、仍午  
剋先參亞相殿、用檳榔、毛車、未刻許侍從口光朝臣送使云、殿下  
已欲出御、早可參歟、仍參近衛殿、右宰相中將宗家、左大  
辨實兼被祇候、頃之被廻御車於西門、然而公卿依無其

召、向祇候之間、左大丞成不審、招職事相尋取御氣色、歸來云、先可有御參內、其間人々不可被扈從、令參入省給之時可候御共云々、於有參內之志人々者、各別可被參之由御氣色、又云、依公卿祇候於門外、乘御車事可無便宜之故、被廻御車者、此事未得其意、自內裏可祇候御供者、可參會之由、可有其告歟(○上)又令參入省給之時、自近衛殿可追從之旨有候歟、尤不審、殿下令參內給、頃之兩相公予又參內、左大丞自門外歸向、予問子細、答云、有輕服日數、奉幣日祇候禁裏可有其憚之由、大外記師元朝臣所示也、仍罷向近邊可參會路上者、予着陣、左府兼被着也、此間大內記敦周返奉宣命於左府、付內記被内覽之、佐爲親缺(○語九)云、内記付爲親内覽、後日藏人左衛門權取之於朝御方、付女房暨攝政者、即被返下、即又持來清書、内記退歸、次左府令官人召藏人左衛門權佐爲親、被奏清書、後聞、於書御座、即返給、此間攝政出給、仍予觸申案內於左府起座、此間雨止、於近衛東洞院駕車給、上臈隨男四人、下臈一人着靈經巾、西行、室町南行、中御門外是依雨儀也、自余下臈等垂袴、從俊光、源少納言顯信等、於待賢門下車、雖驅牛車給、從後光、源少納言顯信等、駕之未出入宮門給云々、放法性寺入道殿被仰云、雖被認之、不及四十以前不乘牛車者、今存此儀給歟、但應德於此門令下車給、依是引率上建部給歟云々、

參入北間給、當南間自御車令下給、件間閉之、仍令入北間給歟、御路可尋、中間橋假橋、如行華時、是爲令(○入)牛車歟、可尋、若又前趾、扈從人々外、中宮亮邦綱朝臣、左京權大夫信範、藏人木工頭重方、藏人左衛門權佐爲親自此門内候御共、於建禮門前程舉松明、出御昭慶門、彼門外本、嘉喜門外不引、左大辨依輕服留昭慶門外、服字力、引廻柿異例奉幣儀、俊朝臣顯信等雖輕服參入、尤不便、殿下着御小安殿御座、右大辨雅行東廊大被了參入、候御前障子邊、大被辨藏人右少辨長方云々、公卿可着馬道座也、右宰相中將云、有障事不可着座者、入昭慶門内被示此事條如何、一身雖可着座、爲伺見次第徘徊、史仲政供掌燈、御座南方左右立之、次供御手水、邦綱朝臣爲候陪膳、御イ取手洗參置御前、無可信範持參御線、又歸出持參御巾御簞置、イ元一枚、不加土高坏、主水司供歟、召行事口史仲政云、預力是皆自行事所々供也、予問云、無打敷如何、答云、依卒示也、御手水召了撤之、此間上卿被着昭慶門東腋座、殿下移座御拜座、先是脱劍令置、本御座東方給、兩段再拜如常、殿下召長方、々々參進、雖本御、殿下被仰幣使可召之由、長方仰上卿、次上卿被着東福門座、後日史仲政云、

上卿座伴門南面西殿儀之、辨已下座同門北西東殿西面重行踏之、而上卿被着辨座、無膝突、被尋逸失之由、大外訛師元朝臣大夫陸職等、有不甘心之氣色者、此後良久使不參、殿下頗召長方、依爲行事辨早着東福門座云々、然而依召參上、被仰使遲參之由歸催之、使々歷大極殿東北壇上、立昇廊中央、東面北上、祭主親降、神祇史春部明茂、皇后是用雨儀也、晴時可立巽壇下、但宮前宮主卜部兼達等也、是晴道也、兩儀相違如何、殿下召長方、被尋仰使參否、少時雨不降、左府又被着東福門座之時、歷東廊柱外、是晴道也、兩儀相違如何、殿下召長方、被尋仰使參否、依暗然者御覽、○有誤脫歟、參進列立之後又障障子之故也、長方告召由於使、齊部參進取幣歸立儀如恒、次中宮參進跪良障子曰承仰、其御詞不聞、能申テ奉ト被仰歟、次使々退出、次上卿召使王賜宣命云々、攝政歸本御座、令帶劔給、佇立御座前給、被仰右大辨云、今日可有八省巡檢、而及夜陰、爲之如何、申可有評定之由歟、仍召予着馬道座、南上、東面、此間攝政暫居弘筵上給、右大丞申云、久壽度可有巡檢之由雖被尋日次無其事者、予申云、打任必可候事歟、後日又有御書御大事也、今夜不可有事煩、雖暗然大概許也、只渡御大極殿、可有還御者、仍殿下歷昇廊、大極殿中戶同高

山 槐 記 長寛三年七月



御座東方南面進立給、主殿官人炬火前行、上官可取殿下召長方被仰云、舉松明可遣見會昌門邊者、然而無此事、若又御即位行事辨中辨朝方朝自高倉殿有方角禁忌、雖加修造不可有臣也、被仰彼人歟。

歟、大事々々、人々云、大極殿可敷座者、此事可尋、攝

政自東壇上北行給、予密示邦朝朝臣云、先例出御昭

訓門歟、邦綱申此旨、由ヤ仍下東階給、自廊南方下御也、下

自內方、更出東福門給、不可然歟、晴時下南階出昭訓

門給歟、於待賢門令四位侍從被仰云、人々早可被止

者、仍歸蓬屋了、抑今朝行事藏人大膳權亮定長送內侍

於八省、藏人右少辨長方相共令棄幣云々、主上有御湯

殿、召新御湯惟云々、

十八日乙丑 天晴、今日可有禮服御覽也、去夜於小安

殿、藏人右少辨長方示可參之由、仍未刻着束帶參內、

攝政殿未參給、近日御坐近衛殿也、頃之、右中辨成賴

朝臣、藏人右少辨長方向內藏寮、兼祗候內申刻奉渡御禮

服、御辛櫃二合、寮也、寮下部持之、着退紅者持前方、善白筥二合、着白張者

服、持之、但門內、令着衣冠之者持之、右少辨仰其旨令持也、又令立御

辛櫃於前之出同仰之、昇御辛櫃替躡、幸櫃於前之出同仰之、昇御辛櫃替躡、內藏寮助已下一員相副、親

成着衣冠如何、昇之高倉面中門廊、此所元爲御直廡、而中

宮御入內之後、以土御門面爲御宿所、仍更令昇居彼中

門廊、此間、右宰相中將家、左大辨、宗家、資長、忠親、雅賴、皆予在公卿座、

座之體、四面三分間也、東面北懸御座、南戶前東西行橫切敷高麗帖、故

爲攝政御座、第二三間東西對座南北行敷高麗帖、各二枚爲公卿座、御座

後御座卷之、其外爲他方也、東北、申終刻攝政殿御直、令參內給、

南垂之、西面又卷之、西有弘廂、自高倉面令參即着御座、人々避座躡居、隨御目次第着座、

右大辨、宗家、資長、忠親、雅賴、候御供同加座、凡參仕人四人也、殿下召長

方、參進候弘廂、雖殿上辨、依爲被仰禮服可持參之由、長

方奉仰退歸、暫遲々、殿下被仰云、誰人可持參哉、有疑

心歟、諸大夫可持參也、前驅之中有着束帶之輩、可示

其旨之由被仰座中、仍右大辨雖示氣色、猶以遲々、長

方令任國、中宮大進、申云、辨官可持參歟、諸大夫可持參

歟者、仰云、諸大夫可持參者、仍殿下家司職事、高佐、俊成、

等昇之、立西弘廂、予偷示右大辨曰、昇立長押下、類無便歟、成人

也、大丞曰、何事之有乎、之時於此御座、可發昇居長押上歟、如何、

不甘心、於御辛櫃有足、何爲御冠下、自尤無便、猶辨結緒、只撥緒之

付對、又可召今一人之由被仰、仍長方召重方、藏人木、相共

取出之、取御辛櫃蓋置御座前長押上、其上取置墨漆

筥、披之備御覽、此間及昏黑、供掌燈、供家司、

一合納、

男帝御裝束一具、

大袖一領、赤色、有繡、日月、七星以下等也、小袖一領、同色、無繡、

御裳一腰、同色、有繡、綬一帖、同、

御帶一帖、唐綾、如綬、玉佩二流、入細長、黑漆筥、一枚、弘帖也、

御笏一帖、牙、御沓一足、黑色、有緒、

御襪、

有延文四年目六、但有相違等、

一合納、

童帝御裝束、

大袖、小袖、御裳、

已上色繡同男帝、只頭大小別之、

女帝御裝束、

大袖、小袖、御裳、

已上皆白色、無繡、

皇后御裝束、

大袖、小袖、裾、

已上青色、大袖并裾有畫圖、又副纈裳一腰、

太子御裝束、

大袖、小袖、裳、

已上色文等同御裝束、但無日月形、

玉佩二流、小也、童子御料歟、

綬一帖、小、御沓三足、赤革、此中有小一足、

又一足、黑色、御襪二足、

赤革表沓片足、弓削法皇沓云々、片足紛失歟、

已上一合納如此、御裝束各別入黑漆方筥、

重方爲六位藏人所書之目六入之、粗注其物具、不分別、男女及皇后等着、先々不注置之、仍又今度不注置、

殿下被仰云、辛櫃弘無大小、而一合入只一具、今一合入數具如何、情思此事、可叶當用一具取出之、入分一合、殘混合被返納、御即位之後更不入改之、又返納之間、代々如此入一具於一合、尤有其謂事歟者、皆悉御



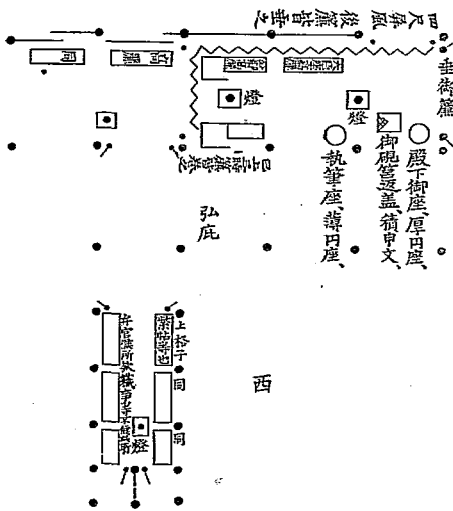
覽之被返納之、童帝御裝束一具許入御幸櫃一合、元入男束入幸櫃也、男御但御沓二足被加之、黑御沓并赤革也、同小一足也、德記曰、御沓赤色云々、以之思之、幼主令着赤色小沓給歟、次御冠、

男、巾子上有如折敷物、其上有日形、童、無巾子、有日形、前方鳳開翹立、

各又返納、男御冠返遣了、女帝太子御冠不見、依仰重方書封付之、返納御幸櫃御冠宮了、實長、雅類、宰相中將、予候座、殿下被仰予云、今夜可返納歟如何、申云、今度御裝束被撰留了、無御不審者被返納何事有平、仍被返遣了、後日子思此事、不申出宮未令文失也、御冠御禮服可加修補之由被仰長方、々々仰行事藏人藤原光能、然而未被下秀才宣旨之間可留候云々、仍奉行歟、御冠遣行事所、御禮服納々殿了、次入御、人々退出、于時亥刻、除目事、

今夜可被行臨時除目云々、應德擬坊官除目、御即位以前行之、日可被行也、而可供奉御即位之輩、期日迫來有煩歟、今日被行如何之由、攝政殿令藏人木工頭重方被申新院早可被許歟之由有御返事云々、

仍儀以、藏人木工頭重方、大膳權亮藤定長奉行<sub>之</sub>、藏人右方自讓位始行次第事、除除目日次申定了、今被仰他人如何、於攝政直廬有此儀、也、於公卿座撰申文、辨通許出、來云々、藏人木工頭、左衛門權佐爲親、六位藏人等在座、兩貫首不着座、又左京權大夫信範<sub>殿下</sub>、加重方上云々、但信範不及沙、光能取目六書袖書、定長書短冊云々、子終刻歸參、見御直廬裝束體、高倉殿、御門西也、



次窺見申文并目六等、重方又來此所示合不審事、予又示子細了、

一、申隼人佐下書テ、人名注ニ本司奏下書、此事不甘心、只可書申諸司三分歟、又本司ニ佐テ舉事不担任、令史以下ヲ可舉也、重方諾了、

一、申彈正忠ニ入無官人、

此事又不担任之由示重方、招光能問之、答曰、氏院別當也者、尤可然、但不付注如何、又答曰、直廬之時、殿下聞食之人、仍不付者、此事猶可尋行事也、猶以付可爲體說歟、有同名號如何、

一、石清水行幸菰屋功以自辨申内人申文ヲ○山本作ノ表書ニ臨時内給下書ト○キカ、以紙捻結只一通ヲ、不付短冊置之、此事不可然、先件申文可爲行事所申文也、行事辨加判○可進其補書ニハ、行幸石清水事所申ト可書也、又臨時内給申文ヲハ、留本解テ、令藏人書名簿ヲ、其上ニ臨時内給下書也、又一通申文ヲ結ハ付短冊申文書也、此旨示重方、承諾了密々書改、給

書所申文取替了、

已上雖爲無益事、重方殊尋問如此事、仍所諷諫也、重方曰、清書上卿無可參之人、重遣仰別當許了、只今可參云々、良久參陣、左大辨、予同着也、數刻猶無召、炎熱難堪、仍予起座候殿上邊、此間、梟鐘報天已欲曙之間、重方出陣召、其詞云、依勢事不罷出人々此方、次別當、公、左大辨、長、予相率經門内西北、昇出御門南中門廊、辨官、右大辨、兼在公卿休息所、殿下乘出御々座、御裝束、令恒、次殿下召重方召左大辨、當以下出口徘徊中門廊邊、次左大辨先着公卿座、方、次殿下令目給、大丞微音稱唯下座、經弘庇昇御座北間、爲先右足、此事可尋、頗向巽斜步跪圓座北方、殿下令目給、大丞膝行兩三度、以右手懸圓座也、通後綱記不注先居圓座外之由、陳行着之云々、大納言被仰云、着也、教長先居圓座外有所存之氣色、此非未知不可、詳知○罷云、左大辨被誤曰、殊奏致節節之人○一本此間有二或々、猶可居外殿者、予案此事、左大臣直着座、在○野本、右内大臣先着我座、次依御氣色座、候筆座、大納言居圓座外隨氣色着座、以之思之、右大臣以下依不爲我座、敬長居圓座外者、若以謂非大辨准大納言、次伺御氣色、紙、其詞、重方下召也、重方參、次重方持參硯紙續、依爲臨時除紙、進、硯紙紙下○召、仰、

文等、藏人方役之、弘折(○柳イ)管、瓦硯一面、墨一挺、以紙裏尻、向管筆三卷、小刀一、以紙裏尻、水入瓶一、續紙二卷、各六七枚許、紙屋紙、入御座間置執筆前、爲房廻辨之時、管文路用次同歟、然者可入御座間、次大辨候氣色置笏於左方、座方也、大臣摺墨摺之、次取續紙於右方卷返之、取副笏候氣色、次置笏染筆書之、

此間攝政撰出申文下給大辨、及天給、若指笏可賜歟、應德通後雖不押仰指笏賜之、大辨申云、可召轉任勘文歟、式部丞歟、殿仰此事可尋、

云、可問外記、大辨召重方、々々參進、大辨曰、所關式部丞可轉任歟、重方歸參申云、少丞所關也、仍不可轉任者、

次攝政令撰求申文給之、氣色召重方被尋仰云、兵部省奏不見如何、重方申云、不付短冊、只所加置也者、仍更自申文中令撰出給、此事如何、件申文者依可加任撰申文之後、下給加入歟、雖然猶可付短冊也、賜禮紙、已上二通申文、大辨先讀申一通座方也、可尋知、大臣任之、又懸勾歟、次今一通又如何、次書了放棄與餘紙卷之、硯筆等雜具ヲ右方ノ板敷ニ取置テ、除目ヲ置柳筥、置硯柳膝ヲ逃テ指笏ヲ取柳筥、膝行取廻柳筥奉攝政、々々令取除目給、大辨取柳筥復座、拔笏置之、次硯以下雜具如

元返入、成柄二通同置硯傍、依爲二通不替之由、事了後大辨所命也、又右大辨、向左大辨曰、成柄如何、左大辨答曰、置硯筥即立了、其外之儀何爲哉不存申云(○之丸)者予案、此事、成柄猶進除目了後更可奉攝政歟、如何但未尋知、此事可尋、又返上折紙、只及テ攝政取之令懷中給、此間予右大辨起座了、次左大辨深揖頗退右廻方也、起下長押、爲先、

尤可然、先退、不着公卿座直出中門廊方、猶可候公卿座歟、若者御所方也、失錯者、重儀召可參進也、次攝政令目別當給、揖起座、經西弘廂入自御座北間、跪執筆圍座坤方揖候、攝政賜除目、大理置笏於左方、給之取副笏、揖右廻退出、於中門廊<sub>辨座</sub>見、

除目書樣

- 式部省、少丞正六位上藤原朝臣光衡、
- 兵部省、少錄正六位上大江朝臣爲清、
- 左近衛府、權中將從五位下藤原朝臣賴實、
- 越中國、(頭書)如大間可書諸國目、失也、
- 守從五位下藤原朝臣輔賴、
- 播磨國、守從五位下藤原朝臣隆親、
- 備前國、守從五位下藤原朝臣隆成、

伊藤園、

守正四位下藤原朝臣定隆、兼、

永萬元年七月十八日、

次別當右大辨相率着陣口事、即逐電退去也、

廿二日己巳 天晴、今夜依御即位、被行女官除目、其

次又有小除目、藏人右少辨長方奉行、上卿左兵衛督顯

長卿、書手右大辨雅賴朝臣、於陣被行之云々、

中務錄中原成弘、

同貞久、

紀 良貞、

權大主鈴佐伯國清、

圖書允大江清貞、功

主膳頭和氣清忠、

民部丞三善用仲、內

藤原成清、諱正忠、

隼人佐中原尙家、

刑部卿藤原重家、元前能登守

宮內丞藤原能資、

大炊頭中原師尙、元讓、

內膳典膳三善爲清、

彈正忠大中臣賴綱、

左近將監中原行盛、

右近將監藤原友政、

內侍司、

典侍從五位下藤原邦子、藤 通子、

山 槐 記 長寬三年七月

同 盈子、同 綱子、

掌侍正六位上源 盛子、高階察子、

惟子、房、孝子、

廿五日壬申 天晴、今夜被行御即位敘位、直廬後、見去干

藏人左少辨長方、藤原光能繪料未被下、秀才宣旨、奉行之、

光能取目録、晚頭參大納言殿、秉燭參內、左大臣被參

陣、依遲々構所勞退出、上卿不候、遣召藤中納言顯時、

良久參陣、召之後於與座仰宮文、不令敷膝突、次諸卿

相率出西門入土御門西門着座、殿下衆、爲伺見宮文事不

着座、左少辨成賴朝臣、權左少辨行隆、藏人右少辨長方

列立北中門外、西、東南御所當、外記取宮文列立列之末方、

西上、次右中辨揖離列、北面進立揖、外記持來筥、辨揖

笏取筥、口、外記復列辨揖、兩辨又答揖、右中辨右廻昇

中門廊、管昇、歷西弘廂入御座間、進左足、膝行置之、頗

逆行拔笏、不、右廻上方也、退歸、次權辨作法同前、次藏人

辨取筥不揖、其外作法同前、應德爲房卿入御座次間、次左大

辨長依着圓座、予此間着座、左大辨覽十年勞、以左

手推筥、以左手押遣硯筥於一筥跡、以一筥又置硯筥跡、  
不似清涼殿、此間予聊有所勞退出、居衝重、暫佇立中門以左脊右也。

廊邊窺見之、土高坏上居折敷備肴物、四位侍從俊光爲

殿下陪膳、攝政家職事等役之、公躬前同諸大夫等居之、

殿下政所辨備之云々、頭中將家通勸盃、藏人光能取瓶

子、頭中將取賴酌云々、藏人大膳權亮定長二、可彼爵、

仍相具退出、仍不見此後事、于時天曙了、

今夜參仕公卿、

藤中納言、顯、大宮宰相、季、左大辨、長、

予、平宰相、範、

彼人、

從三位藤資長、

正四位下同公重、八條院御給、同兼雅、同實宗、上西門院御給、

從四位上源俊光、顯親朝臣造、金剛心院資、藤季經、國、

同雅長、高松院御給、同兼房、

中原師元、永曆元年石清水賀茂行善行事實、

從四位下源清雅、院御給、同重雅、少納言勞、

平宗盛、中宮御給、

正五位下中原廣季、

從五位上藤公基、從下

藤賴實、新院御給、

從五位下顯職王、寬和御後、

紀宗賴、部、

三善仲政、史、

藤清通、氏、

藤信實、皇居宮御給、

中原盛廣、同、

藤親成、同、

紀清近、兵衛尉、

伴親清、同、

和氣相永、氏、

藏人頭藤邦綱、

上卿藤中納言、顯、

廿七日甲戌 朝間雨下、辰刻以後天晴、申刻又雨下、

橘以政、國、治、

同資定、大監、

藤定長、藏人、

中原業俊、外、

平貞能、使如元、

橘守正、氏、

惟宗長盛、諸司、

紀文弘、同、

中原廣遠、同、

藤忠兼、亮、

佐伯季兼、同、

百濟雅國、氏、

清書平宰相、範、

今日有御即位、予被定右方侍從、八省西廊着諸司邊可構宿所、御簾兩宜、然而有事煩之上、近代多自里亭着裝束參入云々、且保元度故按察通重、大納言如此、仍自蓬屋着禮服所參入也、未始刻、自高倉殿行幸小安殿、後聞、依攝政仰、兼藏人下南殿御格子、御殿同、但不下階間、先例從乘御與之後、近將昇東西階下格子、其後母后同與、而當今春秋二歲、未及先駕、仍有此儀歟、幼主奉抱、陰陽頭在憲朝臣奉仕御反問、次攝政乍奉抱主上立御帳正面給、次藏人頭右中將宗通朝臣取劔置置御輿、先置劔、次乘御、次置鑿、是例也、而今度母后同時可乘御、仍置鑿與、共先可置之由攝政被仰云々、右宰相中將爲親主代、三位中將同一院穰、新三位中將來中殿、予次右大將內大參上立御几帳、主上中宮同輿、御輿帷皆垂之、出御西門北行、上東門大路西行、大宮南行入御待賢門昭慶門、御小安殿、供奉公卿內府、新大納言、定、別當、保平宰相、親攝政騎馬合候御後給、中宮々司同候御後、出車又右衛門陣後、女房裝束紅張單重、筑前守以政彙、遷任功調進之、扇殿上人等調進之、入上東門云々、予獻出車、備從(〇須イ)賜裝束出車訓、省略之間口掌之由、

山槐記 長寬三年七月

着禮服次第、

先着襪、例儀一重着之、其上着赤地錦襪、其  
 次着烏帽理髮、無風口小烏帽也、後方繼目下方二三寸引斷縫、爲着安也、今度用唐人烏帽子、人々或用衣烏帽  
論、  
 次着小帷、自也、此事太早雖不可盡裝束、此人々多出、此間仍所注也、次着大口、上不着張大口歟、然而極熱、次着張單、次第如此可着也、然而依矣熱、予出今案、解放袖許付小帷上、全不可見之故也、次着表袴、可用唐袴歟之由人々所示也、然而着當堅文織物表袴、人々又如此、次着裳、爲不令下歟、以練頭文紗帖之、上方用白絹、次着小袖、自裳五寸引上着之、下帶平小袖着了可帶之由見、次着大袖、自小袖二寸引上着之、又以練頭帶乳下、猶結(綴イ)位用深緋云々、此色自然相叶歟、次着大袖、之左右前後能々整着之、小袖頸帶上大袖頸相重、此事無所見、只頰押折着之、人々所爲今度見之、次着下結綬、前方メ、ニ結附シテ、下一枚ヲ返テ輪奈ヲ中ニ數比緒、數所又附付之、

〔頭書〕其盤如平緒、廣五寸許也、尤白有背蓋又可混也、今度所用唐綾也、文下文也、用之、善處出五筋垂也、今度所用

次付玉佩、右方付下帶、頗寄前方當膝、頭步而令有其音云々、其緒挿綫(繞)下、不令其之、四位不付之云々、然而先例、殿上侍從付之、見長元大二條殿

〔頭書〕首有金枝、大略似繡、中央夫火打放左右四筋有水精露、外辨爲公卿人雖四位多付也、

次帶劍、防、不緒、其色不定歟、然而、今度用緋地綫、ウヘニ引

下、自足中不引出、無其用之故也、於半比緒者、懸尻之故引出置、予禮服不可有其緒

次入燈心輪、自昂明上入帶也、玉冠頭鏡之故爲

〔頭書〕以燈心曲之、以赤色緒塗其上、爲令輕用燈心歟、其體粗見政事要略并結圖等、不能具記、

次着玉冠、下緒之、其體見嘉永堀川左府記、自耳後頤

次取笏、可用牙笏、但其實以黃楊模其體作

次可着烏皮烏、自里亭姿、仍相具之、

〔頭書〕懸二〇三イ、鼻鼻黑染傍朱地漆畫唐草、其體樣々有之、如猶〇指イ、

扇、白楡扇也、可染紫歟、先々或如此、然而、近代事只隨傳略之、今度人々又多用白

以上禮服具申請大納言殿、玉冠借請左兵衛督、凡小袖大袖色隨品位可有差別、然而、近代強不及

沙汰云々、只冠許纔存式然法云々、仍尋取左武衛

冠也、於沓者、大納言御沓破損、仍新調也、

隨身裝束、狩胡籙、莫脛巾、沓、

駕網代車、毛車體、中宮出車仍口、玉冠太重、於車中釐取之、經穀倉院前、於藻壁門下車、其人六七人兼役此門、五位

令着衣冠下車之間、於豐樂院北邊着冠又着襪烏等、入光籠

密々用無要反切、

門昇大極殿、見御裝束體、其儀見記文、仍不具注、但高御座上

之內階東西坐云々、是依幼主母后同可御坐之故也、又高御座長御座

敷良方也者、北而中戸、腋爲中宮御体所同東殿爲攝政御体所、予問大

夫史曰、尚御座上中央風丸前後若先例有鏡哉、答曰、其旨身記文、仍令

登内所察官人、令見其跡、今無多、仍不立、又無件鏡也、若御儀雖新調

歟、如何之由、又問隆職宿願、答曰、古物破損、仍保元度被調改也者、

此間諸陣立歟、左大將代右兵衛佐賴宣朝臣、右大將代近

次諸司主殿圖書等列、

次典儀少納言資隆着禮、率贊者二人、色袍、入光籠門各就

版、件版角常西方、典儀以下東面云々、此後數刻無事、刻限申二

已刻、內辨猶不被參、仍不待次第、幼主着御高御座、後

調中宮、內侍兵衛局間次第、命云於乘出車女房者不下車列立中院南垣

外於我者早朝參小安殿、女房八人之內也、又朝服、女房奉抱幼主攝政

抱奉仕御裝束結、但御冠御笏御沓不及着御、仍女房持之奉相副、攝政奉

抱至于高御座、中宮於御座上奉抱取之內侍取御預候前後者、我朝二歲

帝今度始也、實趣、先是執翳着座、辨下々名之後可着也、此間雨降

又止兩三度、諸衛諸司或退入、或令擁笠、甚狼藉、內辨

猶不着之間、幼主御音頗漏出、尤不省事也、予耳語藏

人木工頭重方曰、御音頻出、尤不便、存儀式更不可守

株、御乳人立副高御座、可供御乳歟、木工諸進御後尋

之、歸來曰、御乳所供也者、近將陣階下、左中將額定朝臣、少將二度總立、依雨退

入云々、左侍不着、但侍階中將實守立之、依雨又申終刻內辨左大

退入、今日爲裝束御牛覺託着甲上古或着冬袍、練步將額定、保元度故三條內侍選練、成人幼主

帳、若臨時有會釋歟、又說々歟、可尋、入北面東間、

次上官着帳、東壇下歟、此間又雨下之間、昇降之間不

見次第、

次內記置位記宮、

次內辨下々名、二省並輔代入、南面西間給之、

次打外辨鼓、

次左右侍從參上、喪儀威儀命嚴着座可參上也、然而左右方之邊出、仍予又參進、左方侍從參議正三位行左近中將藤

源重雅宗家、前右近少將從四位上藤基家、少納言、

源重雅今度殺四品人也、依爲侍從不加敘列歟、右方參議正四位

下行右近中將藤原忠親、前越後守從四位上藤原賴季、

歷少納言人、此人入左方、前少納言教宗朝臣入右方、而教カ

也、先官、宗辭退替基家被定入歟、依位渡右方也、少納言源顯信

朝臣、重雅、方云々、顯信帶纒細銀、纒唯左方、此事可尋、不付玉佩之人垂右

見疑之記、顯信短纒引於銀足中、此事遂予案、○右方以下五凡右方次第、先昇西階、不揖南折出南榮、

山槐記 長寬三年七月

乍向南揖、次東折至于第二間、加此計之經、○少納言南、乍向東與左

方侍從相揖入第三間、在乾方自威後立定、東西立定

與左相揖、左方可准取之、而左頗以早進、仍無相揖儀、

又於南欄邊見物之間、左方進出、然間予直東行、然者

無南面揖、次褰帳着座、兼右侍藤原大極殿北廳內、昇間親

左神祇頭顯廣王女、殿上人取九帳角、如五節舞儀參入之儀

上御乳母也、出北殿內東西面着之閉令、各扇二枚指之、

次威儀命婦着座、同出北殿內、褰帳後、

次開門、

次兵庫頭令打召鼓、

次外辨參入、禮服之公仕、○野本缺字、京本作人、也、從二位行權大

兼信后宮權大夫左兵衛督藤原朝臣顯長、正三位行權中納言

通參議正二位藤原朝臣隆季、參議從二位、左、辨藤原朝臣實長、今度

敘人也、參議正四位下行右大辨、原朝臣雅賴、已上六

敘人也、本定大納言殿、源中納言、左大辨可被加入也、

次敘人參入、此後天皇可仰高御座也、然而以吉時早着御了、

次兵庫頭令打鉦、

次二九女孀奉鬘、所謂天女也、左右各有九人也、昔執鬘出東西一

執鬘北而立、上鬘執鬘、下鬘取規鬘、成額朝臣云、左右方行求、辨全無

行事唯扶持執鬘許也、引導之處何所載者、予答不知之出了、今日左方



次褰帳昇高御座東西階上、御帳女官等扶持之、以針閉

上復座、

次執翳等歷本路復座、

次天皇正笏、近將可稱警蹕也、而近將等皆以逐電、無

人於催行歟、尤失儀式、

次主殿生火、圖書燒香歟、無此儀、若不見及歟、

次典儀稱再拜、音、贊者承傳、

次群臣再拜歟、不見及、

此間及昏黑、雨脚殊甚、主殿寮取松明入昭訓光範門等

立地上、猶不堪甚雨、傍立壇下、每事失威儀、

次宣命使顯長也、宣制歟、此間振萬歲旗歟、

次宣命使復本列歟、

次二省給位記歟、

次敍人再拜歟、已上暗然(〇程)、  
キ)不能見及、

次典儀可唱再拜、又群臣及敍人可再拜歟、典儀早以退

出、仍無此儀、後聞、夜陰大雨之間、只可早出之由、  
外記下部令教訓云々、不足言事也、

次宗家卿稱禮了、經南榮入額東間、經  
御前稱之、歷本路、

次兵庫頭令打垂帳鉦、

次執翳參進、其儀如初、

次褰帳參進垂御帳、其儀如初、近將又雖  
可稱警蹕無其人、

次天皇還御小安殿、

次兵庫頭令打退鼓、

次予歷本路退下、揖退座、南行乍向南揖、西折進(坤乾)角、乍向  
西揖、北柳(〇折之)下西階、於朱雀門乘車、

次內辨群臣等退出歟、

(野宮本與書)

文化十一年二月借請山田以文本、仰定詳令書寫了、

後日加一校之處、不審繁多、重可改正者也、

永萬二年(仁安元)

御不取次令申兵仗慶給、

七月

廿七日戊辰

今日被下攝政詔左府云々、上卿按察大納言、公、

於攝政亭有吉書云々、新中納言、實、左兵衛督國、在座、

吉書官方左少辨長方、藏人方左大辨朝方朝臣、外記大

外記清原賴業、公卿外記、政所勘解由次官光盛、又左少辨

申吉書、被憚四度之故云々、御堂例云々、外記吉書今

夕六帖付家司覽歟、

攝政兩納言吉服束帶、新藤中納言資長着直衣、於便所行

事云々、

御隨身取松明候庭云々、

八月

十七日 大内記敦周賜兵仗敕書草持參、光盛取之覽、

山槐記 永萬二年七月八月

朝野桂次郎 校正

大正五年十一月七日印刷  
大正五年十一月十日發行

史料通覽【非賣品】

山槐記一

日本史籍保存會編纂部編輯

右代表者 今村 勝一

發行者 小瀧 淳

印刷者 楢山 定吉

印刷所 友友 文社

不許複製

發行所

東京市本郷區駒込林町百八十三番地  
振替貯金口座東京二九〇七九番

日本史籍保存會

東京市本郷區駒込林町百八十三番地  
東京市神田區三崎町三丁目一番地  
東京市神田區三崎町三丁目一番地

